

令和3年度
市政世論調査結果報告書

越谷市

はじめに

本市の市政世論調査は昭和45年に実施して以来、今回で52回目を迎えます。市政世論調査は市民各層の行政ニーズを的確にとらえ、行政施策に反映させていくために継続して実施しているものです。

今回は、「暮らしや居留意向について」「越谷市への愛着度と魅力発信について」「地場農産物や地産地消について」「市内の公共交通について」「景観（風景）について」「地域医療体制について」「人権全般に関する意識について」「男女共同参画について」「スポーツ・レクリエーションの実施状況について」「広報について」「行政のデジタル化について」「参加と協働のまちづくりについて」「防犯について」「特殊詐欺について」「消防団について」「越谷市の施策について」の各テーマにおいて、市民意識の把握に努めました。

今回の調査で、すべてのニーズや問題点が解明されたわけではありませんが、調査の結果を今後の市政運営の参考資料として活用しながら、市民の皆様の期待に応えられるまちづくりや、行政サービスを推進してまいりたいと考えております。

ご多忙にもかかわらず、市政世論調査にご協力をいただきました市民の皆様にご心より御礼申し上げます。

令和3年11月

越谷市長 福田 晃

目 次

第1章 調査設計	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査手法	3
3. 回収状況	3
4. 調査項目	3
5. 居住地区区分	4
6. 集計結果の誤差比率について	5
7. 集計結果の有意性について	6
8. 報告書の見かた	7
第2章 調査回答者の属性	9
1. 回答者の属性	11
第3章 調査結果の概要	15
1. 暮らしや居住意向について	17
2. 越谷市への愛着度と魅力発信について	17
3. 地場農産物や地産地消について	17
4. 市内の公共交通について	17
5. 景観（風景）について	17
6. 地域医療体制について	18
7. 人権全般に関する意識について	18
8. 男女共同参画について	18
9. スポーツ・レクリエーションの実施状況について	18
10. 広報について	19
11. 行政のデジタル化について	19
12. 参加と協働のまちづくりについて	19
13. 防犯について	20
14. 特殊詐欺について	20
15. 消防団について	20
16. 越谷市の施策について	20

第4章 調査結果の詳細	21
1. 暮らしや居住意向について	23
(1) 現在の暮らし向き	23
(2) 居住意向	29
(3) 転居意向の理由	35
(4) 越谷市居住の推奨意向	41
2. 越谷市への愛着度と魅力発信について	43
(1) 越谷市への愛着	43
(2) 愛着がある理由	45
(3) 越谷市の誇れるもの	47
3. 地場農産物や地産地消について	49
(1) 越谷の農業特産物の認知度	49
(2) 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所	51
4. 市内の公共交通について	55
(1) 公共交通の利用状況	55
(2) 公共交通の満足度	57
5. 景観（風景）について	59
(1) 景観（風景）の満足度	59
(2) 行政に望むこと	61
6. 地域医療体制について	63
(1) 地域医療体制の認知度	63
(2) 医療機関の情報の入手方法	66
(3) 特に力を入れる必要がある地域医療関連事業	68
7. 人権全般に関する意識について	70
(1) 基本的人権の意識	70
(2) 人権意識の変化	72
(3) 関心のある人権問題	74
(4) 人権侵害を感じたこと	76
(5) 人権侵害を感じた内容	78

8. 男女共同参画について	80
(1) 「教育・しつけ」で大切だと思うこと (男の子)	80
(2) 「教育・しつけ」で大切だと思うこと (女の子)	82
(3) 配偶者等からのDV (ドメスティック・バイオレンス)の有無	84
(4) 配偶者等からDVを受けたときの相談の有無	87
(5) 相談した人 (場所)	89
(6) 相談しなかった理由	91
9. スポーツ・レクリエーションの実施状況について	93
(1) スポーツ・レクリエーション活動の実施状況	93
(2) スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由	95
(3) スポーツ・レクリエーション活動の効果	97
(4) スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由	99
(5) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動 (比較的軽いスポーツ) ..	101
(6) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動 (野外活動)	103
(7) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動 (競技的スポーツ)	105
10. 広報について	107
(1) 市政情報の入手先	107
(2) 市政情報を得るために活用したもの	109
(3) 広報こしがやの感想	111
(4) 広報こしがやのわかりにくい点	113
11. 行政のデジタル化について	114
(1) オンライン化してほしい行政手続き	114
(2) 公衆Wi-Fiを設置してほしい公共施設	116
(3) 公衆Wi-Fiの利用目的	118
12. 参加と協働のまちづくりについて	120
(1) 「参加と協働のまちづくり」の認知度	120
(2) 「参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけ	122
(3) 「参加と協働のまちづくり」への参加意向	124
(4) 「越谷市自治基本条例」の認知度	126
(5) 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ	128
(6) 「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法	130

13. 防犯について	132
(1) 脅威や不安を感じる街頭犯罪等	132
(2) 効果的な防犯対策	134
(3) 自主的な防犯活動への参加	136
(4) 参加したことがある自主防犯活動	138
(5) 自主的な防犯活動への参加意向	140
(6) 自主的な防犯活動に参加したいと思わない理由	142
14. 特殊詐欺について	144
(1) 特殊詐欺の手口の認知度	144
(2) 特殊詐欺を知ったきっかけ	146
(3) 実際に受けたことがある特殊詐欺の連絡方法	148
(4) 特殊詐欺の連絡を受けた際の対応	150
(5) 特殊詐欺被害の防止策	152
15. 消防団について	154
(1) 消防団の認知度	154
(2) 消防団員の種別について	156
(3) 消防団員の活動について	158
(4) 消防団員の待遇について	160
(5) 消防団への入団意向	162
(6) 消防団入団に消極的な理由	164
(7) 消防団に期待する活動	166
16. 越谷市の施策について	168
(1) よくなってきたと感じるもの	168
(2) 特に力を入れるべきだと思われるもの	171
(3) 自由回答	174
第5章 調査票	179

第 1 章 調査設計

1. 調査実施の目的

本調査は、市民生活の現状、行政への要望及び市政に対する評価の意識を的確に把握するとともに、市民に対する施策の浸透状況を測定し、今後の行政運営等に反映させるための基礎的資料とすることを目的として実施した。

2. 調査手法

- (1) 調査地域：越谷市内全域
- (2) 調査対象：市内在住の18歳以上の男女
- (3) 対象者数：5,000人
- (4) 抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送法（郵送配布・郵送回収）
- (6) 調査期間：令和3年6月18日～令和3年7月2日

3. 回収状況

	票数	回収率
配布数	5,000	
回収数	2,888	57.8%
有効回収数	2,888	57.8%

4. 調査項目

調 査 項 目
(1) 基本属性（問1～問7）
(2) 暮らしや居留意向について（問8～問10）
(3) 越谷市への愛着度と魅力発信について（問11～問12）
(4) 地場農産物や地産地消について（問13～問14）
(5) 市内の公共交通について（問15～問16）
(6) 景観（風景）について（問17～問18）
(7) 地域医療体制について（問19～問21）
(8) 人権全般に関する意識について（問22～問25-2）
(9) 男女共同参画について（問26～問28-3）
(10) スポーツ・レクリエーションの実施状況について（問29～問30）
(11) 広報について（問31～問33-2）
(12) 行政のデジタル化について（問34～問36）
(13) 参加と協働のまちづくりについて（問37～問40）
(14) 防犯について（問41～問43-4）
(15) 特殊詐欺について（問44～問46）
(16) 消防団について（問47～問50）
(17) 越谷市の施策について（問51～問52）

5. 居住地区区分



◆ 居住地区該当町表

地区区分	該当町名
桜井	大字大里、大字下間久里、大字上間久里、大字大泊、大字平方、平方南町、千間台東1～4丁目
新方	大字弥十郎、大字大吉、大字向畑、大字北川崎、大字大杉、大字大松、大字船渡、弥栄町1～4丁目
増林	大字花田、大字増林、大字増森、大字中島、東越谷1～10丁目、中島1～3丁目、増林1～3丁目、増森1～2丁目、花田1～7丁目
大袋	大字恩間、大字大竹、大字大道、大字三野宮、大字恩間新田、大字袋山、大字大林、大字大房、千間台西1～6丁目
荻島	大字野島、大字小曾川、大字砂原、大字南荻島、大字西新井、大字北後谷、大字長島
出羽	宮本町1～5丁目、神明町1～3丁目、谷中町1～4丁目、七左町1・4～8丁目、大間野町1～5丁目、新川町1～2丁目、新越谷2丁目
蒲生	大字蒲生、瓦曾根1～2丁目、南越谷1丁目、登戸町、蒲生東町、蒲生寿町、蒲生旭町、蒲生本町、蒲生西町1～2丁目、蒲生1～4丁目、蒲生愛宕町、蒲生南町、南町1～3丁目
川柳	伊原1～2丁目、川柳町1～5丁目、レイクタウン7丁目
大相模	大字西方、相模町1～5丁目、大成町1～2・6～8丁目、東町1～3・5丁目、相模町6～7丁目、流通団地1～4丁目、西方1～2丁目、レイクタウン1～6・8～9丁目
大沢	大沢、大沢1～4丁目、東大沢1～5丁目
北越谷	北越谷1～5丁目
越ヶ谷	越ヶ谷、越ヶ谷1～5丁目、御殿町、柳町、越ヶ谷本町、中町、弥生町、赤山町1～2丁目、宮前1丁目、赤山本町
南越谷	瓦曾根3丁目、南越谷2～5丁目、蒲生茜町、東柳田町、元柳田町、赤山町3～5丁目、新越谷1丁目

6. 集計結果の誤差比率について

今回のアンケート調査は、その調査対象となる母集団（越谷市全域に住む18歳以上の男女）から一部を抽出した標本（サンプル）の比率、平均、標準偏差などを調べ、これらの値から母集団の比率や平均を推測する、いわゆる「標本調査」を行っている。したがって、調査結果には母集団に対する標本誤差が生じる。

本調査では、母集団の推定において、信頼度を95%として信頼区間を算出しており、その際の標本誤差は以下の数式で統計的に算出できる。

$$b = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b：信頼度95%の標本誤差

N：母集団のサイズ

n：有効回収数（=2,888）

P：サンプルの回答比率

ただし、 $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$

回答比率(P) 基数(n)	5%または 95%前後	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
10,000	±0.4%	±0.6%	±0.8%	±0.9%	±0.9%	±1.0%
5,000	±0.6%	±0.8%	±1.1%	±1.3%	±1.3%	±1.4%
2,888	±0.8%	±1.1%	±1.5%	±1.7%	±1.8%	±1.8%
2,000	±1.0%	±1.3%	±1.7%	±2.0%	±2.1%	±2.2%
1,000	±1.3%	±1.9%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.1%
500	±1.9%	±2.6%	±3.5%	±4.0%	±4.3%	±4.4%
100	±4.3%	±5.9%	±7.8%	±9.0%	±9.6%	±9.8%

(小数点以下第2位を四捨五入)

7. 集計結果の有意性について

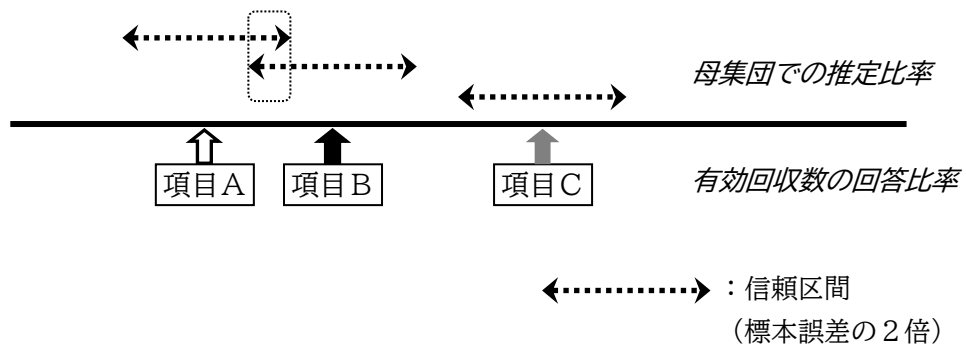
今回のアンケート調査は「標本調査」であり、調査対象となる母集団への標本誤差が必ず生じてくる。その際、どの程度までアンケート調査結果に基づく評価ができるのかという有意性が問題となる。

今回の調査では、有効回収数が2,888票であるため、回答比率がちょうど50%の場合には標本誤差は±1.8%となっている。つまり、アンケート調査結果で得た50%という集計結果を、実際の母集団にあてはめるには標本誤差±1.8%分の誤差が生じることになる。したがって、母集団の傾向として評価する際には、50%ではなく、 $50 \pm 1.8\%$ (=48.2%~51.8%)という一定の幅を持った値（信頼区間）として取り扱う必要がある。そして、その信頼区間に基づいて母集団の評価のために、項目間の評価をする場合、少なくとも評価対象となる項目の回答比率の差が3.6%（標本誤差の2倍）以上でなければ意味をなさない（有意性を持たない）ものとなる（下図参照）。

そのため、アンケート調査に有意性を持たせ、母集団へ効果的に反映させるためには、ある程度の回収数が必要とされている。例えば、100票程度の回収数の場合、その調査結果の標本誤差は、回答比率50%において±9.8%となり、信頼区間は19.6%にも上がってしまう。このような状況では項目間の評価が事実上不可能に近くなり、アンケート調査自体が意味のないものになってしまう。このような事態を招かないためにも、通常の標本調査においては、回収数が1,000票程度は必要であるといえる。

今回のアンケート調査の場合、有効回収数が2,888票であるため、評価にあたっての前提条件はクリアされている。ただし、前述の標本誤差が生じてくるため、評価・分析にあたっては、信頼区間（今回の調査の場合は3.6%程度）未満の差異は切り捨てて考える必要がある。

<項目Bは項目Aよりも有意に高いとはいえない場合>



8. 報告書の見かた

- (1) nは比率算出の基数であり、100%が何人の回答に相当するかを示す。
- (2) 「無回答」はその設問に回答をしなかったものであり、有効票となる。
- (3) 属性別の集計において、全体の調査数には無回答も含まれるため、各属性の調査数の合計は全体の調査数と一致しない。
- (4) 回答はすべて百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、数値の合計は100%を前後する場合がある。
- (5) 複数回答を求める質問の回答については、すべての数値を合計すると100%を超えることがある。
- (6) 複数の選択肢を合計した『○○○』の数値は算出したものであり、図表中の選択肢の数値の合計と一致しない場合がある。
- (7) 図表中の「-」は該当者なしを表す。
- (8) 割合の表記については、下記のとおり。

例 40%台

表記	約4割(4割)	4割強	4割半ば	5割弱	約5割(5割)
範囲	39.0~41.9% (40.0%)	42.0~43.9%	44.0~46.9%	47.0~48.9%	49.0~51.9% (50.0%)

- (9) 文中の「若年層」「中年層」「高齢層」については、下記の年齢層を示す。

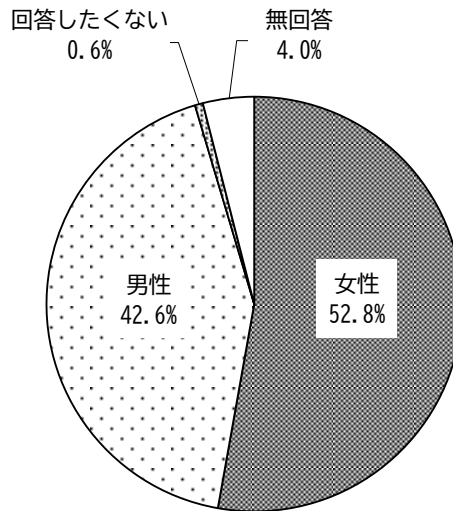
表記	若年層	中年層	高齢層
年齢層	18~29歳	40~49歳	60~69歳
	30~39歳	50~59歳	70歳以上

第2章 調査回答者の属性

1. 回答者の属性

1. 性別

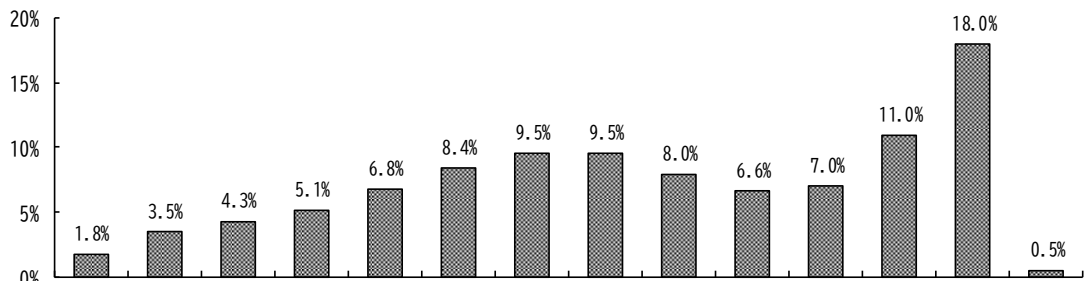
問1. あなたの性別を教えてください。(○は1つ)



(n=2,888)

2. 年代

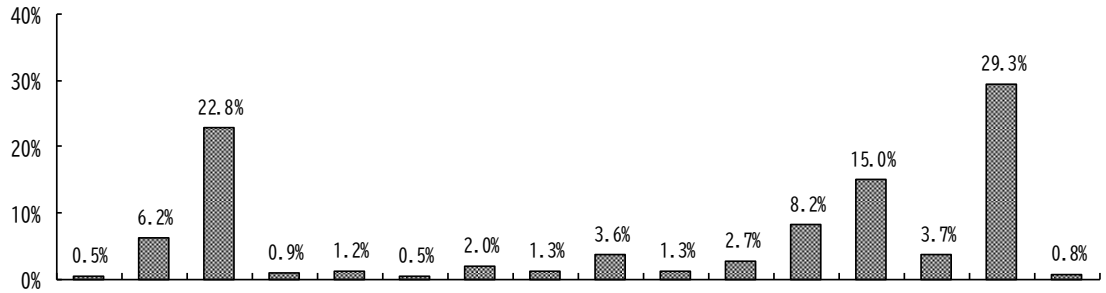
問2. あなたの年齢はどの区分にあてはまりますか。(○は1つ)



	調査数	18歳以下	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳以上	無回答
合計	2,888(人) 100.0(%)	51 1.8	101 3.5	124 4.3	148 5.1	196 6.8	242 8.4	275 9.5	275 9.5	230 8.0	191 6.6	203 7.0	317 11.0	520 18.0	15 0.5
女性	1,525(人) 100.0(%)	26 1.7	52 3.4	70 4.6	89 5.8	105 6.9	129 8.5	150 9.8	140 9.2	121 7.9	101 6.6	113 7.4	161 10.6	262 17.2	6 0.4
男性	1,230(人) 100.0(%)	24 2.0	46 3.7	53 4.3	56 4.6	88 7.2	109 8.9	113 9.2	122 9.9	102 8.3	83 6.7	82 6.7	142 11.5	210 17.1	0 0.0
回答したくない	18(人) 100.0(%)	0 0.0	2 11.1	0 0.0	2 11.1	1 5.6	3 16.7	3 16.7	4 22.2	1 5.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.6	1 5.6
無回答	115(人) 100.0(%)	1 0.9	1 0.9	1 0.9	1 0.9	2 1.7	1 0.9	9 7.8	9 7.8	6 5.2	7 6.1	8 7.0	14 12.2	47 40.9	8 7.0

3. 職業

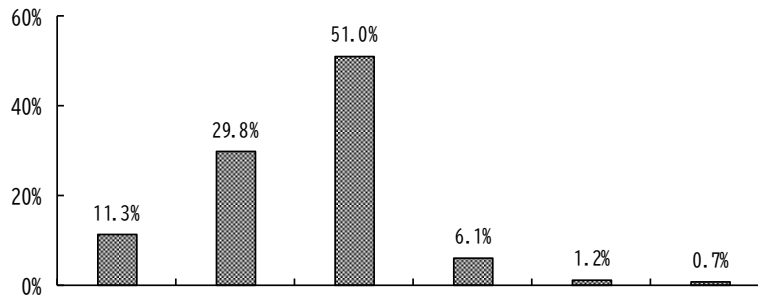
問3. あなたのご職業は次のうちどれにあたりますか。(〇は1つ)



	調査数	農業	市内会社員	市外会社員	小売店自営業	建築関係自営業	製造関係自営業	サービス関係自営業	自由業	公務員	団体職員	学生	家事従業	パートタイマー (アルバイト含む)	その他	無職 (年金生活を含む)	無回答
合計	2,888(人)	14	180	658	26	36	13	57	37	105	37	79	237	433	106	847	23
	100.0(%)	0.5	6.2	22.8	0.9	1.2	0.5	2.0	1.3	3.6	1.3	2.7	8.2	15.0	3.7	29.3	0.8

4. 世帯の状況

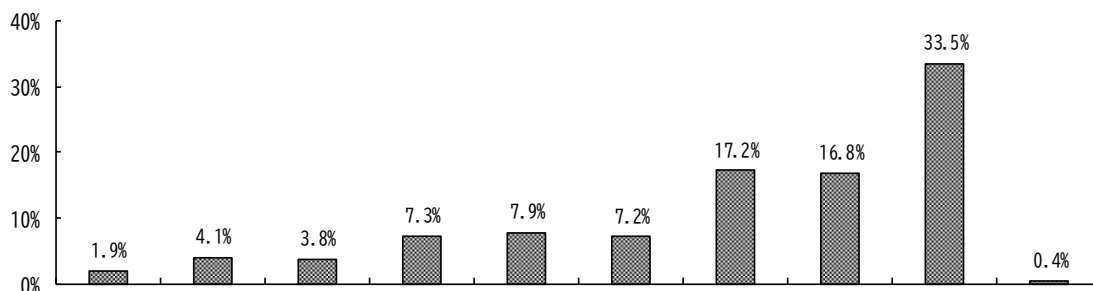
問4. あなたの世帯は次のうちどれにあたりますか。(〇は1つ)



	調査数	単身世帯 (ひとり暮らし)	一世帯のみ (夫婦のみ、兄弟姉妹のみ)	二世帯世帯 (親子など)	三世帯世帯 (親と子と孫など)	その他	無回答
合計	2,888(人)	326	860	1474	175	34	19
	100.0(%)	11.3	29.8	51.0	6.1	1.2	0.7

5. 居住年数

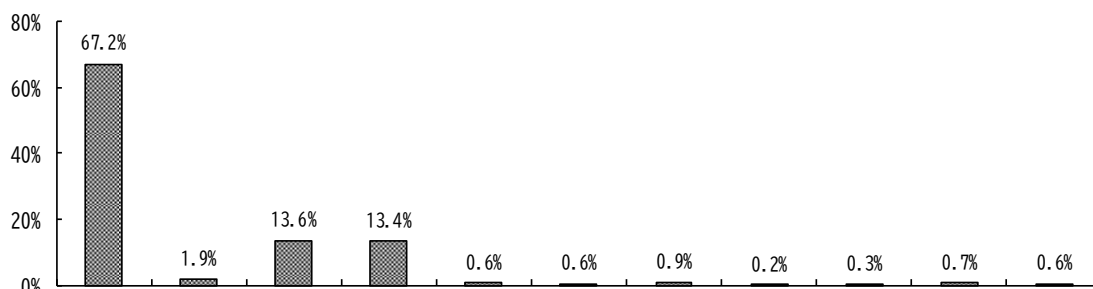
問5. あなたは、越谷市に住んでどれくらいになりますか。(〇は1つ)



	調査数	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20～30年未満	30～40年未満	40年以上	無回答
合計	2,888(人)	55	117	109	210	227	207	497	486	968	12
	100.0(%)	1.9	4.1	3.8	7.3	7.9	7.2	17.2	16.8	33.5	0.4

6. 居住形態

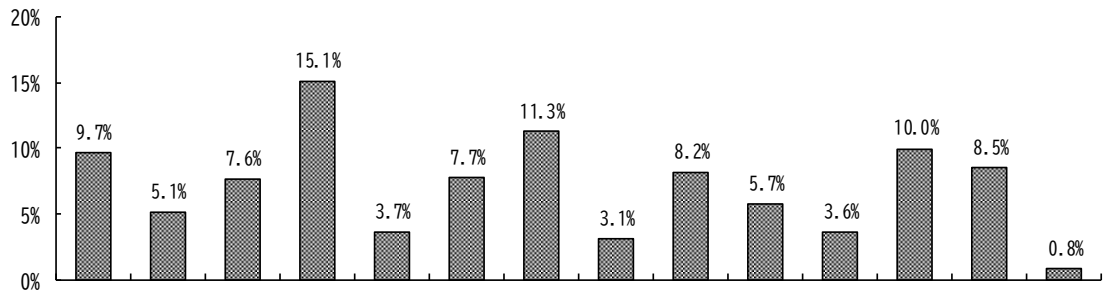
問6. あなたのお住まいは次のどれにあたりますか。(〇は1つ)



	調査数	持ち家一戸建て	民間借家一戸建て	民間分譲マンション	アパート・民間賃貸マンション・シヨーン	シヨーン	シヨーン	社宅・官舎	間借り・下宿・寮・寄宿舎	店舗・事務所併用住宅	その他	無回答
合計	2,888(人)	1940	56	393	387	18	16	27	5	8	21	17
	100.0(%)	67.2	1.9	13.6	13.4	0.6	0.6	0.9	0.2	0.3	0.7	0.6

7. 居住地区

問7. あなたは、どの地区に住んでいますか。(〇は1つ)



	調査数	桜井地区	新方地区	増林地区	大袋地区	荻島地区	出羽地区	蒲生地区	川柳地区	大相模地区	大沢地区	北越谷地区	越ヶ谷地区	南越谷地区	無回答
合計	2,888(人)	279	148	220	435	106	223	325	89	237	166	104	288	245	23
	100.0(%)	9.7	5.1	7.6	15.1	3.7	7.7	11.3	3.1	8.2	5.7	3.6	10.0	8.5	0.8

第3章 調査結果の概要

1. 暮らしや居住意向について

現在の暮らし向きについては、「十分満足している」と「十分とはいえないが、一応満足している」を合わせた『満足』は約6割となっている。

今後の居住意向については、「ずっと住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた『定住意向』は7割半ばとなっている。

『転居意向』の主な理由は、「交通の便が悪いので」が1割半ば、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」が1割強となっている。

越谷市に住み暮らすことを勧めたいかについては、「大いに勧めたい」「勧めたい」「どちらかという勧めたい」を合わせた『勧めたい』は約6割となっている。

2. 越谷市への愛着度と魅力発信について

越谷市への愛着については、「とても愛着がある」「愛着がある」「やや愛着がある」を合わせた『愛着がある』は7割強となっている。

愛着がある理由としては、「交通の利便性がよく、都内等に近い」が約7割で最も多く、「ショッピング施設や商店街が豊富」が約5割で続く。

越谷市の誇れるものについては、「イオンレイクタウン」が6割半ばで最も多く、「南越谷阿波踊り」が4割弱で続く。

3. 地場農産物や地産地消について

越谷の農業特産物の認知度については、「ねぎ」「くわい」が6割弱、「いちご」が5割半ばとなっている。

購入経験は、「ねぎ」が約6割で最も多く、「いちご」が約5割と続く。

購入場所は、「太郎兵衛もち」「チューリップ」は「市民まつりなどイベント」が、「くわい」は「農産物直売所」が、「ねぎ」「山東菜」「いちご」「小松菜」は「市内スーパーマーケット」がそれぞれ最も多くなっている。

4. 市内の公共交通について

鉄道は「たまに利用している」が約3割で最も多く、「とても満足している」と「やや満足している」を合わせた『満足』は8割強となっている。

バスは「全く利用しない」が約4割で最も多く、『満足』は約5割となっている。

タクシーは「全く利用しない」が5割弱で最も多く、『満足』は5割半ばとなっている。

5. 景観（風景）について

住まいの地区の景観（風景）の満足度は、「満足している」と「十分とはいえないが、おおむね満足している」を合わせた『満足』は6割半ばとなっている。

良い景観（風景）のまちをつくるために行政に望むことは、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」が約5割で最も多く、「目標や基本方針を住民に示す」が約4割で続く。

6. 地域医療体制について

地域医療体制の認知度について、「利用したことがある」と「利用したことはないが知っている」を合わせた『知っている』は、「越谷市夜間急患診療所」が7割半ば、「休日当番医制度」が約7割、「埼玉県救急電話相談（#7119）」が4割強、「埼玉県A I救急相談」が1割強となっている。

医療機関の情報の入手方法については、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」が5割半ばで最も多く、「広報こしがや」が4割で続く。

地域医療に関して、特に力を入れる必要がある事業は、「夜間急患診療所」が約4割で最も多く、「災害や感染症への備え」が約3割で続く。

7. 人権全般に関する意識について

今の日本社会における基本的人権の意識については、「十分尊重されている」と「やや尊重されている」を合わせた『尊重されている』は6割強となっている。

10年前と比べた人権意識の変化については、「非常に高くなっている」と「やや高くなっている」を合わせた『高くなっている』は5割弱となっている。

関心のある人権問題については、「インターネット上における人権問題」が5割弱で最も多く、「女性の人権問題」が3割強で続く。

日常生活の中で人権が侵害されたと感じたことがあるかについては、「ある」が約2割となっており、その内容は「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」が5割弱となっている。

8. 男女共同参画について

子どもに対する「教育・しつけ」で大切だと思うことについては、男の子は「やさしきや思いやりをもたせる」が約7割で最も多く、女の子も「やさしきや思いやりをもたせる」が約8割で最も多い。

配偶者等からのDV（ドメスティック・バイオレンス）の有無については、「何度もあった」と「1～2度あった」を合わせた『あった』は「精神的暴力」が1割半ばで最も多く、「身体的暴力」が1割強、「経済的暴力」「性的暴力」が1割未満となっている。

DVを受けたときの相談の有無については、「相談した」が約3割、「相談できなかった」と「相談しようとは思わなかった」を合わせた『相談しなかった』が約6割となっている。

DVを受けたときに相談した人（場所）では、「家族・親せき」が6割半ばで最も多く、「友人・知人」が約5割で続く。一方、相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が5割半ばで最も多く、「相談しても無駄だと思ったから」が3割弱で続く。

9. スポーツ・レクリエーションの実施状況について

この1年間のスポーツ・レクリエーション活動の実施状況については、「週に3回以上」と「週に1～2回程度」を合わせた『週に1回以上』は4割半ば、『週に1回以上』と「月に1～3回程度」を合わせた『月に1回以上』は6割弱となっている。

スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由については、「運動不足解消」が約7割で最も多く、「健康、体力維持・増進」が5割半ばで続く。

スポーツ・レクリエーション活動の効果については、「運動不足が解消した」が4割半ばで最も多く、「よく眠れるようになった」が2割半ばで続く。

スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由については、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」が約4割で最も多く、「年をとったから」が約2割で続く。

今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動は、比較的軽いスポーツでは「ウォーキング」、野外活動では「ハイキング」「キャンプ（オートキャンプを含む）」、競技的スポーツでは「テニス」「バドミントン」「卓球」が多くなっている。

10. 広報について

市政情報を主に得ているものについては、「広報こしがや」が6割半ばで突出して多くなっている。

市政情報を得るために活用したことがあるものについては、「広報こしがや」が7割半ばで最も多く、「越谷市公式ホームページ」が4割半ばで続く。

広報こしがやについては、「わかりやすい」と「おおむねわかりやすい」を合わせた『わかりやすい』は8割弱となっている。

広報こしがやのわかりにくい点については、「記事の配置」が3割強で最も多く、「文字が多すぎる、図が少ない」が3割弱で続く。

11. 行政のデジタル化について

オンライン化してほしい行政手続きについては、「市民税・県民税申告に関する手続」が2割半ばで最も多く、「転入・転出・転居に関する届出」が約2割で続く。

公衆Wi-Fiを設置してほしい公共施設については、「市役所（第2庁舎、第3庁舎）」が3割強で最も多く、「図書館」が2割半ばで続く。

公衆Wi-Fiの利用目的については、「越谷市の各種手続きの情報収集」が約2割で最も多く、「ニュース、天気予報等の情報収集」が約1割で続く。

12. 参加と協働のまちづくりについて

「参加と協働のまちづくり」の認知度については、「よく知っている」と「まあまあ知っている」を合わせた『知っている』が1割強で、「参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけは「広報こしがや」が8割弱で最も多くなっている。

「参加と協働のまちづくり」への参加意向については、「参加したい」と「どちらかといえば参加したい」を合わせた『参加したい』は約3割となっている。

「越谷市自治基本条例」の認知度については、『知っている』が約4%で、「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけは「広報こしがや」が7割半ばで最も多くなっている。

「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法については、「広報こしがやへの情報掲載」が6割弱で最も多く、「越谷市公式ホームページ上への情報掲載」が約3割で続く。

13. 防犯について

日頃、脅威や不安を感じる街頭犯罪等については、「路上強盗・ひったくり」が6割強で最も多く、「侵入盗」が5割半ばで続く。

市が行う効果的な防犯対策については、「防犯カメラの設置」が7割半ばで最も多く、「街路灯の設置」が5割半ばで続く。

自主的な防犯活動は、「参加したことがある」は1割半ばで、参加したことがある自主防犯活動は「地域パトロール活動」が7割強で最も多く、「登下校見守り活動」が約4割で続く。

「参加したことはない」人の参加意向は、参加したいと「思う」が約1割で、参加したいと「思わない」が4割弱となっている。参加したいと「思わない」理由については、「時間がない」が3割半ばで最も多く、「体力的に難しい」が約3割で続く。

14. 特殊詐欺について

特殊詐欺の手口の認知度については、「オレオレ詐欺」が9割半ばで最も多く、「架空請求詐欺」が8割で続く。

特殊詐欺を知ったきっかけについては、「テレビ」が9割強で最も多く、「インターネット（パソコン・携帯電話・スマートフォン）」が4割強で続く。

実際に受けたことがある特殊詐欺の連絡方法については、「電子メール」が3割半ばで最も多く、「電話」が2割半ばで続く。

特殊詐欺の連絡を受けた際の対応については、「怪しいと思い無視した」が8割強で突出して多くなっている。

特殊詐欺の被害を防止するために必要なことは、「家族間等における話し合い」が6割強で最も多く、「自宅の電話機を留守番電話に設定」が3割強で続く。

15. 消防団について

消防団の認知度については、「知っている」は6割となっている。

消防団員について知っているものは、種別では「基本団員（男性団員、女性団員）」が3割弱、活動では「火災時の消火活動」が約5割、待遇では「被服の貸与」が2割で最も多くなっている。

消防団への入団意向は、「入団してみたい」は約2%で、「入団したくない」が約6割となっている。入団に消極的な理由については、「年齢的・体力的に厳しい」が5割半ばで最も多く、「訓練、行事に多くの時間をとられる」が3割弱で続く。

消防団に期待する活動については、「避難所運営補助活動（避難誘導含む）」が5割弱で最も多く、「防災、災害時における地域の相談役」が4割半ばで続く。

16. 越谷市の施策について

越谷市の施策について、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」は、「駅周辺の整備」が3割弱で最も多く、「公園や緑地の整備」が1割半ばで続く。

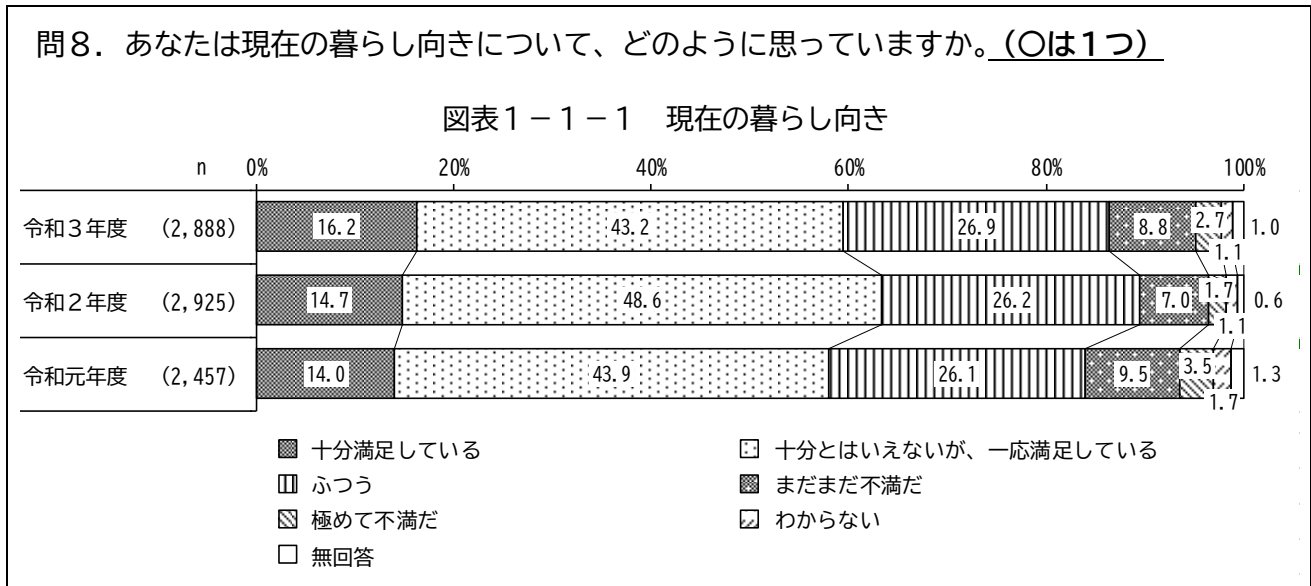
今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」は、「水害や地震などの災害対策」が3割弱で最も多く、「防犯対策」が2割半ばで続く。

第4章 調査結果の詳細

1. 暮らしや居留意向について

(1) 現在の暮らし向き

◇『満足』が約6割



現在の暮らし向きについては、「十分とはいえないが、一応満足している」(43.2%)が最も多く、次いで「ふつう」(26.9%)、「十分満足している」(16.2%)、「まだまだ不満だ」(8.8%)、「極めて不満だ」(2.7%)の順となっている。「十分満足している」と「十分とはいえないが、一応満足している」を合わせた『満足』(59.4%)は約6割、「まだまだ不満だ」と「極めて不満だ」を合わせた『不満』(11.5%)は約1割となっている。

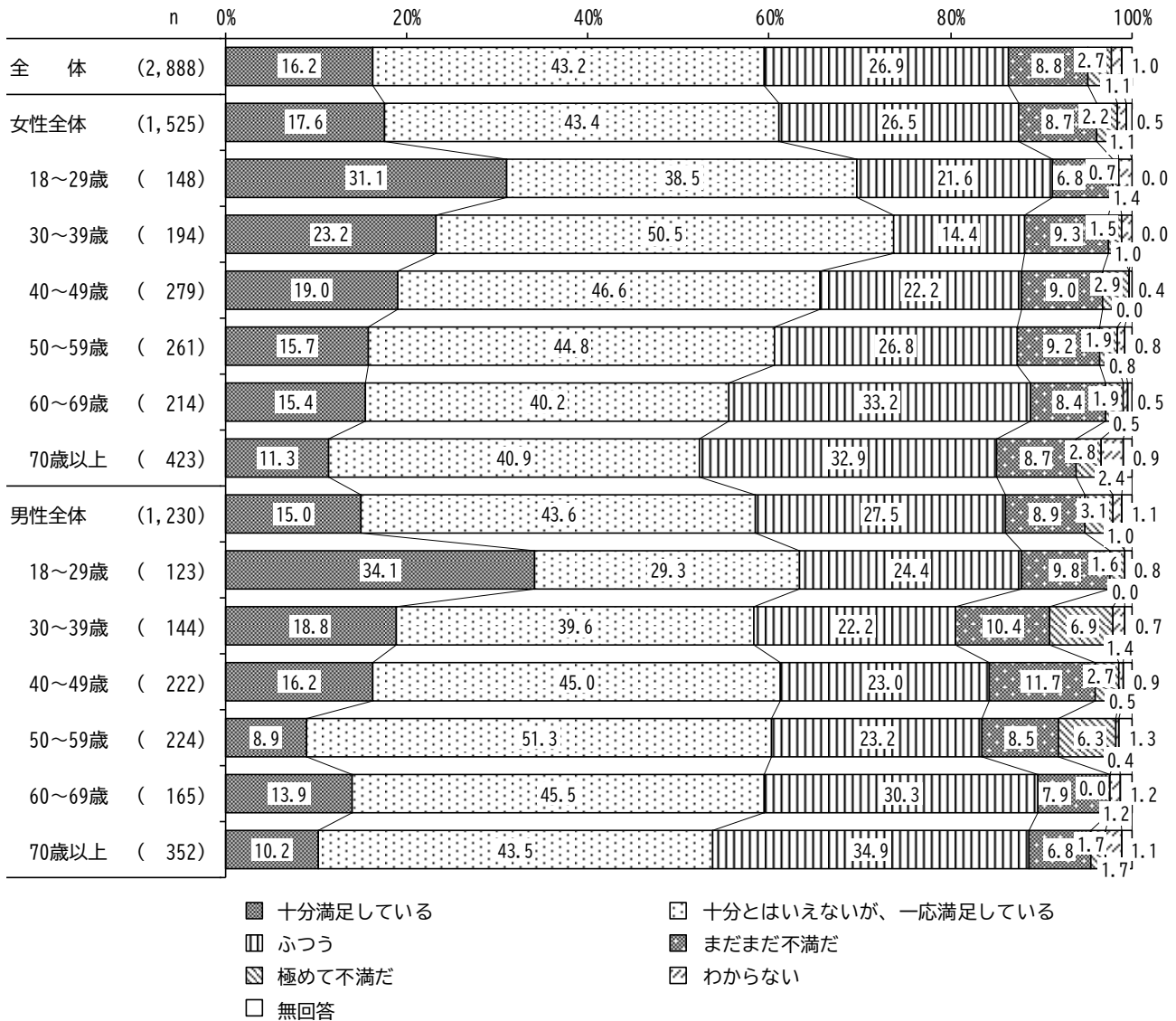
過去2回の調査と比較すると、「十分とはいえないが、一応満足している」は令和2年度(48.6%)と比べ5.4ポイント減少し、『満足』も令和2年度(63.4%)より3.9ポイント減少している。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

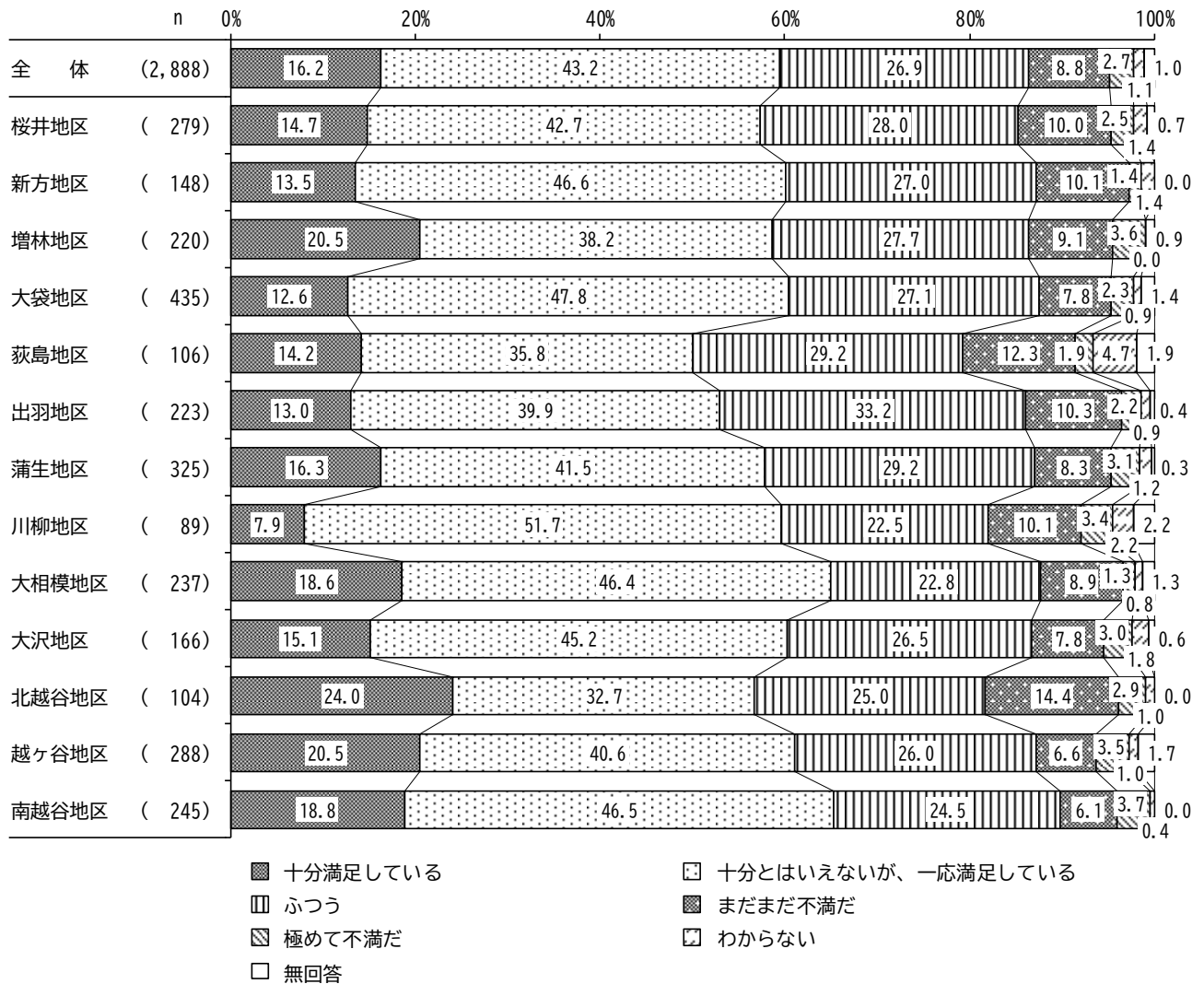
性・年齢別でみると、『満足』は女性30歳代(73.7%)で7割強、女性18~29歳(69.6%)で約7割と女性若年層で多くなる傾向にある。一方、70歳以上は女性(52.2%)、男性(53.7%)とも全体を5ポイント以上下回っている。また、『不満』は男性30歳代(17.4%)が最も多く、全体を5.8ポイント上回っている。

図表1-1-2 性・年齢別 現在の暮らし向き



居住地区別でみると、『満足』は南越谷地区（65.3%）が全体を5.9ポイント上回り最も多く、大相模地区（65.0%）も6割半ばとなっている。一方、荻島地区（50.0%）は9.4ポイント、出羽地区（52.9%）は6.5ポイント全体を下回り、北越谷地区は『不満』（17.3%）が全体を5.8ポイント上回っている。

図表1-1-3 居住地区別 現在の暮らし向き

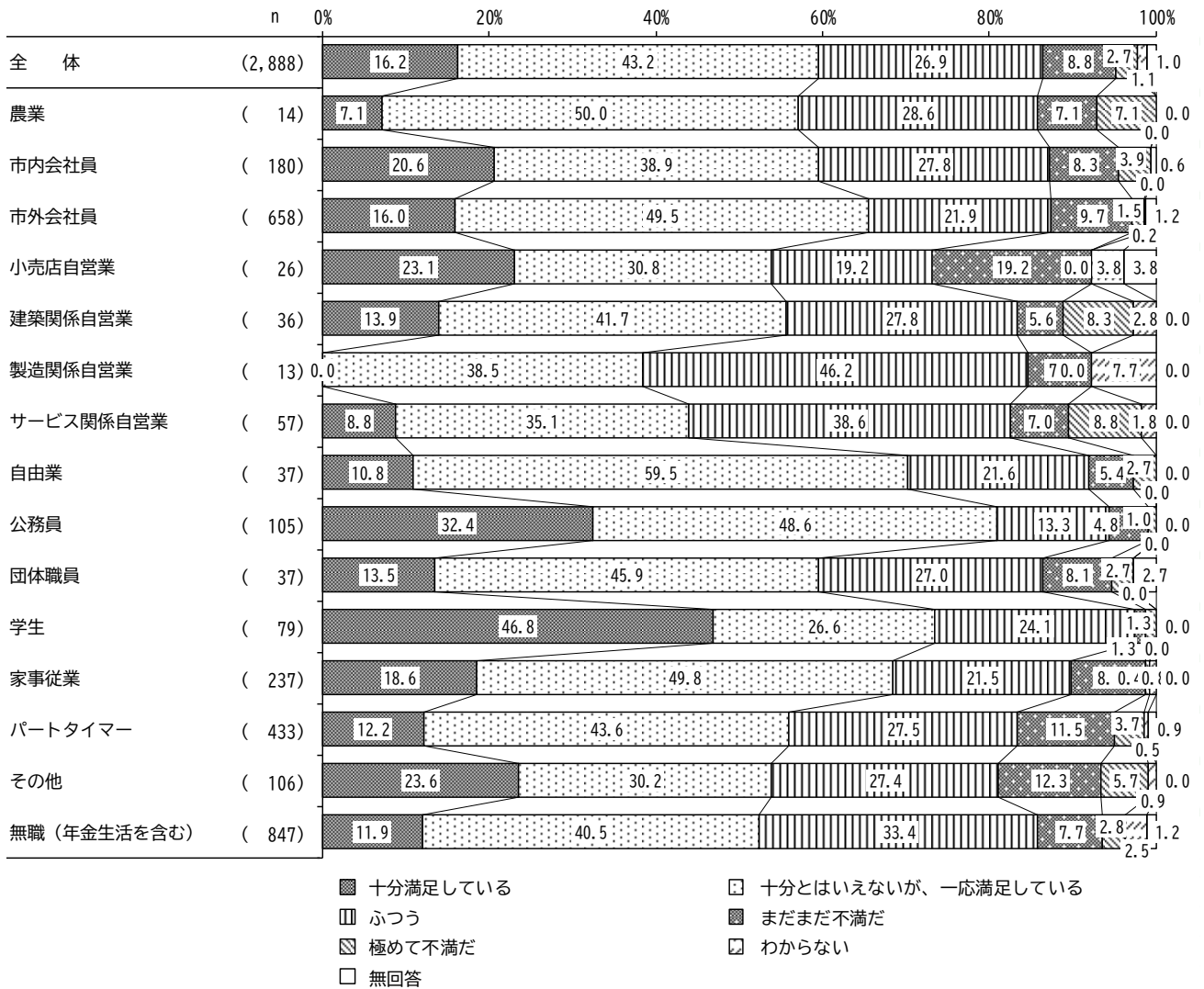


第4章 調査結果の詳細

職業別でみると、『満足』は公務員（81.0%）が最も多く、学生（73.4%）、自由業（70.3%）も全体を1割以上上回っている。一方、サービス関係自営業（43.9%）は『満足』が5割未満となっている。

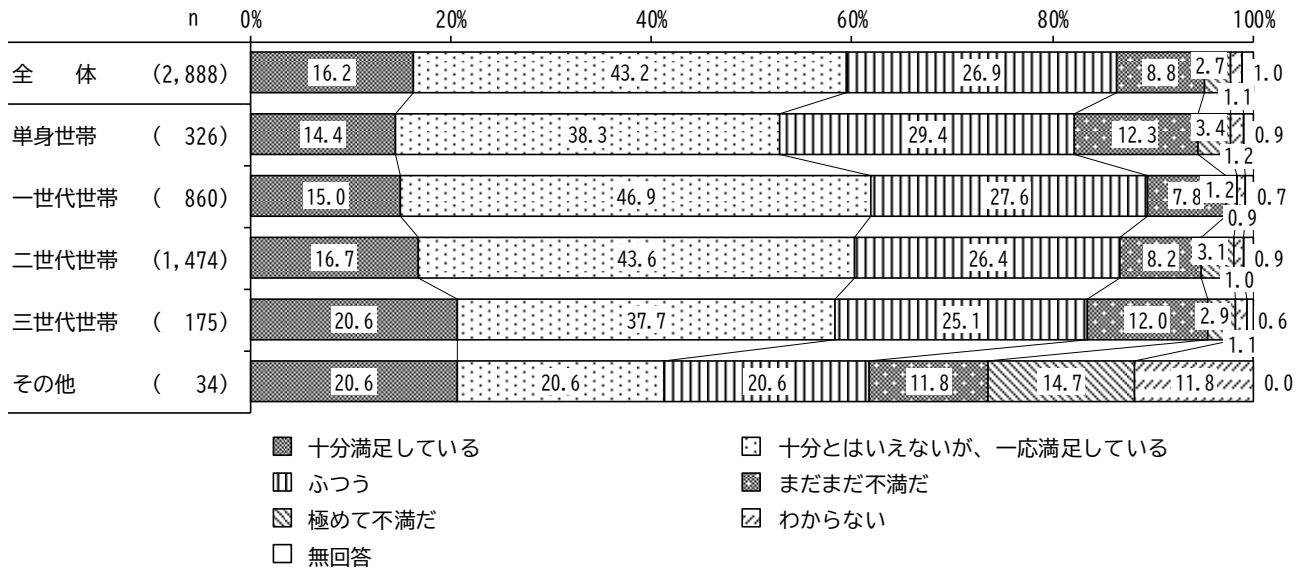
※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-1-4 職業別 現在の暮らし向き



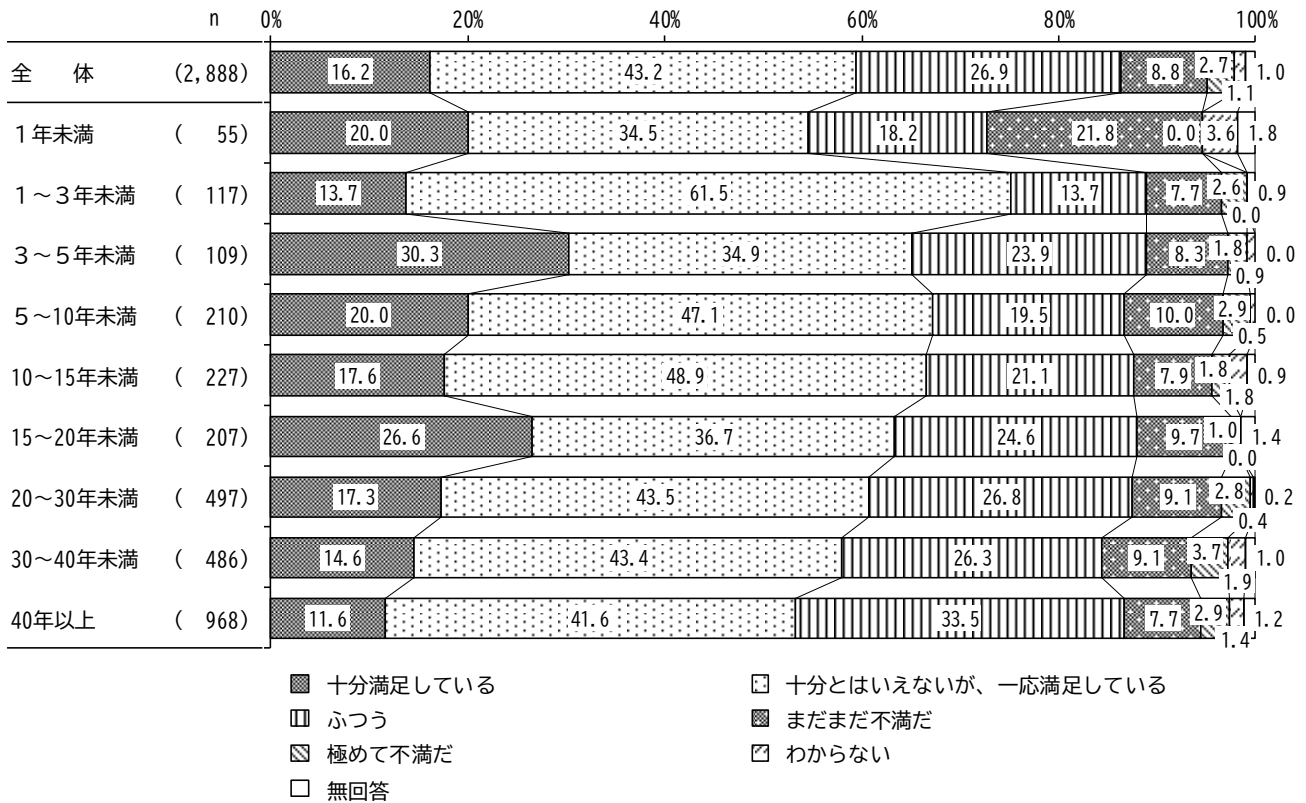
世帯状況別で見ると、『満足』は一世代世帯(61.9%)、二世帯世帯(60.3%)で約6割を占める一方、単身世帯(52.8%)は全体を6.6ポイント下回っている。

図表1-1-5 世帯状況別 現在の暮らし向き



居住年数別でみると、『満足』は1～3年未満(75.2%)が7割半ばで最も多く、5～10年未満(67.1%)、10～15年未満(66.5%)、3～5年未満(65.1%)も全体を5ポイント以上上回っている。一方、40年以上(53.2%)は『満足』が全体を6.2ポイント下回り、1年未満は『不満』(21.8%)が全体を10.3ポイント上回っている。

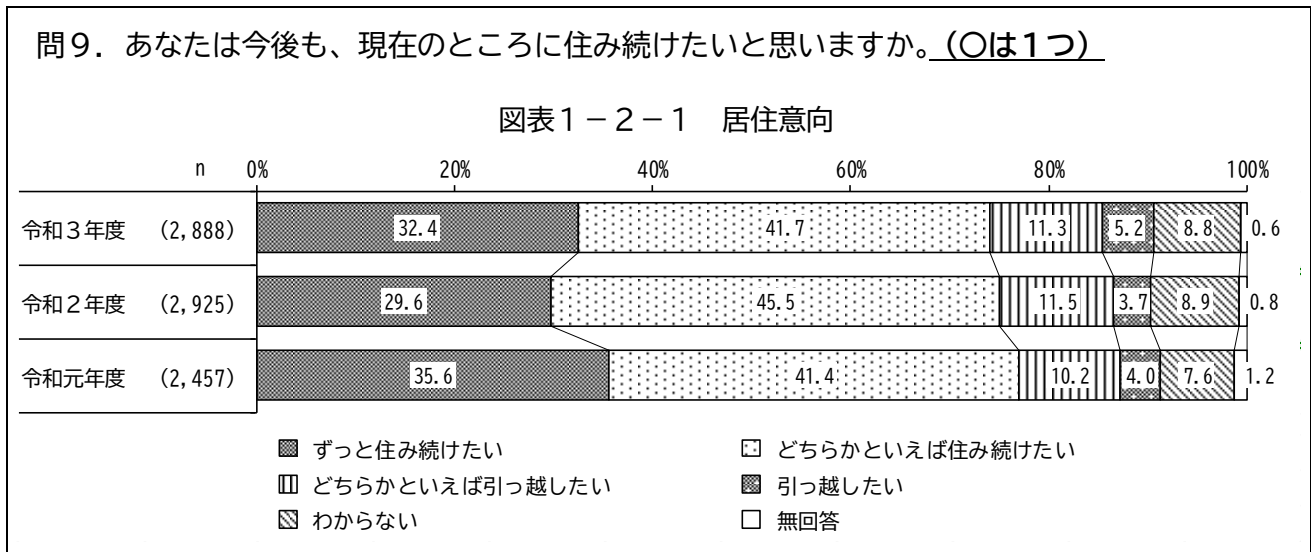
図表1-1-6 居住年数別 現在の暮らし向き



(2) 居住意向

◇『定住意向』が7割半ば

問9. あなたは今後も、現在のところに住み続けたいと思いますか。(〇は1つ)



今後の居住意向については、「どちらかといえば住み続けたい」(41.7%)が最も多く、次いで「ずっと住み続けたい」(32.4%)、「どちらかといえば引っ越したい」(11.3%)、「引っ越したい」(5.2%)の順となっている。「ずっと住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた『定住意向』(74.1%)は7割半ば、「どちらかといえば引っ越したい」と「引っ越したい」を合わせた『転居意向』(16.4%)は1割半ばとなっている。

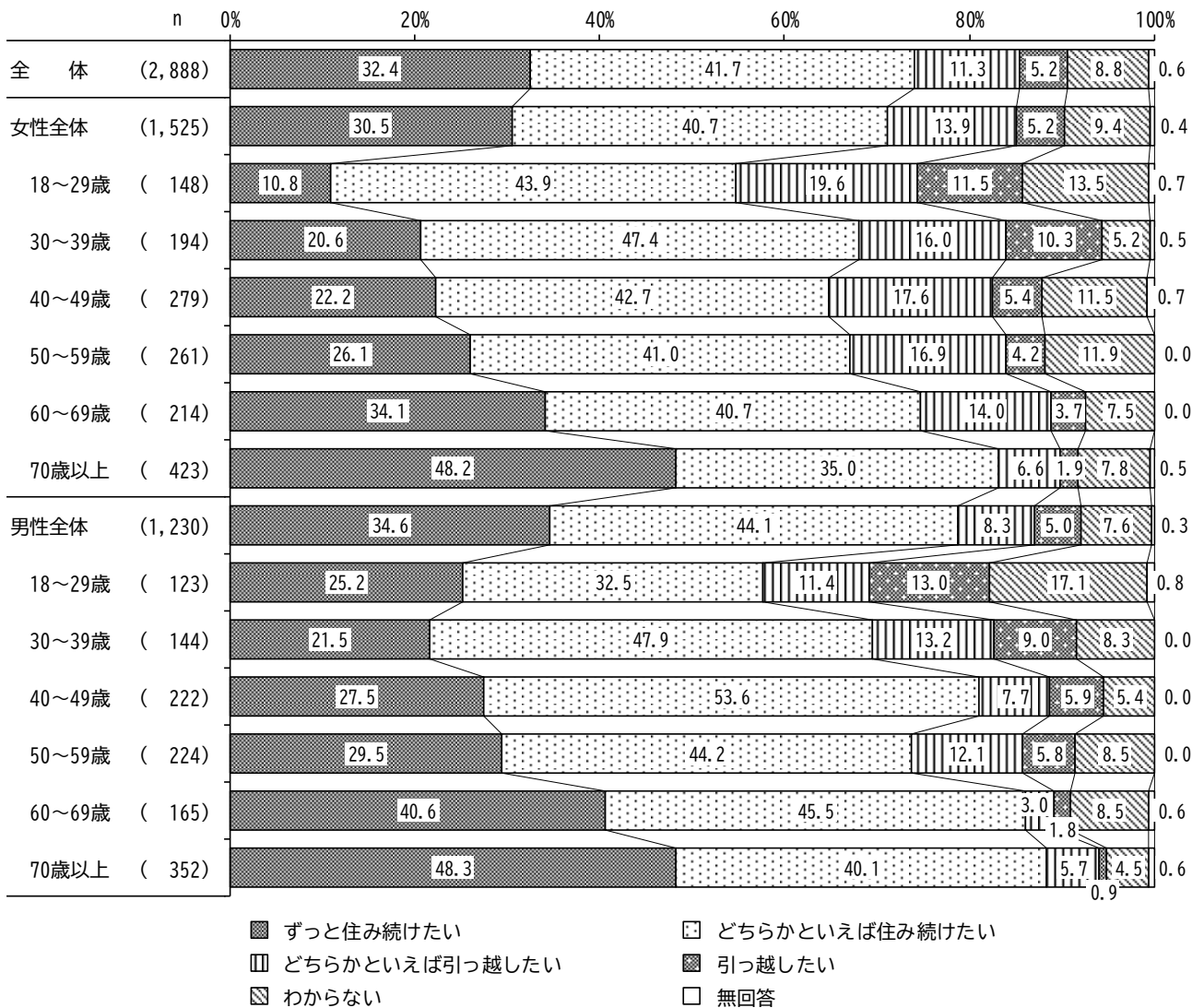
過去2回の調査と比較すると、「どちらかといえば住み続けたい」が令和2年度(45.5%)と比べ3.8ポイント減少し、『定住意向』はやや減少傾向にある。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、『定住意向』は男性（78.8%）が女性（71.1%）を7.7ポイント上回っている。一方、『転居意向』は女性（19.1%）が男性（13.3%）を5.8ポイント上回っている。

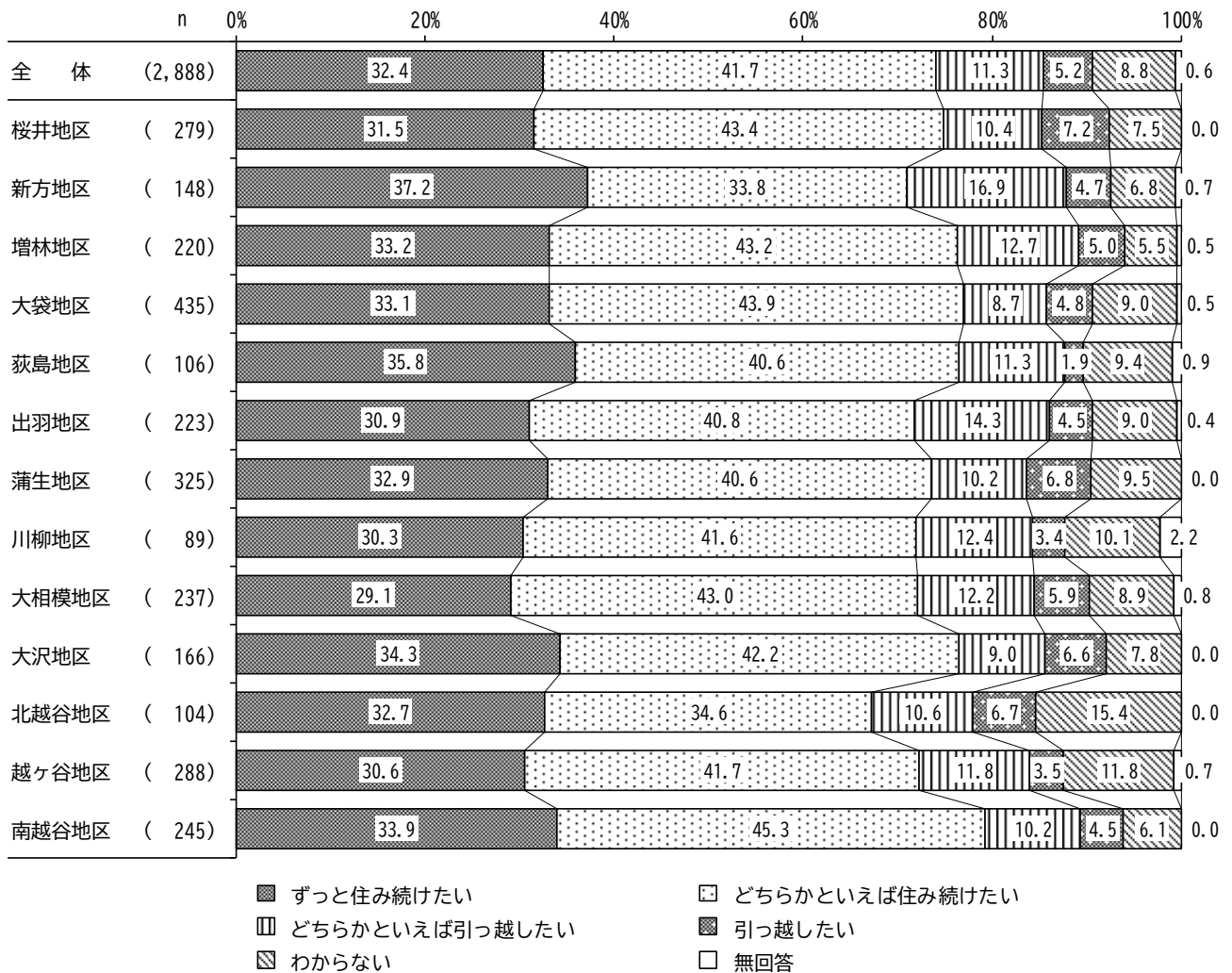
性・年齢別でみると、『定住意向』は女性（83.2%）、男性（88.4%）とも70歳以上が最も多くなっており、男性60歳代（86.1%）、男性40歳代（81.1%）も8割台となっている。一方、18～29歳は女性（54.7%）、男性（57.7%）とも5割台となっている。また、『転居意向』は女性18～29歳（31.1%）で約3割を占め、女性30歳代・40歳代（26.3%、22.9%）、男性18～29歳・30歳代（24.4%、22.2%）も全体を5ポイント以上上回っている。

図表1-2-2 性・年齢別 居住意向



居住地区別でみると、『定住意向』は南越谷地区（79.2%）が最も多く、北越谷地区（67.3%）を除く地区で7割台となっている。一方、『転居意向』は新方地区（21.6%）が全体を5.1ポイント上回り、最も多くなっている。

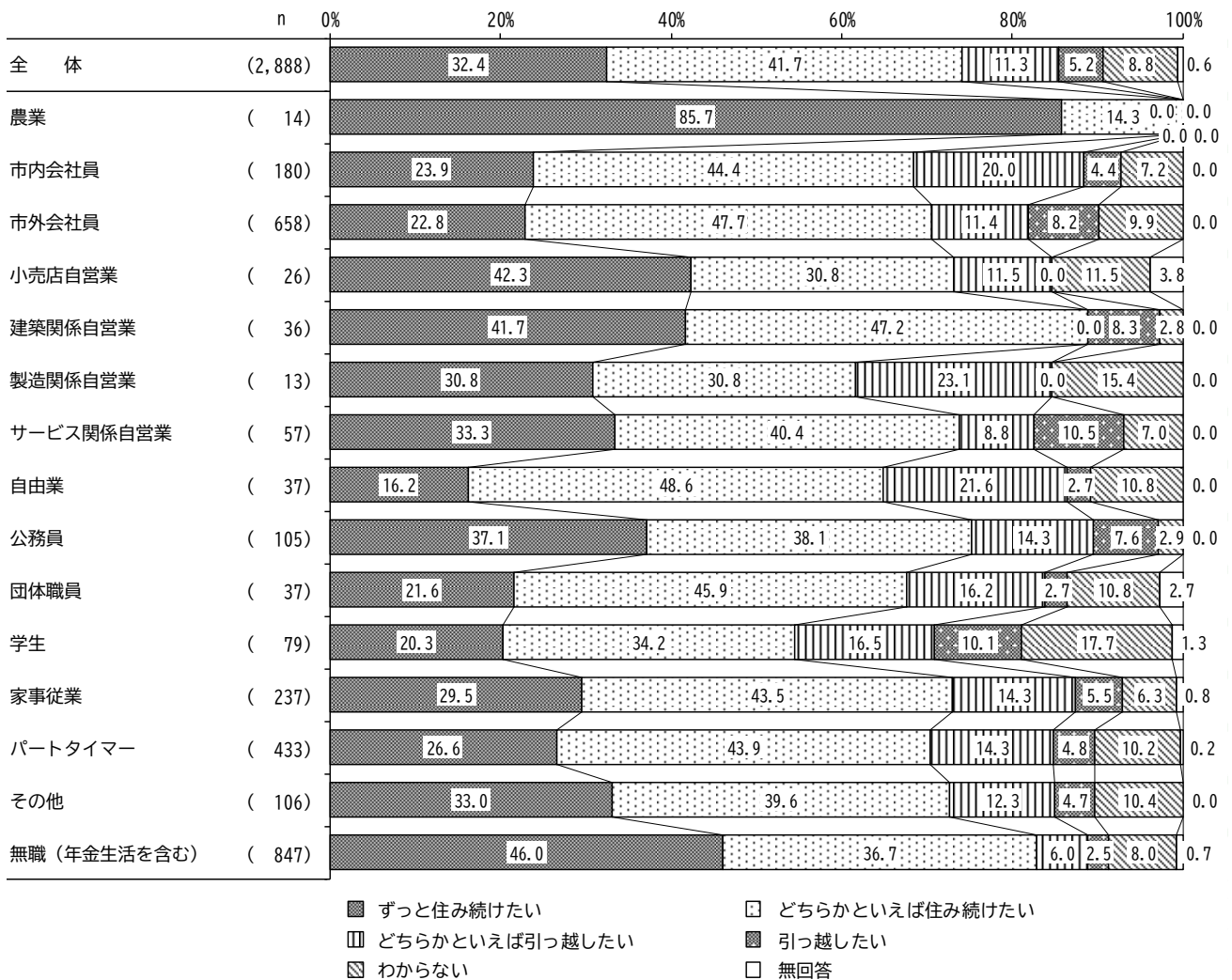
図表1-2-3 居住地区別 居住意向



職業別でみると、『定住意向』は建築関係自営業（88.9%）、無職（82.8%）で8割台となっている。一方、学生（54.4%）は5割半ば、自由業（64.9%）、団体職員（67.6%）、市内会社員（68.3%）は6割台となっている。また、『転居意向』は学生（26.6%）が最も多く、市内会社員（24.4%）、自由業（24.3%）、公務員（21.9%）も2割台となっている。

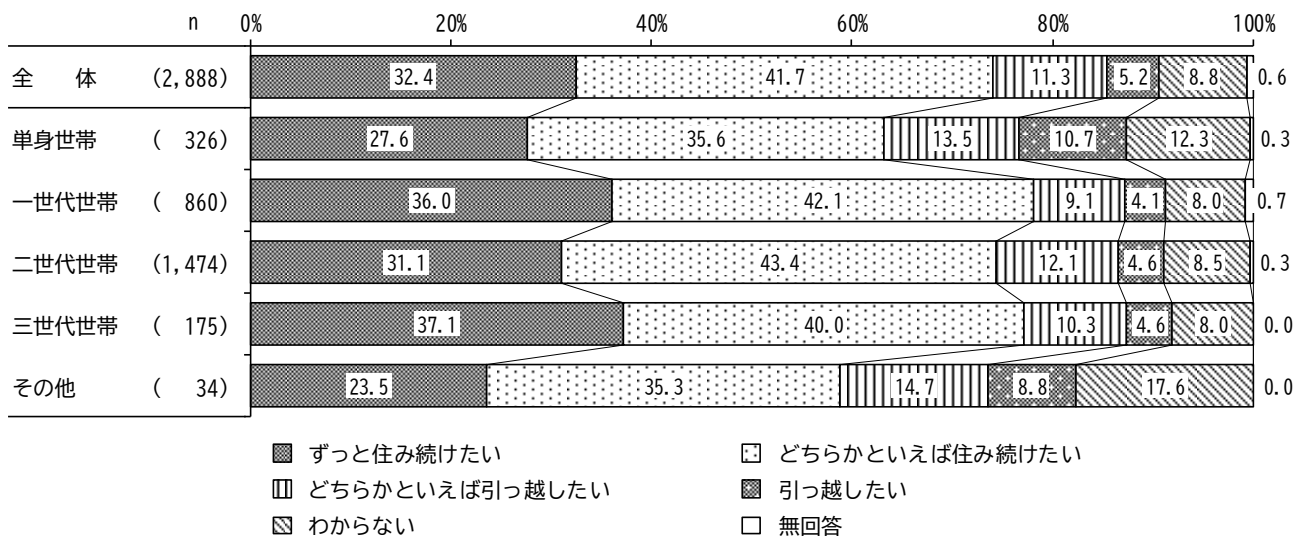
※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-2-4 職業別 居住意向



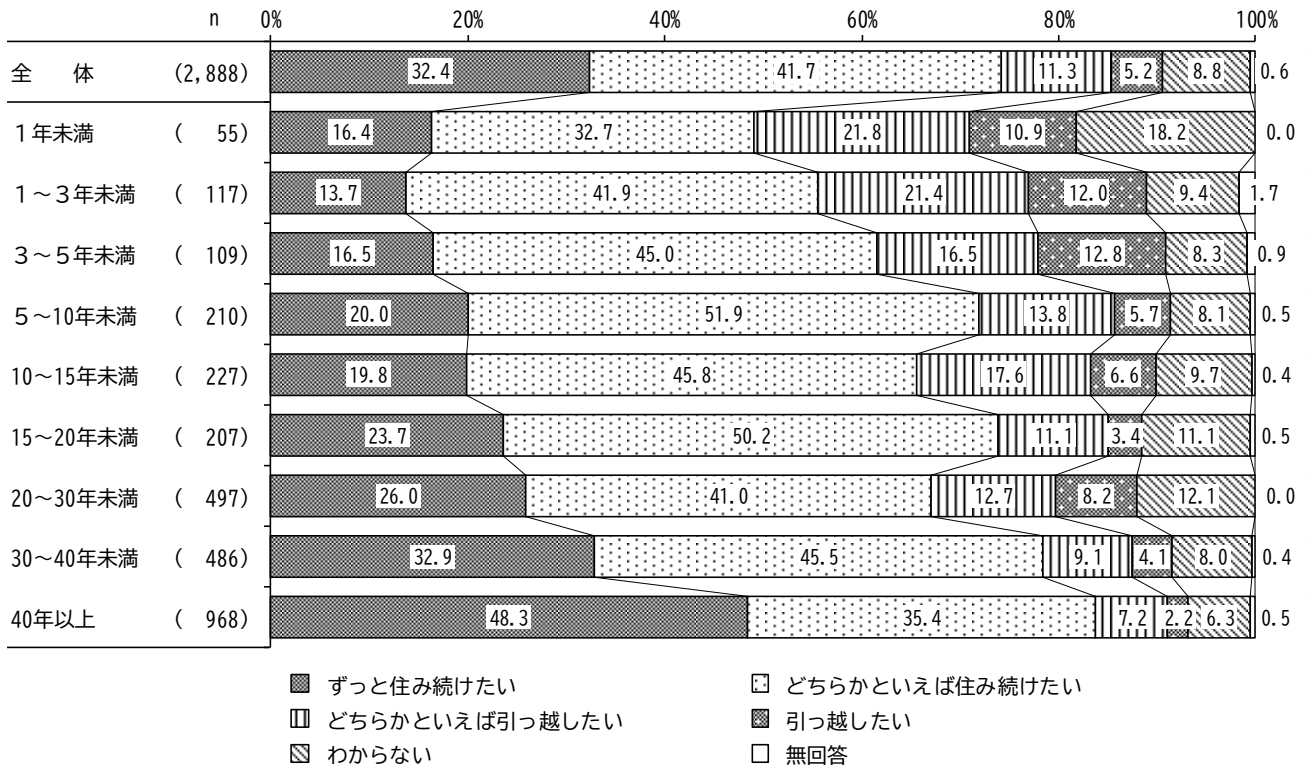
世帯状況別でみると、『定住意向』は一世代世帯（78.1%）が最も多く、三世代世帯（77.1%）が続いている。一方、単身世帯（63.2%）は『定住意向』が全体を10.9ポイント下回り、『転居意向』（24.2%）が全体を7.7ポイント上回っている。

図表1-2-5 世帯状況別 居留意向



居住年数別でみると、『定住意向』は40年以上(83.8%)が8割強で最も多く、30~40年未満(78.4%)、15~20年未満(73.9%)、5~10年未満(71.9%)も7割台となっている。一方、1年未満(49.1%)は『定住意向』が5割を下回り、1~3年未満(55.6%)、3~5年未満(61.5%)も全体より1割以上少なくなっている。また、『転居意向』は1~3年未満(33.3%)と1年未満(32.7%)が3割強、3~5年未満(29.4%)が約3割で、全体を1割以上上回っている。

図表1-2-6 居住年数別 居住意向

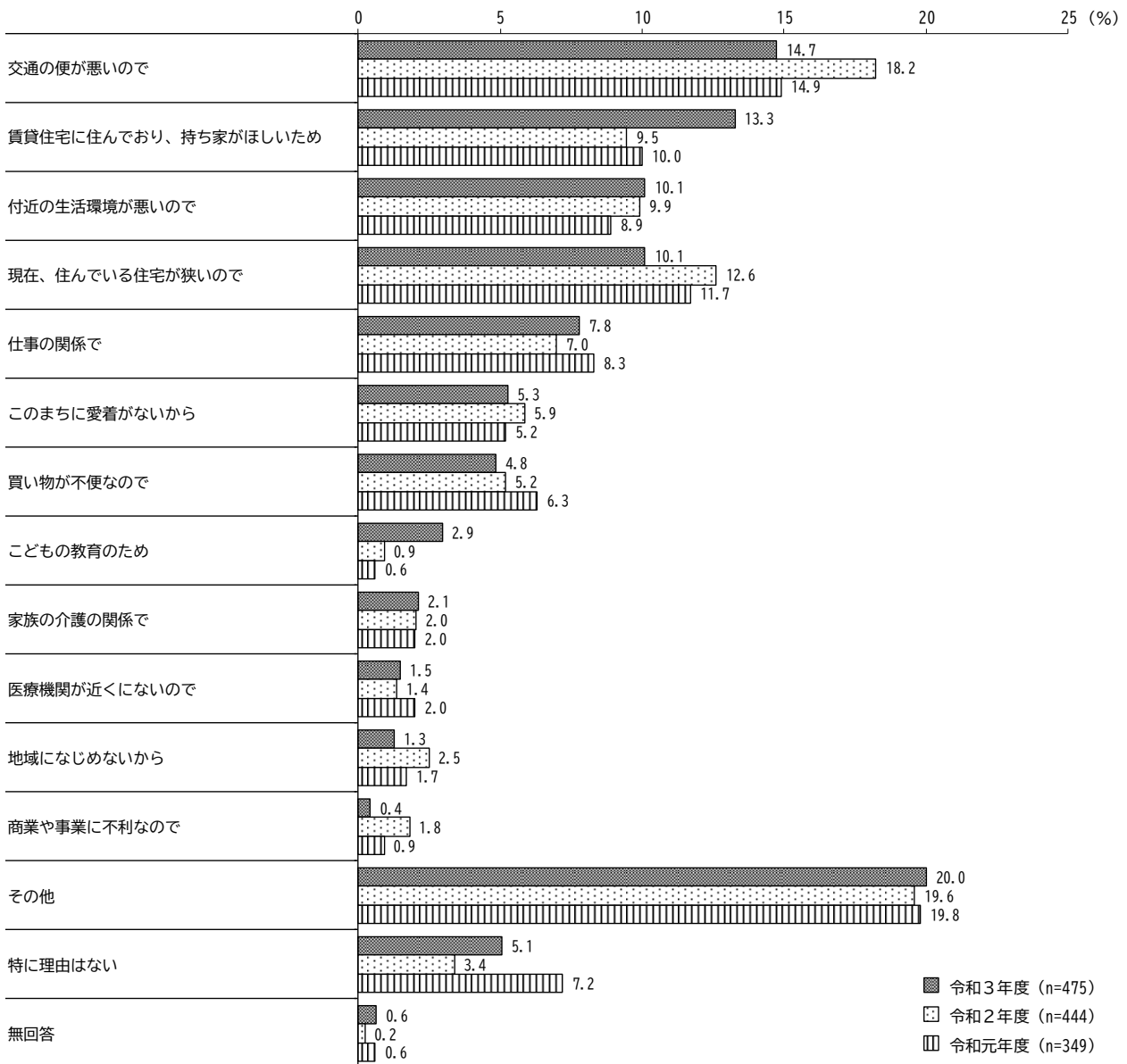


(3) 転居意向の理由

◇「交通の便が悪いので」が最も多く、1割半ば

問9-2. 問9で「3」または「4」と答えた方(引っ越したいと答えた方)に伺います。
引っ越したいと思われる主な理由は何ですか。(〇は1つ)

図表1-3-1 転居意向の理由



『転居意向』のある 475 人に引っ越したいと思う主な理由を聞いたところ、「交通の便が悪いので」(14.7%) が最も多く、次いで「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」(13.3%)、「付近の生活環境が悪いので」(10.1%)、「現在、住んでいる住宅が狭いので」(10.1%)、「仕事の関係で」(7.8%) の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」は令和2年度(9.5%) と比べ3.8ポイント増加している。

第4章 調査結果の詳細

性別でみると、「交通の便が悪いので」は女性（16.2%）が男性（11.7%）を4.5ポイント上回っている。一方、「仕事の関係で」は男性（11.0%）が女性（6.2%）を4.8ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」は女性30歳代（31.4%）で約3割を占め、男性40歳代（23.3%）も全体を10.0ポイント上回っている。また、「交通の便が悪いので」は女性18～29歳（28.3%）、「仕事の関係で」は男性18～29歳（23.3%）で2割以上を占め、「買い物に不便なので」は女性60歳代・70歳以上（13.2%、13.9%）、「こどもの教育のため」は男性40歳代（13.3%）で多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-3-2 性・年齢別 転居意向の理由

(%)

	調査数（人）	交通の便が悪いので	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	このまちに愛着がないから	買い物に不便なので	こどもの教育のため	家族の介護の関係で	医療機関が近くにないから	地域になじめないから	商業や事業に不利なので	その他	特に理由はない	無回答
全体	475	14.7	13.3	10.1	10.1	7.8	5.3	4.8	2.9	2.1	1.5	1.3	0.4	20.0	5.1	0.6
女性全体	291	16.2	13.7	11.0	10.0	6.2	5.5	5.5	2.7	1.7	1.7	1.7	-	19.6	3.8	0.7
18～29歳	46	28.3	10.9	13.0	2.2	19.6	4.3	4.3	6.5	-	-	-	-	8.7	2.2	-
30～39歳	51	13.7	31.4	9.8	7.8	7.8	7.8	-	5.9	-	2.0	2.0	-	9.8	2.0	-
40～49歳	64	10.9	14.1	17.2	14.1	6.3	3.1	3.1	3.1	3.1	1.6	-	-	15.6	4.7	3.1
50～59歳	55	12.7	14.5	9.1	12.7	-	9.1	3.6	-	1.8	-	3.6	-	29.1	3.6	-
60～69歳	38	15.8	2.6	7.9	10.5	2.6	5.3	13.2	-	-	2.6	2.6	-	34.2	2.6	-
70歳以上	36	16.7	2.8	5.6	11.1	-	2.8	13.9	-	5.6	5.6	2.8	-	25.0	8.3	-
男性全体	163	11.7	13.5	9.2	8.6	11.0	5.5	4.3	3.7	2.5	1.2	0.6	1.2	19.0	8.0	-
18～29歳	30	16.7	10.0	-	3.3	23.3	6.7	-	-	-	-	-	3.3	20.0	16.7	-
30～39歳	32	18.8	12.5	18.8	6.3	18.8	6.3	3.1	3.1	-	-	-	-	9.4	3.1	-
40～49歳	30	10.0	23.3	3.3	3.3	6.7	6.7	3.3	13.3	6.7	-	-	-	16.7	6.7	-
50～59歳	40	2.5	15.0	12.5	20.0	5.0	-	5.0	2.5	5.0	2.5	-	2.5	25.0	2.5	-
60～69歳	8	12.5	-	12.5	-	12.5	25.0	-	-	-	-	-	-	25.0	12.5	-
70歳以上	23	13.0	8.7	8.7	8.7	-	4.3	13.0	-	-	4.3	4.3	-	21.7	13.0	-

居住地区別でみると、「交通の便が悪いので」は新方地区（28.1%）で全体を13.4ポイント上回っている。また、南越谷地区は「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」（22.2%）、「付近の生活環境が悪いので」（22.2%）が2割強を占め、出羽地区は「買い物が不便なので」（14.3%）が9.5ポイント、「付近の生活環境が悪いので」（16.7%）が6.6ポイント全体より多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-3-3 居住地区別 転居意向の理由

	調査数（人）	交通の便が悪いので	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	このまちに愛着がないから	買い物が不便なので	こどもの教育のため	家族の介護の関係で	医療機関が近くにない	地域になじめないから	商業や事業に不利なので	その他	特に理由はない	無回答
全 体	475	14.7	13.3	10.1	10.1	7.8	5.3	4.8	2.9	2.1	1.5	1.3	0.4	20.0	5.1	0.6
桜井地区	49	12.2	12.2	6.1	8.2	8.2	8.2	6.1	2.0	-	4.1	2.0	-	24.5	4.1	2.0
新方地区	32	28.1	3.1	3.1	9.4	-	-	3.1	-	-	3.1	-	-	40.6	9.4	-
増林地区	39	17.9	17.9	12.8	7.7	5.1	7.7	7.7	2.6	2.6	-	2.6	-	10.3	2.6	2.6
大袋地区	59	15.3	11.9	8.5	8.5	8.5	3.4	3.4	1.7	1.7	-	-	1.7	30.5	5.1	-
荻島地区	14	35.7	-	7.1	7.1	7.1	-	7.1	-	7.1	-	-	-	21.4	-	7.1
出羽地区	42	14.3	11.9	7.1	16.7	7.1	4.8	14.3	2.4	-	2.4	-	-	19.0	-	-
蒲生地区	55	12.7	14.5	14.5	5.5	12.7	5.5	1.8	1.8	5.5	-	1.8	1.8	12.7	9.1	-
川柳地区	14	7.1	7.1	14.3	21.4	14.3	14.3	-	14.3	-	-	-	-	7.1	-	-
大相模地区	43	11.6	16.3	14.0	11.6	7.0	4.7	-	9.3	4.7	2.3	2.3	-	11.6	4.7	-
大沢地区	26	11.5	19.2	15.4	-	7.7	11.5	3.8	3.8	-	-	3.8	-	19.2	3.8	-
北越谷地区	18	27.8	11.1	11.1	11.1	11.1	5.6	5.6	-	-	5.6	-	-	11.1	-	-
越ヶ谷地区	44	11.4	11.4	6.8	9.1	9.1	4.5	6.8	4.5	2.3	2.3	2.3	-	18.2	11.4	-
南越谷地区	36	5.6	22.2	13.9	22.2	5.6	2.8	2.8	-	2.8	-	-	-	19.4	2.8	-

第4章 調査結果の詳細

職業別でみると、「交通の便が悪いので」はパートタイマー（22.9%）、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」は市内会社員（20.5%）で2割台となっている。また、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は市内会社員（15.9%）、「付近の生活環境が悪いので」は無職（15.3%）、「仕事の関係で」は市外会社員（14.0%）、「このまちに愛着がないから」は家事従業（10.6%）、「買い物が不便なので」は無職（12.5%）で全体を5ポイント以上上回っている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-3-4 職業別 転居意向の理由

	調査数（人）	交通の便が悪いので	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	このまちに愛着がないから	買い物が不便なので	こどもの教育のため	家族の介護の関係で	医療機関が近くにない	地域になじめないから	商業や事業に不利なので	その他	特に理由はない	無回答
全体	475	14.7	13.3	10.1	10.1	7.8	5.3	4.8	2.9	2.1	1.5	1.3	0.4	20.0	5.1	0.6
農業	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
市内会社員	44	9.1	20.5	15.9	11.4	4.5	2.3	-	6.8	2.3	-	-	-	22.7	4.5	-
市外会社員	129	16.3	17.8	10.1	11.6	14.0	3.9	1.6	3.9	2.3	1.6	-	0.8	13.2	3.1	-
小売店自営業	3	-	-	33.3	-	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	33.3
建築関係自営業	3	-	-	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	66.7	-	-
製造関係自営業	3	33.3	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-	-
サービス関係自営業	11	9.1	18.2	-	18.2	9.1	18.2	-	-	-	-	-	-	27.3	-	-
自由業	9	11.1	22.2	11.1	-	-	22.2	11.1	-	-	-	-	-	22.2	-	-
公務員	23	8.7	21.7	13.0	4.3	8.7	4.3	13.0	4.3	-	-	-	-	21.7	-	-
団体職員	7	14.3	14.3	-	-	14.3	-	-	14.3	-	-	-	-	28.6	-	14.3
学生	21	19.0	-	-	-	38.1	4.8	-	-	-	-	-	4.8	19.0	14.3	-
家事従業	47	6.4	12.8	14.9	4.3	-	10.6	6.4	4.3	8.5	4.3	4.3	-	12.8	10.6	-
パートタイマー	83	22.9	12.0	8.4	13.3	3.6	2.4	3.6	2.4	-	-	3.6	-	21.7	4.8	1.2
その他	18	11.1	11.1	11.1	5.6	5.6	5.6	5.6	-	-	5.6	-	-	33.3	5.6	-
無職（年金生活を含む）	72	15.3	2.8	8.3	15.3	-	6.9	12.5	-	2.8	2.8	1.4	-	25.0	6.9	-

世帯状況別で見ると、単身世帯は「仕事の関係で」(17.7%)が全体を9.9ポイント上回っている。一世代世帯は「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」(22.1%)が2割強を占める一方、「仕事の関係で」(0.9%)は6.9ポイント、「交通の便が悪いので」(8.8%)は5.9ポイント全体を下回っている。

※調査数が少ないもの(本調査では30人未満とする)については、記述の対象としない。

図表1-3-5 世帯状況別 転居意向の理由

	調査数(人)	交通の便が悪いので	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	このまちに愛着がないから	買い物が不便なので	こどもの教育のため	家族の介護の関係で	医療機関が近くにない	地域になじめないから	商業や事業に不利なので	その他	特に理由はない	無回答
全体	475	14.7	13.3	10.1	10.1	7.8	5.3	4.8	2.9	2.1	1.5	1.3	0.4	20.0	5.1	0.6
単身世帯	79	10.1	8.9	8.9	8.9	17.7	2.5	6.3	-	3.8	-	2.5	-	24.1	6.3	-
一世代世帯	113	8.8	22.1	8.0	15.0	0.9	8.8	5.3	2.7	2.7	3.5	1.8	0.9	15.9	2.7	0.9
二世帯世帯	247	17.4	12.6	10.5	8.1	6.5	5.3	3.6	4.5	1.6	1.2	0.8	0.4	20.6	6.1	0.8
三世帯世帯	26	34.6	-	7.7	7.7	23.1	-	7.7	-	-	-	-	-	15.4	3.8	-
その他	8	-	-	37.5	12.5	-	-	12.5	-	-	-	-	-	37.5	-	-

第4章 調査結果の詳細

居住年数別でみると、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」は1～3年未満（38.5%）と5～10年未満（29.3%）、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は15～20年未満（20.0%）で2割以上を占めている。また、「このまちに愛着がないから」は15～20年未満（13.3%）、「こどもの教育のため」は3～5年未満（9.4%）で多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-3-6 居住年数別 転居意向の理由

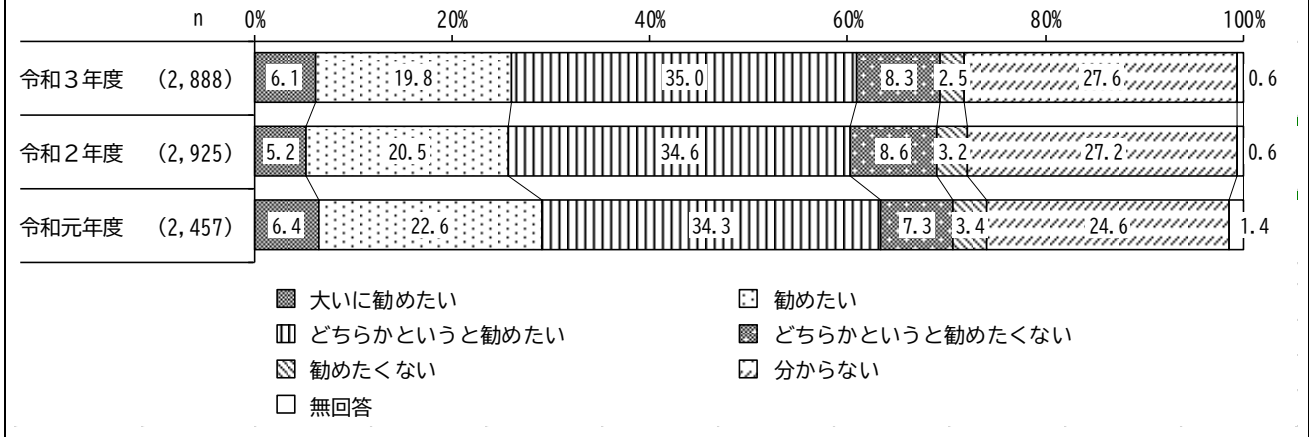
	調査数（人）	交通の便が悪いので	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	このまちに愛着がないから	買い物に不便なので	こどもの教育のため	家族の介護の関係で	医療機関が近くにない	地域になじめないから	商業や事業に不利なので	その他	特に理由はない	無回答
全体	475	14.7	13.3	10.1	10.1	7.8	5.3	4.8	2.9	2.1	1.5	1.3	0.4	20.0	5.1	0.6
1年未満	18	11.1	11.1	11.1	16.7	5.6	5.6	5.6	11.1	-	5.6	-	-	16.7	-	-
1～3年未満	39	7.7	38.5	12.8	-	7.7	5.1	-	7.7	-	-	-	-	12.8	7.7	-
3～5年未満	32	6.3	12.5	9.4	3.1	12.5	3.1	6.3	9.4	3.1	-	3.1	-	25.0	6.3	-
5～10年未満	41	7.3	29.3	14.6	12.2	7.3	2.4	7.3	7.3	2.4	2.4	-	-	7.3	-	-
10～15年未満	55	16.4	18.2	12.7	10.9	7.3	3.6	5.5	-	3.6	1.8	-	-	10.9	7.3	1.8
15～20年未満	30	16.7	3.3	20.0	13.3	10.0	13.3	-	-	-	3.3	3.3	-	13.3	3.3	-
20～30年未満	104	19.2	6.7	8.7	8.7	11.5	6.7	2.9	1.9	1.0	1.9	1.0	1.0	24.0	4.8	-
30～40年未満	64	18.8	4.7	4.7	10.9	7.8	4.7	6.3	1.6	4.7	-	4.7	1.6	21.9	7.8	-
40年以上	91	15.4	9.9	7.7	14.3	1.1	4.4	7.7	-	2.2	1.1	-	-	29.7	4.4	2.2

(4) 越谷市居住の推奨意向

◇『勧めたい』が約6割

問10. **皆さんに伺います。**あなたは越谷市に住み暮らすことを知人等にどのくらい勧めたいですか。(〇は1つ)

図表1-4-1 越谷市居住の推奨意向



越谷市に住み暮らすことを勧めたいか聞いたところ、「どちらかという勧めたい」(35.0%)が最も多く、次いで「勧めたい」(19.8%)、「どちらかという勧めたくない」(8.3%)、「大いに勧めたい」(6.1%)、「勧めたくない」(2.5%)の順となっている。「大いに勧めたい」「勧めたい」「どちらかという勧めたい」を合わせた『勧めたい』(61.0%)は約6割、「どちらかという勧めたくない」と「勧めたくない」を合わせた『勧めたくない』(10.9%)は約1割となっている。

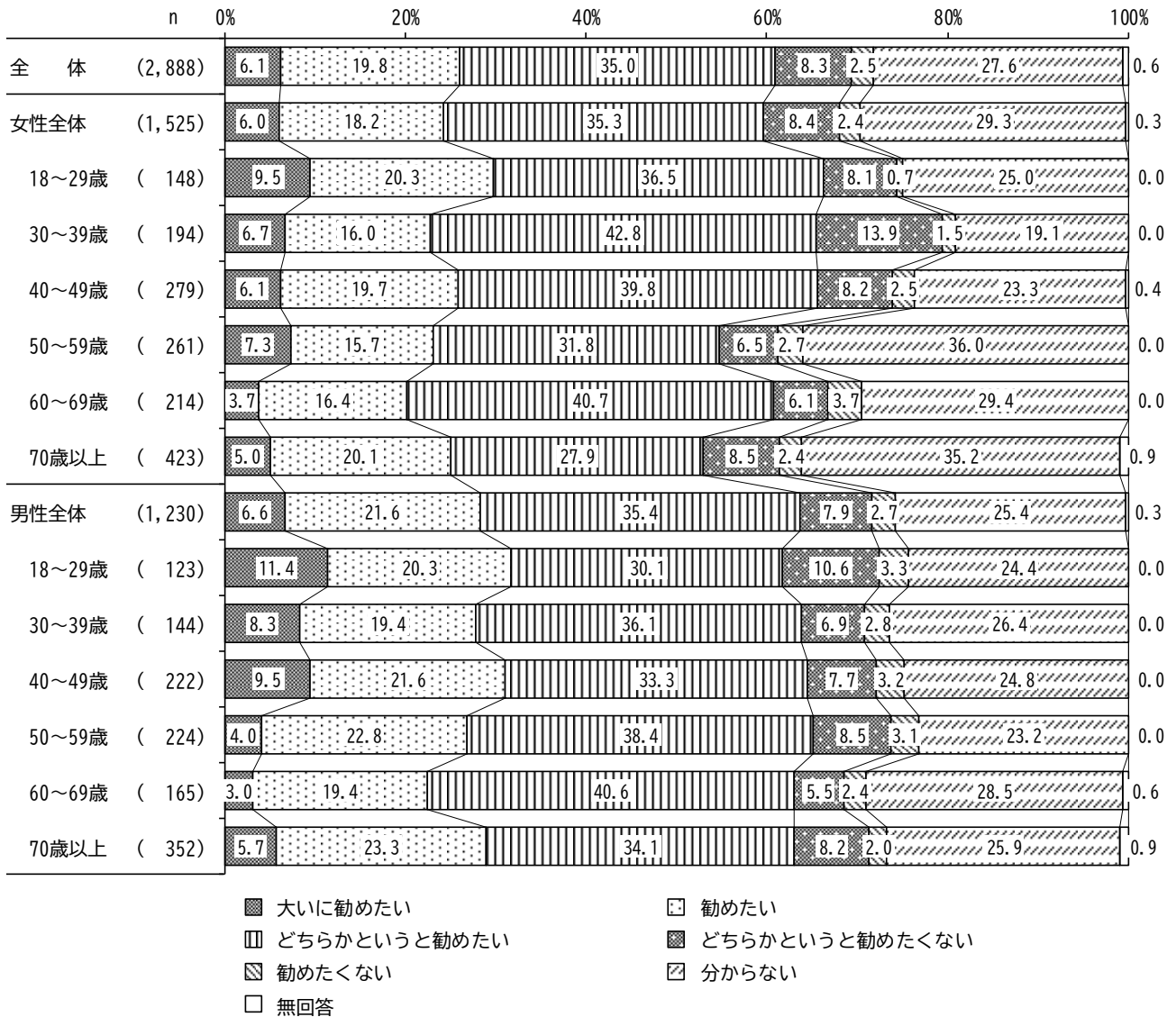
過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、『勧めたい』は男性（63.7%）が女性（59.6%）を4.1ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、『勧めたい』は女性18～29歳（66.2%）が全体を5.2ポイント上回り最も多く、女性30歳代・40歳代（65.5%、65.6%）も6割半ばを占めている。また、男性は50歳代（65.2%）を筆頭にすべての年代で6割台となっている。一方、女性50歳代・70歳以上は『勧めたい』（54.8%、53.0%）が5割台であり、「わからない」（36.0%、35.2%）が3割半ばとなっている。

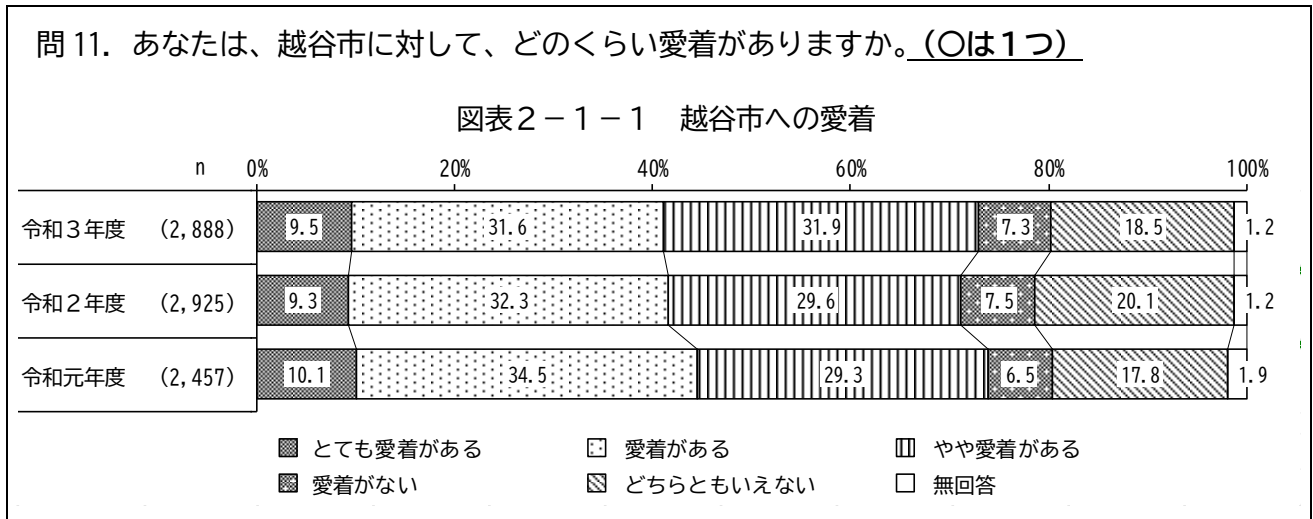
図表1-4-2 性・年齢別 越谷市居住の推奨意向



2. 越谷市への愛着度と魅力発信について

(1) 越谷市への愛着

◇『愛着がある』が7割強



越谷市への愛着については、「やや愛着がある」(31.9%)が最も多く、次いで「愛着がある」(31.6%)、「どちらともいえない」(18.5%)、「とても愛着がある」(9.5%)、「愛着がない」(7.3%)となっている。「とても愛着がある」「愛着がある」「やや愛着がある」を合わせた『愛着がある』(73.0%)は7割強となっている。

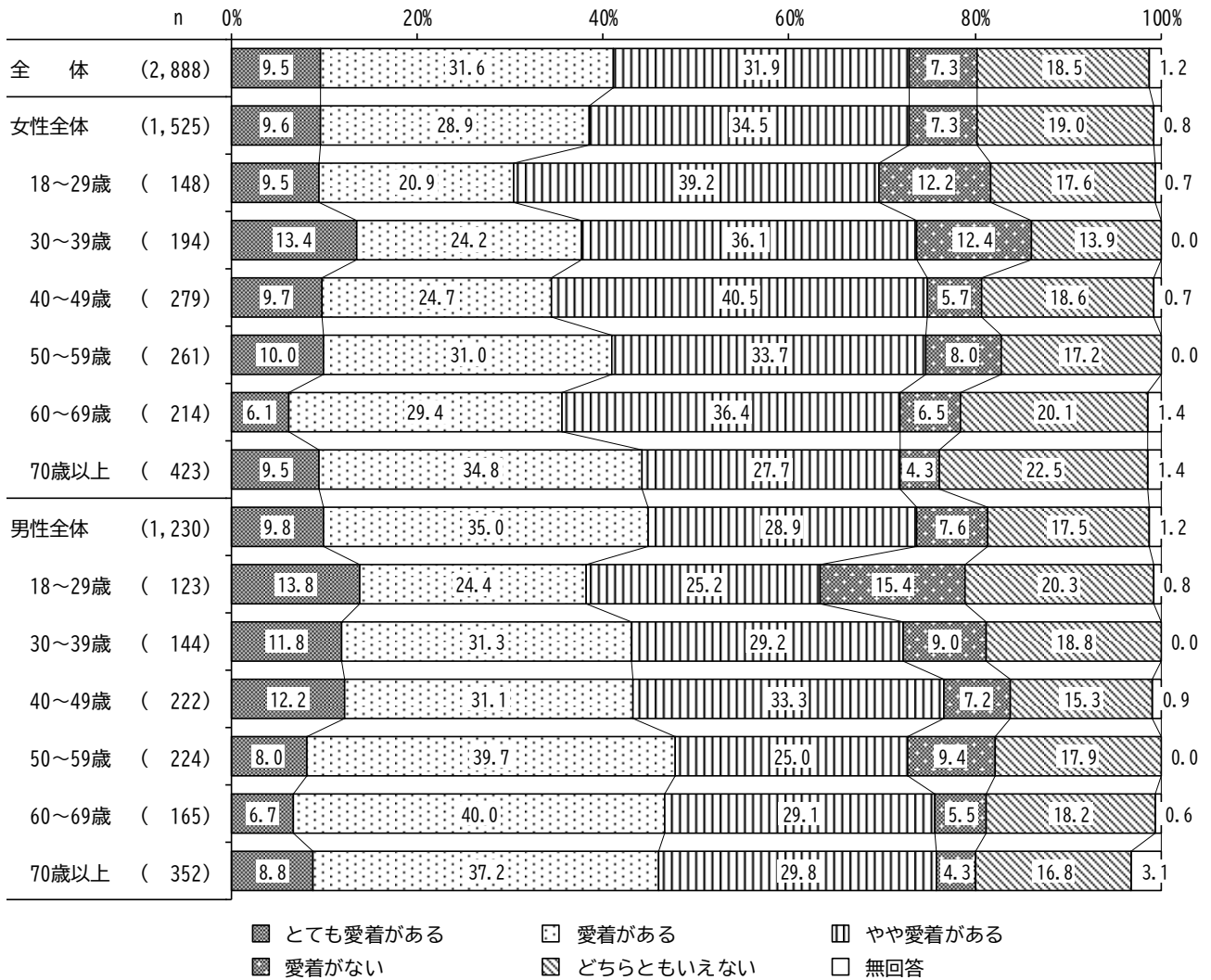
過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『愛着がある』は男性40歳代(76.6%)が最も多く、男性70歳以上(75.9%)、男性60歳代(75.8%)が続いている。男女とも18~29歳を除き7割台となっているが、女性18~29歳(69.6%)は約7割、男性18~29歳(63.4%)は6割強となっている。一方、「愛着がない」は女性18~29歳・30歳代(12.2%、12.4%)と男性18~29歳(15.4%)で1割台となっている。

図表2-1-2 性・年齢別 越谷市への愛着

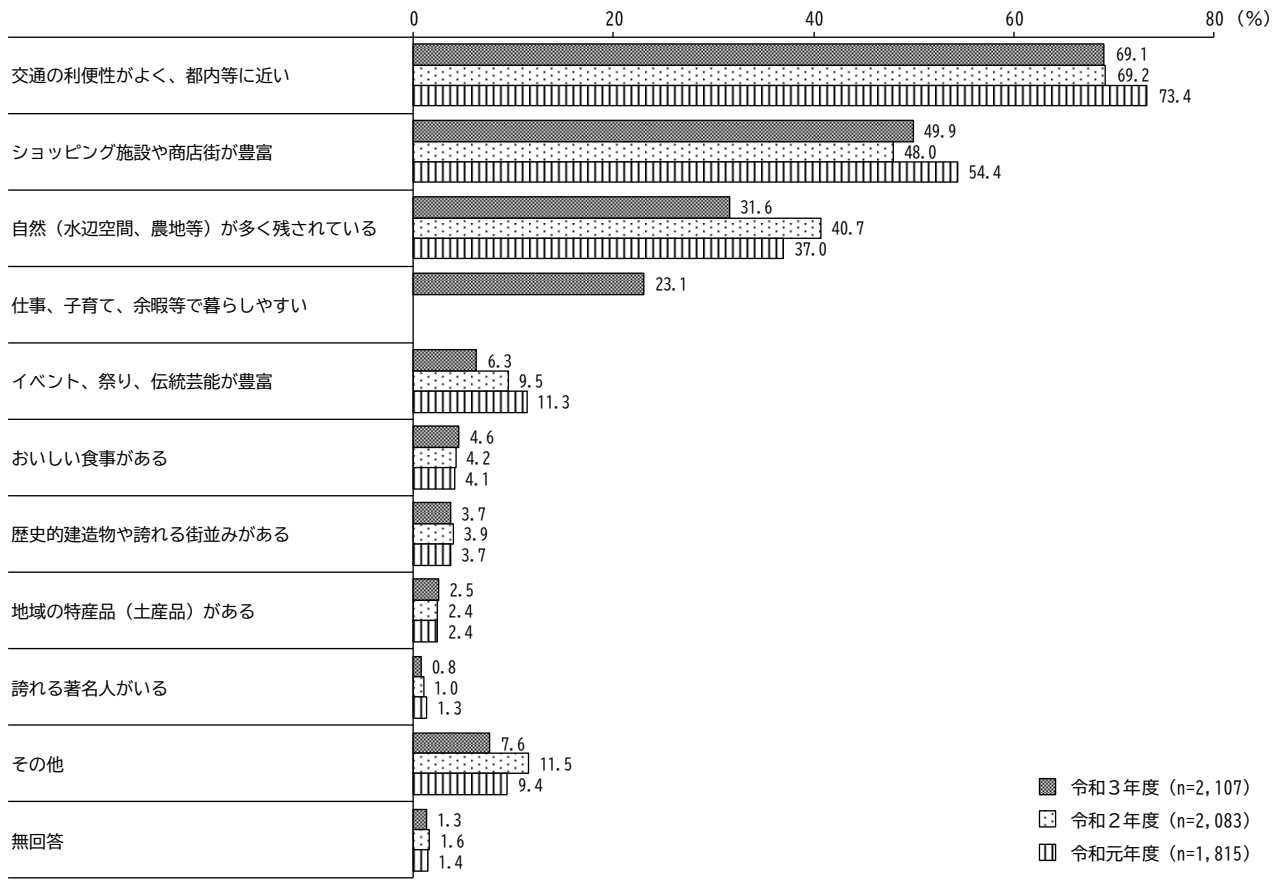


(2) 愛着がある理由

◇「交通の利便性がよく、都内等に近い」が最も多く、約7割

問11-2. 問11で「1」から「3」(愛着がある)と答えた方に伺います。その理由は何ですか。
(複数回答可)

図表2-2-1 愛着がある理由



※「仕事、子育て、余暇等で暮らしやすい」は令和3年度新規項目。

越谷市に対して『愛着がある』と回答した2,107人に、愛着がある理由を聞いたところ、「交通の利便性がよく、都内等に近い」(69.1%)が最も多く、次いで「ショッピング施設や商店街が豊富」(49.9%)、「自然(水辺空間、農地等)が多く残されている」(31.6%)、「仕事、子育て、余暇等で暮らしやすい」(23.1%)、「イベント、祭り、伝統芸能が豊富」(6.3%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、上位3項目は共通であるが、「自然(水辺空間、農地等)が多く残されている」が令和2年度(40.7%)と比べ9.1ポイント減少し、「イベント、祭り、伝統芸能が豊富」も減少傾向にある。

第4章 調査結果の詳細

性別でみると、「ショッピング施設や商店街が豊富」（女性 52.7%、男性 47.0%）と「仕事、子育て、余暇等で暮らしやすい」（女性 26.0%、男性 20.3%）は、女性が男性を各々5.7ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、男女ともすべての年齢で「交通の利便性がよく、都内等に近い」が最も多く、「ショッピング施設や商店街が豊富」は男性 70 歳以上（37.1%）以外の年齢で 2 位となっている。前者が女性 30 歳代（59.4%）以外の年齢で 6 割を超える一方、後者は女性 18～29 歳（61.2%）で約 6 割を占めるが、女性 70 歳以上（40.5%）、男性 40 歳代・60 歳代・70 歳以上（47.6%、47.2%、37.1%）は 5 割未満となっている。また、「自然（水辺空間、農地等）が多く残されている」は男性 70 歳以上（44.2%）を筆頭に男女とも 50 歳代以上、「仕事、子育て、余暇等で暮らしやすい」は女性 30 歳代・40 歳代（35.0%、42.1%）で 3 割を超え、「おいしい食事がある」は女性 30 歳代（11.9%）、男性 30 歳代（12.5%）で多くなっている。

図表 2-2-2 性・年齢別 愛着がある理由

(%)

	調査数 (人)	交通の利便性がよく、都内等に近い	ショッピング施設や商店街が豊富	自然（水辺空間、農地等）が多く残されている	仕事、子育て、余暇等で暮らしやすい	イベント、祭り、伝統芸能が豊富	おいしい食事がある	歴史的建造物や誇れる街並みがある	地域の特産品（土産品）がある	誇れる著名人がいる	その他	無回答
全体	2,107	69.1	49.9	31.6	23.1	6.3	4.6	3.7	2.5	0.8	7.6	1.3
女性全体	1,113	67.7	52.7	29.8	26.0	5.9	5.4	4.3	2.6	0.9	8.1	1.3
18～29歳	103	68.0	61.2	11.7	22.3	8.7	6.8	1.9	1.9	-	11.7	1.0
30～39歳	143	59.4	58.7	23.1	35.0	9.1	11.9	3.5	3.5	-	4.9	1.4
40～49歳	209	66.0	58.4	25.4	42.1	8.6	6.2	3.8	2.4	1.4	11.0	1.4
50～59歳	195	68.2	55.4	35.4	29.2	4.1	6.2	6.7	2.1	1.5	9.2	0.5
60～69歳	154	76.6	55.2	33.1	18.8	4.5	2.6	3.2	1.9	0.6	6.5	-
70歳以上	304	68.4	40.5	37.5	13.5	3.6	2.3	4.9	3.3	1.0	5.9	2.6
男性全体	907	71.2	47.0	33.6	20.3	6.8	3.7	3.0	2.5	0.7	7.2	1.1
18～29歳	78	76.9	53.8	16.7	23.1	10.3	7.7	2.6	2.6	1.3	5.1	-
30～39歳	104	63.5	57.7	22.1	26.0	9.6	12.5	2.9	3.8	2.9	5.8	1.0
40～49歳	170	62.9	47.6	29.4	27.6	9.4	3.5	2.9	-	0.6	12.4	1.8
50～59歳	163	75.5	52.1	35.6	22.7	6.1	1.8	4.3	3.7	0.6	9.8	-
60～69歳	125	70.4	47.2	34.4	19.2	5.6	1.6	1.6	2.4	-	5.6	0.8
70歳以上	267	75.7	37.1	44.2	11.6	4.1	1.5	3.0	3.0	-	4.1	1.9

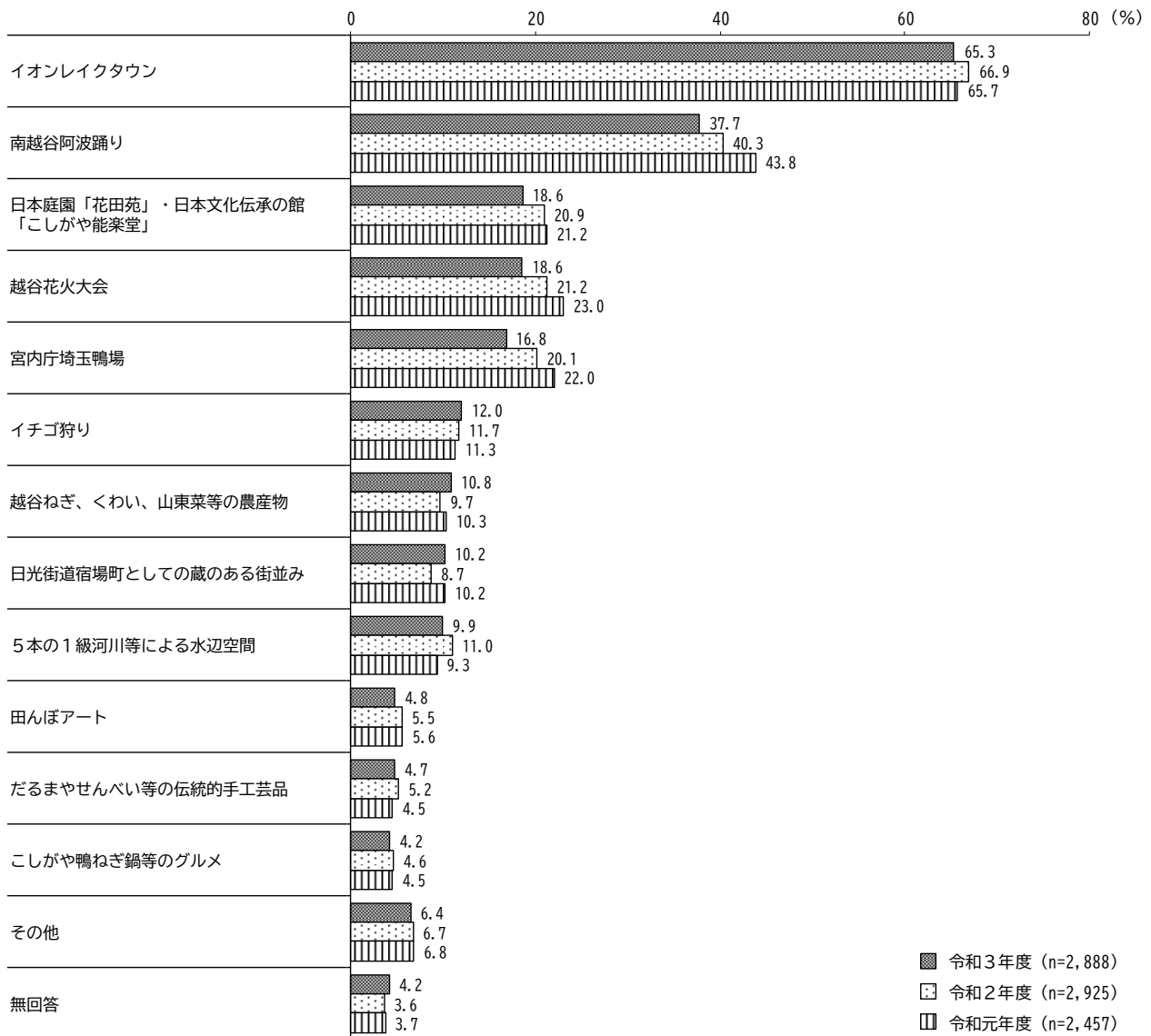
(3) 越谷市の誇れるもの

◇「イオンレイクタウン」が最も多く、6割半ば

問 12. 皆さんに伺います。越谷市の誇れるもの、知人に自慢したいものは何ですか。

(複数回答可)

図表 2-3-1 越谷市の誇れるもの



※「こしがや鴨ねぎ鍋等のグルメ」は、令和2年度までは「こしがや鴨ねぎ鍋」としていた。

越谷市の誇れるものについては、「イオンレイクタウン」(65.3%)が最も多く、次いで「南越谷阿波踊り」(37.7%)、「日本庭園『花田苑』・日本文化伝承の館『こしがや能楽堂』」(18.6%)、「越谷花火大会」(18.6%)、「宮内庁埼玉鴨場」(16.8%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、上位5項目はいずれも令和2年度を下回り、「イオンレイクタウン」以外の4項目は令和元年度以降減少傾向にある。

第4章 調査結果の詳細

性別でみると、「日本庭園『花田苑』・日本文化伝承の館『こしがや能楽堂』」は女性（22.6%）が男性（13.5%）を9.1ポイント上回っている。一方、「5本の1級河川等による水辺空間」は男性（12.4%）が女性（7.9%）を4.5ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、すべての年齢で「イオンレイクタウン」が1位、「南越谷阿波踊り」が2位となっている。前者は特に18～29歳（女性92.6%、男性82.9%）で8割以上と多く、70歳以上（女性43.0%、男性48.0%）を除く年齢で過半数を占めている。後者は女性40歳代・60歳代（45.2%、42.1%）、男性70歳以上（41.5%）で4割台を占める一方、18～29歳（女性32.4%、男性22.0%）は2～3割台で全体を下回っている。「日本庭園『花田苑』・日本文化伝承の館『こしがや能楽堂』」「宮内庁埼玉鴨場」についても、前者が女性70歳以上（33.1%）、後者が女性60歳代（26.6%）を筆頭に女性50歳代以上と男性70歳以上で2割を超える一方、18～29歳は男女とも1割未満となっている。また、「イチゴ狩り」は女性30歳代（20.1%）、「5本の1級河川等による水辺空間」は男性70歳以上（21.9%）で約2割となっている。

図表2-3-2 性・年齢別 越谷市の誇れるもの

	調査数（人）	イオンレイクタウン	南越谷阿波踊り	日本庭園「花田苑」・日本文化伝承の館「こしがや能楽堂」	越谷花火大会	宮内庁埼玉鴨場	イチゴ狩り	産物 越谷ねぎ、くわい、山東菜等の農産物	街並み 日光街道宿場町としての蔵のある街	5本の1級河川等による水辺空間	田んぼアート	芸品 だるまやせんべい等の伝統的手工芸品	こしがや鴨ねぎ鍋等のグルメ	その他	無回答
全体	2,888	65.3	37.7	18.6	18.6	16.8	12.0	10.8	10.2	9.9	4.8	4.7	4.2	6.4	4.2
女性全体	1,525	66.9	39.1	22.6	19.5	18.0	13.4	11.3	11.1	7.9	5.8	5.2	3.9	5.7	3.7
18～29歳	148	92.6	32.4	6.8	15.5	1.4	14.2	5.4	1.4	1.4	3.4	2.7	3.4	0.7	0.7
30～39歳	194	76.3	39.7	14.4	19.6	6.2	20.1	10.3	8.2	5.2	6.2	2.6	4.1	6.2	2.6
40～49歳	279	74.6	45.2	18.3	24.0	14.0	18.3	11.1	12.2	4.7	5.4	4.3	5.4	4.7	2.9
50～59歳	261	71.6	36.8	22.2	21.8	21.8	11.5	10.7	14.9	6.9	5.7	7.3	4.2	7.7	3.1
60～69歳	214	71.5	42.1	26.6	19.2	26.6	15.0	13.1	9.3	8.4	7.0	6.1	1.9	4.2	0.9
70歳以上	423	43.0	37.6	33.1	16.3	24.8	7.1	13.5	13.9	13.9	6.1	6.1	4.0	7.3	7.8
男性全体	1,230	65.0	36.1	13.5	17.6	15.4	10.8	10.7	9.6	12.4	3.3	4.1	4.6	7.3	4.1
18～29歳	123	82.9	22.0	4.9	17.9	6.5	10.6	11.4	5.7	2.4	2.4	3.3	4.9	4.9	2.4
30～39歳	144	76.4	38.9	8.3	20.1	5.6	19.4	10.4	6.3	3.5	0.7	5.6	4.9	8.3	6.3
40～49歳	222	71.6	37.8	11.3	18.9	14.0	13.5	6.8	8.1	6.3	4.5	2.3	9.0	9.9	3.6
50～59歳	224	71.9	35.3	12.9	17.4	17.9	9.4	8.9	8.5	12.1	1.8	5.8	5.4	6.7	2.2
60～69歳	165	60.0	31.5	10.9	15.2	15.8	9.1	10.3	7.3	15.8	1.8	3.6	1.8	8.5	4.2
70歳以上	352	48.0	41.5	21.6	16.8	21.9	7.4	14.2	15.1	21.9	5.4	4.0	2.6	6.0	5.1

3. 地場農産物や地産地消について

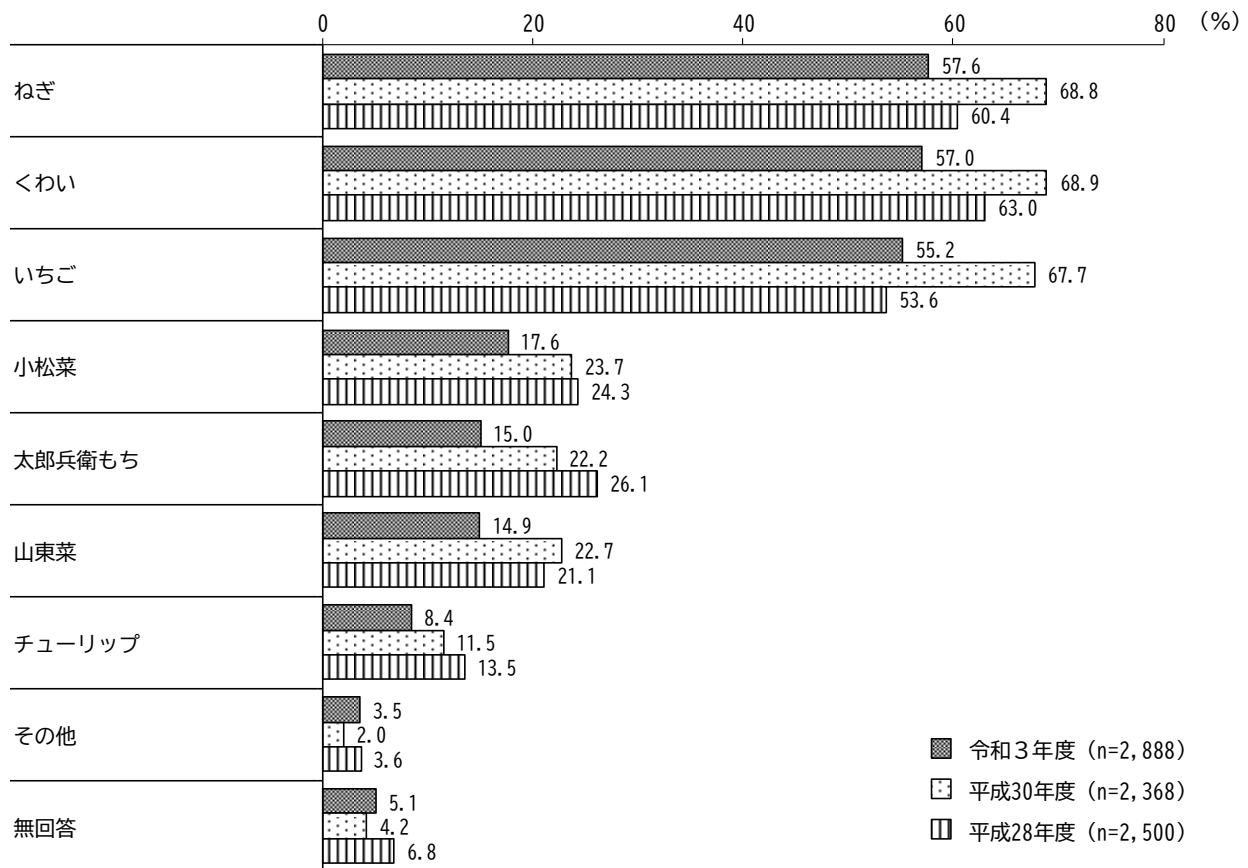
(1) 越谷の農業特産物の認知度

◇「ねぎ」が最も多く、6割弱

問 13. 越谷を代表する農産物について、あなたが知っているものを選んでください。

(複数回答可)

図表3-1-1 越谷の農業特産物の認知度



越谷の農業特産物の認知度については、「ねぎ」(57.6%)が最も多く、次いで、「くわい」(57.0%)、「いちご」(55.2%)、「小松菜」(17.6%)、「太郎兵衛もち」(15.0%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、7項目すべてが平成30年度を下回り、「ねぎ」(平成30年度68.8%)、「くわい」(平成30年度68.9%)、「いちご」(平成30年度67.7%)の上位3項目は1割以上減少した。また、「小松菜」「太郎兵衛もち」「チューリップ」は平成28年度以降減少傾向にある。

第4章 調査結果の詳細

性別でみると、7項目すべてで女性が男性より多くなっており、「くわい」(女性 60.9%、男性 52.8%) は 8.1 ポイント、小松菜 (女性 20.7%、男性 14.1%) は 6.6 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「ねぎ」は男女ともすべての年齢で過半数を占めており、女性 40 歳代 (67.4%)、男性 30 歳代・40 歳代 (63.9%、64.4%) は 6 割台となっている。また、女性は「くわい」と「いちご」についても、前者は 30 歳代 (41.8%)、後者は 18~29 歳 (34.5%) を除く年齢で 5 割を超えている。「小松菜」「太郎兵衛もち」「山東菜」は女性高齢層を中心に多くなっており、「小松菜」は女性 70 歳以上 (30.5%) で約 3 割を占めている。一方、女性 18~29 歳と男性 30 歳代は 3 項目すべて、女性 30 歳代と男性 18~29 歳は「小松菜」を除く 2 項目が 1 割未満となっている。

図表3-1-2 性・年齢別 越谷の農業特産物の認知度

	調査数 (人)	ねぎ	くわい	いちご	小松菜	太郎兵衛もち	山東菜	チューリップ	その他	無回答
全体	2,888	57.6	57.0	55.2	17.6	15.0	14.9	8.4	3.5	5.1
女性全体	1,525	58.2	60.9	57.3	20.7	16.5	16.0	9.6	3.1	3.5
18~29歳	148	56.1	60.1	34.5	7.4	2.0	2.7	2.7	5.4	4.7
30~39歳	194	56.7	41.8	60.3	11.3	7.7	5.7	7.2	3.1	6.7
40~49歳	279	67.4	55.9	59.9	17.9	12.2	11.8	7.9	3.9	3.9
50~59歳	261	57.1	68.6	61.3	20.7	16.5	19.2	9.6	1.1	1.9
60~69歳	214	54.7	72.0	66.4	23.4	27.1	19.6	12.1	2.8	1.9
70歳以上	423	56.0	63.4	55.3	30.5	22.9	24.6	12.8	3.1	3.1
男性全体	1,230	57.3	52.8	53.2	14.1	13.2	13.3	6.8	3.9	6.2
18~29歳	123	55.3	63.4	34.1	10.6	8.1	4.9	11.4	3.3	6.5
30~39歳	144	63.9	36.8	54.2	9.7	4.9	4.2	3.5	3.5	9.0
40~49歳	222	64.4	41.4	61.3	12.6	8.6	9.9	5.4	6.3	5.4
50~59歳	224	57.1	51.3	54.9	13.8	12.5	11.6	6.3	3.1	6.7
60~69歳	165	52.1	47.3	49.7	15.2	11.5	14.5	3.0	5.5	7.9
70歳以上	352	53.4	66.5	54.8	17.6	22.4	22.7	9.7	2.6	4.3

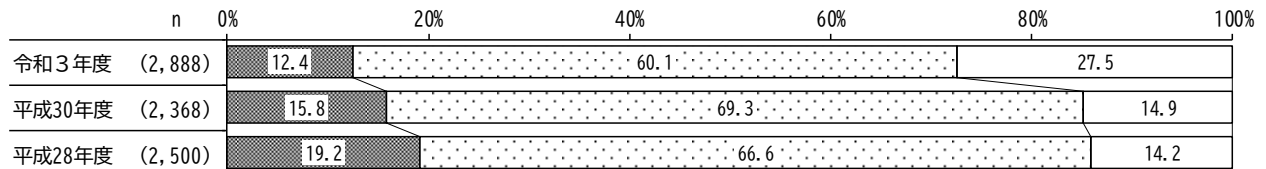
(2) 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所

◇購入経験は「ねぎ」が最も多く、購入場所は品目による

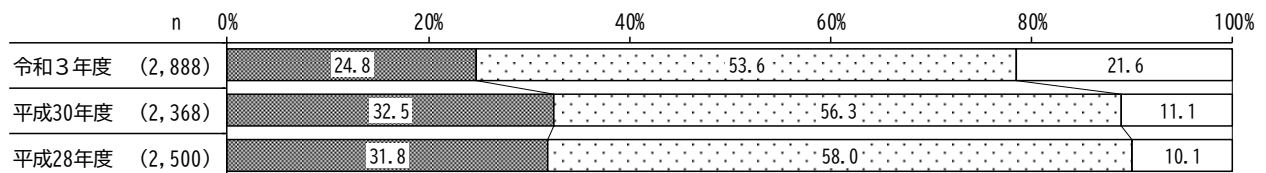
問 14. あなたは、越谷を代表する農産物を購入したことがありますか。
ある場合は、どこで購入しましたか。(ア～ク それぞれ横に複数回答可)

図表3-2-1 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所

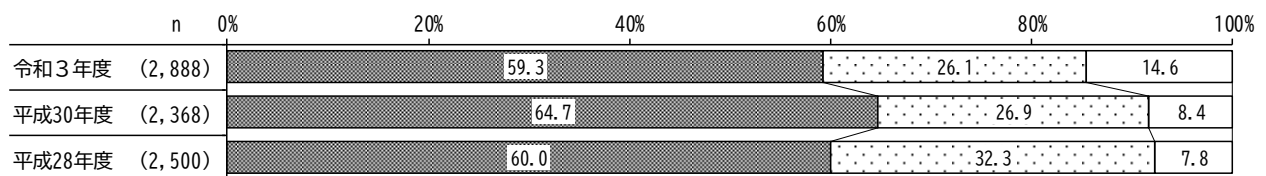
ア 太郎兵衛もち



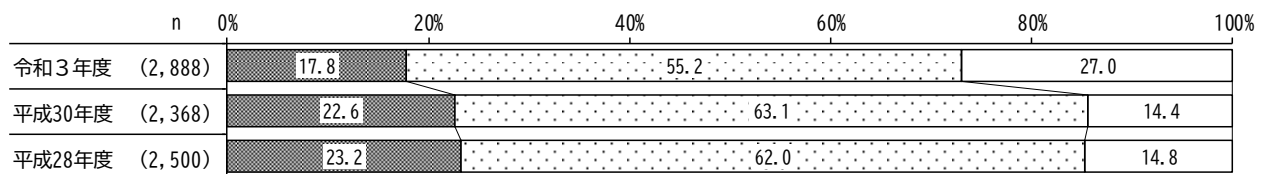
イ くわい



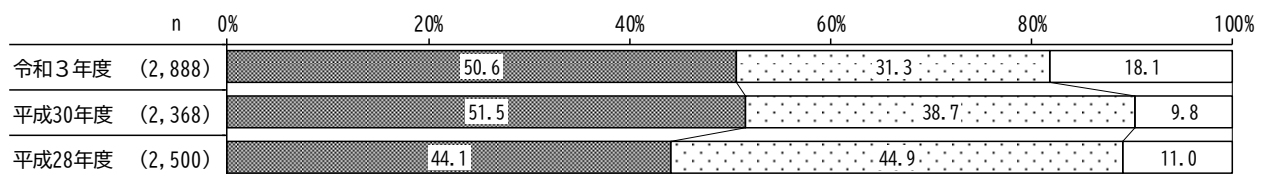
ウ ねぎ



エ 山東菜

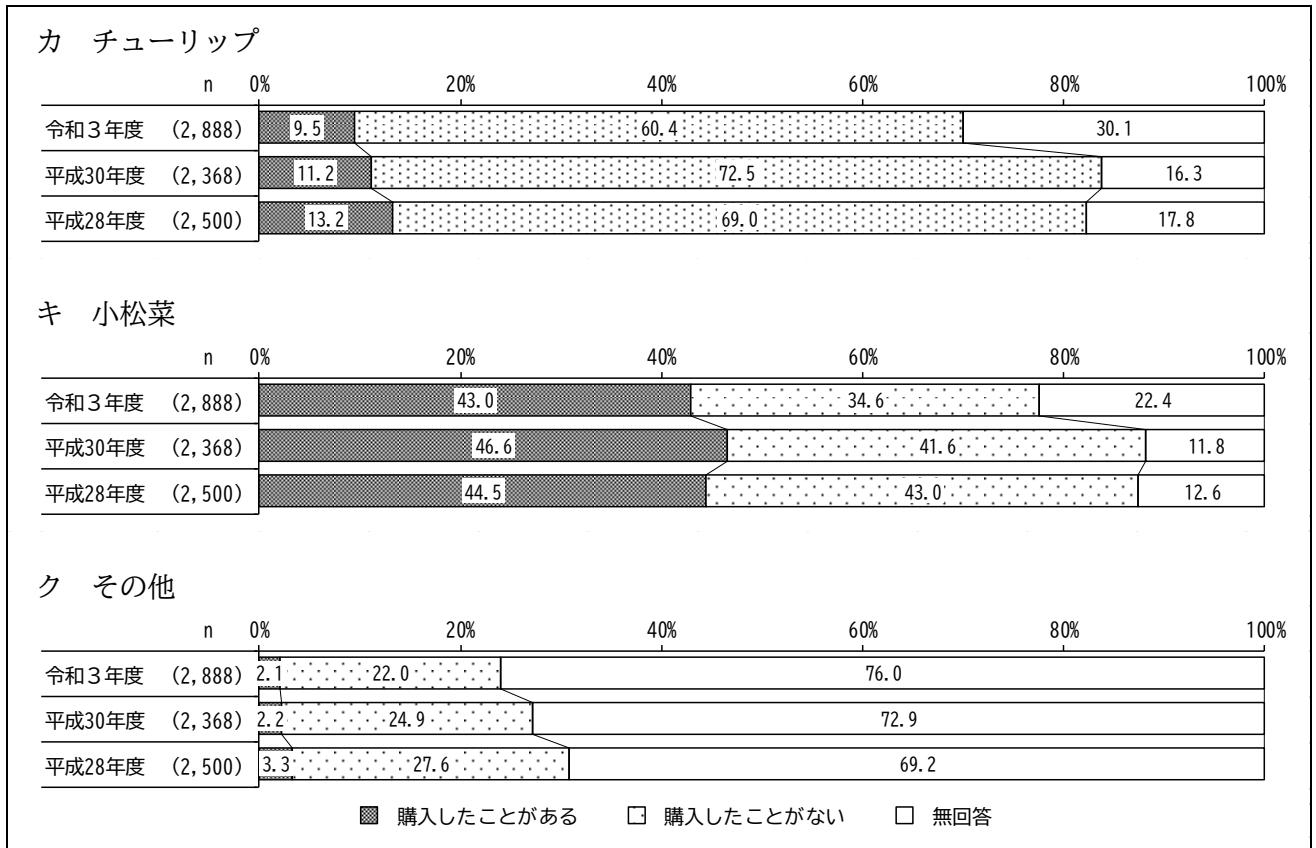


オ いちご



■ 購入したことがある □ 購入したことがない □ 無回答

第4章 調査結果の詳細



越谷の農業特産物の購入経験については、「ねぎ」(59.3%)が最も多く、次いで、「いちご」(50.6%)、「小松菜」(43.0%)、「くわい」(24.8%)、「山東菜」(17.8%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、7項目すべてが平成30年度を下回り、「くわい」(平成30年度 32.5%)は7.7ポイント、「ねぎ」(平成30年度 64.7%)は5.4ポイント減少した。また、「太郎兵衛もち」「山東菜」「チューリップ」は平成28年度以降減少傾向にある。

購入した場所については、「市民まつりなどイベント」が「太郎兵衛もち」(6.7%)と「チューリップ」(3.0%)、「農産物直売所」が「くわい」(8.7%)、「市内スーパーマーケット」が「ねぎ」(41.9%)、「山東菜」(8.3%)、「いちご」(25.5%)、「小松菜」(33.8%)で最も多くなっている。

「太郎兵衛もち」について性別でみると、「購入したことがある」割合に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性60歳代(21.5%)が約2割で最も多くなっている。また、男女とも70歳以上を除き「購入したことがない」が過半数を占めている。

「くわい」について性別でみると、「購入したことがある」割合に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は男性70歳以上(37.8%)が4割弱で最も多くなっている。また、女性50歳代~70歳以上(30.7%、33.6%、35.0%)も3割台となっている。一方、男女とも50歳代以下は「購入したことがない」が過半数を占めている。

「ねぎ」について性別でみると、「購入したことがある」は女性(63.4%)が男性(54.6%)を8.8ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性60歳代(76.2%)が7割半ばで最も多く、女性50歳代(71.6%)も約7割を占めている。また、男女とも18~29歳(女性42.6%、男性35.0%)を除く年齢で「購入したことがある」が過半数を占めている。

「山東菜」について性別でみると、「購入したことがある」割合に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性60歳代(27.6%)が3割弱で最も多く、男女とも60歳代以上で2割台となっている。一方、男女とも50歳代以下は「購入したことがない」が過半数を占めている。

「いちご」について性別でみると、「購入したことがある」は女性(53.9%)が男性(47.6%)を6.3ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性60歳代(66.8%)が6割半ばで最も多く、女性30歳代以上、男性60歳代以上で過半数を占めている。一方、男女とも18~29歳は「購入したことがない」(女性50.0%、男性56.1%)が5割台となっている。

「チューリップ」について性別でみると、「購入したことがある」は女性(11.3%)が男性(7.1%)を4.2ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性50歳代(20.3%)が約2割で最も多くなっている。また、男女とも70歳以上を除き「購入したことがない」が過半数を占めている。

「小松菜」について性別でみると、「購入したことがある」は女性(49.6%)が男性(35.7%)を13.9ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性60歳代(62.1%)が6割強で最も多く、女性50歳代・70歳以上(53.3%、51.5%)も5割台となっている。一方、女性18~29歳(56.1%)、男性18~29歳・30歳代(65.9%、56.9%)は「購入したことがない」が過半数を占めている。

図表3-2-2 性・年齢別 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所

		ア 太郎兵衛もち								イ くわい								ウ ねぎ								エ 山東菜							
	調査数(人)	購入したことがある				購入したことがない				購入したことがある				購入したことがない				購入したことがある				購入したことがない											
		市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他												
全体	2,888	12.4	6.7	3.3	0.7	2.6	60.1	27.5	24.8	6.4	8.7	7.7	4.8	53.6	21.6	59.3	6.9	18.9	41.9	3.0	26.1	14.6	17.8	0.9	7.7	8.3	2.3	55.2	27.0				
女性全体	1,525	12.9	6.9	3.5	0.7	2.5	62.2	24.9	25.4	7.4	8.3	7.5	4.7	55.6	19.0	63.4	7.3	20.5	45.9	2.6	24.2	12.4	18.8	1.0	7.8	9.4	2.6	57.0	24.2				
18~29歳	148	2.0	1.4	-	0.7	-	85.1	12.8	11.5	4.1	1.4	4.1	3.4	79.1	9.5	42.6	2.7	7.4	36.5	0.7	49.3	8.1	4.1	0.7	2.7	2.7	-	80.4	15.5				
30~39歳	194	5.2	2.1	2.1	-	1.0	82.5	12.4	13.4	4.6	3.1	3.6	3.1	76.8	9.8	56.2	4.6	16.5	44.8	1.5	37.6	6.2	8.8	-	3.1	5.7	0.5	78.9	12.4				
40~49歳	279	7.5	5.4	1.4	0.4	0.7	81.4	11.1	15.8	5.0	6.5	2.5	3.2	75.6	8.6	65.9	10.0	21.9	48.4	2.5	29.4	4.7	15.1	1.1	6.5	7.2	2.2	75.6	9.3				
50~59歳	261	14.2	8.8	2.7	0.4	2.3	71.3	14.6	30.7	10.7	8.8	8.0	5.4	58.2	11.1	71.6	6.1	25.3	54.4	2.7	22.6	5.7	19.5	0.8	5.7	10.7	3.1	63.6	16.9				
60~69歳	214	21.5	8.4	7.0	0.5	6.5	54.7	23.8	33.6	10.3	8.4	11.2	7.5	49.1	17.3	76.2	9.8	27.1	48.6	3.7	13.1	10.7	27.6	0.5	15.4	10.7	5.1	48.6	23.8				
70歳以上	423	18.7	10.2	5.4	1.7	3.3	30.3	51.1	35.0	8.0	14.2	11.8	5.0	26.0	39.0	60.8	8.0	19.6	41.4	3.1	12.3	27.0	26.2	1.9	10.2	13.5	3.1	26.5	47.3				
男性全体	1,230	12.2	6.5	3.3	0.6	2.8	59.1	28.7	23.8	5.2	8.9	7.8	5.1	52.7	23.5	54.6	6.1	16.7	36.9	3.6	29.5	15.9	16.3	0.8	7.6	6.5	2.0	54.9	28.8				
18~29歳	123	4.1	0.8	-	1.6	2.4	83.7	12.2	14.6	1.6	4.9	5.7	4.9	74.0	11.4	35.0	1.6	4.1	31.7	1.6	56.1	8.9	8.1	-	0.8	5.7	1.6	78.9	13.0				
30~39歳	144	5.6	2.8	1.4	0.7	1.4	79.2	15.3	13.9	4.2	2.8	5.6	2.8	72.2	13.9	53.5	4.9	11.8	41.0	3.5	39.6	6.9	6.9	-	1.4	2.8	2.8	78.5	14.6				
40~49歳	222	9.9	5.9	1.8	0.9	2.3	72.1	18.0	16.2	6.8	5.4	4.5	1.8	66.7	17.1	58.1	8.1	16.2	41.0	1.8	33.3	8.6	10.8	0.5	5.9	5.0	-	70.3	18.9				
50~59歳	224	11.6	7.1	0.4	0.4	3.6	65.2	23.2	23.7	4.5	6.7	10.3	6.3	57.1	19.2	55.4	4.9	17.9	37.9	4.5	32.1	12.5	13.8	0.4	6.7	4.5	2.7	63.4	22.8				
60~69歳	165	11.5	6.1	3.0	-	3.0	52.7	35.8	20.0	3.0	9.1	8.5	1.8	49.1	30.9	54.5	3.6	20.6	37.6	3.6	23.0	22.4	21.8	1.2	10.9	8.5	1.8	40.6	37.6				
70歳以上	352	19.9	10.2	8.0	0.3	3.1	33.2	46.9	37.8	7.4	16.2	9.7	9.1	27.3	34.9	59.1	8.8	21.0	33.5	4.8	15.1	25.9	25.6	1.7	12.5	9.7	2.8	28.4	46.0				

		オ いちご								カ チューリップ								キ 小松菜								ク その他							
	調査数(人)	購入したことがある				購入したことがない				購入したことがある				購入したことがない				購入したことがある				購入したことがない											
		市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他												
全体	2,888	50.6	2.4	23.7	25.5	7.8	31.3	18.1	9.5	3.0	2.3	2.3	2.5	60.4	30.1	43.0	1.1	12.0	33.8	2.4	34.6	22.4	2.1	0.1	0.9	0.8	0.7	22.0	76.0				
女性全体	1,525	53.9	2.6	25.6	27.4	8.6	30.3	15.8	11.3	3.3	3.1	2.6	3.2	61.7	27.0	49.6	1.4	14.7	39.3	2.5	31.5	18.8	2.6	-	1.1	1.0	0.6	19.2	78.2				
18~29歳	148	39.2	2.7	13.5	22.3	4.7	50.0	10.8	4.7	1.4	1.4	2.0	1.4	81.1	14.2	33.1	1.4	4.7	29.7	0.7	56.1	10.8	1.4	-	-	0.7	0.7	38.5	60.1				
30~39歳	194	55.7	3.1	26.3	30.4	9.8	38.1	6.2	4.1	1.5	1.0	0.5	1.0	84.0	11.9	44.8	1.0	11.9	38.7	0.5	45.4	9.8	1.0	-	-	0.5	0.5	30.4	68.6				
40~49歳	279	55.2	2.5	25.4	25.1	9.7	38.0	6.8	5.0	1.8	1.8	1.1	1.4	83.5	11.5	45.9	1.4	11.1	37.3	1.8	46.2	7.9	2.2	-	1.1	0.4	0.7	30.5	67.4				
50~59歳	261	53.6	2.7	26.8	29.1	11.9	37.2	9.2	20.3	6.9	3.8	4.6	5.7	64.0	15.7	53.3	1.9	17.2	43.3	4.2	34.1	12.6	3.1	-	1.5	1.5	0.4	17.6	79.3				
60~69歳	214	66.8	3.7	36.4	29.9	10.3	20.6	12.6	14.5	3.7	4.7	2.3	5.1	58.4	27.1	62.1	1.4	23.4	43.9	3.7	19.6	18.2	5.1	-	3.3	1.9	0.9	7.9	86.9				
70歳以上	423	50.6	1.7	23.2	26.7	5.7	15.6	33.8	14.2	3.5	4.5	3.5	3.5	30.3	55.6	51.5	1.2	15.8	39.5	2.8	11.3	37.1	2.4	-	0.7	1.2	0.5	6.6	91.0				
男性全体	1,230	47.6	2.3	21.4	23.9	7.0	33.3	19.2	7.1	2.5	1.1	1.9	1.6	60.6	32.4	35.7	0.7	8.7	27.5	2.4	39.2	25.1	1.5	0.2	0.6	0.5	0.7	25.5	73.0				
18~29歳	123	36.6	1.6	8.9	25.2	6.5	56.1	7.3	4.9	0.8	0.8	1.6	2.4	82.9	12.2	23.6	-	3.3	20.3	2.4	65.9	10.6	-	-	-	-	-	48.8	51.2				
30~39歳	144	48.6	2.8	22.9	25.7	9.0	45.8	5.6	7.6	3.5	-	2.8	1.4	76.4	16.0	29.2	-	4.9	25.7	1.4	56.9	13.9	0.7	-	-	-	0.7	41.7	57.6				
40~49歳	222	49.5	3.2	19.8	27.9	7.7	38.7	11.7	7.2	4.5	0.9	-	1.8	73.0	19.8	38.3	0.9	9.0	32.0	1.4	44.6	17.1	2.3	0.5	-	0.5	1.8	34.2	63.5				
50~59歳	224	43.3	1.3	21.9	20.5	6.7	39.3	17.4	5.4	1.3	-	2.7	1.3	69.2	25.4	32.1	0.4	6.3	25.0	2.7	49.1	18.8	0.9	-	0.4	0.4	-	26.3	72.8				
60~69歳	165	50.3	2.4	20.6	26.1	7.9	24.2	25.5	5.5	-	2.4	0.6	2.4	51.5	43.0	43.6	0.6	12.7	33.3	0.6	24.8	31.5	1.2	-	0.6	-	0.6	19.4	79.4				
70歳以上	352	51.1	2.3	26.1	21.3	5.7	17.0	31.8	9.4	3.4	2.0	2.8	1.1	37.2	53.4	39.5	1.1	11.6	26.7	4.0	19.6	40.9	2.3	0.3	1.4	1.1	0.6	7.7	90.1				

4. 市内の公共交通について

(1) 公共交通の利用状況

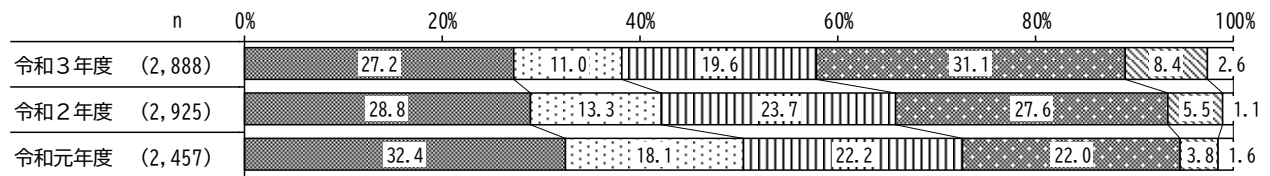
◇鉄道は「たまに利用している」が約3割、バスは「全く利用しない」が約4割、タクシーは「全く利用しない」が5割弱

問 15. あなたは、公共交通（鉄道・バス・タクシー）を利用していますか。

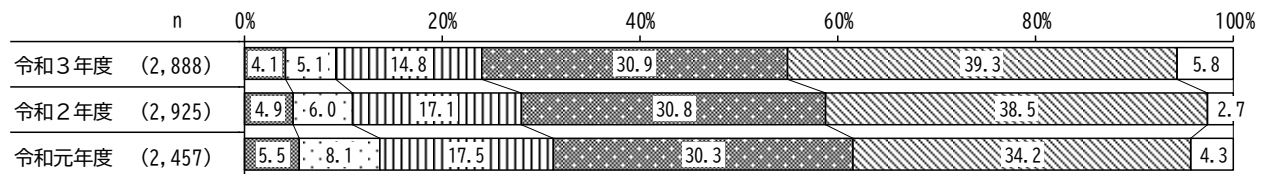
(それぞれ〇は1つずつ)

図表4-1-1 公共交通の利用状況

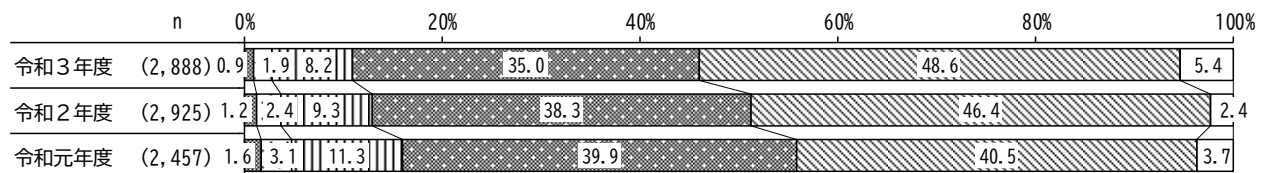
鉄道



バス



タクシー



常に利用している
 よく利用している
 たまに利用している
 全く利用しない
 無回答

鉄道の利用については、「たまに利用している」(31.1%)が最も多く、次いで「常に利用している」(27.2%)、「ときどき利用している」(19.6%)、「よく利用している」(11.0%)、「全く利用しない」(8.4%)の順となっている。

バスの利用については、「全く利用しない」(39.3%)が最も多く、次いで「たまに利用している」(30.9%)、「ときどき利用している」(14.8%)、「よく利用している」(5.1%)、「常に利用している」(4.1%)の順となっている。

タクシーの利用については、「全く利用しない」(48.6%)が最も多く、次いで「たまに利用している」(35.0%)、「ときどき利用している」(8.2%)、「よく利用している」(1.9%)、「常に利用している」(0.9%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、全体的に利用頻度が減少しており、「常に利用している」「よく利用している」「ときどき利用している」はすべての公共交通で令和2年度を下回った。また、鉄道は「たまに利用している」が令和2年度(27.6%)と比べ増加し、「常に利用している」を上回った。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

第4章 調査結果の詳細

鉄道の利用について性別でみると、「常に利用している」は男性（33.5%）が女性（22.6%）を10.9ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「常に利用している」は18～29歳で女性（58.1%）、男性（52.0%）とも5割台となっている。また、男性30歳代～50歳代（40.3%、41.4%、44.6%）が4割台、60歳代（35.2%）が3割半ばであるのに対し、女性30歳代～50歳代（24.2%、23.7%、24.5%）は2割台、60歳代（12.6%）は1割強であり、30歳代～60歳代の利用率が男性に比べ低くなっている。また、「全く利用しない」は女性30歳代・70歳以上（11.3%、12.5%）、男性50歳代（11.6%）以外の年齢で1割未満となっている。

バスの利用について性別でみると、「常に利用している」は女性（4.1%）と男性（4.2%）がほぼ同率となっている。また、「常に利用している」と「よく利用している」を合わせた『よく利用している』についても、女性（9.9%）と男性（8.5%）の間に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『よく利用している』は女性18～29歳（16.2%）が1割半ばで最も多く、女性70歳以上（10.9%）、男性60歳代・70歳以上（10.9%、10.2%）も約1割を占めている。一方、「全く利用しない」は男性18～29歳・30歳代（55.3%、54.2%）で5割台、女性40歳代以下（41.9%、47.4%、44.8%）と男性40歳代～60歳代（41.9%、42.0%、44.2%）で4割台となっている。

タクシーの利用について性別でみると、「常に利用している」は女性（0.9%）と男性（0.7%）がほぼ同率となっている。また、『よく利用している』についても、女性（2.8%）と男性（2.5%）の間に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『よく利用している』は70歳以上が女性（6.4%）、男性（5.1%）とも最も多くなっているが、すべての年齢で1割未満となっている。一方、「全く利用しない」は男女とも若年層で多くなる傾向にあり、男性18～29歳（77.2%）で8割弱、女性18～29歳（64.2%）で6割半ばとなっている。

図表4-1-2 性・年齢別 公共交通の利用状況

	調査数（人）	鉄道						バス						タクシー					
		常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答	常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答	常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答
全体	2,888	27.2	11.0	19.6	31.1	8.4	2.6	4.1	5.1	14.8	30.9	39.3	5.8	0.9	1.9	8.2	35.0	48.6	5.4
女性全体	1,525	22.6	10.4	21.8	33.8	8.7	2.7	4.1	5.8	14.8	32.1	37.8	5.4	0.9	1.8	8.7	35.3	48.6	4.7
18～29歳	148	58.1	20.3	6.1	11.5	2.7	1.4	8.1	8.1	18.2	19.6	41.9	4.1	0.7	2.0	7.4	21.6	64.2	4.1
30～39歳	194	24.2	9.3	19.1	35.6	11.3	0.5	4.1	4.6	11.3	29.9	47.4	2.6	-	1.0	4.1	29.4	60.8	4.6
40～49歳	279	23.7	9.0	21.1	37.6	7.5	1.1	4.7	3.9	12.2	33.0	44.8	1.4	-	1.1	5.4	35.5	57.0	1.1
50～59歳	261	24.5	9.2	24.1	34.1	6.1	1.9	2.3	5.7	12.6	36.4	37.9	5.0	0.4	1.1	8.4	33.3	53.6	3.1
60～69歳	214	12.6	12.1	26.2	41.1	7.5	0.5	3.3	5.1	15.0	41.6	32.7	2.3	-	0.9	5.6	40.7	48.1	4.7
70歳以上	423	12.1	8.3	25.5	34.8	12.5	6.9	3.5	7.3	18.4	29.8	29.3	11.6	2.8	3.5	14.9	41.1	29.1	8.5
男性全体	1,230	33.5	12.0	16.8	28.0	7.9	1.9	4.2	4.3	14.1	30.3	41.6	5.4	0.7	1.9	7.0	35.3	49.6	5.6
18～29歳	123	52.0	20.3	8.9	13.8	4.9	-	5.7	4.1	12.2	21.1	55.3	1.6	-	-	3.3	17.9	77.2	1.6
30～39歳	144	40.3	13.2	13.9	23.6	9.0	-	2.8	4.2	6.9	30.6	54.2	1.4	0.7	0.7	4.2	31.9	61.1	1.4
40～49歳	222	41.4	8.1	10.4	31.5	7.7	0.9	2.7	0.5	16.2	36.0	41.9	2.7	-	1.4	3.6	32.4	60.4	2.3
50～59歳	224	44.6	8.0	11.2	24.1	11.6	0.4	7.1	2.7	9.8	32.6	42.0	5.8	0.9	1.8	3.1	36.2	52.2	5.8
60～69歳	165	35.2	9.7	14.5	31.5	7.9	1.2	4.8	6.1	12.7	26.7	44.2	5.5	-	1.2	6.1	42.4	41.8	8.5
70歳以上	352	11.4	14.5	29.5	33.2	6.3	5.1	3.1	7.1	19.9	30.1	30.1	9.7	1.4	3.7	14.5	40.6	30.4	9.4

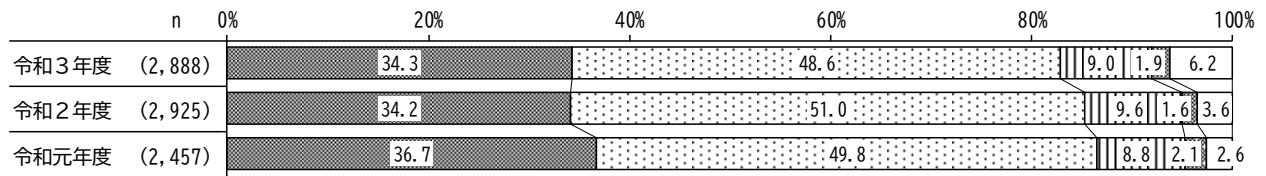
(2) 公共交通の満足度

◇『満足』は鉄道が8割強、バスが約5割、タクシーが5割半ば

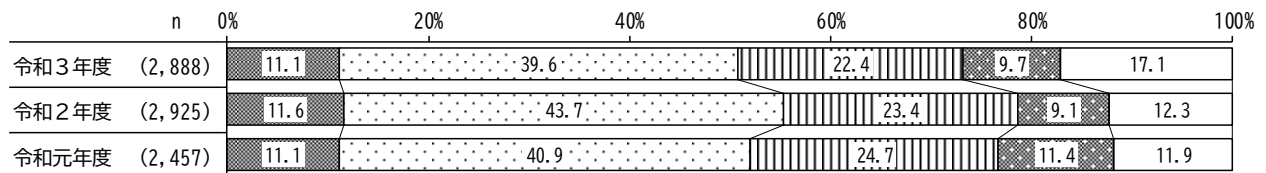
問 16. あなたは、公共交通（鉄道・バス・タクシー）にどの程度満足していますか。
 （それぞれ〇は1つずつ）

図表4-2-1 公共交通の満足度

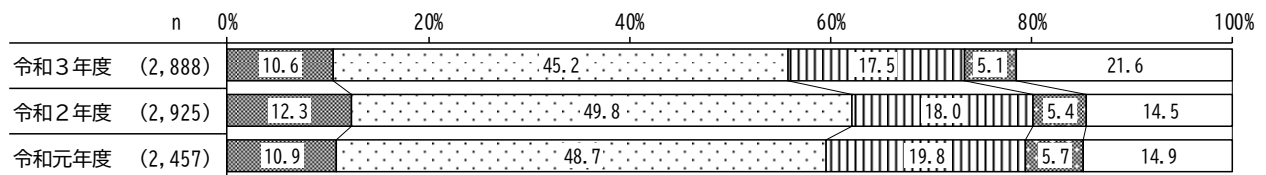
鉄道



バス



タクシー



とても満足している
 やや満足している
 やや不満である
 とても不満である
 無回答

鉄道の満足度については、「とても満足している」(34.3%)と「やや満足している」(48.6%)を合わせた『満足』(82.9%)は8割強となっている。

バスの満足度については、「とても満足している」(11.1%)と「やや満足している」(39.6%)を合わせた『満足』(50.8%)は約5割となっている。

タクシーの満足度については、「とても満足している」(10.6%)と「やや満足している」(45.2%)を合わせた『満足』(55.7%)は5割半ばとなっている。

過去2回の調査と比較すると、『満足』はいずれも令和2年度を下回っており、タクシーは令和2年度(62.1%)と比べ6.3ポイント、バスは令和2年度(55.3%)と比べ4.6ポイント減少した。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

第4章 調査結果の詳細

鉄道の満足度について性別で見ると、『満足』は女性（82.4%）、男性（84.4%）とも8割台となっている。また、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた『不満』についても、女性（10.8%）と男性（11.0%）の間に大きな差はみられない。

性・年齢別で見ると、『満足』は男女ともすべての年齢で7割を超えており、女性 60 歳代（88.3%）と男性 70 歳以上（88.4%）が最も多くなっている。一方、『不満』は女性 18～29 歳（23.6%）と男性 18～29 歳（22.0%）で2割台となっているが、年齢が上がるにつれ減少する傾向にある。

バスの満足度について性別で見ると、『満足』は女性（50.2%）、男性（52.4%）とも5割台、『不満』は女性（33.6%）、男性（30.7%）とも3割台で、大きな差はみられない。

性・年齢別で見ると、女性は50歳代（43.7%）と70歳以上（49.9%）を除く年齢で『満足』が5割台となっている。男性は40歳代で『満足』（60.8%）が約6割を占めるが、30歳代・50歳代・60歳代（45.8%、47.8%、47.9%）は4割台となっている。一方、『不満』は女性50歳代（42.5%）と男性30歳代（40.3%）で4割を超え、前者は『満足』と『不満』がほぼ拮抗している。

タクシーの満足度について性別で見ると、『満足』は女性（56.9%）、男性（55.4%）とも5割半ば、『不満』は女性（21.4%）、男性（24.6%）とも2割台で、大きな差はみられない。

性・年齢別で見ると、『満足』は男女ともすべての年齢で5割台となっており、女性は30歳代（59.8%）、男性は40歳代（59.5%）が最も多くなっている。一方、『不満』は男性40歳代・50歳代（30.6%、32.1%）で3割を超え、女性は50歳代（28.7%）が最も多くなっている。

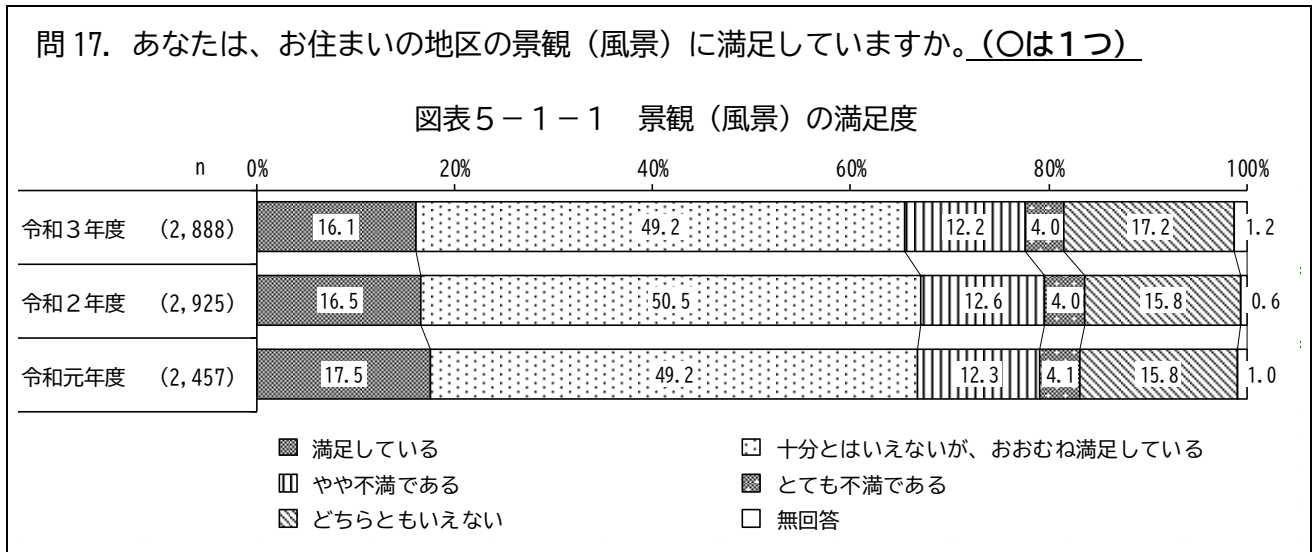
図表4-2-2 性・年齢別 公共交通の満足度

	調査数（人）	鉄道					バス					タクシー				
		とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答	とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答	とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答
全体	2,888	34.3	48.6	9.0	1.9	6.2	11.1	39.6	22.4	9.7	17.1	10.6	45.2	17.5	5.1	21.6
女性全体	1,525	33.2	49.2	9.2	1.6	6.8	11.3	38.9	22.8	10.9	16.2	11.0	45.8	16.6	4.9	21.7
18～29歳	148	34.5	40.5	21.6	2.0	1.4	14.9	37.2	26.4	8.8	12.8	15.5	43.2	16.2	7.4	17.6
30～39歳	194	25.8	53.6	14.9	2.1	3.6	10.3	42.8	25.8	9.3	11.9	10.3	49.5	19.1	4.1	17.0
40～49歳	279	33.3	50.9	10.4	2.9	2.5	8.2	44.4	22.2	14.7	10.4	8.6	50.5	16.1	7.2	17.6
50～59歳	261	34.9	51.7	8.0	1.1	4.2	10.3	33.3	30.7	11.9	13.8	13.0	39.1	21.5	7.3	19.2
60～69歳	214	32.2	56.1	6.1	0.5	5.1	10.3	42.1	22.4	10.3	15.0	8.9	47.7	15.9	2.8	24.8
70歳以上	423	35.7	44.0	3.8	0.9	15.6	13.7	36.2	15.6	9.2	25.3	11.3	45.2	13.5	1.9	28.1
男性全体	1,230	35.9	48.5	8.8	2.2	4.6	11.3	41.1	22.4	8.4	16.9	10.2	45.1	18.9	5.6	20.1
18～29歳	123	31.7	45.5	18.7	3.3	0.8	9.8	43.1	27.6	8.9	10.6	13.8	45.5	19.5	6.5	14.6
30～39歳	144	25.7	56.3	12.5	3.5	2.1	9.7	36.1	27.8	12.5	13.9	7.6	47.2	25.7	3.5	16.0
40～49歳	222	33.3	51.4	12.2	1.8	1.4	11.3	49.5	23.4	9.0	6.8	10.8	48.6	21.6	9.0	9.9
50～59歳	224	36.2	46.0	9.4	3.6	4.9	8.0	39.7	25.4	10.7	16.1	9.4	40.6	23.2	8.9	17.9
60～69歳	165	37.0	49.1	5.5	0.6	7.9	11.5	36.4	24.2	4.2	23.6	9.1	43.6	17.6	2.4	27.3
70歳以上	352	42.3	46.0	2.8	1.4	7.4	14.5	40.1	14.8	6.5	24.1	10.8	45.5	12.2	3.4	28.1

5. 景観（風景）について

(1) 景観（風景）の満足度

◇『満足』が6割半ば



住まいの地区の景観（風景）については、「満足している」（16.1%）と「十分とはいえないが、おおむね満足している」（49.2%）を合わせた『満足』（65.4%）は6割半ば、「やや不満である」（12.2%）と「とても不満である」（4.0%）を合わせた『不満』（16.2%）は1割半ばとなっている。

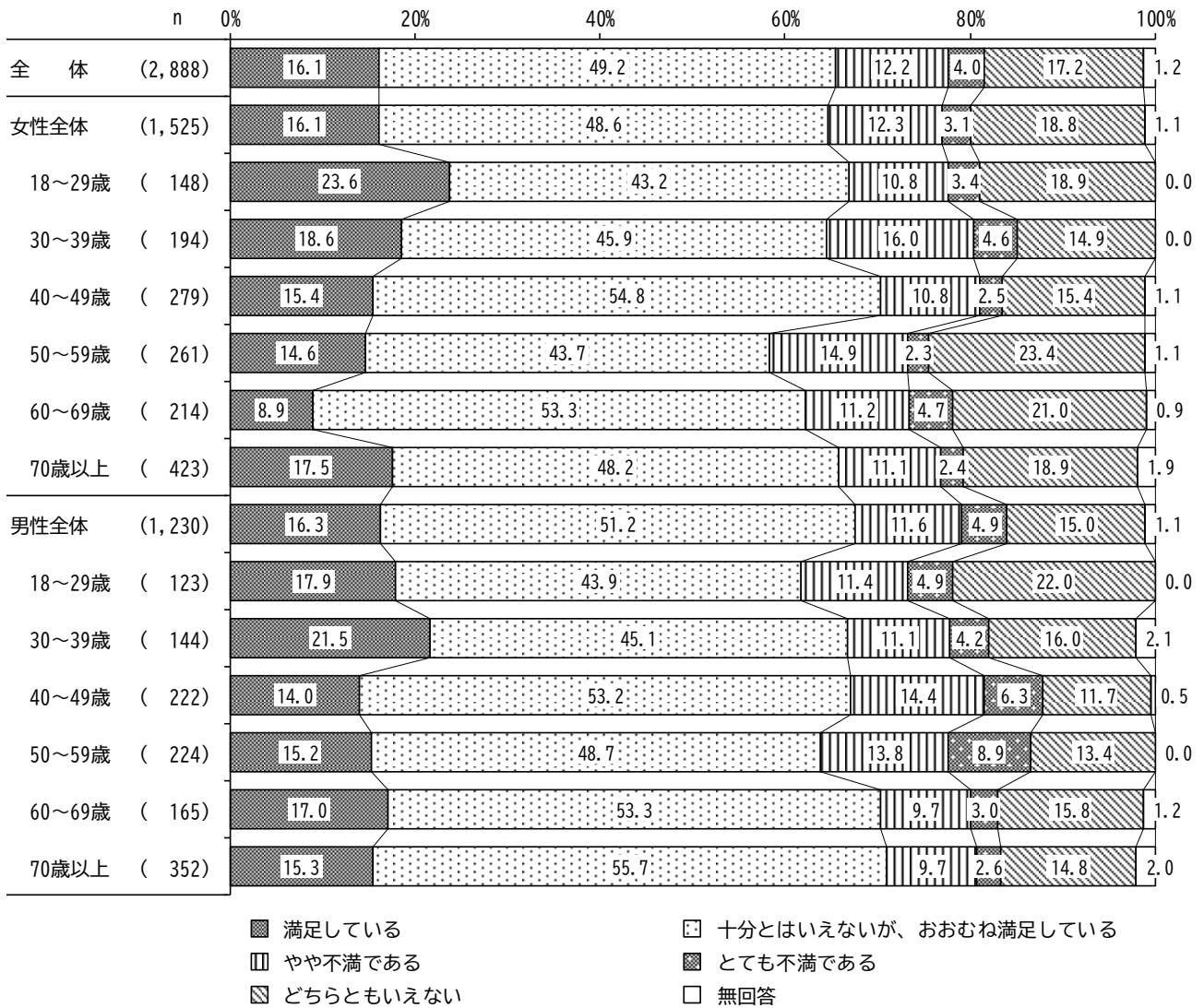
過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『満足』は女性40歳代(70.3%)、男性60歳代・70歳以上(70.3%、71.0%)で7割台となっている。一方、女性50歳代は『満足』(58.2%)が全体を7.2ポイント下回っている。また、『不満』は女性30歳代(20.6%)、男性40歳代・50歳代(20.7%、22.8%)を除く年齢で1割台となっている。

図表5-1-2 性・年齢別 景観(風景)の満足度



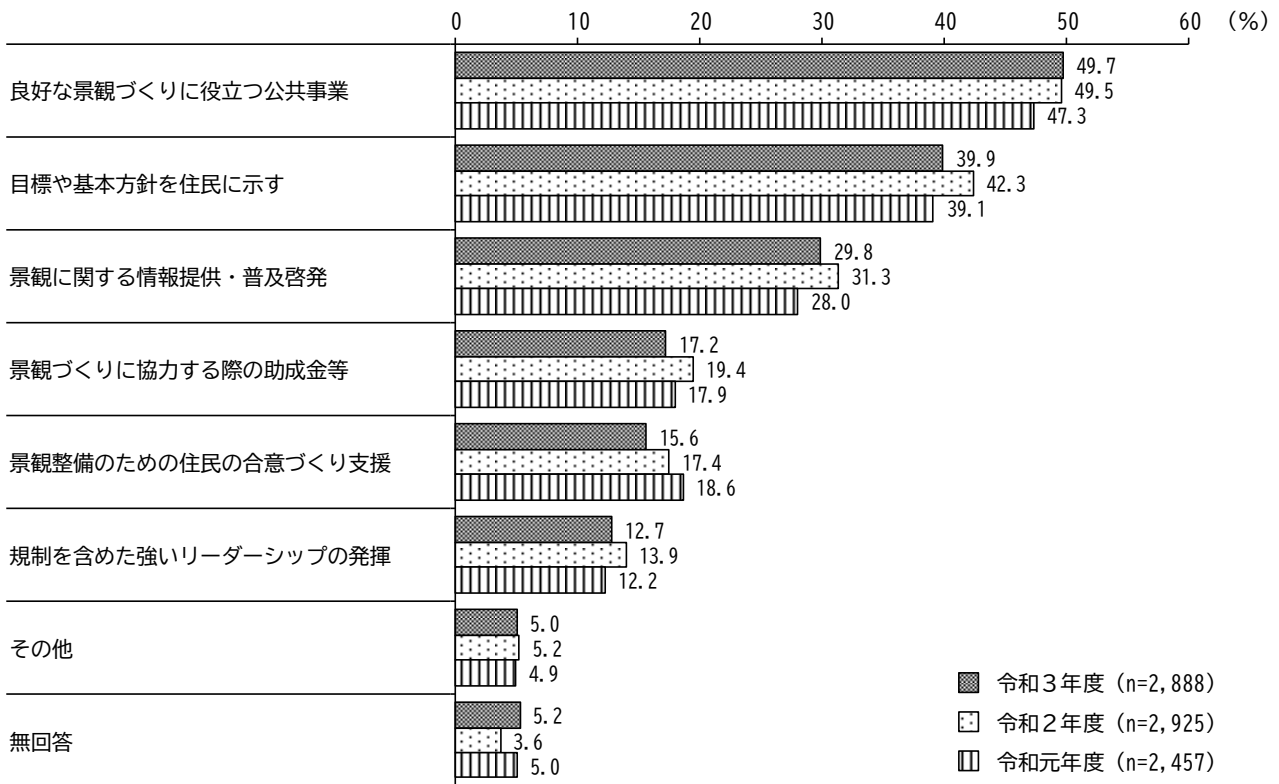
(2) 行政に望むこと

◇「良好な景観づくりに役立つ公共事業」が最も多く、約5割

問18. あなたは、良い景観（風景）のまちをつくるために行政に何を望みますか。

(〇は3つまで)

図表5-2-1 行政に望むこと



良い景観（風景）のまちをつくるため、行政に望むことは、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」（49.7%）が最も多く、次いで「目標や基本方針を住民に示す」（39.9%）、「景観に関する情報提供・普及啓発」（29.8%）、「景観づくりに協力する際の助成金等」（17.2%）、「景観整備のための住民の合意づくり支援」（15.6%）の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「景観整備のための住民の合意づくり支援」は減少傾向にある。また、順位の変動はないが、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」（令和2年度49.5%）以外の項目は令和2年度をやや下回っている。

第4章 調査結果の詳細

性別でみると、「規制を含めた強いリーダーシップの発揮」は男性（17.0%）が女性（9.2%）を7.8ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」はすべての年齢で最も多くなっており、特に女性18～29歳・30歳代（59.5%、60.3%）は約6割を占めている。また、「目標や基本方針を住民に示す」は女性60歳代（46.7%）と男性30歳代・60歳代・70歳以上（45.8%、45.5%、42.3%）で4割台、「景観に関する情報提供・普及啓発」は女性40歳以上（35.1%、33.0%、38.8%、31.0%）と男性60歳代（32.7%）で3割台となっている。一方、「景観づくりに協力する際の助成金等」は女性18～29歳・40歳代（25.0%、22.2%）、「規制を含めた強いリーダーシップの発揮」は男性70歳以上（19.3%）で全体を5ポイント以上上回っている。

図表5-2-2 性・年齢別 行政に望むこと

	調査数（人）	良好な景観づくりに役立つ公共事業	目標や基本方針を住民に示す	景観に関する情報提供・普及啓発	景観づくりに協力する際の助成金等	景観整備のための住民の合意づくり支援	規制を含めた強いリーダーシップの発揮	その他	無回答
全体	2,888	49.7	39.9	29.8	17.2	15.6	12.7	5.0	5.2
女性全体	1,525	50.9	39.1	31.9	17.6	14.0	9.2	4.6	6.0
18～29歳	148	59.5	35.8	23.6	25.0	6.8	5.4	5.4	0.7
30～39歳	194	60.3	37.6	26.8	18.0	15.5	11.9	2.6	4.1
40～49歳	279	53.4	34.4	35.1	22.2	13.6	6.8	5.4	2.5
50～59歳	261	46.7	39.8	33.0	17.2	14.6	11.1	5.7	5.0
60～69歳	214	55.6	46.7	38.8	15.9	15.9	11.7	4.2	2.8
70歳以上	423	42.3	39.7	31.0	13.2	14.9	8.3	4.0	13.5
男性全体	1,230	49.3	41.1	27.9	16.8	17.6	17.0	5.7	3.5
18～29歳	123	52.0	37.4	22.0	19.5	13.0	14.6	9.8	2.4
30～39歳	144	47.2	45.8	22.9	17.4	18.1	16.7	5.6	2.8
40～49歳	222	52.7	37.4	26.6	20.3	13.5	16.2	5.9	0.9
50～59歳	224	48.2	38.8	29.9	19.2	19.6	17.4	5.8	1.8
60～69歳	165	50.3	45.5	32.7	12.7	18.2	14.5	5.5	4.2
70歳以上	352	47.4	42.3	29.3	13.9	19.9	19.3	4.3	6.5

6. 地域医療体制について

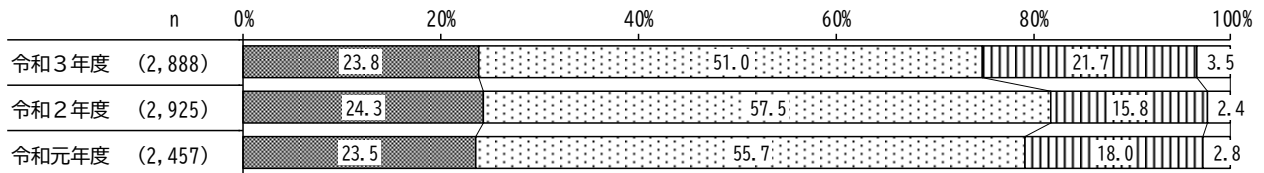
(1) 地域医療体制の認知度

◇認知度は「越谷市夜間急患診療所」が7割半ば

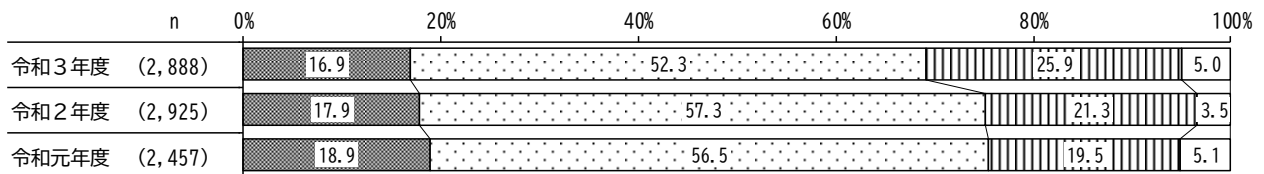
問 19. あなたは、「越谷市夜間急患診療所・休日当番医制度・埼玉県救急電話相談（＃7119）・埼玉県A I 救急相談」を知っていますか。（ア～エ それぞれ横に〇は1つずつ）

図表6-1-1 地域医療体制の認知度

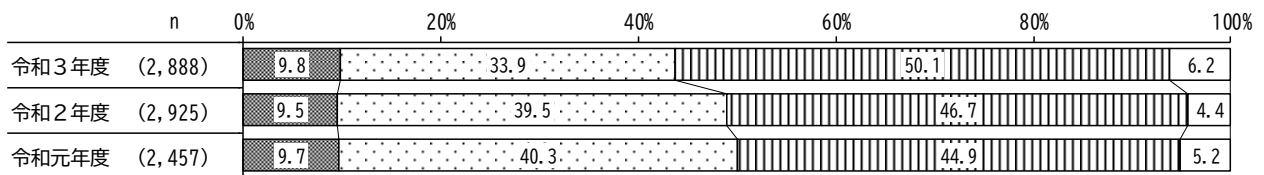
ア 越谷市夜間急患診療所



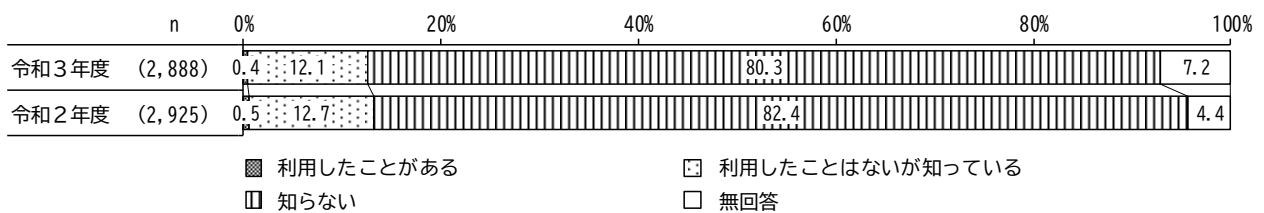
イ 休日当番医制度



ウ 埼玉県救急電話相談（＃7119）



エ 埼玉県A I 救急相談（※）



（※）「エ 埼玉県A I 救急相談」は令和2年度からの新規項目

地域医療体制の認知度については、「利用したことがある」と「利用したことはないが知っている」を合わせた『知っている』では、「越谷市夜間急患診療所」（74.8％）が最も多く、次いで「休日当番医制度」（69.1％）、「埼玉県救急電話相談（＃7119）」（43.7％）、「埼玉県A I 救急相談」（12.5％）となっている。また、「利用したことがある」では、「越谷市夜間急患診療所」（23.8％）が2割強、「休日当番医制度」（16.9％）が1割半ば、「埼玉県救急電話相談（＃7119）」（9.8％）が約1割、「埼玉県A I 救急相談」（0.4％）が1割未満となっている。

過去2回の調査と比較すると、『知っている』は「埼玉県A I 救急相談」を除く3項目で、令和2年度を下回った。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

第4章 調査結果の詳細

「越谷市夜間急患診療所」について性別でみると、『知っている』は女性（78.0%）が男性（71.4%）を6.6ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、『知っている』は女性40歳代～60歳代（86.0%、83.9%、87.4%）で8割台となっている。一方、18～29歳は女性（43.2%）、男性（48.0%）とも『知っている』が5割未満であり、「知らない」（女性54.7%、男性50.4%）を下回っている。

「休日当番医制度」について性別でみると、『知っている』は女性（73.3%）が男性（64.4%）を8.9ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、女性70歳以上を除き、男女とも年齢が上がるにつれ『知っている』が増加する傾向にあり、女性30歳代以上、男性40歳代以上で半数を超える。特に女性40歳代～60歳代（82.4%、82.8%、89.7%）は『知っている』が8割台を占めている。一方、18～29歳は男女とも『知っている』（女性25.7%、男性30.9%）が「知らない」（女性71.6%、男性67.5%）の半数以下となっている。

「埼玉県救急電話相談（#7119）」について性別でみると、『知っている』は女性（48.7%）が男性（38.3%）を10.4ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、『知っている』は女性30歳代・40歳代・60歳代（56.7%、59.9%、50.0%）で5割台となっている。一方、男性はすべての年齢で『知っている』が5割未満となっており、女性18～29歳（25.7%）も2割半ばと低くなっている。また、「知らない」は18～29歳で女性（72.3%）、男性（72.4%）とも7割強を占め、男性は70歳以上（41.8%）を除く年齢で半数を超えている。

「埼玉県A I 救急相談」について性別でみると、『知っている』は女性（12.5%）と男性（12.3%）の間に大きな差はみられない。また、「知らない」は女性（80.7%）、男性（81.5%）とも8割台となっている。

性・年齢別でみると、『知っている』は70歳以上で女性（16.1%）、男性（14.8%）とも最も多くなっているが、いずれも2割未満となっている。一方、「知らない」は男女とも70歳以上（女性64.8%、男性68.8%）を除く年齢で8割台となっている。

図表6-1-2 性・年齢別 地域医療体制の認知度

(%)

	調査数(人)	ア 越谷市夜間急患診療所				イ 休日当番医制度			
		利用したことがある	知利用している 利用したことはないが	知らない	無回答	利用したことがある	知利用している 利用したことはないが	知らない	無回答
全体	2,888	23.8	51.0	21.7	3.5	16.9	52.3	25.9	5.0
女性全体	1,525	24.2	53.8	19.0	3.0	19.2	54.1	22.3	4.4
18～29歳	148	12.8	30.4	54.7	2.0	9.5	16.2	71.6	2.7
30～39歳	194	28.9	44.3	25.3	1.5	18.0	41.8	38.1	2.1
40～49歳	279	39.4	46.6	13.6	0.4	35.1	47.3	16.8	0.7
50～59歳	261	31.8	52.1	14.9	1.1	29.5	53.3	16.1	1.1
60～69歳	214	22.0	65.4	10.7	1.9	16.4	73.4	9.3	0.9
70歳以上	423	12.5	66.2	13.9	7.3	7.8	68.1	11.8	12.3
男性全体	1,230	23.4	48.0	25.6	3.0	14.7	49.7	31.1	4.6
18～29歳	123	11.4	36.6	50.4	1.6	7.3	23.6	67.5	1.6
30～39歳	144	25.0	39.6	35.4	-	11.8	31.3	54.9	2.1
40～49歳	222	33.8	39.2	26.6	0.5	21.6	45.9	31.5	0.9
50～59歳	224	34.8	42.4	21.9	0.9	24.6	44.6	28.6	2.2
60～69歳	165	16.4	57.6	24.2	1.8	12.7	61.8	21.8	3.6
70歳以上	352	16.5	59.9	15.3	8.2	8.8	66.2	14.2	10.8

(%)

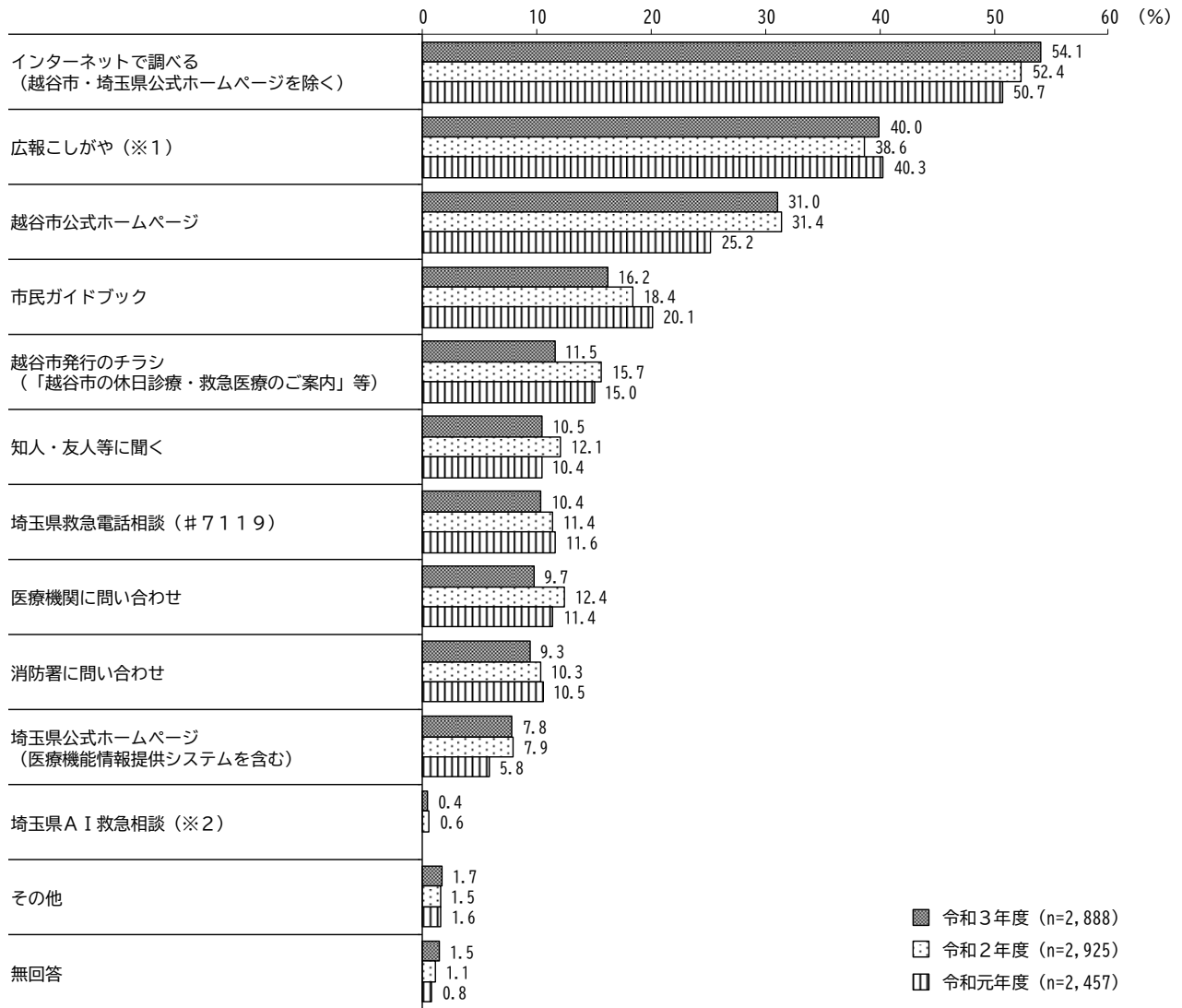
	調査数(人)	ウ 埼玉県救急電話相談(＃7119)				エ 埼玉県A I 救急相談			
		利用したことがある	知利用している 利用したことはないが	知らない	無回答	利用したことがある	知利用している 利用したことはないが	知らない	無回答
全体	2,888	9.8	33.9	50.1	6.2	0.4	12.1	80.3	7.2
女性全体	1,525	11.2	37.4	46.0	5.4	0.7	11.9	80.7	6.8
18～29歳	148	4.1	21.6	72.3	2.0	0.7	6.8	89.9	2.7
30～39歳	194	22.2	34.5	41.2	2.1	0.5	10.3	87.1	2.1
40～49歳	279	19.4	40.5	39.1	1.1	1.1	12.5	85.7	0.7
50～59歳	261	10.0	36.4	52.5	1.1	1.1	10.3	87.0	1.5
60～69歳	214	7.5	42.5	46.7	3.3	0.5	10.3	85.5	3.7
70歳以上	423	5.9	40.2	39.2	14.7	0.2	15.8	64.8	19.1
男性全体	1,230	8.3	30.0	55.9	5.9	0.1	12.2	81.5	6.3
18～29歳	123	2.4	23.6	72.4	1.6	-	12.2	86.2	1.6
30～39歳	144	18.1	17.4	62.5	2.1	-	9.0	88.9	2.1
40～49歳	222	9.9	32.4	56.8	0.9	-	14.0	85.1	0.9
50～59歳	224	11.6	26.3	59.8	2.2	-	10.7	87.1	2.2
60～69歳	165	6.1	27.9	61.2	4.8	0.6	9.1	86.1	4.2
70歳以上	352	4.3	39.2	41.8	14.8	-	14.8	68.8	16.5

(2) 医療機関の情報の入手方法

◇「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」が最も多く、5割半ば

問 20. あなたは、夜間や休日に利用できる医療機関の情報が必要な場合、どこから情報を入手しますか。次の中から選んでください。(複数回答可)

図表6-2-1 医療機関の情報の入手方法



(※1) 令和2年度までの選択肢は「広報こしがや『お知らせ版』」

(※2) 「埼玉県A I 救急相談」は令和2年度新規項目

医療機関の情報の入手方法については、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」(54.1%)が最も多く、次いで「広報こしがや」(40.0%)、「越谷市公式ホームページ」(31.0%)、「市民ガイドブック」(16.2%)、「越谷市発行のチラシ（「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等）」(11.5%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」が増加傾向にある一方、「市民ガイドブック」は減少傾向にある。また、「越谷市発行のチラシ（「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等）」は令和2年度（15.7%）に比べ4.2ポイント減少した。

性別でみると、「広報こしがや」（女性 42.9%、男性 36.5%）は 6.4 ポイント、「埼玉県救急電話相談（#7119）」（女性 12.5%、男性 7.6%）は 4.9 ポイント、女性が男性を上回っている。

性・年齢別でみると、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」は男女とも若年層で多くなる傾向にあり、30 歳代以下は女性（84.5%、81.4%）、男性（87.0%、83.3%）とも 8 割を超えている。それに対し、60 歳代（女性 45.8%、男性 44.2%）は 4 割台、70 歳以上（女性 18.9%、男性 20.2%）は 2 割弱～約 2 割と高齢層では少なくなっている。「越谷市公式ホームページ」については、女性 40 歳代・50 歳代（52.0%、47.9%）、男性 50 歳代（41.5%）を中心に利用が多い一方、18～29 歳は女性（24.3%）、男性（25.2%）とも 2 割半ばにとどまり、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」と比べ少なくなっている。また、「広報こしがや」「市民ガイドブック」「越谷市発行のチラシ（「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等）」は高齢層での利用が多くなる傾向にあり、「広報こしがや」は女性 60 歳代以上（57.5%、61.0%）と男性 70 歳以上（58.5%）で 5 割を超えている。

図表 6-2-2 性・年齢別 医療機関の情報の入手方法

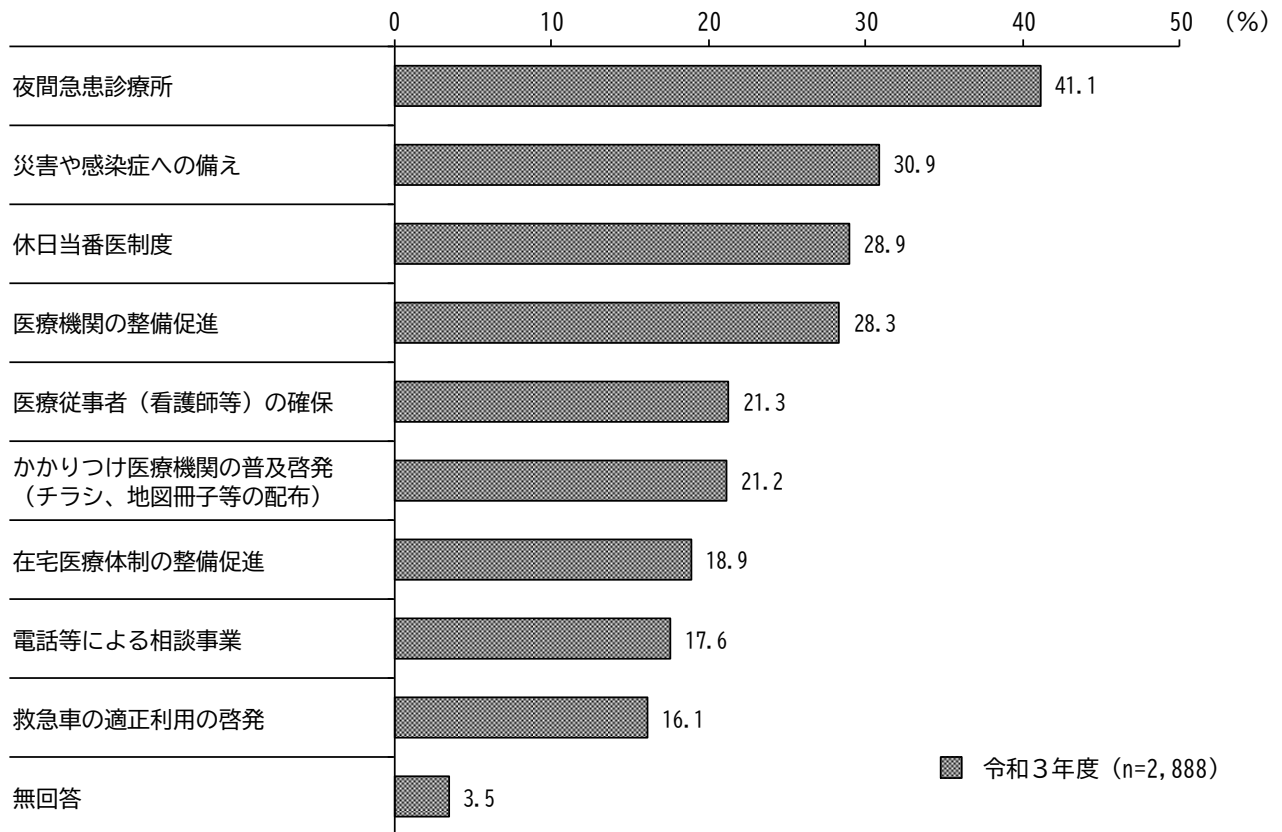
	調査数（人）	インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）	広報こしがや	越谷市公式ホームページ	市民ガイドブック	越谷市発行のチラシ（「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等）	知人・友人等に聞く	埼玉県救急電話相談（#7119）	医療機関に問い合わせ	消防署に問い合わせ	埼玉県公式ホームページ（医療機能情報提供システムを含む）	埼玉県 A I 救急相談	その他	無回答
全体	2,888	54.1	40.0	31.0	16.2	11.5	10.5	10.4	9.7	9.3	7.8	0.4	1.7	1.5
女性全体	1,525	54.2	42.9	32.0	14.6	12.5	11.4	12.5	9.0	8.3	7.9	0.7	2.1	1.1
18～29歳	148	84.5	10.1	24.3	2.7	2.0	18.2	6.1	6.8	7.4	17.6	-	2.0	0.7
30～39歳	194	81.4	21.6	35.1	5.7	5.7	10.8	18.6	11.3	1.5	9.3	0.5	0.5	1.0
40～49歳	279	69.5	33.7	52.0	6.1	11.8	7.5	11.1	4.3	5.0	10.4	1.1	1.8	0.7
50～59歳	261	64.4	46.0	47.9	13.8	13.4	5.7	8.0	7.7	8.4	10.7	0.4	0.8	0.4
60～69歳	214	45.8	57.5	32.2	22.0	15.4	12.1	13.1	9.3	10.7	5.6	0.5	0.9	0.9
70歳以上	423	18.9	61.0	10.2	25.3	17.5	15.1	15.6	12.5	12.8	1.7	1.2	4.5	2.1
男性全体	1,230	55.3	36.5	31.3	18.4	10.3	9.4	7.6	10.7	10.5	8.1	0.1	1.1	1.1
18～29歳	123	87.0	11.4	25.2	1.6	4.9	11.4	4.1	14.6	5.7	15.4	-	2.4	-
30～39歳	144	83.3	11.8	29.2	6.9	2.1	11.1	6.9	9.0	3.5	6.3	-	-	0.7
40～49歳	222	73.0	28.4	39.2	12.2	6.8	9.5	5.0	8.6	5.9	10.4	-	0.9	0.5
50～59歳	224	65.6	34.4	41.5	11.6	6.7	4.0	9.4	7.1	10.3	8.9	-	0.4	-
60～69歳	165	44.2	43.6	35.8	21.2	10.9	7.9	7.3	13.3	17.0	10.3	-	0.6	1.2
70歳以上	352	20.2	58.5	20.7	35.8	19.9	12.2	9.9	12.2	15.1	3.4	0.3	1.7	2.8

(3) 特に力を入れる必要がある地域医療関連事業

◇「夜間急患診療所」が最も多く、約4割

問 21. 地域医療に関する事業のうち、あなたが特に力を入れる必要があると思うことは何ですか。(〇は3つまで)

図表6-3-1 特に力を入れる必要がある地域医療関連事業



地域医療に関して、特に力を入れる必要がある事業は、「夜間急患診療所」(41.1%)が最も多く、次いで「災害や感染症への備え」(30.9%)、「休日当番医制度」(28.9%)、「医療機関の整備促進」(28.3%)、「医療従事者（看護師等）の確保」(21.3%)の順となっている。

性別でみると、「在宅医療体制の整備促進」（女性 21.5%、男性 15.7%）は 5.8 ポイント、「災害や感染症への備え」（女性 33.6%、男性 28.2%）は 5.4 ポイント、「電話等による相談事業」（女性 19.8%、男性 14.8%）は 5.0 ポイント、女性が男性を上回っている。一方、「かかりつけ医療機関の普及啓発（チラシ、地図冊子等の配布）」は男性（24.3%）が女性（18.8%）を 5.5 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「夜間急患診療所」は男女ともすべての年齢で3割を超え、男性 18～29 歳（32.5%）を除く年齢で最も多くなっている。男性 18～29 歳は「医療従事者（看護師等）の確保」（39.8%）が最も多く、男性 30 歳代（41.7%）も約 4 割を占めている。また、「災害や感染症への備え」は女性が 18～29 歳（42.6%）を筆頭に 70 歳以上（28.6%）以外、「医療機関の整備促進」は男性が 70 歳以上（22.7%）を除く年齢でそれぞれ 3 割を超えている。男性 70 歳以上は「かかりつけ医療機関の普及啓発（チラシ、地図冊子等の配布）」（30.1%）が約 3 割、「在宅医療体制の整備促進」（26.7%）、「救急車の適正利用の啓発」（22.2%）が 2 割台と他の年齢に比べ多くなっている。

図表 6-3-2 性・年齢別 特に力を入れる必要がある地域医療関連事業

	調査数（人）	夜間急患診療所	災害や感染症への備え	休日当番医制度	医療機関の整備促進	医療従事者（看護師等）の確保	かかりつけ医療機関の普及啓発（チラシ、地図冊子等の配布）	在宅医療体制の整備促進	電話等による相談事業	救急車の適正利用の啓発	無回答
全体	2,888	41.1	30.9	28.9	28.3	21.3	21.2	18.9	17.6	16.1	3.5
女性全体	1,525	40.5	33.6	29.2	27.1	20.1	18.8	21.5	19.8	15.2	3.1
18～29歳	148	42.6	42.6	26.4	27.7	25.7	16.9	6.1	22.3	12.2	2.0
30～39歳	194	42.8	31.4	35.1	34.0	28.4	16.0	7.7	19.6	10.3	2.1
40～49歳	279	40.5	36.6	31.9	28.0	26.5	16.5	19.4	16.1	14.7	2.9
50～59歳	261	39.1	31.0	28.7	37.2	24.1	14.2	29.1	19.9	13.4	1.9
60～69歳	214	45.3	39.3	29.0	28.5	13.6	19.2	25.7	17.3	16.8	0.5
70歳以上	423	36.9	28.6	25.8	16.5	11.3	25.1	27.9	22.2	18.9	6.4
男性全体	1,230	42.0	28.2	29.4	30.3	23.0	24.3	15.7	14.8	16.9	3.1
18～29歳	123	32.5	37.4	27.6	34.1	39.8	12.2	5.7	12.2	17.1	4.1
30～39歳	144	45.1	27.8	31.9	31.3	41.7	20.1	6.3	11.8	12.5	1.4
40～49歳	222	43.7	25.2	36.9	32.9	27.5	20.7	11.3	14.9	18.5	1.4
50～59歳	224	44.6	31.3	30.4	34.8	20.5	25.0	14.3	13.4	13.8	0.9
60～69歳	165	43.0	32.7	29.7	33.3	18.2	28.5	15.8	14.5	11.5	4.8
70歳以上	352	40.6	23.0	23.6	22.7	10.5	30.1	26.7	17.9	22.2	5.1

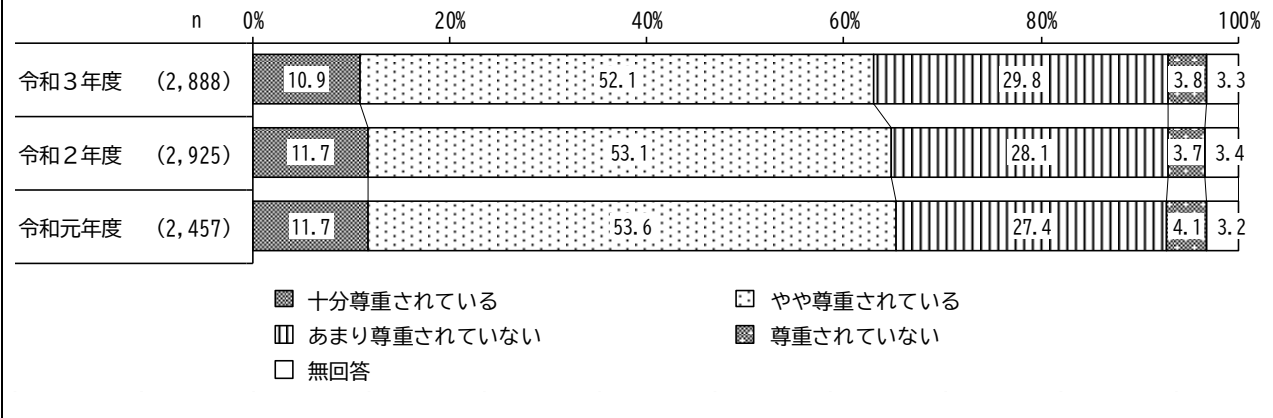
7. 人権全般に関する意識について

(1) 基本的人権の意識

◇『尊重されている』が6割強

問 22. あなたは、今の日本社会において、どのくらい基本的人権が尊重されていると思いますか。(〇は1つ)

図表7-1-1 基本的人権の意識



今の日本社会における基本的人権の意識については、「やや尊重されている」(52.1%)が最も多く、「十分尊重されている」(10.9%)を合わせた『尊重されている』(63.1%)は6割強となっている。一方、「あまり尊重されていない」(29.8%)と「尊重されていない」(3.8%)を合わせた『尊重されていない』(33.7%)は3割強となっている。

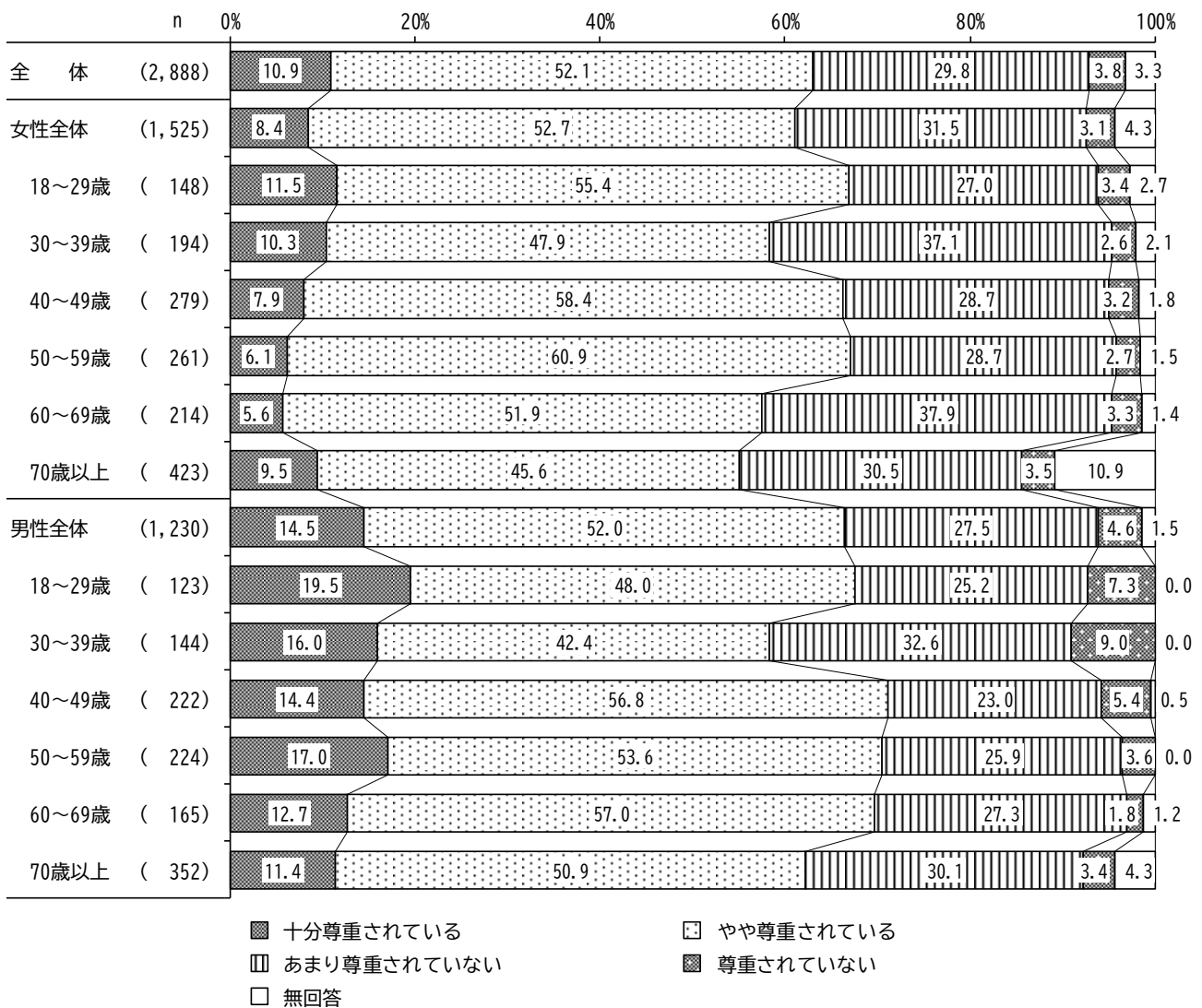
過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別で見ると、『尊重されている』は男性（66.4%）が女性（61.0%）を5.4ポイント上回っている。一方、『尊重されていない』は女性（34.6%）、男性（32.1%）とも3割台で、大きな差はみられない。

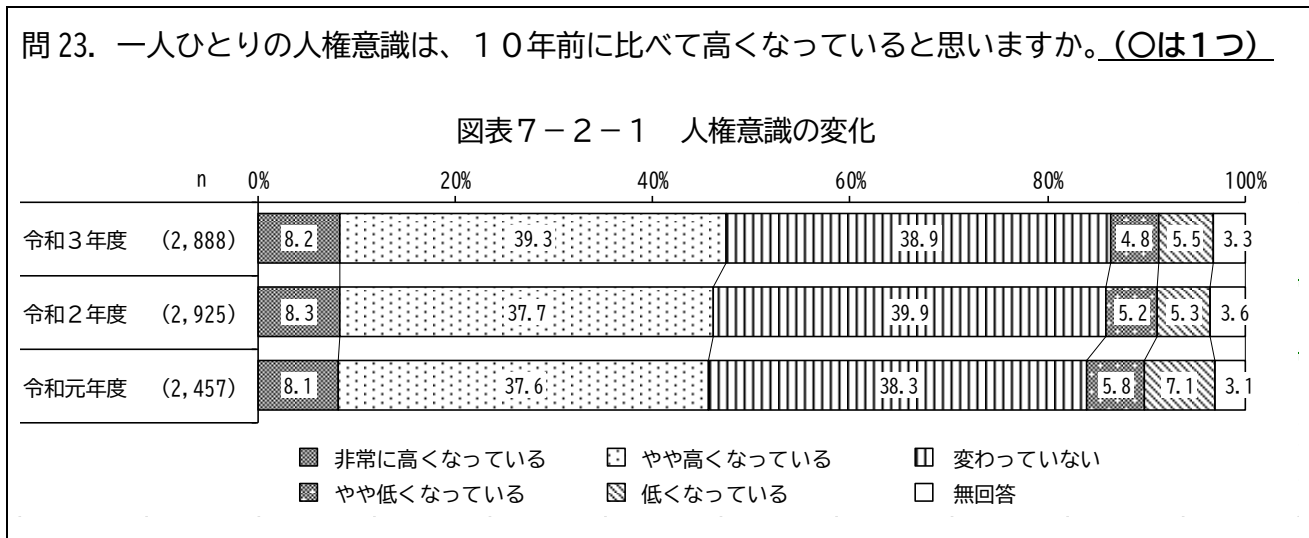
性・年齢別で見ると、『尊重されている』は男女ともすべての年齢で5割を超えており、男性40歳代・50歳代（71.2%、70.5%）は約7割を占めている。一方、女性60歳代・70歳以上（57.5%、55.1%）は『尊重されている』が全体を5ポイント以上下回っており、60歳代は男女の間に1割以上差が生じている。また、『尊重されていない』は女性30歳代・60歳代（39.7%、41.1%）、男性30歳代（41.7%）で約4割となっている。

図表7-1-2 性・年齢別 基本的人権の意識



(2) 人権意識の変化

◇『高くなっている』が5割弱



10年前と比べた人権意識の変化については、「やや高くなっている」(39.3%)が最も多く、次いで「変わっていない」(38.9%)、「非常に高くなっている」(8.2%)、「低くなっている」(5.5%)、「やや低くなっている」(4.8%)となっている。「非常に高くなっている」と「やや高くなっている」を合わせた『高くなっている』(47.5%)は5割弱となっている。一方、「やや低くなっている」と「低くなっている」を合わせた『低くなっている』(10.4%)は約1割となっている。

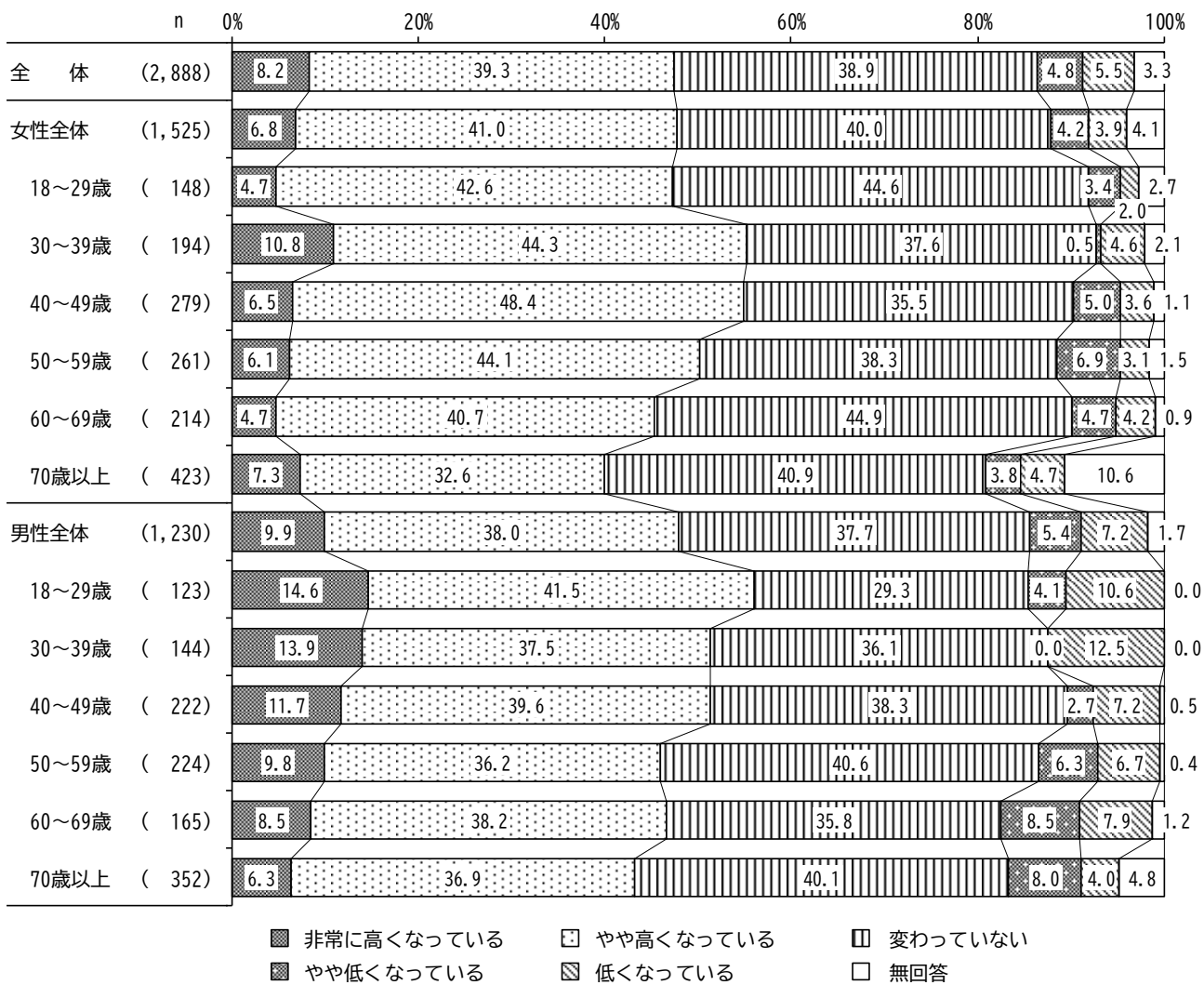
過去2回の調査と比較すると、令和2年度と比べ『高くなっている』『低くなっている』はほぼ同水準であるが、令和2年度(「やや高くなっている」37.7%、「変わっていない」39.9%)と逆に「やや高くなっている」が「変わっていない」を上回った。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別で見ると、『高くなっている』は女性（47.8%）、男性（47.9%）とも5割弱で大きな差はみられない。一方、『低くなっている』は男性（12.7%）が女性（8.1%）を4.6ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、『高くなっている』は女性30歳代～50歳代（55.2%、54.8%、50.2%）と男性40歳代以下（56.1%、51.4%、51.4%）で5割を超えている。一方、女性70歳以上（40.0%）は4割と全体を7.5ポイント下回っており、女性18～29歳（47.3%）も男性18～29歳に比べ8.8ポイント少なくなっている。また、『低くなっている』は最も高い男性60歳代（16.4%）を含め、すべての年齢で2割未満となっている。

図表7-2-2 性・年齢別 人権意識の変化

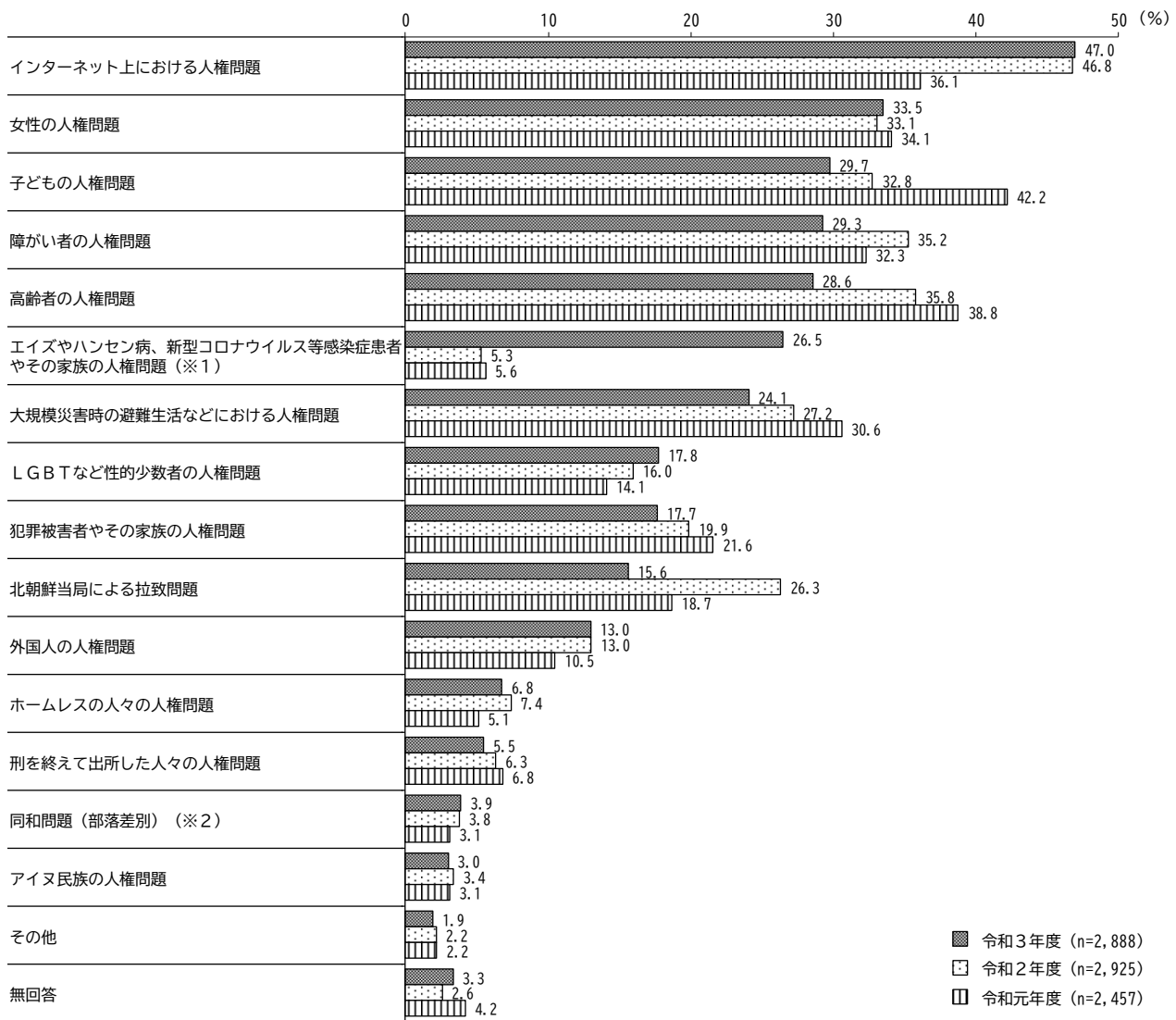


(3) 関心のある人権問題

◇「インターネット上における人権問題」が最も多く、5割弱

問 24. 今の日本の社会に様々な人権問題がありますが、あなたが関心のあるものはどれですか。
 (複数回答可)

図表 7-3-1 関心のある人権問題



(※1) 令和2年度までの選択肢は「エイズやハンセン病等感染症患者の人権問題」

(※2) 令和2年度までの選択肢は「同和問題」

関心のある人権問題については、「インターネット上における人権問題」(47.0%)が最も多く、次いで「女性の人権問題」(33.5%)、「子どもの人権問題」(29.7%)、「障がい者の人権問題」(29.3%)、「高齢者の人権問題」(28.6%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、令和2年度と比べ「北朝鮮当局による拉致問題」(15.6%)は10.7ポイント、「高齢者の人権問題」は7.2ポイント、「障がい者の人権問題」は5.9ポイント減少し、順位を下げている。一方、項目名変更後の「エイズやハンセン病、新型コロナウイルス等感染症患者やその家族の人権問題」(26.5%)は、令和2年度(5.3%)と比べ21.2ポイント増加している。

性別でみると、「女性の人権問題」は女性（42.0%）が男性（23.9%）を18.1ポイント上回っている。

「子どもの人権問題」（女性32.1%、男性27.5%）、「エイズやハンセン病、新型コロナウイルス等感染症患者やその家族の人権問題」（女性28.5%、男性24.1%）、「LGBTなど性的少数者の人権問題」（女性19.9%、男性15.8%）についても、女性の方が多くなっている。

性・年齢別でみると、「インターネット上における人権問題」は女性30歳代～50歳代（54.1%、60.9%、62.8%）、男性18～29歳・30歳代～50歳代（56.1%、61.1%、57.7%、56.3%）で5割を超え、女性40歳代～60歳代、男性60歳代以下の年齢で最も多くなっている。一方、女性18～29歳・30歳代は「女性の人権問題」（65.5%、58.8%）が最も多くなっているが、年齢が上がるにつれ減少する傾向にある。また、70歳以上は「高齢者の人権問題」が女性（52.0%）、男性（45.5%）とも最も多く、「子どもの人権問題」は女性30歳代・40歳代（47.4%、40.5%）、「LGBTなど性的少数者の人権問題」は女性18～29歳（45.9%）で4割を超えている。

図表7-3-2 性・年齢別 関心のある人権問題

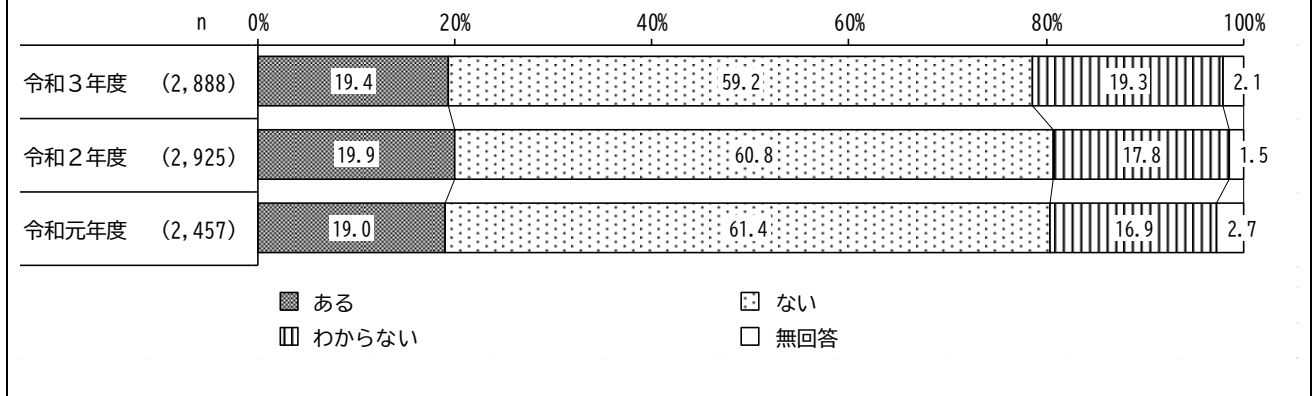
	調査数（人）	インターネット上における人権問題	女性の人権問題	子どもの人権問題	障がい者の人権問題	高齢者の人権問題	エイズやハンセン病、新型コロナウイルス等感染症患者やその家族の人権問題	大規模災害時の避難生活などにおける人権問題	LGBTなど性的少数者の人権問題	犯罪被害者やその家族の人権問題	北朝鮮当局による拉致問題	外国人の人権問題	ホームレスの人々の人権問題	刑を終えて出所した人々の人権問題	同和問題（部落差別）	アイヌ民族の人権問題	その他	無回答
全体	2,888	47.0	33.5	29.7	29.3	28.6	26.5	24.1	17.8	17.7	15.6	13.0	6.8	5.5	3.9	3.0	1.9	3.3
女性全体	1,525	47.5	42.0	32.1	29.9	29.2	28.5	25.2	19.9	16.9	15.6	11.6	6.4	5.6	3.7	2.6	1.4	3.2
18～29歳	148	47.3	65.5	39.9	31.1	10.1	33.1	14.9	45.9	16.9	4.7	19.6	6.8	8.1	2.0	3.4	0.7	1.4
30～39歳	194	54.1	58.8	47.4	35.1	13.4	30.4	23.7	34.5	17.5	7.2	12.4	5.2	5.7	3.1	1.5	1.0	1.5
40～49歳	279	60.9	44.8	40.5	30.8	15.4	25.8	19.7	24.0	16.5	9.3	12.9	4.3	3.9	4.7	2.9	1.8	2.2
50～59歳	261	62.8	42.9	28.0	28.7	23.4	34.9	29.5	19.5	23.0	16.9	12.3	6.1	6.9	5.4	3.1	1.9	0.4
60～69歳	214	48.1	38.8	30.8	27.1	36.9	30.8	25.2	11.7	21.5	17.8	10.7	7.9	4.2	3.7	3.7	0.5	1.4
70歳以上	423	25.5	25.3	20.3	28.6	52.0	22.7	30.7	5.9	10.6	25.5	7.8	7.8	5.7	2.8	1.7	1.7	8.0
男性全体	1,230	48.0	23.9	27.5	28.9	26.8	24.1	22.8	15.8	19.2	15.6	15.0	7.3	5.5	4.2	3.7	2.4	2.8
18～29歳	123	56.1	35.8	30.1	32.5	14.6	30.9	22.0	35.0	14.6	7.3	23.6	8.9	8.9	8.1	8.1	-	0.8
30～39歳	144	61.1	26.4	36.1	26.4	9.7	30.6	23.6	24.3	26.4	9.0	13.9	7.6	4.2	2.8	2.1	4.2	4.2
40～49歳	222	57.7	27.0	30.2	27.9	16.2	26.6	20.7	22.1	23.0	8.6	14.4	5.9	7.2	4.1	3.2	3.6	1.8
50～59歳	224	56.3	21.0	27.7	24.1	22.3	21.9	17.9	14.7	22.3	11.6	13.8	4.9	3.6	3.1	2.7	3.1	2.2
60～69歳	165	46.1	23.0	23.6	29.1	31.5	24.8	23.6	10.3	16.4	22.4	15.2	6.1	6.1	4.8	3.6	1.2	1.8
70歳以上	352	29.5	19.0	23.0	32.4	45.5	18.8	27.0	4.8	14.8	25.0	13.4	9.7	4.8	4.0	3.7	2.0	4.5

(4) 人権侵害を感じたこと

◇「ある」が約2割

問 25. あなたは、日常生活の中であなた自身またはあなたの周りの人の人権が侵害されたと感じたことはありますか。(〇は1つ)

図表7-4-1 人権侵害を感じたこと



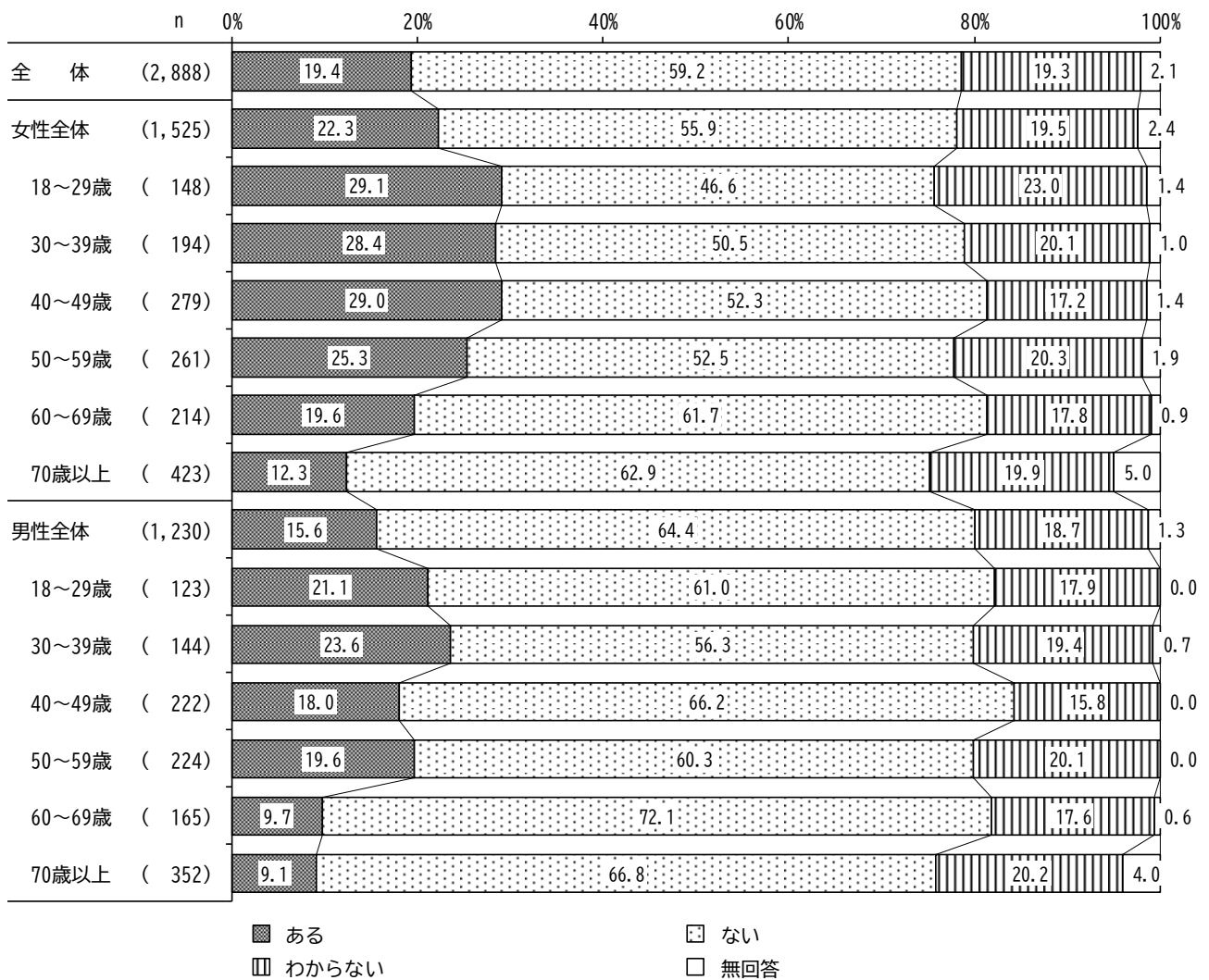
日常生活の中で、自身や周りの人の人権が侵害されたと感じたことがあるかを聞いたところ、「ある」(19.4%)が約2割、「ない」(59.2%)が約6割となっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

性別で見ると、「ある」は女性（22.3%）が男性（15.6%）を6.7ポイント上回っている。一方、「ない」は男性（64.4%）が女性（55.9%）を8.5ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、女性は18～29歳が「ある」（29.1%）が最も多く、30歳代・40歳代（28.4%、29.0%）も同水準であるが、50歳代（25.3%）以上では年齢が上がるにつれ減少する傾向にある。男性は30歳代で「ある」（23.6%）が2割強を占め、18～29歳・50歳代（21.1%、19.6%）も約2割となっているが、60歳代・70歳以上（9.7%、9.1%）は1割未満となっている。

図表7-4-2 性・年齢別 人権侵害を感じたこと

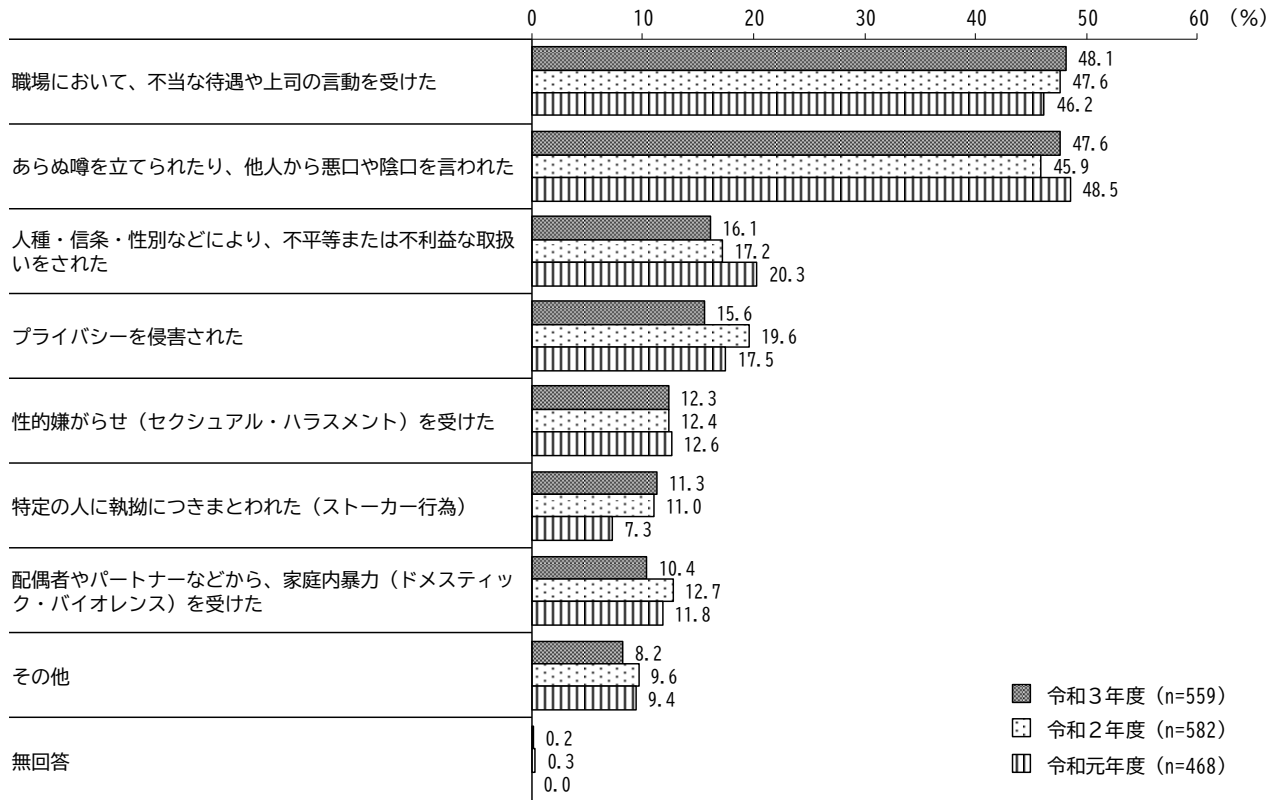


(5) 人権侵害を感じた内容

◇「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」が最も多く、5割弱

問 25-2. 問 25 で「1. ある」と答えた方に伺います。
人権が侵害されたと感じたことは、どのような内容ですか。(複数回答可)

図表 7-5-1 人権侵害を感じた内容



人権が侵害されたと感じたことが「ある」と回答した 559 人に、人権侵害を感じた内容について聞いたところ、「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」(48.1%) が最も多く、次いで「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」(47.6%)、「人種・信条・性別などにより、不平等または不利益な取扱いをされた」(16.1%)、「プライバシーを侵害された」(15.6%)、「性的嫌がらせ(セクシュアル・ハラスメント)を受けた」(12.3%) の順となっている。

過去 2 回の調査と比較すると、上位 2 項目は概ね同水準で推移しているが、「人種・信条・性別などにより、不平等または不利益な取扱いをされた」は減少傾向にある。また、「プライバシーを侵害された」は令和 2 年度 (19.6%) と比べ 4.0 ポイント減少し、順位を下げている。

性別でみると、「性的嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた」は女性（16.8%）が男性（4.2%）を12.6ポイント上回っている。「配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた」（女性13.8%、男性5.2%）、「特定の人に執拗につきまわられた（ストーカー行為）」（女性13.8%、男性7.3%）についても、女性の方が多くなっている。一方、「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」は男性（56.3%）が女性（43.5%）を12.8ポイント上回っており、「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」（男性50.5%、女性46.2%）についても、男性の方が多くなっている。

性・年齢別でみると、「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」は男性30歳代・40歳代（67.6%、70.0%）で6割を超えた。また、女性30歳代・50歳代・60歳代（50.9%、59.1%、52.4%）と男性50歳代（54.5%）も5割を超え、各年齢で最も多くなっている。一方、「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」は女性70歳以上（59.6%）と男性30歳代・40歳代・70歳以上（58.8%、55.0%、53.1%）で5割を超え、女性18～29歳・40歳代・70歳以上（44.2%、43.2%）と男性70歳以上では最も多くなっている。また、「人種・信条・性別などにより、不平等または不利益な取扱いをされた」は女性18～29歳（32.6%）、「性的嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた」は女性30歳代（30.9%）で3割を超えている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

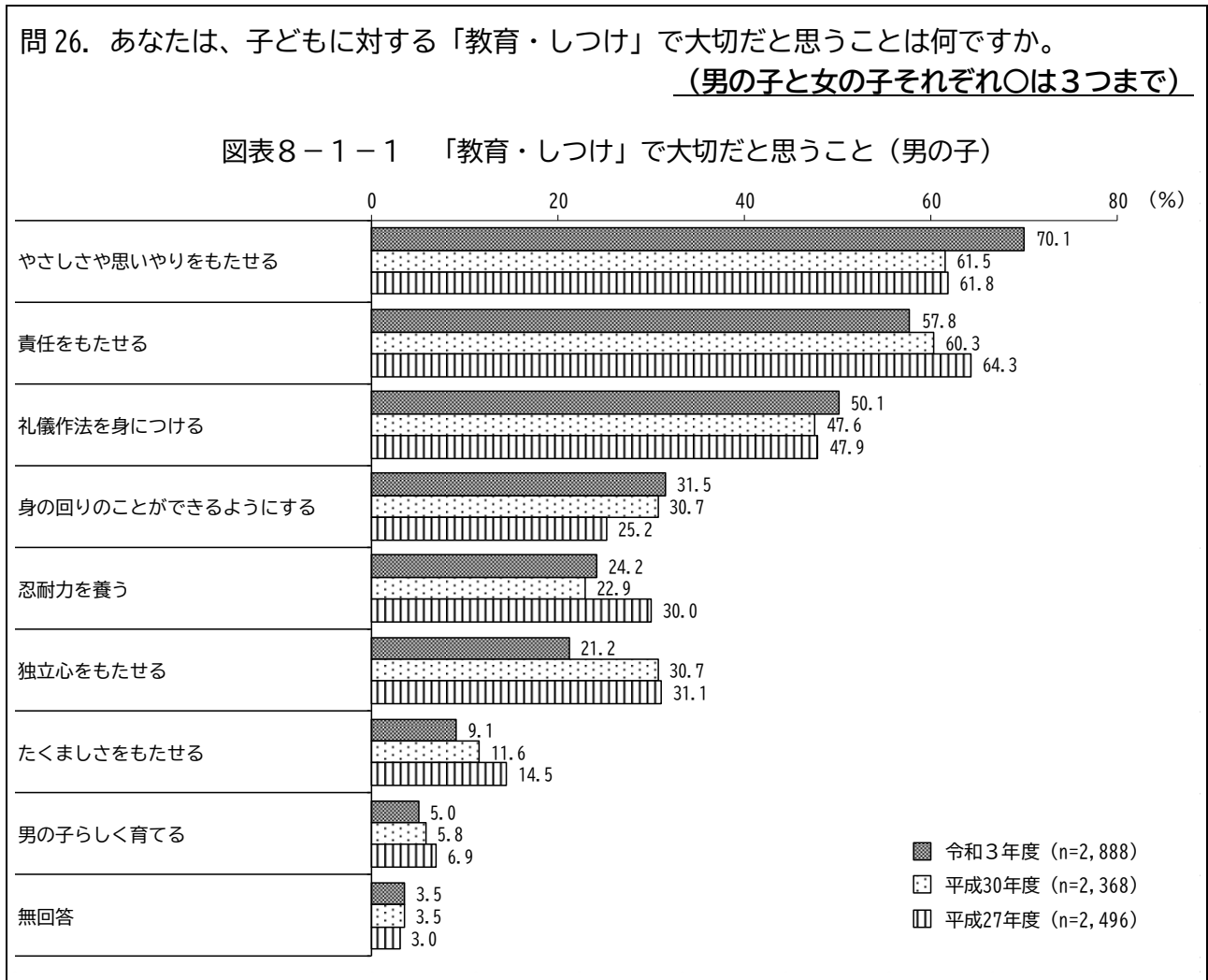
図表7-5-2 性・年齢別 人権侵害を感じた内容

	調査数（人）	職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた	あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた	人種・信条・性別などにより、不平等または不利益な取扱いをされた	プライバシーを侵害された	性的嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた	特定の人に執拗につきまわられた（ストーカー行為）	家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた	配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた	その他	無回答
全体	559	48.1	47.6	16.1	15.6	12.3	11.3	10.4	8.2	0.2	
女性全体	340	43.5	46.2	15.9	13.5	16.8	13.8	13.8	8.8	0.3	
18～29歳	43	39.5	44.2	32.6	14.0	20.9	18.6	9.3	7.0	-	
30～39歳	55	50.9	38.2	20.0	18.2	30.9	21.8	12.7	7.3	-	
40～49歳	81	40.7	43.2	16.0	8.6	21.0	11.1	16.0	6.2	1.2	
50～59歳	66	59.1	47.0	10.6	13.6	16.7	10.6	15.2	13.6	-	
60～69歳	42	52.4	45.2	7.1	21.4	7.1	9.5	19.0	7.1	-	
70歳以上	52	15.4	59.6	11.5	9.6	-	13.5	9.6	11.5	-	
男性全体	192	56.3	50.5	17.7	19.8	4.2	7.3	5.2	6.8	-	
18～29歳	26	38.5	50.0	38.5	23.1	7.7	11.5	3.8	-	-	
30～39歳	34	67.6	58.8	14.7	17.6	5.9	8.8	2.9	8.8	-	
40～49歳	40	70.0	55.0	17.5	22.5	10.0	10.0	7.5	5.0	-	
50～59歳	44	54.5	36.4	9.1	15.9	-	6.8	9.1	11.4	-	
60～69歳	16	56.3	56.3	6.3	18.8	-	6.3	-	6.3	-	
70歳以上	32	43.8	53.1	21.9	21.9	-	-	3.1	6.3	-	

8. 男女共同参画について

(1) 「教育・しつけ」で大切だと思うこと（男の子）

◇「やさしさや思いやりをもたせる」が最も多く、約7割



子ども（男の子）に対する「教育・しつけ」で大切だと思うことは、「やさしさや思いやりをもたせる」（70.1%）が最も多く、次いで「責任をもたせる」（57.8%）、「礼儀作法を身につける」（50.1%）、「身の回りのことができるようにする」（31.5%）、「忍耐力を養う」（24.2%）の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「やさしさや思いやりをもたせる」は平成30年度（61.5%）と比べ8.6ポイント増加し、「身の回りのことができるようにする」も増加傾向にある。一方、「独立心をもたせる」（21.2%）は平成30年度（30.7%）と比べ9.5ポイント減少し、「責任をもたせる」「たくましさをもたせる」「男の子らしく育てる」も減少傾向にある。

性別で見ると、「身の回りのことができるようにする」（女性 35.3%、男性 27.2%）は 8.1 ポイント、「やさしさや思いやりをもたせる」（女性 74.1%、男性 66.4%）は 7.7 ポイント、女性が男性を上回っている。一方、「礼儀作法を身につける」は男性（54.8%）が女性（47.0%）を 7.8 ポイント上回っている。

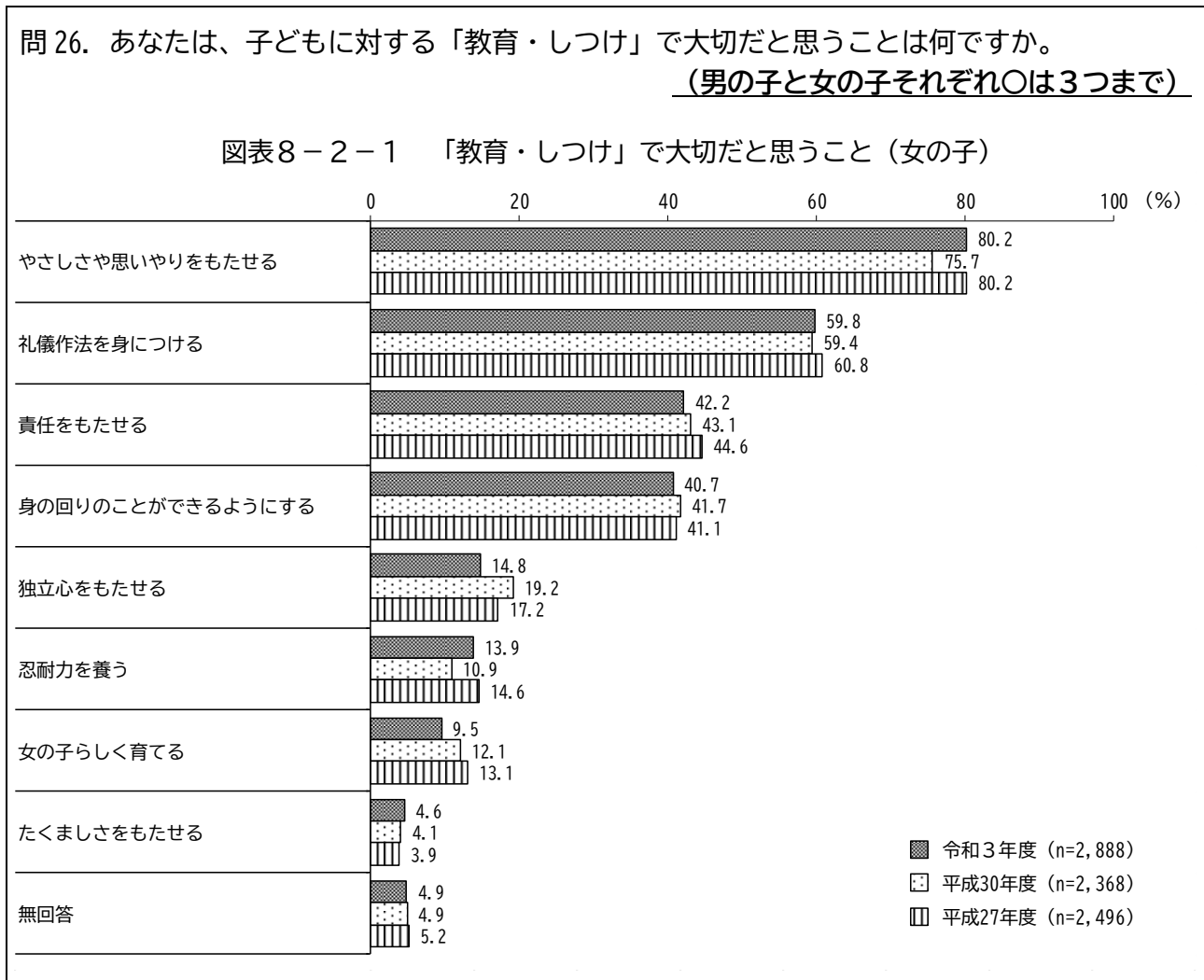
性・年齢別で見ると、「やさしさや思いやりをもたせる」は女性 18～29 歳・30 歳代（83.1%、83.0%）を筆頭に男女すべての年齢で 5 割を超えており、男性 70 歳以上（57.4%）を除く年齢で最も多くなっている。「責任をもたせる」は男性 70 歳以上（59.4%）で最も多く、女性全年齢と 18～29 歳（49.6%）を除く男性で 5 割を超え、「礼儀作法を身につける」は女性 18～29 歳・30 歳代（58.1%、53.1%）と 30 歳代（49.3%）を除く男性で 5 割を超えている。また、「身の回りのことができるようにする」は女性 40 歳代以下（43.2%、40.7%、44.8%）と男性 18～29 歳（43.9%）で 4 割台、「忍耐力を養う」は女性 70 歳以上（31.0%）で約 3 割を占めている。

図表 8-1-2 性・年齢別 「教育・しつけ」で大切だと思うこと（男の子）

	調査数（人）	やさしさや思いやりをもたせる	責任をもたせる	礼儀作法を身につける	身の回りのことができるようにする	忍耐力を養う	独立心をもたせる	たくましさをもたせる	男の子らしく育てる	無回答
全体	2,888	70.1	57.8	50.1	31.5	24.2	21.2	9.1	5.0	3.5
女性全体	1,525	74.1	58.6	47.0	35.3	23.8	22.1	9.4	3.2	3.5
18～29歳	148	83.1	55.4	58.1	43.2	12.2	12.8	9.5	3.4	2.0
30～39歳	194	83.0	54.6	53.1	40.7	19.1	17.5	11.3	1.5	3.1
40～49歳	279	79.6	57.3	45.2	44.8	21.9	16.5	10.0	1.4	2.9
50～59歳	261	78.2	60.5	46.0	35.6	26.1	20.3	9.6	1.9	2.3
60～69歳	214	74.3	62.6	43.9	32.7	21.5	27.6	10.3	2.8	3.3
70歳以上	423	61.0	58.9	43.5	25.5	31.0	29.3	7.6	6.1	5.4
男性全体	1,230	66.4	57.3	54.8	27.2	24.3	20.2	8.9	6.8	3.1
18～29歳	123	72.4	49.6	55.3	43.9	17.1	20.3	8.9	2.4	0.8
30～39歳	144	77.8	54.9	49.3	36.8	18.1	17.4	13.2	4.2	2.8
40～49歳	222	71.2	59.5	51.8	26.1	24.8	19.4	9.9	9.9	1.8
50～59歳	224	63.8	53.1	61.2	28.6	27.2	21.9	8.5	4.5	1.8
60～69歳	165	68.5	63.6	55.2	18.8	24.2	20.6	7.3	8.5	3.0
70歳以上	352	57.4	59.4	54.5	21.3	27.3	20.5	7.4	8.2	5.7

(2)「教育・しつけ」で大切だと思うこと（女の子）

◇「やさしさや思いやりをもたせる」が最も多く、約8割



子ども（女の子）に対する「教育・しつけ」で大切だと思うことは、「やさしさや思いやりをもたせる」（80.2%）が最も多く、次いで「礼儀作法を身につける」（59.8%）、「責任をもたせる」（42.2%）、「身の回りのことができるようにする」（40.7%）、「独立心をもたせる」（14.8%）の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「やさしさや思いやりをもたせる」は平成30年度（75.7%）と比べ4.5ポイント増加している。一方、「独立心をもたせる」は平成30年度（19.2%）と比べ4.4ポイント減少し、「責任をもたせる」「女の子らしく育てる」も減少傾向にある。

性別で見ると、「身の回りのことができるようにする」（女性 44.3%、男性 37.1%）は 7.2 ポイント、「やさしさや思いやりをもたせる」（女性 83.3%、男性 77.1%）は 6.2 ポイント、「責任をもたせる」（女性 45.0%、男性 39.8%）は 5.2 ポイント、女性が男性を上回っている。一方、「女の子らしく育てる」は男性（13.3%）が女性（6.0%）を 7.3 ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「やさしさや思いやりをもたせる」は女性全年齢と男性 30 歳代（84.0%）で 8 割台、30 歳代を除く男性も 7 割台を占めている。「礼儀作法を身につける」についても、男女すべての年齢で 5 割を超えている。また、「身の回りのことができるようにする」は女性 18～29 歳（53.4%）と男性 30 歳代（50.0%）で 5 割台となっている。一方、「独立心をもたせる」は女性 60 歳代（22.0%）、「女の子らしく育てる」は男性 60 歳代・70 歳以上（15.8%、19.3%）、「たくましさをもたせる」は男性 18～29 歳（10.6%）で全体を 5 ポイント以上上回っている。

図表 8-2-2 性・年齢別 「教育・しつけ」で大切だと思うこと（女の子）

	調査数（人）	やさしさや思いやりをもたせる	礼儀作法を身につける	責任をもたせる	身の回りのことができるようにする	独立心をもたせる	忍耐力を養う	女の子らしく育てる	たくましさをもたせる	無回答
全体	2,888	80.2	59.8	42.2	40.7	14.8	13.9	9.5	4.6	4.9
女性全体	1,525	83.3	58.9	45.0	44.3	15.9	14.3	6.0	5.2	3.9
18～29歳	148	86.5	60.1	48.0	53.4	12.8	9.5	4.1	7.4	1.4
30～39歳	194	87.1	61.9	43.3	45.4	16.0	13.4	4.1	6.7	4.1
40～49歳	279	81.7	58.1	45.5	48.4	11.8	14.0	3.9	7.2	4.3
50～59歳	261	86.2	56.7	49.0	48.7	13.8	16.5	3.1	4.6	1.9
60～69歳	214	82.7	54.2	47.7	43.5	22.0	15.0	5.1	5.6	3.3
70歳以上	423	80.6	61.0	40.2	36.2	17.7	14.9	11.1	2.6	5.9
男性全体	1,230	77.1	61.4	39.8	37.1	13.7	13.2	13.3	4.1	5.2
18～29歳	123	74.0	61.8	39.0	48.8	18.7	9.8	4.9	10.6	1.6
30～39歳	144	84.0	56.3	47.9	50.0	10.4	11.1	8.3	2.8	2.1
40～49歳	222	77.0	61.7	42.8	34.2	17.6	14.4	11.3	5.9	4.5
50～59歳	224	79.9	65.6	35.3	32.6	14.3	16.1	11.6	4.5	4.9
60～69歳	165	76.4	61.2	44.2	32.1	14.5	12.7	15.8	3.6	5.5
70歳以上	352	73.9	60.5	35.8	34.7	10.2	12.8	19.3	1.1	8.2

「身体的暴力」について性別で見ると、「1～2度あった」は女性（14.1%）が男性（6.7%）を7.4ポイント上回っており、『あった』も女性（17.4%）が男性（8.4%）を9.0ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、女性は『あった』が50歳代・70歳以上（21.1%、19.1%）で約2割、30歳代・40歳代・60歳代（17.5%、16.5%、16.4%）で1割半ば～2割弱となっている。一方、男性は『あった』が30歳代～50歳代（10.4%、9.9%、10.3%）で約1割、それ以外は1割未満となっている。

「精神的暴力」について性別で見ると、『あった』は女性（17.8%）が男性（10.4%）を7.4ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、女性は『あった』が50歳代（22.2%）で2割強を占め、それ以外の年齢も1割台となっている。一方、男性は30歳代・40歳代（15.3%、12.6%）で『あった』が1割を超え、それ以外の年齢は1割未満となっている。

「性的暴力」について性別で見ると、「1～2度あった」は女性（7.3%）が男性（1.1%）を6.2ポイント上回っており、『あった』も女性（9.8%）が男性（1.3%）を8.5ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、『あった』は女性30歳代・50歳代・60歳代（11.9%、10.3%、10.7%）で1割台となっている。一方、男性はすべての年齢で1割未満となっている。

「経済的暴力」について性別で見ると、『あった』は女性（9.0%）が男性（3.3%）を5.7ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、女性は『あった』が40歳代～60歳代（10.4%、14.2%、10.3%）で1割台となっている。一方、男性はすべての年齢で1割未満となっている。

図表8-3-2 性・年齢別 配偶者等からのDV（ドメスティック・バイオレンス）の有無 (%)

	調査数（人）	ア 身体的暴力				イ 精神的暴力			
		何度もあった	1〜2度あった	まったくない	無回答	何度もあった	1〜2度あった	まったくない	無回答
全体	2,888	2.7	10.8	84.2	2.3	4.1	10.6	83.0	2.3
女性全体	1,525	3.3	14.1	80.7	2.0	5.5	12.3	80.1	2.1
18～29歳	148	2.0	6.1	91.9	-	6.1	11.5	82.4	-
30～39歳	194	3.1	14.4	80.9	1.5	5.7	12.4	80.4	1.5
40～49歳	279	2.5	14.0	81.7	1.8	4.7	12.5	81.4	1.4
50～59歳	261	5.0	16.1	78.5	0.4	7.3	14.9	77.4	0.4
60～69歳	214	2.8	13.6	81.3	2.3	5.6	14.0	79.0	1.4
70歳以上	423	3.3	15.8	77.1	3.8	4.7	10.2	80.1	5.0
男性全体	1,230	1.6	6.7	89.4	2.2	2.1	8.3	87.7	1.9
18～29歳	123	2.4	3.3	91.9	2.4	0.8	5.7	91.9	1.6
30～39歳	144	1.4	9.0	88.2	1.4	4.9	10.4	83.3	1.4
40～49歳	222	2.3	7.7	88.7	1.4	2.3	10.4	86.0	1.4
50～59歳	224	2.2	8.0	89.7	-	2.7	7.1	90.2	-
60～69歳	165	-	4.2	95.2	0.6	0.6	8.5	89.7	1.2
70歳以上	352	1.4	6.8	86.6	5.1	1.7	7.7	86.6	4.0

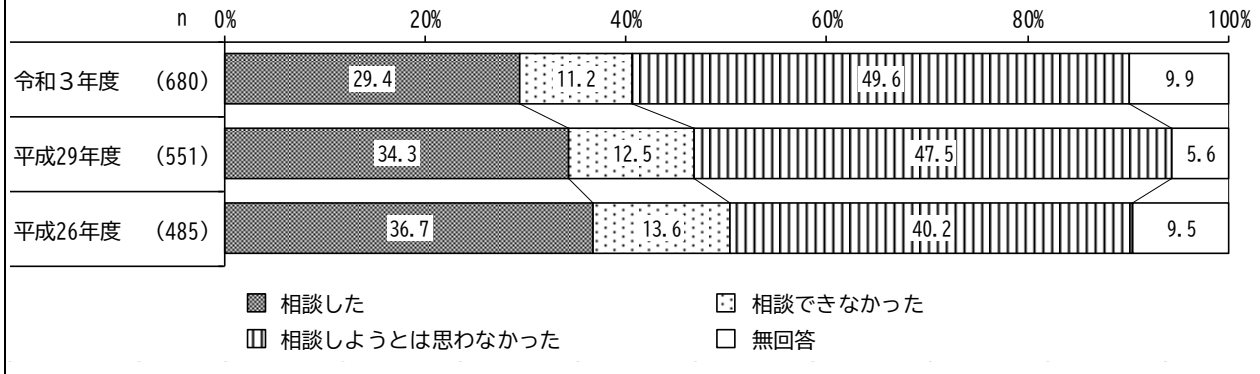
	調査数（人）	ウ 性的暴力				エ 経済的暴力			
		何度もあった	1〜2度あった	まったくない	無回答	何度もあった	1〜2度あった	まったくない	無回答
全体	2,888	1.5	4.6	91.6	2.3	2.1	4.4	91.3	2.1
女性全体	1,525	2.4	7.3	88.1	2.1	3.1	6.0	89.0	1.9
18～29歳	148	2.0	5.4	92.6	-	0.7	0.7	98.6	-
30～39歳	194	2.1	9.8	87.1	1.0	3.1	4.1	91.8	1.0
40～49歳	279	2.2	6.8	89.6	1.4	2.9	7.5	88.2	1.4
50～59歳	261	2.7	7.7	89.3	0.4	4.6	9.6	85.4	0.4
60～69歳	214	3.7	7.0	87.4	1.9	4.2	6.1	88.3	1.4
70歳以上	423	1.9	7.1	86.1	5.0	2.6	5.4	87.5	4.5
男性全体	1,230	0.2	1.1	96.8	1.9	0.9	2.4	94.8	2.0
18～29歳	123	-	0.8	97.6	1.6	1.6	0.8	95.9	1.6
30～39歳	144	-	0.7	97.2	2.1	1.4	1.4	95.1	2.1
40～49歳	222	-	1.4	97.3	1.4	0.5	2.7	95.5	1.4
50～59歳	224	-	0.9	99.1	-	1.3	2.2	96.4	-
60～69歳	165	-	1.2	98.2	0.6	0.6	2.4	96.4	0.6
70歳以上	352	0.9	1.1	94.0	4.0	0.6	3.1	92.0	4.3

(4) 配偶者等からDVを受けたときの相談の有無

◇『相談しなかった』が約6割

問28. 問27のア～エのうち、1つでも「1」または「2」(そのような行為があった)と答えた方に伺います。あなたは、その行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(〇は1つ)

図表8-4-1 配偶者等からDVを受けたときの相談の有無



配偶者等からDVを受けたことがあると回答した680人に、相談の有無を聞いたところ、「相談しようとは思わなかった」(49.6%)が最も多く、「相談できなかった」(11.2%)を合わせた『相談しなかった』(60.7%)は約6割となっている。一方、「相談した」(29.4%)は約3割となっている。

過去2回の調査と比較すると、『相談しなかった』は平成29年度(60.0%)とほぼ同水準となった。一方、「相談した」は減少傾向にあり、平成29年度(34.3%)と比べ4.9ポイント減少している。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

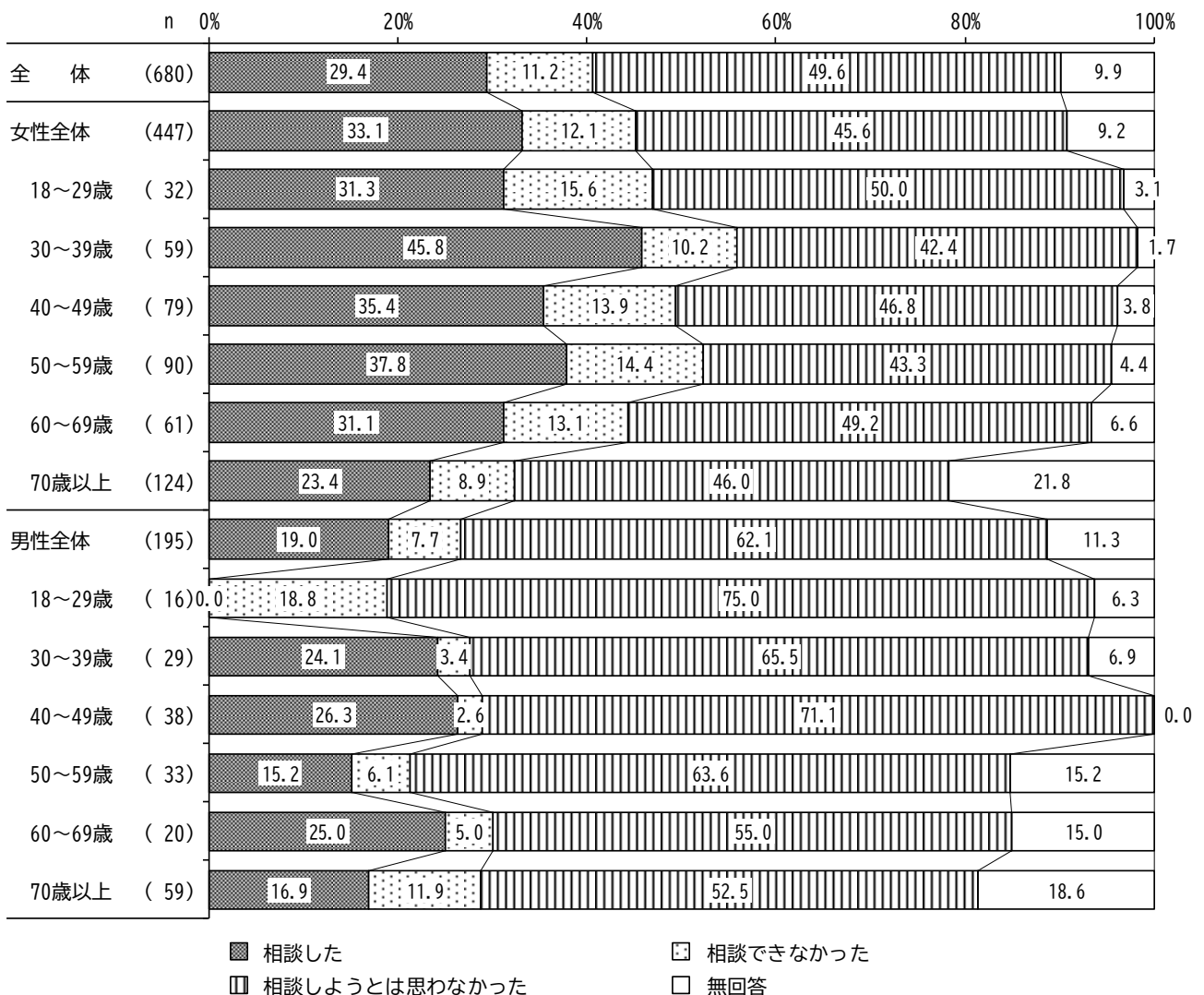
第4章 調査結果の詳細

性別で見ると、『相談しなかった』は男性（69.7%）が女性（57.7%）を12.0ポイント上回っている。また、男性は「相談しようとは思わなかった」（62.1%）が6割強を占め、女性（45.6%）より16.5ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、男女ともすべての年齢で『相談しなかった』が過半数を占めている。また、男性は「相談しようとは思わなかった」が40歳代（71.1%）で約7割を占め、50歳代・70歳以上（63.6%、52.5%）も5割を超えている。一方、「相談した」は女性30歳代（45.8%）が最も多く、女性18～29歳・40歳代～60歳代（31.3%、35.4%、37.8%、31.1%）も3割台となっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表8-4-2 性・年齢別 配偶者等からDVを受けたときの相談の有無



(5) 相談した人（場所）

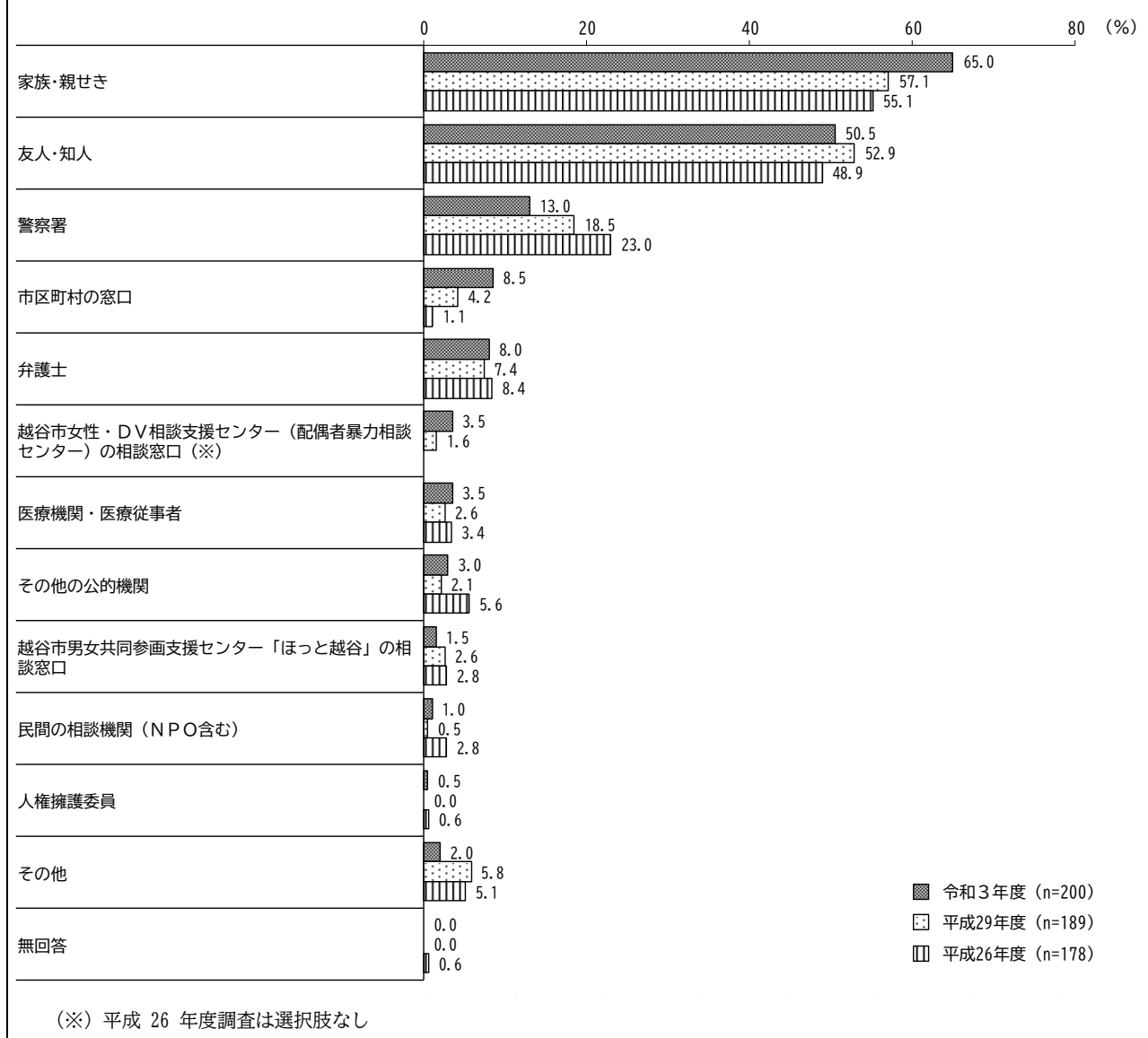
◇「家族・親せき」が最も多く、6割半ば

問 28-2. 問 28 で「1. 相談した」と答えた方に伺います。

あなたが相談した人（場所）について、次の中から当てはまるものを選んでください。

(複数回答可)

図表 8-5-1 相談した人（場所）



配偶者等からDVを受けたとき誰かに「相談した」と回答した200人に、相談した人（場所）を聞いたところ、「家族・親せき」（65.0%）が最も多く、次いで、「友人・知人」（50.5%）、「警察署」（13.0%）、「市区町村の窓口」（8.5%）、「弁護士」（8.0%）の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「家族・親せき」は平成29年度（57.1%）と比べ7.9ポイント、「市区町村の窓口」は平成29年度（4.2%）と比べ4.3ポイント増加し、それぞれ増加傾向が続いている。一方、「警察署」は平成29年度（18.5%）と比べ5.5ポイント減少し、平成26年度以降減少傾向となっている。

第4章 調査結果の詳細

性別で見ると、「家族・親戚」は女性（68.2%）が男性（51.4%）を16.8ポイント上回っている。また、「友人・知人」（女性 54.7%、男性 43.2%）も女性の方が多くなっている。一方、「弁護士」は男性（18.9%）が女性（5.4%）を13.5ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、女性 50 歳代は「家族・親戚」（70.6%）が約7割、「友人・知人」が4割半ば、「警察署」（17.6%）が2割弱となっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表8-5-2 性・年齢別 相談した人（場所）

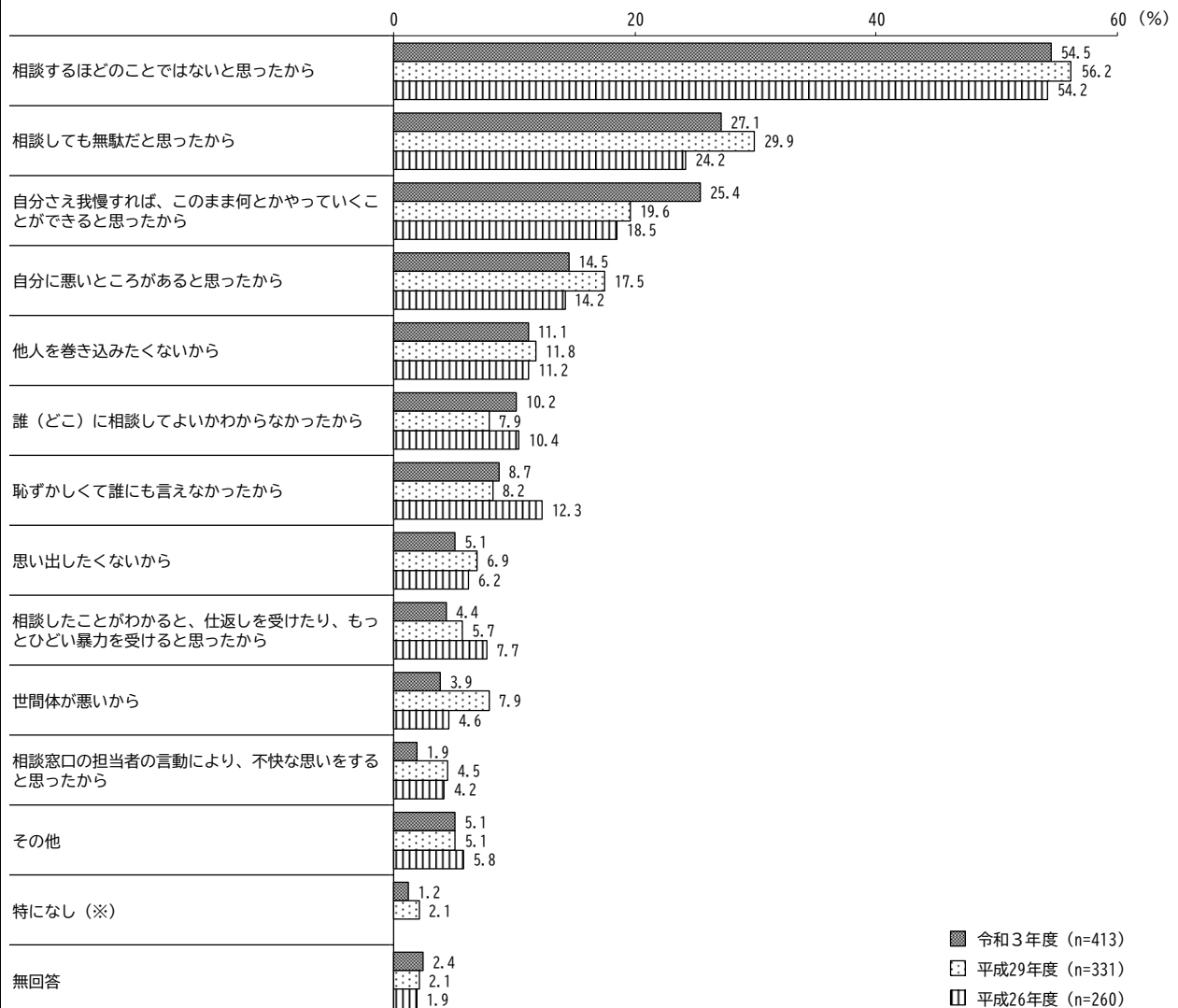
	調査数（人）	家族・親せき	友人・知人	警察署	市区町村の窓口	弁護士	（越谷市女性・DV相談支援センター）の相談窓口 （配偶者暴力相談センター）の相談窓口	医療機関・医療従事者	その他の公的機関	「越谷市男女共同参画支援センター」の相談窓口	民間の相談機関（NPO含む）	人権擁護委員	その他	無回答
全体	200	65.0	50.5	13.0	8.5	8.0	3.5	3.5	3.0	1.5	1.0	0.5	2.0	-
女性全体	148	68.2	54.7	12.8	8.8	5.4	4.7	2.7	2.0	2.0	0.7	-	1.4	-
18～29歳	10	70.0	70.0	-	10.0	10.0	-	-	-	-	-	-	10.0	-
30～39歳	27	74.1	51.9	25.9	7.4	3.7	7.4	3.7	-	-	-	-	-	-
40～49歳	28	60.7	60.7	-	14.3	7.1	10.7	3.6	3.6	3.6	3.6	-	-	-
50～59歳	34	70.6	44.1	17.6	8.8	8.8	2.9	2.9	2.9	5.9	-	-	2.9	-
60～69歳	19	78.9	68.4	10.5	10.5	5.3	-	-	-	-	-	-	-	-
70歳以上	29	62.1	48.3	13.8	3.4	-	3.4	3.4	3.4	-	-	-	-	-
男性全体	37	51.4	43.2	16.2	8.1	18.9	-	5.4	2.7	-	2.7	-	5.4	-
18～29歳	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30～39歳	7	42.9	85.7	28.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40～49歳	10	50.0	50.0	-	20.0	20.0	-	10.0	-	-	-	-	10.0	-
50～59歳	5	60.0	40.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
60～69歳	5	60.0	20.0	-	-	20.0	-	-	20.0	-	-	-	20.0	-
70歳以上	10	50.0	20.0	30.0	10.0	40.0	-	10.0	-	-	10.0	-	-	-

(6) 相談しなかった理由

◇「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多く、5割半ば

問 28-3. 問 28 で「2」または「3」と答えた方に伺います。あなたが誰（どこ）にも相談しなかった理由は、次のうちどれですか。当てはまるものを選んでください。（複数回答可）

図表 8-6-1 相談しなかった理由



（※）平成 26 年度調査は選択肢なし

配偶者等からDVを受けたとき誰にも「相談できなかった」または「相談しようとは思わなかった」と回答した 413 人に、誰（どこ）にも相談しなかった理由を聞いたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」(54.5%) が最も多く、次いで、「相談しても無駄だと思ったから」(27.1%)、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」(25.4%) の順となっている。

過去 2 回の調査と比較すると、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」は平成 29 年度 (19.6%) と比べ 5.8 ポイント増加し、増加傾向が続いている。

第4章 調査結果の詳細

性別でみると、「誰（どこ）に相談してよいかわからなかったから」は女性（13.2%）が男性（4.4%）を8.8ポイント上回っている。また、「相談しても無駄だと思ったから」（女性29.8%、男性24.3%）、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」（女性27.5%、男性22.1%）も女性の方が多くなっている。一方、「相談するほどのことではないと思ったから」は男性（60.3%）が女性（51.2%）を9.1ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「相談するほどのことではないと思ったから」は女性30歳代・50歳代・70歳以上（58.1%、51.9%、55.9%）と男性70歳以上（50.0%）で5割台となっており、各年齢で最も多くなっている。また、「相談しても無駄だと思ったから」は女性50歳代・60歳代（32.7%、31.6%）、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」は女性60歳代（34.2%）と男性70歳以上（31.6%）、「自分に悪いところがあると思ったから」は女性40歳代（31.3%）で3割台となっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表8-6-2 性・年齢別 相談しなかった理由

	調査数（人）	相談するほどのことではないと思ったから	相談しても無駄だと思ったから	自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから	自分に悪いところがあると思ったから	他人を巻き込みたくないから	誰（どこ）に相談してよいかわからなかったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	思い出したくないから	もつとひどい暴力を受けると思ったり、相談したことがわかると、仕返しを受けたり、	世間体が悪いから	相談窓口の担当者により、不快な思いをすると思ったから	その他	特になし	無回答
全体	413	54.5	27.1	25.4	14.5	11.1	10.2	8.7	5.1	4.4	3.9	1.9	5.1	1.2	2.4
女性全体	258	51.2	29.8	27.5	15.9	12.4	13.2	10.1	6.2	5.4	3.9	2.7	7.4	1.6	1.6
18～29歳	21	38.1	33.3	38.1	23.8	33.3	-	19.0	14.3	9.5	4.8	4.8	9.5	9.5	-
30～39歳	31	58.1	25.8	16.1	9.7	9.7	16.1	12.9	12.9	3.2	3.2	6.5	16.1	-	-
40～49歳	48	47.9	27.1	29.2	31.3	8.3	16.7	16.7	6.3	10.4	6.3	-	6.3	2.1	-
50～59歳	52	51.9	32.7	25.0	13.5	7.7	13.5	5.8	5.8	3.8	5.8	3.8	5.8	-	-
60～69歳	38	47.4	31.6	34.2	10.5	10.5	21.1	10.5	2.6	5.3	2.6	2.6	7.9	-	-
70歳以上	68	55.9	29.4	26.5	10.3	14.7	8.8	4.4	2.9	2.9	1.5	1.5	4.4	1.5	5.9
男性全体	136	60.3	24.3	22.1	14.0	9.6	4.4	5.9	3.7	2.2	4.4	-	0.7	0.7	3.7
18～29歳	15	46.7	33.3	6.7	-	13.3	6.7	13.3	13.3	-	6.7	-	6.7	-	-
30～39歳	20	75.0	30.0	20.0	20.0	10.0	-	-	-	5.0	10.0	-	-	5.0	-
40～49歳	28	67.9	17.9	10.7	17.9	7.1	7.1	-	3.6	3.6	-	-	-	-	-
50～59歳	23	56.5	30.4	21.7	13.0	8.7	8.7	13.0	4.3	4.3	4.3	-	-	-	4.3
60～69歳	12	75.0	33.3	41.7	16.7	-	-	-	-	-	8.3	-	-	-	-
70歳以上	38	50.0	15.8	31.6	13.2	13.2	2.6	7.9	2.6	-	2.6	-	-	-	10.5

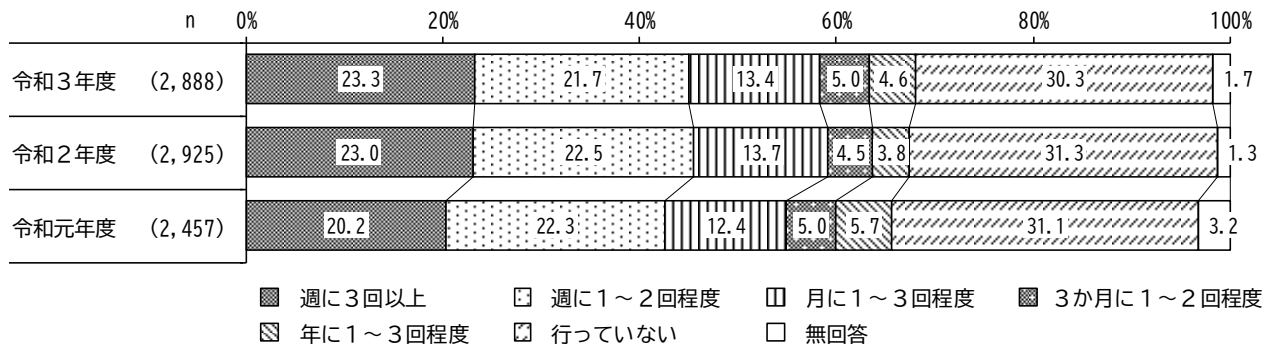
9. スポーツ・レクリエーションの実施状況について

(1) スポーツ・レクリエーション活動の実施状況

◇『週に1回以上』が4割半ば、『月に1回以上』が6割弱

問 29. この1年間でどのくらいスポーツ・レクリエーション活動を行いましたか
(ウオーキング・徒歩や軽い体操も含みます)。(○は1つ)

図表9-1-1 スポーツ・レクリエーション活動の実施状況



この1年間のスポーツ・レクリエーション活動の実施状況については、「週に3回以上」(23.3%)と「週に1～2回程度」(21.7%)を合わせた『週に1回以上』(45.0%)は4割半ば、『週に1回以上』と「月に1～3回程度」(13.4%)を合わせた『月に1回以上』(58.4%)は6割弱となっている。一方、「行っていない」(30.3%)は約3割となっている。

過去2回の調査と比較すると、『週に1回以上』『月に1回以上』とも令和2年度(45.5%、59.2%)と概ね同様の傾向となっている。

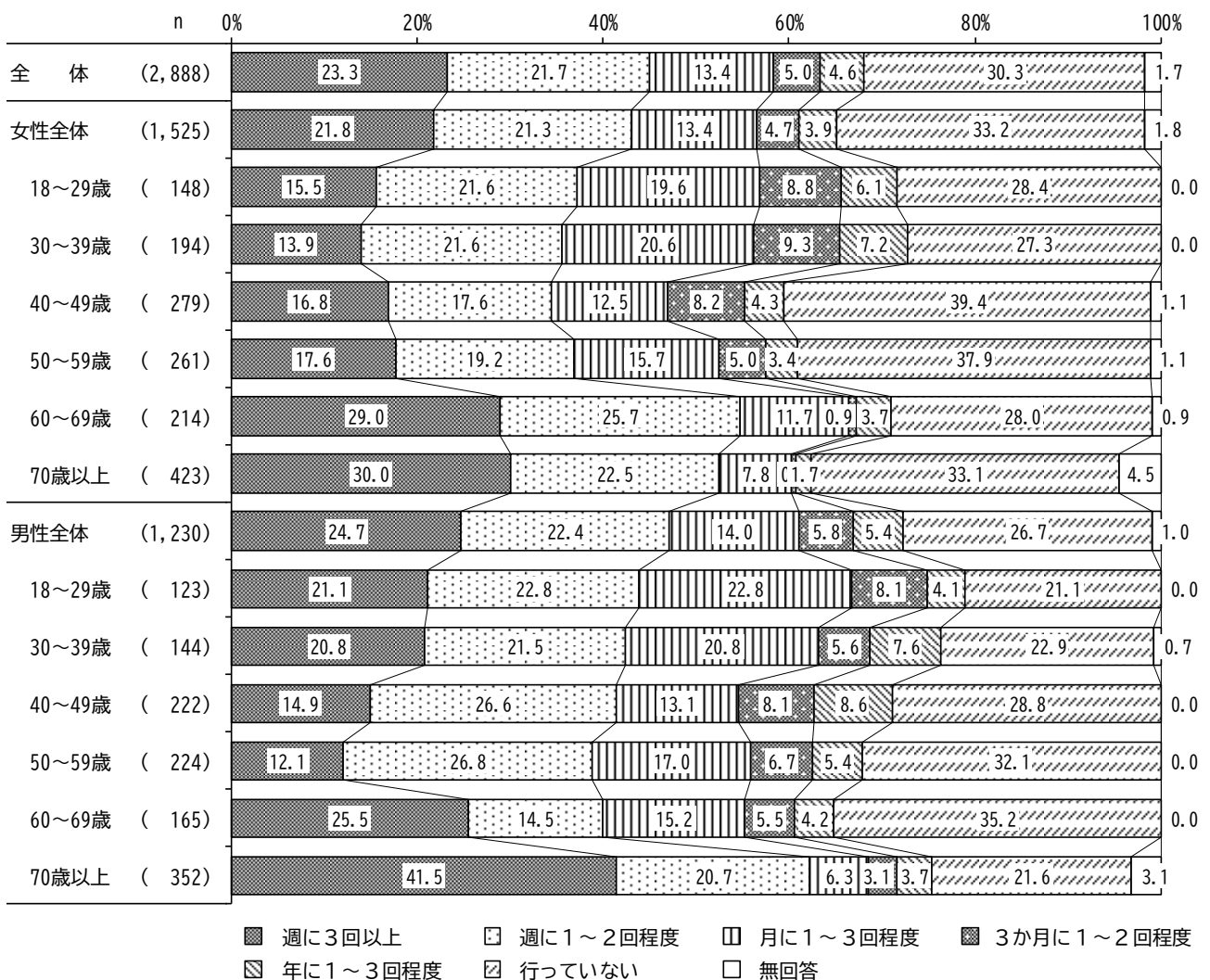
※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

第4章 調査結果の詳細

性別でみると、『週に1回以上』（女性43.1%、男性47.1%）は4.0ポイント、『月に1回以上』（女性56.5%、男性61.1%）は4.6ポイント、男性が女性を上回っている。

性・年齢別でみると、女性は『週に1回以上』が50歳代以下（37.2%、35.6%、34.4%、36.8%）で3割台、60歳代以上（54.7%、52.5%）で5割台となっている。また、『月1回以上』は60歳代以上（66.4%、60.3%）で6割を超えるが、40歳代（47.0%）は5割弱となっている。一方、男性は『週に1回以上』が70歳以上（62.2%）で6割強、50歳代（38.8%）で4割弱、それ以外は4割台となっている。また、『月1回以上』は18～29歳・30歳代・70歳以上（66.7%、63.2%、68.5%）で6割を超え、それ以外の年齢も5割台となっている。『週に1回以上』『月1回以上』ともほとんどの年齢で男性が女性を上回っているが、60歳代は前者（女性54.7%、男性40.0%）が14.7ポイント、後者（女性66.4%、男性55.2%）が11.2ポイント、女性が男性を上回っている。

図表9-1-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動の実施状況

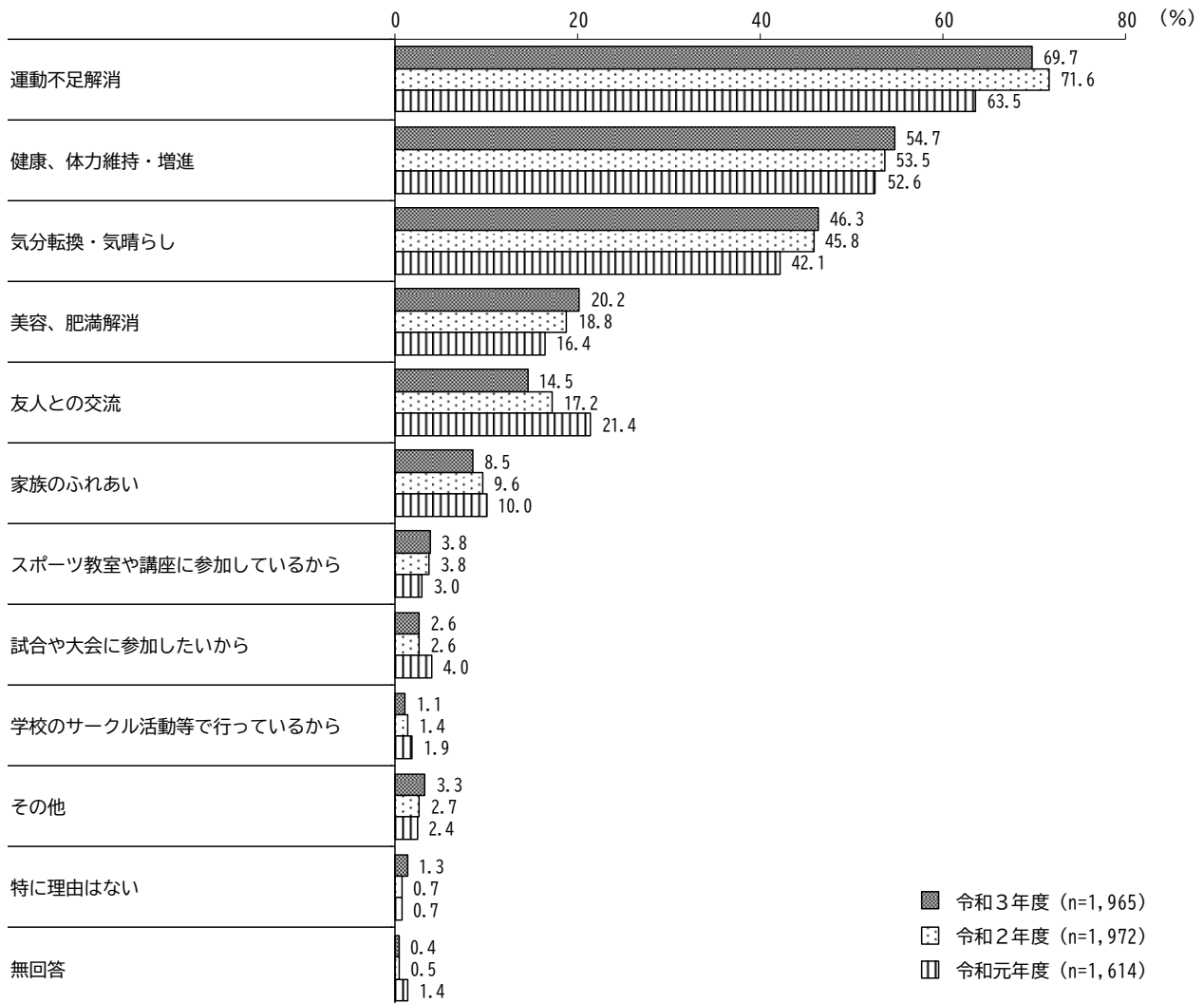


(2) スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由

◇「運動不足解消」が最も多く、約7割

問 29-2. 問 29 で「1」から「5」のいずれかと答えた方に伺います。あなたがスポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

図表9-2-1 スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由



この1年間でスポーツ・レクリエーション活動を行ったと回答した1,965人に、スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由を聞いたところ、「運動不足解消」(69.7%)が最も多く、次いで「健康、体力維持・増進」(54.7%)、「気分転換・気晴らし」(46.3%)、「美容、肥満解消」(20.2%)、「友人との交流」(14.5%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、上位項目に大きな変化はみられないが、「健康、体力維持・増進」「気分転換・気晴らし」「美容、肥満解消」が増加傾向にある一方、「友人との交流」は減少傾向にある。

第4章 調査結果の詳細

性別でみると、「美容、肥満解消」は女性（27.7%）が男性（12.4%）を15.3ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「運動不足解消」はすべての年齢で6割を超え、男性70歳以上（73.6%）を除く年齢で最も多くなっている。「健康、体力維持・増進」は男女とも年齢が上がるにつれ増加する傾向にあり、男性70歳以上（74.7%）は7割半ばを占め、最も多くなっている。一方「美容、肥満解消」は女性18～29歳（42.5%）で4割強、女性30歳代～50歳代（33.3%、38.0%、39.0%）で3割台を占めるが、60歳代以上（21.7%、9.1%）は低く、男性は30歳代（21.8%）を除き2割未満となっている。また、「気分転換・気晴らし」は男性18～29歳（62.9%）で6割強、女性30歳代（56.0%）と男性30歳代～50歳代（52.7%、50.0%、55.9%）で5割台となっている。「家族のふれあい」は男女とも30歳代（女性22.7%、男性18.2%）と40歳代（女性13.9%、男性14.6%）、「学校のサークル活動等で行っているから」は男性18～29歳（7.2%）で多くなっている。

図表9-2-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由

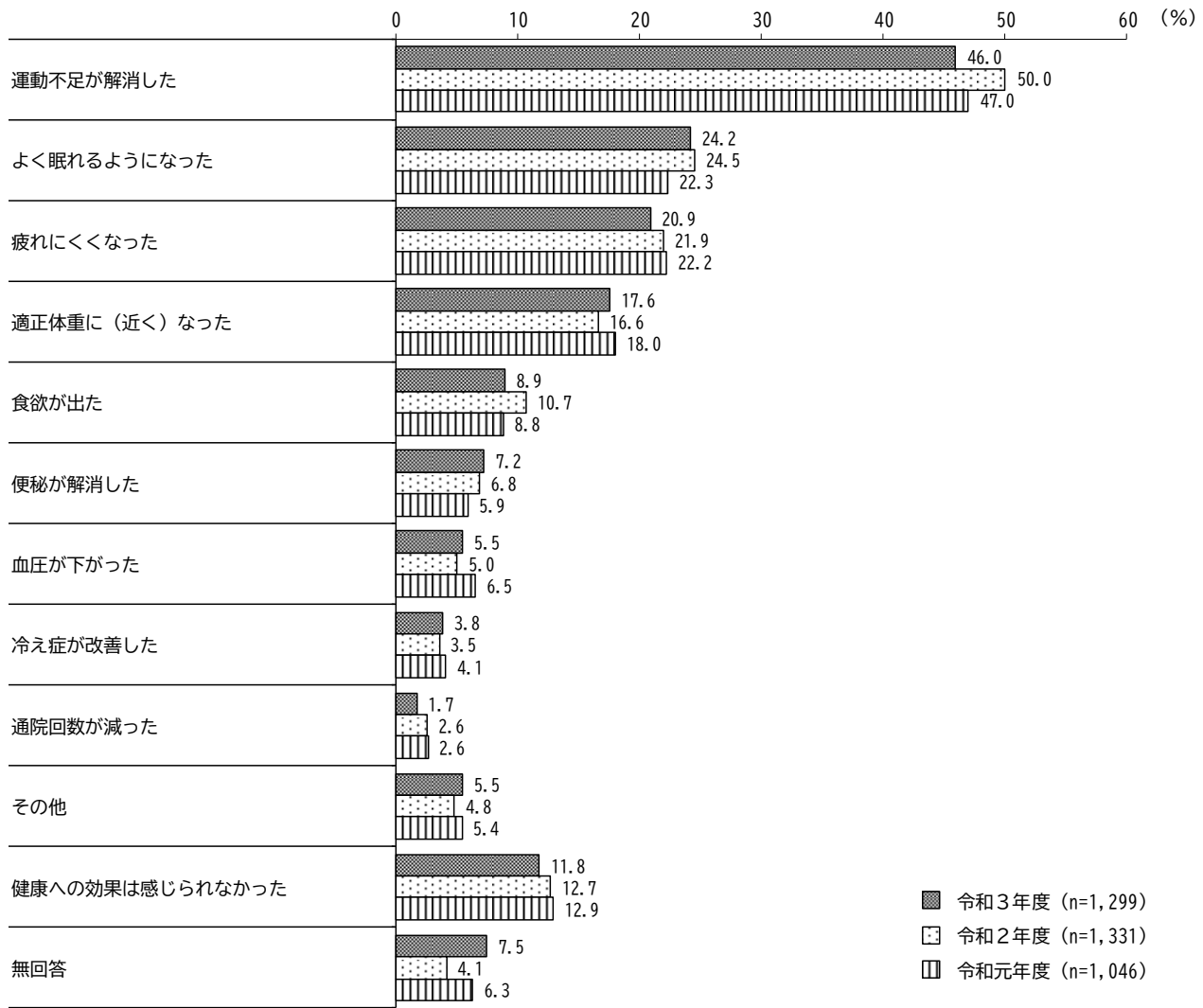
	調査数（人）	運動不足解消	健康、体力維持・増進	気分転換・気晴らし	美容、肥満解消	友人との交流	家族のふれあい	スポーツ教室や講座に参加しているから	試合や大会に参加したいから	学校のサークル活動等で行っているから	その他	特に理由はない	無回答
全体	1,965	69.7	54.7	46.3	20.2	14.5	8.5	3.8	2.6	1.1	3.3	1.3	0.4
女性全体	992	70.6	53.3	44.7	27.7	14.3	8.3	4.5	1.1	0.9	3.6	1.3	0.4
18～29歳	106	67.0	31.1	48.1	42.5	11.3	7.5	1.9	1.9	4.7	4.7	5.7	-
30～39歳	141	68.8	43.3	56.0	33.3	7.8	22.7	1.4	0.7	1.4	5.7	-	-
40～49歳	166	69.3	44.0	43.4	38.0	9.6	13.9	4.2	1.2	0.6	7.8	0.6	0.6
50～59歳	159	67.3	56.0	44.0	39.0	8.2	6.3	3.8	1.3	0.6	-	0.6	0.6
60～69歳	152	75.7	64.5	40.1	21.7	16.4	3.9	5.9	0.7	-	2.0	1.3	-
70歳以上	264	72.7	65.9	40.9	9.1	24.2	0.8	7.2	1.1	-	2.7	1.1	0.8
男性全体	889	69.5	55.8	49.0	12.4	14.6	9.1	2.7	4.5	1.1	3.0	1.1	0.1
18～29歳	97	62.9	35.1	62.9	13.4	18.6	4.1	1.0	6.2	7.2	4.1	3.1	-
30～39歳	110	67.3	43.6	52.7	21.8	11.8	18.2	4.5	6.4	-	1.8	0.9	-
40～49歳	158	67.7	47.5	50.0	16.5	12.0	14.6	2.5	6.3	0.6	5.1	0.6	-
50～59歳	152	71.7	52.6	55.9	15.1	14.5	7.9	3.9	4.6	1.3	1.3	2.0	-
60～69歳	107	67.3	57.0	49.5	11.2	9.3	12.1	0.9	4.7	-	3.7	-	-
70歳以上	265	73.6	74.7	37.7	4.5	18.1	3.4	2.6	1.9	-	2.6	0.8	0.4

(3) スポーツ・レクリエーション活動の効果

◇「運動不足が解消した」が最も多く、4割半ば

問 29-3. 問 29 で「1」または「2」と答えた方に伺います。スポーツ・レクリエーション活動をしたことで、どのような効果がありましたか。(複数回答可)

図表9-3-1 スポーツ・レクリエーション活動の効果



週に1回以上、スポーツ・レクリエーション活動を行ったと回答した1,299人に、スポーツ・レクリエーション活動の効果を聞いたところ、「運動不足が解消した」(46.0%)が最も多く、次いで「よく眠れるようになった」(24.2%)、「疲れにくくなった」(20.9%)、「適正体重に(近く)なった」(17.6%)、「食欲が出た」(8.9%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、上位項目に大きな変化はみられないが、「運動不足が解消した」が令和2年度(50.0%)と比べ4.0ポイント減少している。

第4章 調査結果の詳細

性別で見ると、「便秘が解消した」（女性 10.2%、男性 4.0%）は 6.2 ポイント、「冷え症が改善した」（女性 6.5%、男性 1.2%）は 5.3 ポイント、女性が男性を上回っている。一方、「適正体重に（近く）なった」（男性 23.0%、女性 13.4%）は 9.6 ポイント、「食欲が出た」（男性 11.9%、女性 6.5%）は 5.4 ポイント、男性が女性を上回っている。

性・年齢別で見ると、「運動不足が解消した」は男女ともすべての年齢で最も多くなっており、女性 30 歳代（50.7%）、男性 18～29 歳・40 歳代・50 歳代（55.6%、52.2%、51.7%）で 5 割台を占めている。「よく眠れるようになった」は女性 18～29 歳（36.4%）と男性 18～29 歳・30 歳代（35.2%、34.4%）で 3 割台となっている。また、「適正体重に（近く）なった」は女性がすべての年齢で 1 割台なのに対し、男性は 18～29 歳（18.5%）を除き 2 割台を占め、「食欲が出た」は男性 70 歳以上（18.3%）、「便秘が解消した」は女性 50 歳代（14.6%）で全体を 7 ポイント以上上回っている。

図表9-3-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動の効果

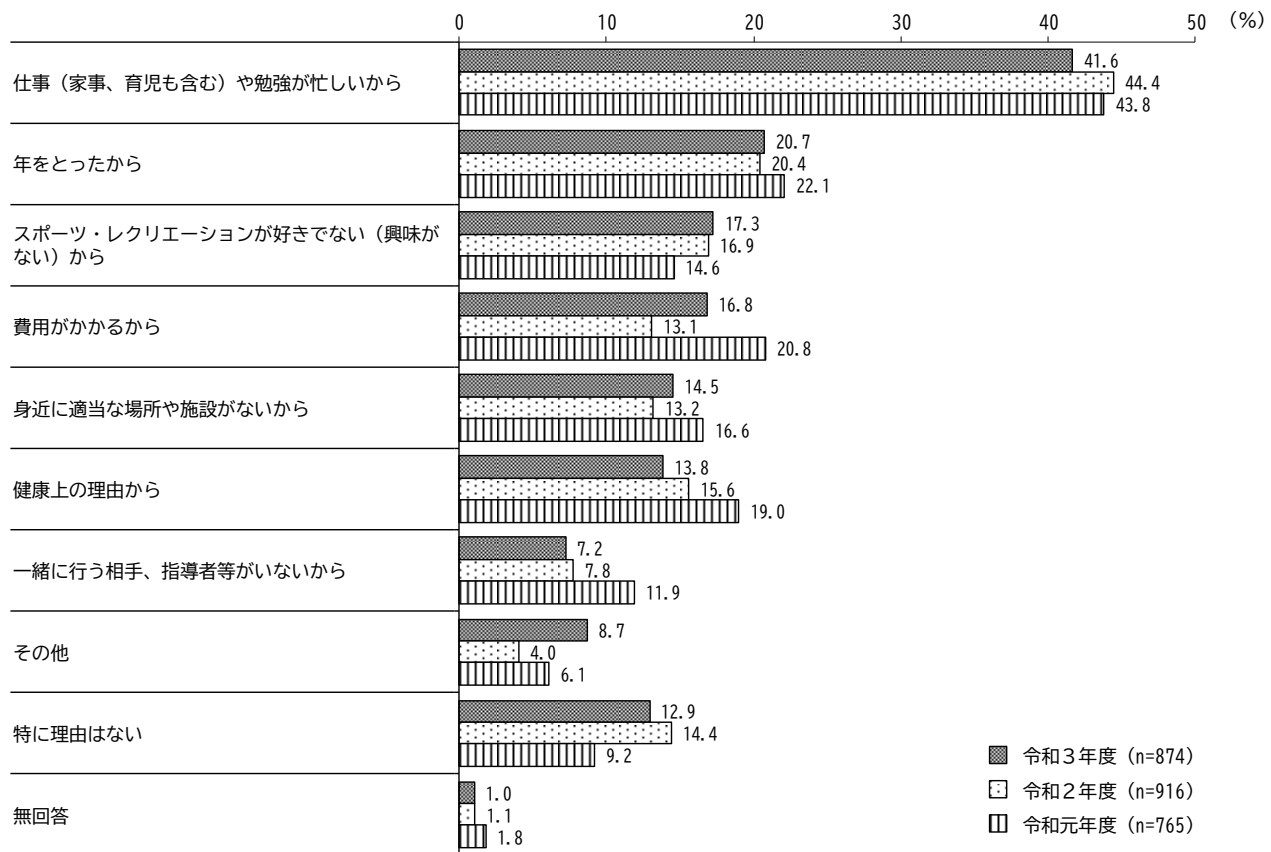
	調査数（人）	運動不足が解消した	よく眠れるようになった	疲れにくくなった	適正体重に（近く）なった	食欲が出た	便秘が解消した	血圧が下がった	冷え症が改善した	通院回数が減った	その他	健康への効果は感じられなかった	無回答
全体	1,299	46.0	24.2	20.9	17.6	8.9	7.2	5.5	3.8	1.7	5.5	11.8	7.5
女性全体	657	45.2	25.0	20.5	13.4	6.5	10.2	4.3	6.5	1.7	6.2	10.2	7.6
18～29歳	55	47.3	36.4	20.0	12.7	10.9	10.9	-	5.5	-	3.6	12.7	5.5
30～39歳	69	50.7	26.1	15.9	17.4	5.8	8.7	-	5.8	1.4	10.1	10.1	5.8
40～49歳	96	35.4	17.7	16.7	14.6	5.2	8.3	-	5.2	4.2	8.3	18.8	2.1
50～59歳	96	44.8	22.9	20.8	15.6	6.3	14.6	5.2	7.3	1.0	4.2	7.3	7.3
60～69歳	117	46.2	20.5	25.6	11.1	5.1	9.4	5.1	6.8	1.7	5.1	12.0	8.5
70歳以上	222	46.4	27.9	21.2	12.2	6.8	9.9	7.7	7.2	1.4	6.3	6.3	10.8
男性全体	579	47.8	23.3	20.2	23.0	11.9	4.0	6.9	1.2	1.4	4.1	13.3	6.2
18～29歳	54	55.6	35.2	13.0	18.5	7.4	5.6	1.9	-	-	11.1	5.6	1.9
30～39歳	61	34.4	34.4	23.0	23.0	9.8	8.2	3.3	3.3	3.3	1.6	19.7	6.6
40～49歳	92	52.2	21.7	17.4	28.3	12.0	2.2	7.6	-	-	3.3	15.2	3.3
50～59歳	87	51.7	19.5	19.5	24.1	4.6	1.1	5.7	-	1.1	-	12.6	4.6
60～69歳	66	48.5	18.2	18.2	24.2	6.1	3.0	7.6	-	-	3.0	16.7	6.1
70歳以上	219	46.1	21.0	23.3	21.0	18.3	4.6	9.1	2.3	2.3	5.5	11.9	9.1

(4) スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由

◇「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」が最も多く、約4割

問 29-4. 問 29 で「6. 行っていない」と答えた方に伺います。あなたが、スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由は何ですか。(〇は3つまで)

図表 9-4-1 スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由



この1年間にスポーツ・レクリエーション活動を「行っていない」と回答した874人に、スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由を聞いたところ、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」（41.6%）が最も多く、次いで「年をとったから」（20.7%）、「スポーツ・レクリエーションが好きでない（興味がない）から」（17.3%）、「費用がかかるから」（16.8%）、「身近に適切な場所や施設がないから」（14.5%）の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「費用がかかるから」は令和2年度（13.1%）と比べ3.7ポイント増加し、順位を上げている。また、「スポーツ・レクリエーションが好きでない（興味がない）から」もやや増加傾向にある。一方、「健康上の理由から」（13.8%）、「一緒に行く相手、指導者等がないから」（7.2%）は減少傾向にあり、「健康上の理由から」は順位も下げている。

第4章 調査結果の詳細

性別でみると、「スポーツ・レクリエーションが好きでない（興味がない）から」は女性（21.3%）が男性（12.2%）を9.1ポイント上回っている。一方、「年をとったから」（男性23.4%、女性17.4%）は6.0ポイント、「一緒に行く相手、指導者等がないから」（男性9.7%、女性5.5%）は4.2ポイント、男性が女性を上回っている。

性・年齢別でみると、男女とも70歳以上を除き「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」が最も多く、男性40歳代（71.9%）で約7割、女性30歳代・40歳代（64.2%、60.9%）で6割台、女性18～29歳（54.8%）と男性30歳代・50歳代（54.5%、51.4%）も5割を超えている。一方、70歳以上は「年をとったから」が女性（46.4%）、男性（56.6%）とも最も多くなっている。また、「スポーツ・レクリエーションが好きでない（興味がない）から」は女性18～29歳（42.9%）で4割強、「費用がかかるから」は女性30歳代（34.0%）で3割半ば、「健康上の理由から」は女性70歳以上（31.4%）で約3割となっている。一方、「特に理由はない」は男性60歳以上（20.7%）で約2割を占めている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表9-4-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由

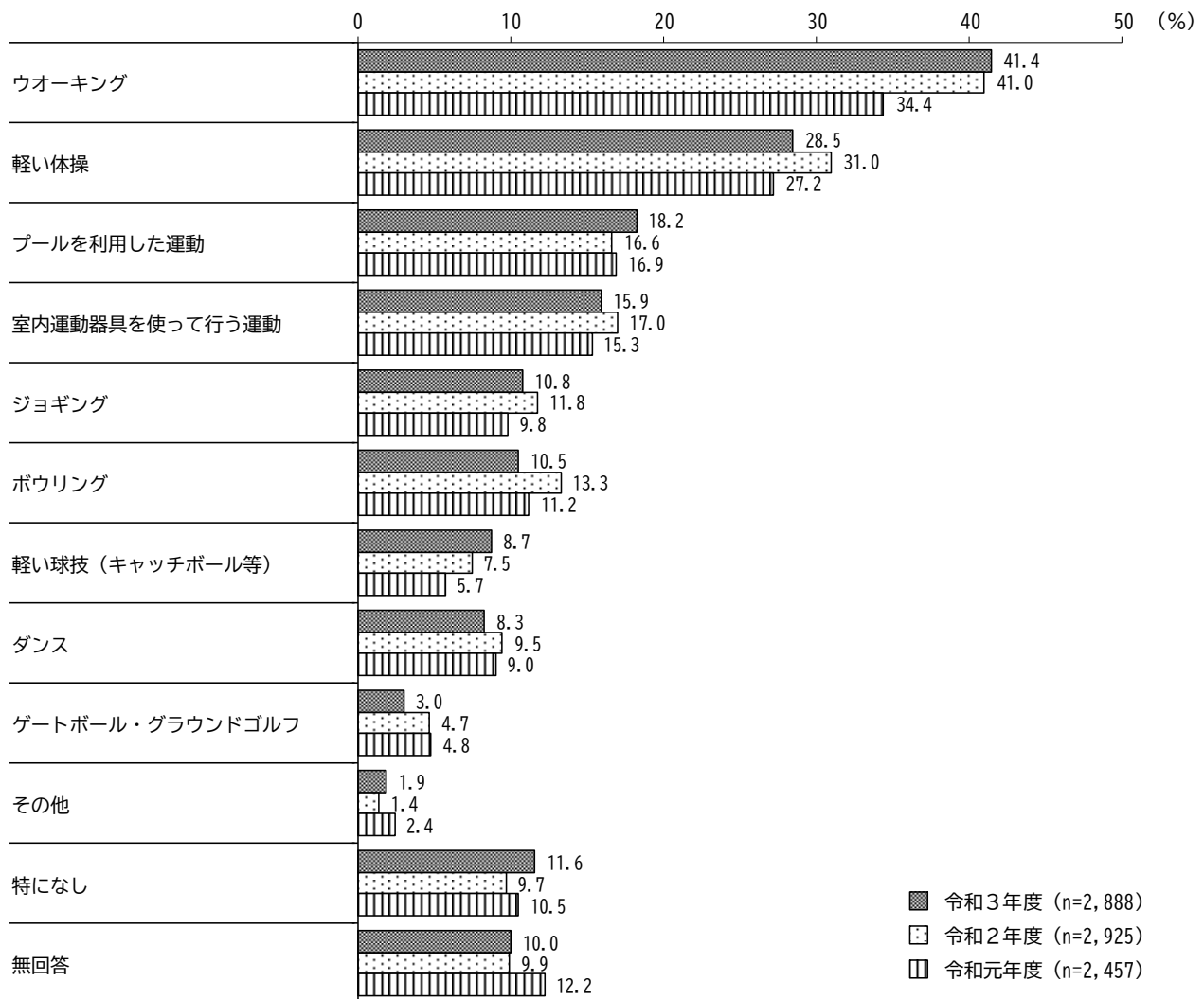
	調査数（人）	忙しいから（仕事・家事、育児も含む）や勉強が	年をとったから	スポーツ・レクリエーションが好きでない（興味がない）から	費用がかかるから	身近に適当な場所や施設がないから	健康上の理由から	一緒に行く相手、指導者等がないから	その他	特に理由はない	無回答
全体	874	41.6	20.7	17.3	16.8	14.5	13.8	7.2	8.7	12.9	1.0
女性全体	506	40.9	17.4	21.3	17.0	13.6	14.8	5.5	9.3	11.7	1.2
18～29歳	42	54.8	-	42.9	7.1	16.7	2.4	7.1	4.8	11.9	-
30～39歳	53	64.2	5.7	28.3	34.0	24.5	5.7	3.8	7.5	3.8	1.9
40～49歳	110	60.9	5.5	20.9	21.8	15.5	7.3	5.5	10.0	10.0	-
50～59歳	99	40.4	2.0	22.2	20.2	13.1	7.1	9.1	9.1	16.2	2.0
60～69歳	60	36.7	20.0	16.7	15.0	13.3	20.0	10.0	10.0	16.7	3.3
70歳以上	140	14.3	46.4	14.3	7.9	7.9	31.4	1.4	10.0	10.7	0.7
男性全体	329	44.1	23.4	12.2	17.0	16.1	11.2	9.7	7.9	14.9	0.6
18～29歳	26	61.5	-	30.8	23.1	30.8	-	7.7	-	15.4	3.8
30～39歳	33	54.5	6.1	18.2	27.3	18.2	3.0	18.2	9.1	15.2	-
40～49歳	64	71.9	12.5	10.9	21.9	15.6	4.7	12.5	7.8	6.3	-
50～59歳	72	51.4	9.7	9.7	16.7	13.9	11.1	8.3	13.9	15.3	-
60～69歳	58	36.2	29.3	8.6	17.2	17.2	5.2	15.5	10.3	20.7	-
70歳以上	76	9.2	56.6	9.2	6.6	11.8	28.9	1.3	2.6	17.1	1.3

(5) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（比較的軽いスポーツ）

◇「ウォーキング」が最も多く、約4割

問 30. 皆さんに伺います。今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

図表9-5-1 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
-比較的軽いスポーツ-



今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（比較的軽いスポーツ）については、「ウォーキング」(41.4%)が最も多く、次いで「軽い体操」(28.5%)、「プールを利用した運動」(18.2%)、「室内運動器具を使って行う運動」(15.9%)、「ジョギング」(10.8%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、順位に変動はあるものの、全体的に大きな変化はみられない。

第4章 調査結果の詳細

性別でみると、「軽い体操」(女性 35.5%、男性 19.3%)は 16.2 ポイント、「ダンス」(女性 13.0%、男性 2.8%)は 10.2 ポイント、「ウォーキング」(女性 43.9%、男性 38.9%)は 5.0 ポイント、女性が男性を上回っている。一方、「ジョギング」(男性 14.9%、女性 7.8%)は 7.1 ポイント、「軽い球技(キャッチボール等)」(男性 12.6%、女性 5.8%)は 6.8 ポイント、男性が女性を上回っている。

性・年齢別でみると、「ウォーキング」は女性 70 歳以上(40.9%)を除く年齢で最も多くなっており、女性 50 歳代・60 歳代(51.0%、49.1%)と男性 60 歳代(49.1%)で約 5 割を占めている。女性 70 歳以上は「軽い体操」(42.3%)が最も多く、女性 60 歳代(41.6%)も約 4 割となっている。また、「プールを利用した運動」は女性 30 歳代(37.6%)を筆頭に、女性 40 歳代以下と男性 50 歳代以下で 2 割を超え、「ジョギング」は男性 30 歳代・40 歳代(21.5%、21.6%)、「ボウリング」は男性 18~29 歳(22.8%)、「軽い球技(キャッチボール等)」は男性 18~29 歳(22.8%)、「ダンス」は女性 18~29 歳、30 歳代(25.7%、22.2%)で 2 割台となっている。一方、「特になし」は女性 70 歳以上(18.2%)が最も多く、すべての年齢で 2 割未満となっている。

図表9-5-2 性・年齢別 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
-比較的軽いスポーツ-

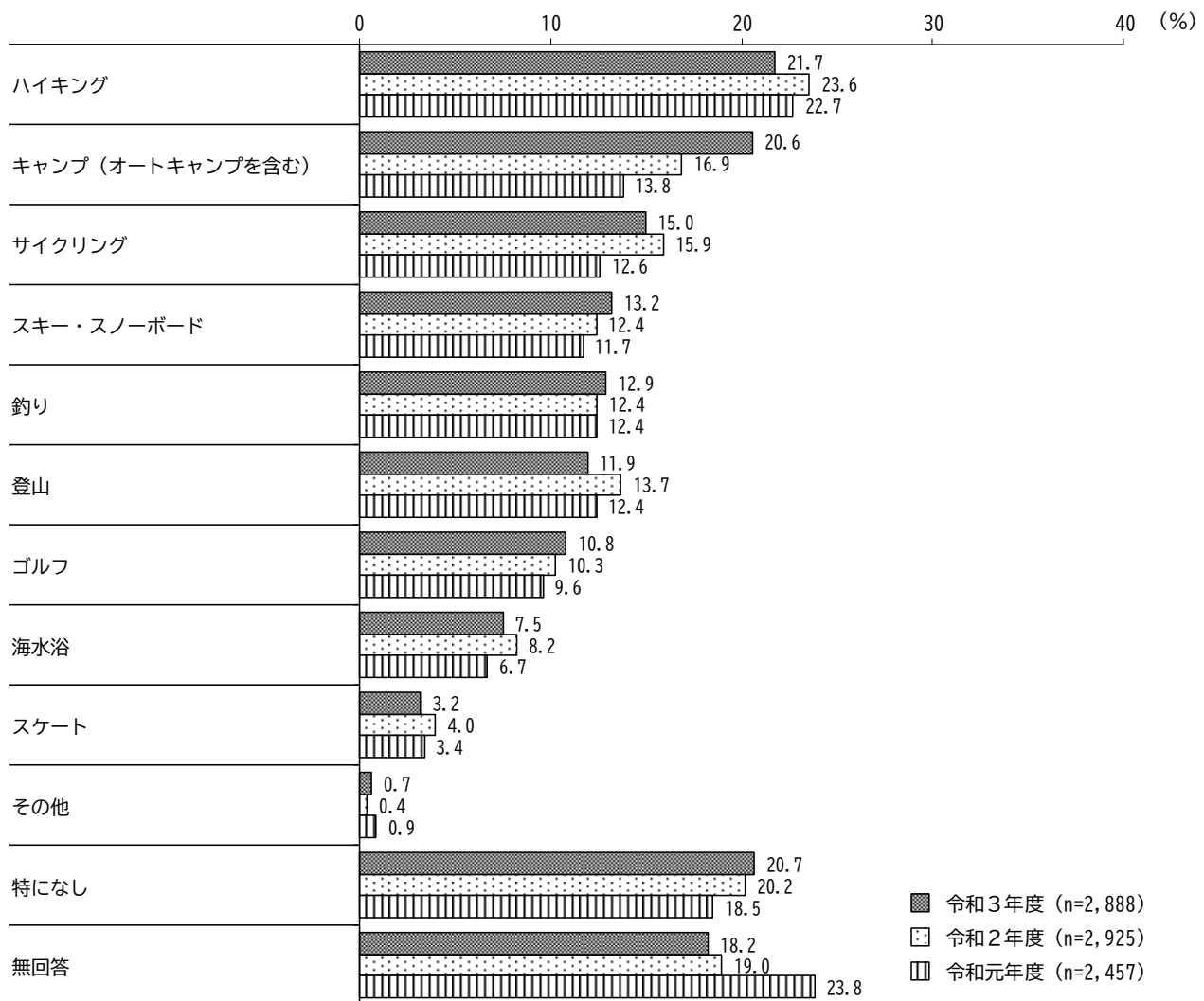
	調査数(人)	ウォーキング	軽い体操	プールを利用した運動	室内運動器具を使って行う運動	ジョギング	ボウリング	軽い球技(キャッチボール等)	ダンス	ゲートボール・グラウンドゴルフ	その他	特になし	無回答
全体	2,888	41.4	28.5	18.2	15.9	10.8	10.5	8.7	8.3	3.0	1.9	11.6	10.0
女性全体	1,525	43.9	35.5	19.9	17.0	7.8	9.6	5.8	13.0	2.3	3.0	11.1	7.5
18~29歳	148	31.1	24.3	25.0	17.6	16.9	14.9	16.2	25.7	1.4	2.7	8.1	7.4
30~39歳	194	43.3	29.4	37.6	23.7	17.0	9.8	10.3	22.2	1.0	4.1	8.8	6.2
40~49歳	279	45.5	31.2	27.6	14.7	10.0	13.3	7.9	14.3	1.1	3.9	6.8	8.6
50~59歳	261	51.0	34.9	18.8	18.0	8.0	9.2	3.4	10.3	1.1	5.4	8.0	6.1
60~69歳	214	49.1	41.6	19.6	19.2	1.9	10.3	3.7	14.0	2.8	2.8	11.2	4.2
70歳以上	423	40.9	42.3	5.7	13.2	1.9	5.0	1.2	4.0	4.5	0.5	18.2	10.2
男性全体	1,230	38.9	19.3	17.2	15.2	14.9	12.0	12.6	2.8	3.7	0.7	11.9	12.3
18~29歳	123	16.3	5.7	22.0	16.3	17.1	22.8	22.8	5.7	4.1	-	5.7	17.1
30~39歳	144	31.3	11.1	22.2	18.1	21.5	15.3	16.7	6.9	4.9	1.4	10.4	19.4
40~49歳	222	39.2	18.5	20.7	17.1	21.6	9.5	14.9	2.3	1.8	0.5	11.7	13.5
50~59歳	224	41.1	11.6	21.4	16.5	16.5	10.7	12.5	0.9	1.3	0.4	15.2	10.7
60~69歳	165	49.1	24.2	10.9	15.2	12.7	11.5	7.9	2.4	1.8	0.6	9.7	6.1
70歳以上	352	43.8	30.4	11.4	11.6	7.1	9.7	8.2	1.7	6.8	1.1	13.6	10.8

(6) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（野外活動）

◇「ハイキング」が最も多く、約2割

問 30. 皆さんに伺います。今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

図表9-6-1 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
- 野外活動 -



今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（野外活動）については、「ハイキング」(21.7%)が最も多く、次いで「キャンプ(オートキャンプを含む)」(20.6%)、「サイクリング」(15.0%)、「スキー・スノーボード」(13.2%)、「釣り」(12.9%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「キャンプ(オートキャンプを含む)」「スキー・スノーボード」「釣り」「ゴルフ」は増加傾向にあり、「キャンプ(オートキャンプを含む)」は令和2年度(16.9%)と比べ3.7ポイント増加した。

第4章 調査結果の詳細

性別でみると、「ハイキング」は女性(25.0%)が男性(18.4%)を6.6ポイント上回っている。一方、「釣り」(男性19.9%、女性7.5%)は12.4ポイント、「ゴルフ」(男性16.2%、女性6.8%)は9.4ポイント、「登山」(男性14.5%、女性10.3%)は4.2ポイント、男性が女性を上回っている。

性・年齢別でみると、「ハイキング」は女性50歳以上と男性60歳以上で最も多く、女性50歳代・60歳代(35.2%、35.5%)で3割半ばとなっている。「キャンプ(オートキャンプを含む)」は女性40歳代以下と男性30歳代～50歳代で最も多く、男性30歳代(40.3%)で約4割、女性40歳代以下(37.2%、35.6%、34.1%)と男性18～29歳・40歳代(36.6%、36.0%)で3割台を占めている。「スキー・スノーボード」は男性18～29歳(39.0%)で最も多く、女性18～29歳(33.8%)も3割強を占めている。また、「サイクリング」は女性50歳代(20.3%)と男性30歳代・50歳代(20.1%、22.3%)、「釣り」は男性18～29歳・30歳代・50歳代(22.0%、22.2%、22.3%)、「登山」は男性30歳代(20.8%)で2割台となっている。一方、「特になし」は女性70歳以上(37.6%)が最も多く、女性60歳代(27.1%)と男性60歳代以上(23.6%、23.3%)も2割台を占めている。

図表9-6-2 性・年齢別 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
- 野外活動 -

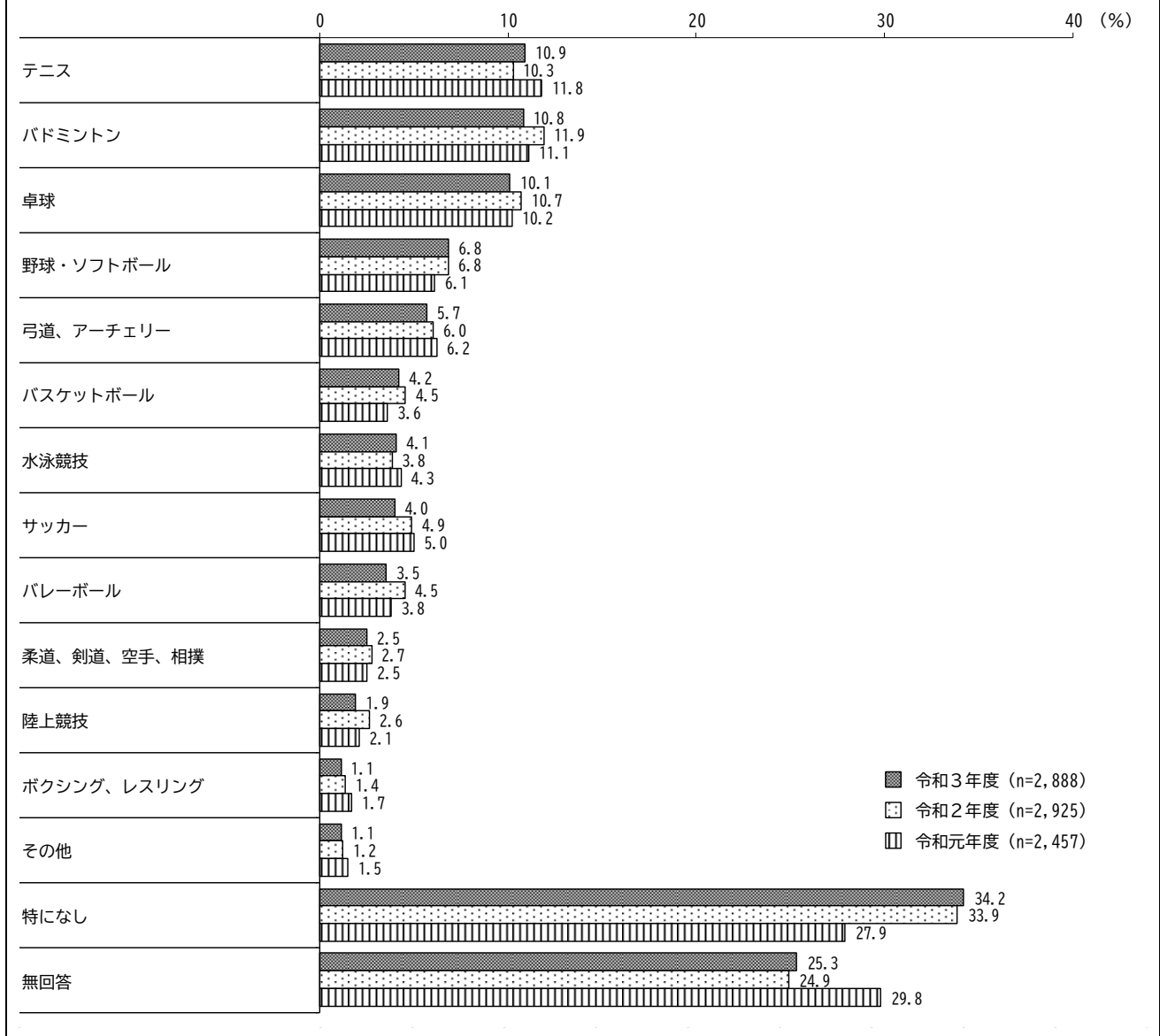
	調査数(人)	ハイキング	キャンプ(オートキャンプを含む)	サイクリング	スキー・スノーボード	釣り	登山	ゴルフ	海水浴	スケート	その他	特になし	無回答
全体	2,888	21.7	20.6	15.0	13.2	12.9	11.9	10.8	7.5	3.2	0.7	20.7	18.2
女性全体	1,525	25.0	19.4	13.8	12.3	7.5	10.3	6.8	7.4	4.0	0.5	22.8	20.9
18～29歳	148	10.8	37.2	12.2	33.8	19.6	12.2	6.1	17.6	15.5	-	16.9	13.5
30～39歳	194	25.3	35.6	17.0	23.2	14.9	15.5	8.8	19.6	9.8	0.5	11.3	12.9
40～49歳	279	24.7	34.1	17.2	19.7	9.3	15.1	9.7	11.8	5.7	0.4	12.2	16.5
50～59歳	261	35.2	16.9	20.3	10.0	5.0	12.3	9.2	2.7	0.8	0.8	18.8	14.2
60～69歳	214	35.5	10.7	19.6	3.3	4.2	8.9	9.8	1.9	-	-	27.1	17.3
70歳以上	423	18.7	2.1	3.5	0.7	1.7	3.5	1.2	1.2	-	0.9	37.6	35.9
男性全体	1,230	18.4	23.3	16.9	14.9	19.9	14.5	16.2	8.1	2.4	0.8	17.7	13.8
18～29歳	123	14.6	36.6	17.1	39.0	22.0	18.7	13.8	16.3	5.7	0.8	7.3	14.6
30～39歳	144	12.5	40.3	20.1	27.8	22.2	20.8	15.3	11.1	4.2	2.1	14.6	12.5
40～49歳	222	15.3	36.0	17.6	20.3	18.5	19.4	18.0	12.2	2.7	0.5	14.4	11.7
50～59歳	224	20.1	26.3	22.3	16.1	22.3	19.2	17.4	10.3	1.8	1.3	15.6	7.1
60～69歳	165	24.2	13.3	17.0	6.1	17.6	12.7	17.6	2.4	2.4	-	23.6	10.9
70歳以上	352	20.2	6.3	11.6	1.1	18.8	5.1	14.8	2.8	0.9	0.6	23.3	21.0

(7) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（競技的スポーツ）

◇「テニス」「バドミントン」「卓球」が約1割

問 30. 皆さんに伺います。今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

図表9-7-1 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
- 競技的スポーツ -



今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（競技的スポーツ）については、「テニス」（10.9%）が最も多く、次いで「バドミントン」（10.8%）、「卓球」（10.1%）、「野球・ソフトボール」（6.8%）、「弓道、アーチェリー」（5.7%）の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられないが、上位3項目中「テニス」が1位となった。また、「特になし」（34.2%）はやや増加傾向にある。

第4章 調査結果の詳細

性別でみると、「バドミントン」は女性（14.2%）が男性（6.9%）を7.3ポイント上回っている。一方、「野球・ソフトボール」（男性13.0%、女性2.0%）は11.0ポイント、「サッカー」（男性7.6%、女性1.3%）は6.3ポイント、男性が女性を上回っている。また、「特になし」は女性（35.4%）、男性（32.8%）とも3割台となっている。

性・年齢別でみると、「テニス」は女性50歳代（14.9%）、「バドミントン」は女性50歳代以下（28.4%、29.9%、18.3%、14.9%）、「卓球」は女性60歳代以上（13.1%、9.5%）と男性70歳以上（12.2%）、「野球・ソフトボール」は男性40歳代～60歳代（13.5%、17.9%、12.1%）、「サッカー」は男性18～29歳・30歳代（23.6%、18.8%）で最も多くなっている。一方、男女とも50歳代以上は「特になし」が3割を超え、60歳代以上は女性（40.7%、47.8%）、男性（46.1%、42.3%）とも4割台を占めている。

図表9-7-2 性・年齢別 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
－競技的スポーツ－

	調査数（人）	テニス	バドミントン	卓球	野球・ソフトボール	弓道、アーチェリー	バスケットボール	水泳競技	サッカー	バレーボール	柔道、剣道、空手、相撲	陸上競技	ボクシング、レスリング	その他	特になし	無回答
全体	2,888	10.9	10.8	10.1	6.8	5.7	4.2	4.1	4.0	3.5	2.5	1.9	1.1	1.1	34.2	25.3
女性全体	1,525	11.7	14.2	10.3	2.0	6.6	4.0	4.1	1.3	4.1	1.7	1.3	0.9	0.9	35.4	26.2
18～29歳	148	16.9	28.4	13.5	6.8	9.5	14.2	10.1	8.8	8.8	3.4	2.7	2.7	2.7	20.3	15.5
30～39歳	194	19.6	29.9	12.9	2.6	10.8	12.9	8.2	2.1	8.8	3.6	5.7	2.6	1.0	20.1	15.5
40～49歳	279	15.1	18.3	7.9	1.4	7.9	2.5	4.3	0.7	7.9	3.2	0.4	1.1	0.4	29.0	28.7
50～59歳	261	14.9	14.9	8.0	0.8	6.9	2.3	3.1	-	2.7	1.1	1.1	0.4	0.8	37.9	22.6
60～69歳	214	9.3	7.5	13.1	2.3	8.4	0.5	3.7	-	0.5	0.5	-	-	1.4	40.7	24.3
70歳以上	423	3.3	2.1	9.5	0.9	1.4	0.2	0.9	-	0.5	0.2	0.2	-	0.2	47.8	36.9
男性全体	1,230	9.9	6.9	9.9	13.0	4.6	4.7	4.1	7.6	3.0	3.7	2.8	1.5	1.5	32.8	23.3
18～29歳	123	21.1	17.9	16.3	16.3	6.5	13.0	7.3	23.6	8.1	6.5	2.4	4.9	2.4	15.4	16.3
30～39歳	144	15.3	13.9	10.4	13.9	6.9	14.6	7.6	18.8	9.7	6.3	4.9	4.9	5.6	16.0	20.1
40～49歳	222	8.6	5.9	7.2	13.5	5.0	5.4	6.8	9.5	2.7	5.0	3.6	1.4	1.8	24.8	25.2
50～59歳	224	8.5	6.3	7.6	17.9	7.1	1.3	3.1	4.9	1.8	3.6	2.7	0.9	0.9	36.2	19.6
60～69歳	165	9.1	5.5	6.7	12.1	2.4	1.8	3.0	3.0	1.2	3.6	3.0	0.6	-	46.1	19.4
70歳以上	352	6.0	2.0	12.2	8.5	2.3	0.9	1.1	0.3	0.3	1.1	1.4	-	0.6	42.3	29.8

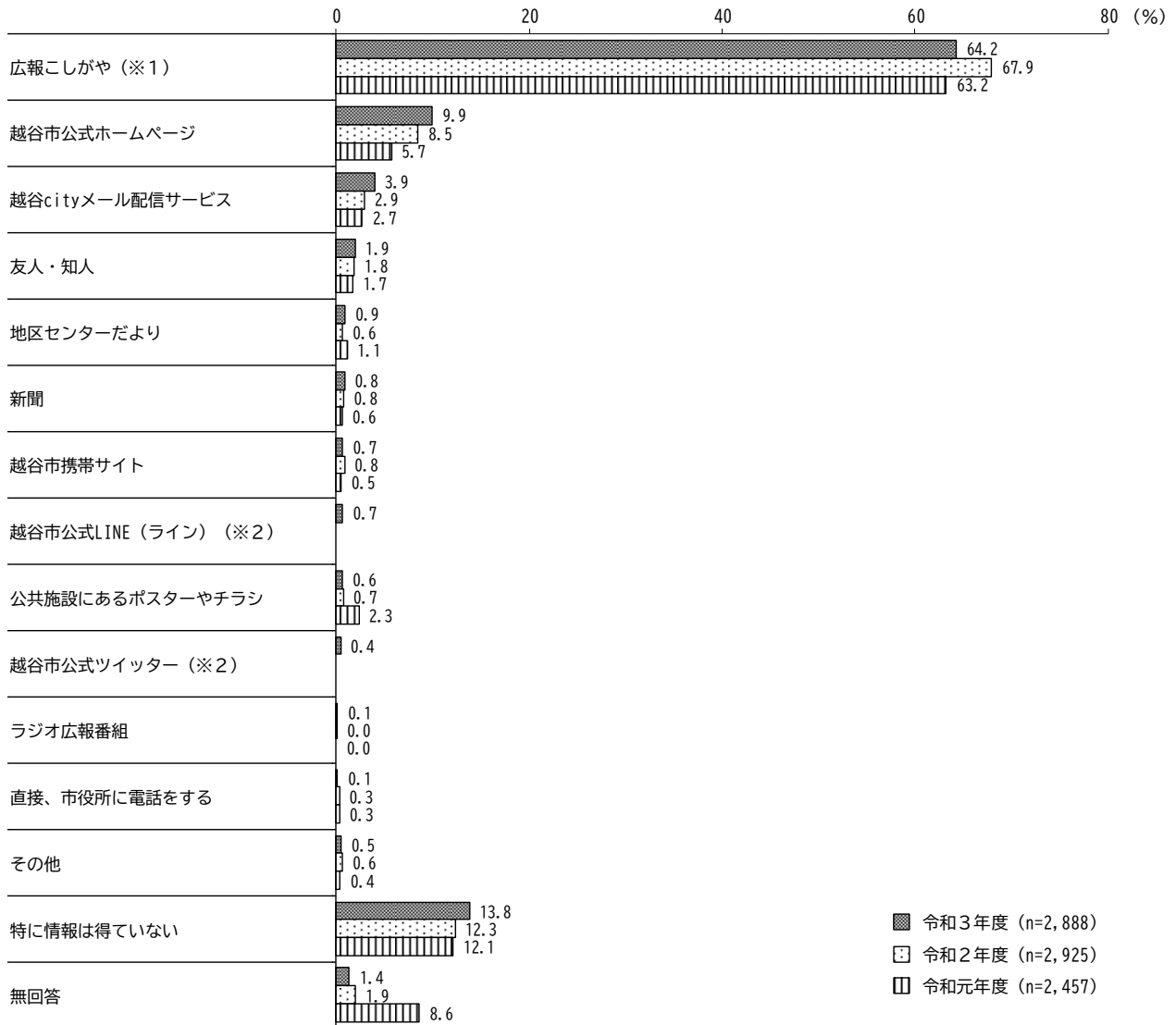
10. 広報について

(1) 市政情報の入手先

◇「広報こしがや」が最も多く、6割半ば

問 31. あなたは、市政情報を主に何から得ていますか。(〇は1つ)

図表 10-1-1 市政情報の入手先



(※1) 「広報こしがや」は令和2年度までは「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」

(※2) 「越谷市公式ツイッター」「越谷市公式LINE (ライン)」は令和3年度新規項目

市政情報の入手先は、「広報こしがや」(64.2%)が最も多く、次いで「越谷市公式ホームページ」(9.9%)、「越谷cityメール配信サービス」(3.9%)、「友人・知人」(1.9%)、「地区センターだより」(0.9%)の順となっている。一方、「特に情報は得ていない」(13.8%)は1割強となっている。

過去2回の調査と比較すると、「広報こしがや」は令和2年度(67.9%)と比べ3.7ポイント減少したが、依然6割以上を占め突出する傾向が続いている。

第4章 調査結果の詳細

性別で見ると、「広報こしがや」は女性（66.3%）が男性（61.3%）を5.0ポイント上回っている。一方、「特に情報は得ていない」は男性（17.0%）が女性（11.3%）を5.7ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、男女ともすべての年齢で「広報こしがや」が最も多くなっており、女性60歳代以上（84.1%、84.9%）と男性60歳代以上（80.6%、84.7%）は8割台となっている。「越谷市公式ホームページ」は女性50歳代以下（15.5%、16.0%、13.3%、13.4%）と男性30歳代～50歳代（16.7%、14.9%、17.4%）、「越谷 city メール配信サービス」は女性40歳代（13.3%）で1割台となっている。一方、「友人・知人」以下の項目はすべての年齢で1割未満となっている。また、18～29歳は「広報こしがや」の利用率が女性（29.1%）、男性（26.0%）とも2割台であり、「特に情報を得ていない」（女性40.5%、男性48.8%）が4割以上を占めている。男性30歳代についても、「特に情報を得ていない」（33.3%）が3割強と多くなっている。

図表 10-1-2 性・年齢別 市政情報の入手先

	調査数（人）	広報こしがや	越谷市公式ホームページ	越谷 city メール配信サービス	友人・知人	地区センターだより	新聞	越谷市携帯サイト	越谷市公式LINE（ライン）	公共施設にあるポスターやチラシ	越谷市公式ツイッター	ラジオ広報番組	直接、市役所に電話をする	その他	特に情報は得ていない	無回答
全体	2,888	64.2	9.9	3.9	1.9	0.9	0.8	0.7	0.7	0.6	0.4	0.1	0.1	0.5	13.8	1.4
女性全体	1,525	66.3	9.8	4.9	2.0	0.7	0.5	0.7	0.8	0.6	0.5	0.1	0.1	0.4	11.3	1.3
18～29歳	148	29.1	15.5	0.7	4.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	1.4	0.7	-	2.7	40.5	1.4
30～39歳	194	44.8	16.0	8.8	3.1	0.5	0.5	1.0	2.6	1.0	1.5	-	-	0.5	19.1	0.5
40～49歳	279	56.3	13.3	13.3	2.2	-	0.4	1.1	1.8	1.4	0.7	-	0.4	-	8.6	0.7
50～59歳	261	70.1	13.4	5.7	1.5	-	-	0.8	0.4	0.4	-	0.4	-	-	6.9	0.4
60～69歳	214	84.1	6.5	2.3	0.5	0.9	-	-	-	0.5	-	-	-	-	5.1	-
70歳以上	423	84.9	1.9	-	1.7	1.4	1.2	0.5	-	-	-	-	-	0.2	5.0	3.3
男性全体	1,230	61.3	10.5	2.8	1.9	1.3	1.3	0.7	0.4	0.7	0.4	0.1	0.2	0.7	17.0	0.7
18～29歳	123	26.0	7.3	0.8	4.9	1.6	2.4	0.8	-	2.4	2.4	-	-	2.4	48.8	-
30～39歳	144	37.5	16.7	4.2	0.7	-	-	0.7	1.4	2.1	0.7	-	0.7	0.7	33.3	1.4
40～49歳	222	48.6	14.9	6.8	3.2	1.4	0.5	0.5	0.5	-	0.5	-	-	0.5	22.5	0.5
50～59歳	224	57.6	17.4	4.5	2.2	0.9	0.4	1.8	0.9	0.9	-	-	-	0.9	12.1	0.4
60～69歳	165	80.6	7.9	0.6	-	0.6	3.0	-	-	0.6	-	-	0.6	-	6.1	-
70歳以上	352	84.7	3.1	0.6	1.1	2.3	1.7	0.3	-	-	-	0.3	0.3	0.3	4.0	1.4

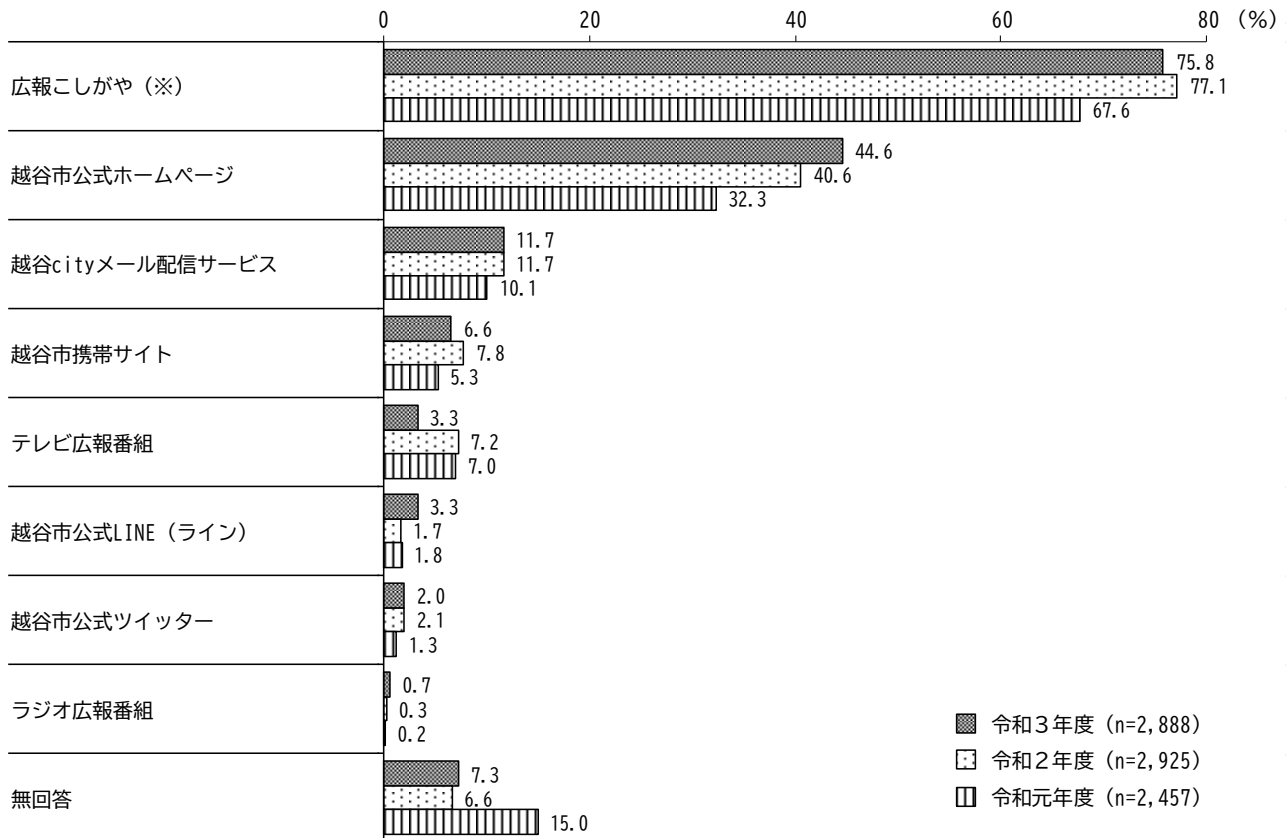
(2) 市政情報を得るために活用したもの

◇「広報こしがや」が最も多く、7割半ば

問 32. 市政情報を得るために活用したことがあるものを、次の中から選んでください。

(複数回答可)

図表 10-2-1 市政情報を得るために活用したもの



(※)「広報こしがや」は令和2年度までは「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」

市政情報を得るために活用したものは、「広報こしがや」(75.8%)が最も多く、次いで「越谷市公式ホームページ」(44.6%)、「越谷cityメール配信サービス」(11.7%)、「越谷市携帯サイト」(6.6%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「越谷市公式ホームページ」は増加傾向が続き、令和2年度(40.6%)と比べ4.0ポイント増加している。一方、「テレビ広報番組」は令和2年度(7.2%)と比べ3.9ポイント減少している。

第4章 調査結果の詳細

性別でみると、「越谷 city メール配信サービス」(女性 15.2%、男性 7.8%) は 7.4 ポイント、「広報こしがや」(女性 78.1%、男性 72.8%) は 5.3 ポイント、女性が男性を上回っている。

性・年齢別でみると、「広報こしがや」は女性 30 歳代以上、男性 40 歳代以上で 6 割を超え、男女とも 40 歳代以上で最も多くなっている。また、女性 70 歳以上を除き年齢が上がるにつれ増加する傾向にあり、女性 60 歳代 (90.2%) と男性 70 歳以上 (91.5%) は 9 割台、女性 50 歳代・70 歳以上 (84.3%、88.9%) と男性 60 歳代 (89.1%) は 8 割台となっている。「越谷市公式ホームページ」は男女とも 30 歳代以下で最も多く、女性 50 歳代以下 (55.4%、62.9%、64.2%、60.2%) と男性 30 歳代～50 歳代 (57.6%、55.9%、56.3%) で 5 割を超えているが、70 歳以上は女性 (12.8%)、男性 (26.4%) とともに低くなっている。また、「越谷 city メール配信サービス」は女性 40 歳代 (39.8%) が突出して高く、女性 30 歳代 (24.7%) も 2 割半ばを占めている。

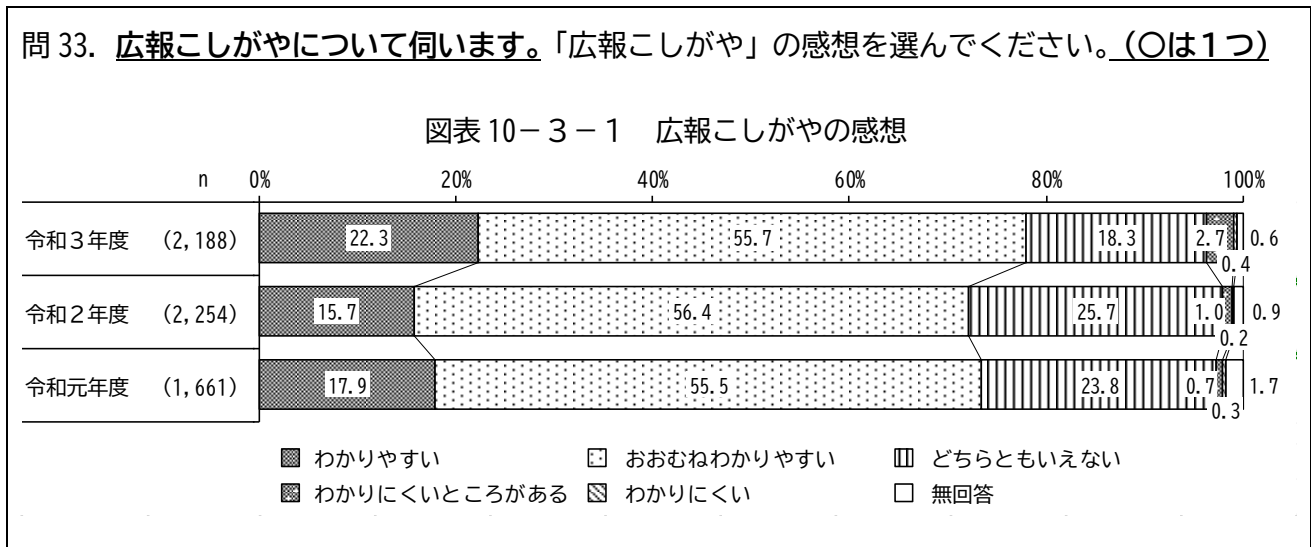
図表 10-2-2 性・年齢別 市政情報を得るために活用したもの

	調査数 (人)	広報こしがや	越谷市公式ホームページ	越谷 city メール配信サービス	越谷市携帯サイト	テレビ広報番組	越谷市公式 LINE (ライン)	越谷市公式ツイッター	ラジオ広報番組	無回答
全体	2,888	75.8	44.6	11.7	6.6	3.3	3.3	2.0	0.7	7.3
女性全体	1,525	78.1	45.2	15.2	8.2	2.8	4.3	2.8	0.5	5.4
18～29歳	148	42.6	55.4	4.7	11.5	2.0	2.7	5.4	0.7	14.2
30～39歳	194	61.3	62.9	24.7	14.4	0.5	8.8	7.7	0.5	5.2
40～49歳	279	77.4	64.2	39.8	13.6	1.8	5.0	4.3	-	3.2
50～59歳	261	84.3	60.2	14.9	9.6	2.3	5.7	1.5	0.4	1.5
60～69歳	214	90.2	42.5	7.5	4.7	3.3	3.7	0.9	0.5	1.4
70歳以上	423	88.9	12.8	2.4	1.4	5.0	1.4	0.2	0.9	8.3
男性全体	1,230	72.8	44.7	7.8	5.1	3.6	2.4	1.3	0.7	9.3
18～29歳	123	38.2	39.8	5.7	5.7	2.4	4.1	4.9	0.8	30.1
30～39歳	144	46.5	57.6	7.6	5.6	3.5	4.2	5.6	0.7	11.8
40～49歳	222	65.3	55.9	15.3	7.7	0.9	3.2	0.9	0.5	12.6
50～59歳	224	75.0	56.3	10.7	9.8	4.9	2.2	-	0.4	4.5
60～69歳	165	89.1	45.5	4.2	1.8	3.6	0.6	-	0.6	3.6
70歳以上	352	91.5	26.4	3.7	1.7	4.8	1.4	-	0.9	4.5

(3) 広報こしがやの感想

◇『わかりやすい』が8割弱

問 33. 広報こしがやについて伺います。「広報こしがや」の感想を選んでください。(〇は1つ)



市政情報を得るために「広報こしがや」を活用したことがあると回答した2,188人に、広報こしがやの感想について聞いたところ、「わかりやすい」(22.3%)と「おおむねわかりやすい」(55.7%)を合わせた『わかりやすい』(77.9%)は8割弱となっている。

一方、「わかりにくいところがある」(2.7%)と「わかりにくい」(0.4%)を合わせた『わかりにくい』(3.1%)は1割未満となっている。

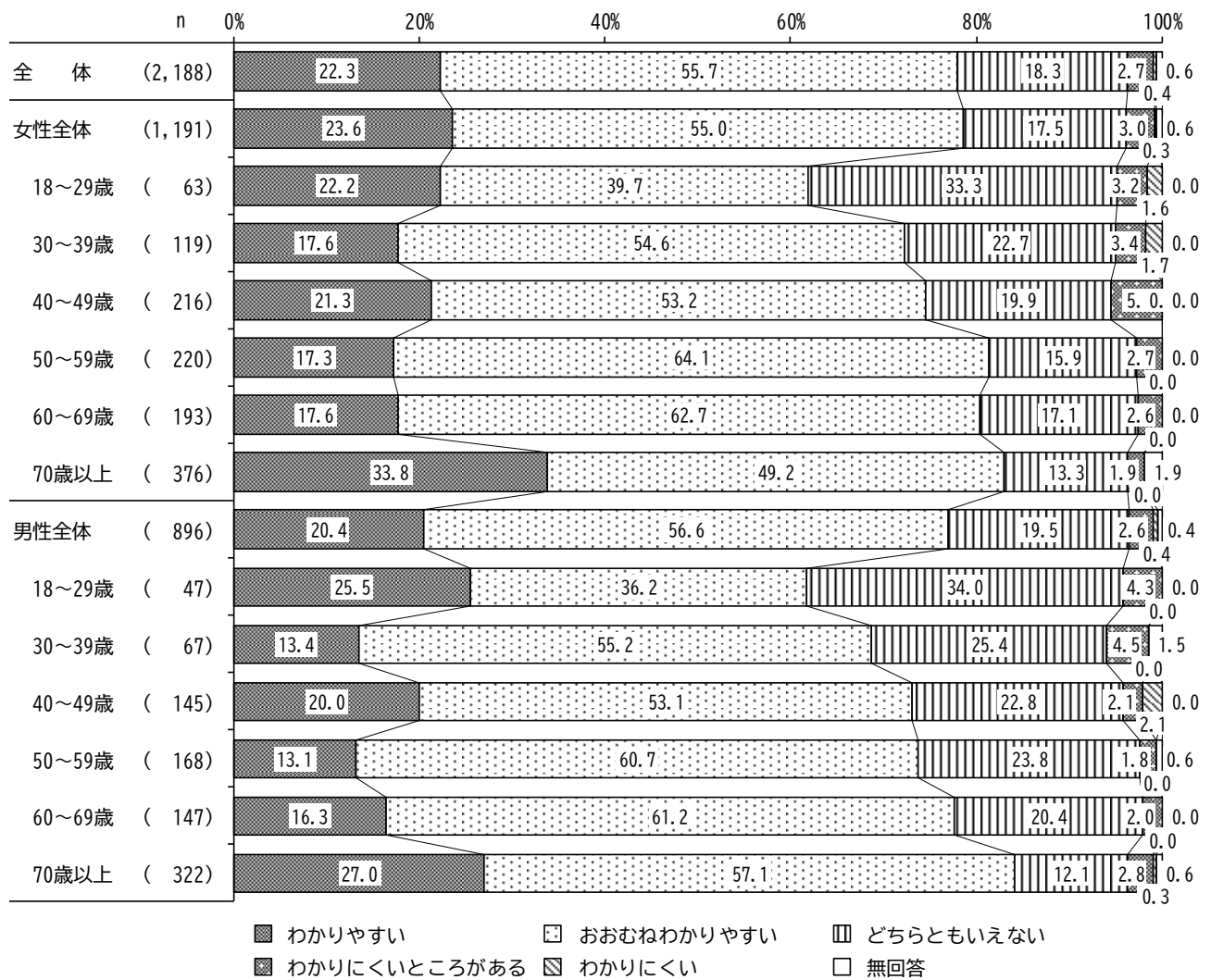
過去2回の調査と比較すると、「わかりやすい」が令和2年度(15.7%)と比べ6.6ポイント増加し、『わかりやすい』も令和2年度(72.1%)を5.8ポイント上回っている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『わかりやすい』は女性60歳代を除き、男女とも年齢が上がるにつれ増加する傾向にある。女性50歳代以上（81.4%、80.3%、83.0%）と男性70歳以上（84.2%）は『わかりやすい』が8割を超えている。一方、女性18～29歳（61.9%）と男性18～29歳・30歳代（61.7%、68.7%）は『わかりやすい』が6割台となっている。また、『わかりにくい』は男女ともすべての年齢で1割未満となっている。

図表 10-3-2 性・年齢別 広報こしがやの感想

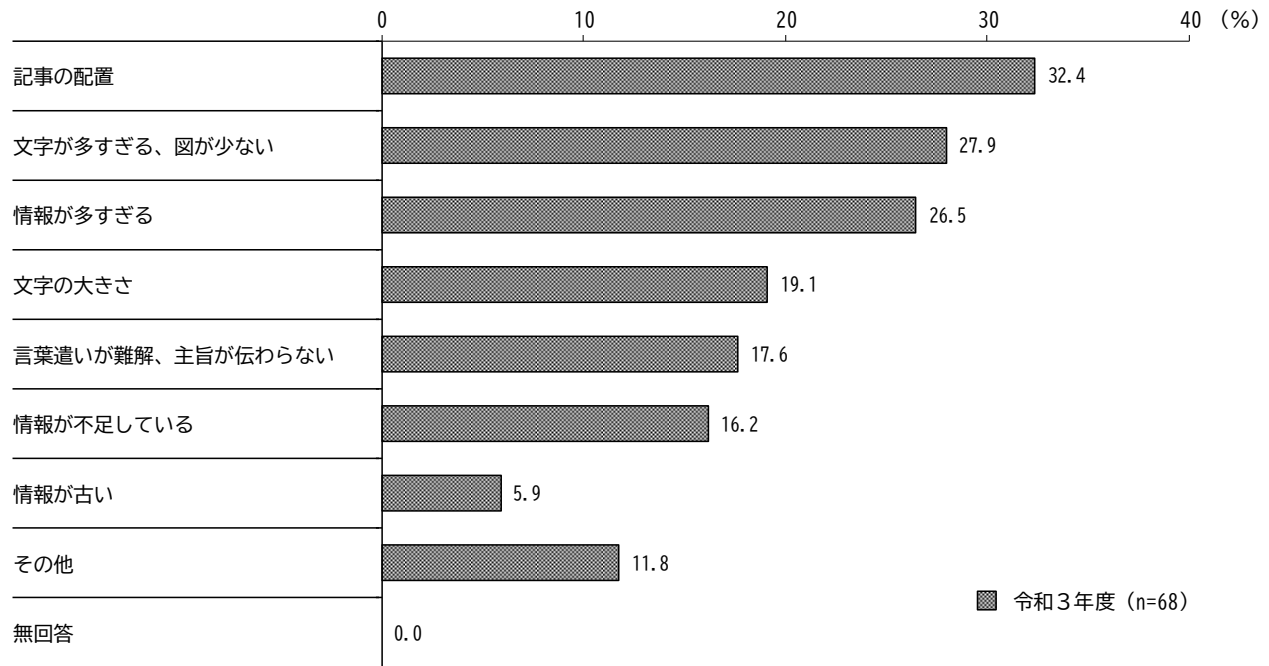


(4) 広報こしがやのわかりにくい点

◇「記事の配置」が最も多く、3割強

問 33-2. 問 33 で「4」または「5」と答えた方に伺います。
 どのような点についてそう感じましたか。(複数回答可)

図表 10-4-1 広報こしがやのわかりにくい点



広報こしがやが『わかりにくい』と回答した 68 人に、その理由を尋ねたところ、「記事の配置」(32.4%) が最も多く、次いで「文字が多すぎる、図が少ない」(27.9%)、「情報が多すぎる」(26.5%)、「文字の大きさ」(19.1%)、「言葉遣いが難解、主旨が伝わらない」(17.6%) の順となっている。

11. 行政のデジタル化について

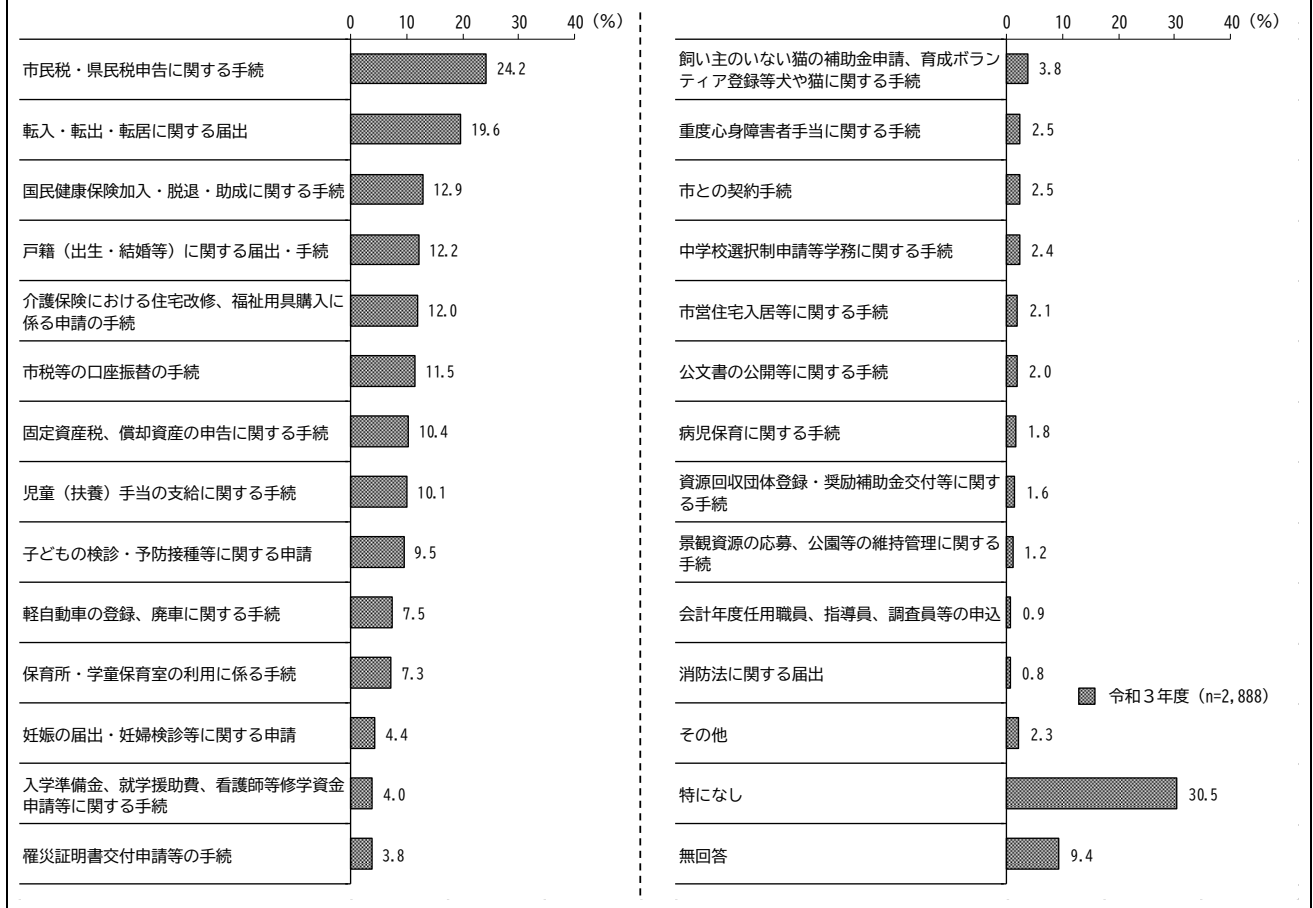
(1) オンライン化してほしい行政手続き

◇「市民税・県民税申告に関する手続」が最も多く、2割半ば

問 34. あなたがオンライン化してほしい行政手続きを、次の中から選んでください。

(○は5つまで)

図表 11-1-1 オンライン化してほしい行政手続き



オンライン化してほしい行政手続きは、「市民税・県民税申告に関する手続」（24.2%）が最も多く、次いで「転入・転出・転居に関する届出」（19.6%）、「国民健康保険加入・脱退・助成に関する手続」（12.9%）、「戸籍（出生・結婚等）に関する届出・手続」（12.2%）、「介護保険における住宅改修、福祉用具購入に係る申請の手続」（12.0%）の順となっている。一方、「特になし」（30.5%）は約3割となっている。

性別でみると、「市民税・県民税申告に関する手続」(男性 28.7%、女性 20.9%) は 7.8 ポイント、「固定資産税、償却資産の申告に関する手続」(男性 14.2%、女性 7.0%) は 7.2 ポイント、男性が女性を上回っている。また、「特になし」は女性 (30.2%)、男性 (30.7%) とともに約 3 割となっている。

性・年齢別でみると、「市民税・県民税申告に関する手続」は男性 30 歳代以上で最も多く、女性 18～29 歳 (30.4%) と男性 40 歳代以下 (30.9%、36.8%、33.3%) で 3 割台となっている。「転入・転出・転居に関する届出」は女性 18～29 歳・30 歳代・50 歳代と男性 18～29 歳で最も多く、女性 18～29 歳 (41.9%) で約 4 割、女性 30 歳代 (34.0%) と男性 18～29 歳・30 歳代 (37.4%、34.0%) で 3 割台となっている。「介護保険における住宅改修、福祉用具購入に係る申請の手続」は女性 60 歳代以上 (18.2%、16.5%)、「児童 (扶養) 手当の支給に関する手続」は女性 40 歳代 (24.7%) で最も多い項目となっており、後者は女性 30 歳代 (33.0%) も 3 割強を占めている。また、「戸籍 (出生・結婚等) に関する届出・手続」は女性 18～29 歳・30 歳代 (24.3%、21.1%) と男性 18～29 歳・30 歳代 (25.2%、23.6%)、「子どもの検診・予防接種等に関する申請」は女性 40 歳代以下 (21.6%、29.4%、21.1%)、「保育所・学童保育室の利用に係る手続」は女性 30 歳代 (29.4%)、「妊娠の届出・妊婦検診等に関する申請」は女性 18～29 歳・30 歳代 (25.7%、20.6%) で 2 割を超えている。一方、「特になし」は女性 60 歳代 (40.7%) と男性 60 歳代以上 (44.2%、40.3%) で 4 割台、女性 70 歳以上 (39.5%) で約 4 割と高くなっている。

図表 11-1-2 性・年齢別 オンライン化してほしい行政手続

	調査数 (人)	市民税・県民税申告に関する手続	転入・転出・転居に関する届出	国民健康保険加入・脱退・助成に関する手続	戸籍 (出生・結婚等) に関する届出・手続	介護保険における住宅改修、福祉用具購入に係る申請の手続	市税等の口座振替の手続	固定資産税、償却資産の申告に関する手続	児童 (扶養) 手当の支給に関する手続	子どもの検診・予防接種等に関する申請	軽自動車の登録、廃車に関する手続	保育所・学童保育室の利用に係る手続	妊娠の届出・妊婦検診等に関する申請	入学準備金、就学援助費、看護師等修学資金申請等に関する手続	罹災証明書交付申請等の手続	テイヤ登録等犬や猫に関する手続	飼い主のいない猫の補助金申請、育成ポラン	重度心身障害者手当に関する手続	市との契約手続	中学校選択制申請等学務に関する手続	市営住宅入居等に関する手続	公文書の公開等に関する手続	病児保育に関する手続	資源回収団体登録・奨励補助金交付等に関する手続	景観資源の応募、公園等の維持管理に関する手続	会計年度任用職員、指導員、調査員等の申込	消防法に関する届出	その他	特になし	無回答
全体	2,888	24.2	19.6	12.9	12.2	12.0	11.5	10.4	10.1	9.5	7.5	7.3	4.4	4.0	3.8	3.8	2.5	2.5	2.4	2.1	2.0	1.8	1.6	1.2	0.9	0.8	2.3	30.5	9.4	
女性全体	1,525	20.9	19.7	13.5	11.4	12.9	11.5	7.0	11.4	11.4	5.3	8.8	6.4	4.3	2.8	4.4	2.5	2.4	2.6	2.0	1.2	2.4	1.5	0.9	0.7	0.3	2.7	30.2	10.3	
18～29歳	148	30.4	41.9	18.9	24.3	4.1	13.5	3.4	13.5	21.6	8.8	17.6	25.7	6.8	2.0	5.4	2.0	4.1	2.0	2.0	2.7	4.7	1.4	0.7	1.4	-	2.0	21.6	2.0	
30～39歳	194	25.3	34.0	11.3	21.1	4.1	11.9	4.6	33.0	29.4	6.7	29.4	20.6	10.3	1.5	0.5	1.5	2.1	4.6	-	1.0	9.3	0.5	-	-	0.5	1.5	16.5	4.1	
40～49歳	279	23.7	19.4	13.6	11.8	8.2	14.7	8.2	24.7	21.1	5.7	11.5	3.6	9.0	2.9	3.6	2.2	3.6	7.2	1.8	0.4	1.4	1.1	0.7	1.4	0.4	3.2	24.4	3.2	
50～59歳	261	25.7	26.4	18.0	9.6	19.5	15.7	8.0	5.4	4.6	6.1	2.7	1.9	2.3	4.6	7.3	5.0	2.3	1.9	3.1	1.1	1.5	1.5	2.3	1.1	0.4	1.9	27.2	4.6	
60～69歳	214	15.4	11.7	17.3	10.3	18.2	12.1	8.9	2.3	5.6	3.7	3.3	2.3	1.9	3.3	6.1	2.3	0.9	0.9	3.3	0.5	1.4	1.9	0.9	0.9	0.5	1.9	40.7	8.4	
70歳以上	423	13.7	5.4	7.8	3.8	16.5	5.7	7.1	0.5	0.2	3.5	1.2	-	0.2	2.1	3.8	1.9	1.9	-	1.7	1.9	0.2	2.1	0.7	-	0.2	4.0	39.5	25.3	
男性全体	1,230	28.7	19.9	12.4	13.3	10.4	12.0	14.2	8.9	7.8	10.1	5.9	2.2	3.7	4.8	3.2	2.8	2.8	2.2	2.2	3.2	1.2	1.6	1.7	1.1	1.3	1.8	30.7	7.6	
18～29歳	123	30.9	37.4	18.7	25.2	0.8	14.6	11.4	12.2	16.3	14.6	11.4	9.8	6.5	1.6	1.6	3.3	7.3	4.1	0.8	3.3	1.6	-	1.6	-	0.8	2.4	22.0	4.9	
30～39歳	144	36.8	34.0	13.2	23.6	2.8	11.1	15.3	21.5	19.4	11.8	18.1	6.9	6.9	3.5	4.2	2.1	1.4	5.6	2.1	2.1	4.2	0.7	0.7	0.7	1.4	1.4	16.0	1.4	
40～49歳	222	33.3	21.2	11.7	13.5	9.9	12.6	18.5	19.8	10.4	13.5	8.6	0.9	7.2	3.2	2.7	4.5	3.2	4.1	1.8	1.8	0.9	1.8	2.3	1.8	0.9	2.7	22.1	4.5	
50～59歳	224	28.6	23.7	10.7	15.2	12.5	12.5	14.7	6.3	6.3	13.4	3.6	0.9	2.7	7.6	4.5	1.8	2.7	1.3	3.1	3.6	-	3.6	2.2	0.4	1.8	2.2	28.1	4.5	
60～69歳	165	24.2	13.3	15.8	6.7	12.1	12.1	16.4	1.8	2.4	4.2	1.8	-	1.2	4.2	2.4	3.0	3.6	-	1.8	4.2	0.6	2.4	0.6	3.0	1.2	1.2	44.2	6.1	
70歳以上	352	23.9	8.0	9.7	6.5	15.1	10.8	10.8	0.6	2.0	6.3	0.6	0.3	1.1	6.0	3.1	2.3	1.4	0.6	2.6	3.7	1.1	0.9	2.0	0.6	1.4	1.1	40.3	15.6	

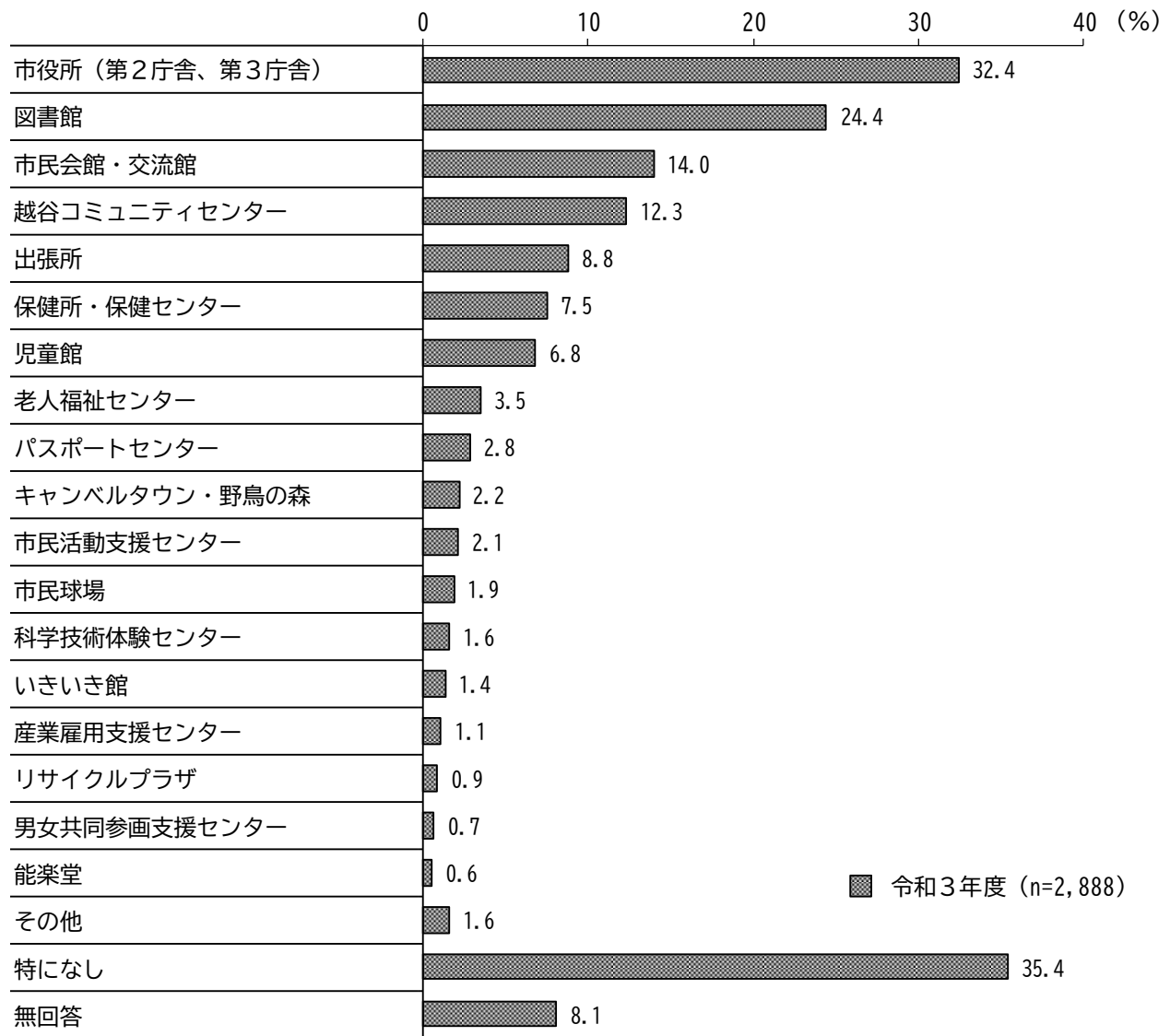
(2) 公衆 Wi-Fi を設置してほしい公共施設

◇「市役所（第2庁舎、第3庁舎）」が最も多く、3割強

問 35. あなたが公衆 Wi-Fi を設置してほしい公共施設を、次の中から選んでください。

(〇は3つまで)

図表 11-2-1 公衆 Wi-Fi を設置してほしい公共施設



公衆 Wi-Fi を設置してほしい公共施設は、「市役所（第2庁舎、第3庁舎）」(32.4%) が最も多く、次いで「図書館」(24.4%)、「市民会館・交流館」(14.0%)、「越谷コミュニティセンター」(12.3%)、「出張所」(8.8%) の順となっている。一方、「特になし」(35.4%) は3割半ばとなっている。

性別で見ると、「図書館」(女性 26.6%、男性 22.6%)は4.0ポイント、「児童館」(女性 8.8%、男性 4.9%)は3.9ポイント、女性が男性を上回っている。一方、「特になし」は女性(34.0%)、男性(37.1%)とも3割台となっている。

性・年齢別で見ると、「市役所(第2庁舎、第3庁舎)」は女性40歳代以上、男性30歳代以上で最も多くなっており、女性18~29歳・50歳代(41.9%、44.4%)と男性50歳代(40.2%)で4割台を占めている。「図書館」は女性18~29歳・30歳代と男性18~29歳で最も多くなっており、女性18~29歳(46.6%)と男性18~29歳(40.7%)で4割台を占めている。また、「児童館」は女性30歳代(27.3%)が突出して多く、全体を20.5ポイント上回っている。一方、「特になし」は女性40歳代以上と40歳代を除く男性で3割を超え、男性60歳代以上(44.8%、42.3%)は4割台となっている。

図表 11-2-2 性・年齢別 公衆Wi-Fiを設置してほしい公共施設

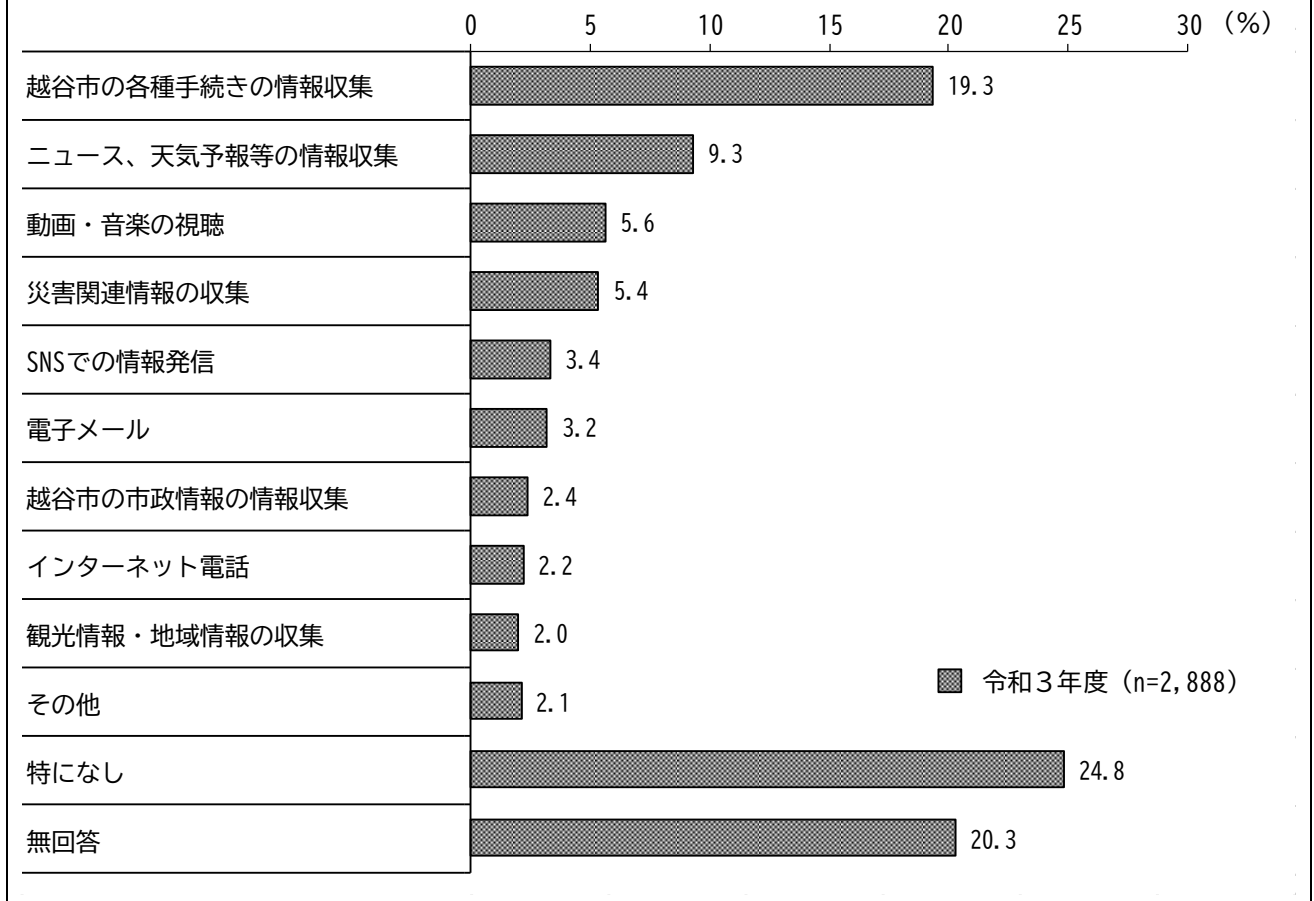
	調査数(人)	市役所(第2庁舎、第3庁舎)	図書館	市民会館・交流館	越谷コミュニティセンター	出張所	保健所・保健センター	児童館	老人福祉センター	パスポルトセンター	キャンパルトウン・野鳥の森	市民活動支援センター	市民球場	科学技術体験センター	いきいき館	産業雇用支援センター	リサイクルプラザ	男女共同参画支援センター	能楽堂	その他	特になし	無回答
全体	2,888	32.4	24.4	14.0	12.3	8.8	7.5	6.8	3.5	2.8	2.2	2.1	1.9	1.6	1.4	1.1	0.9	0.7	0.6	1.6	35.4	8.1
女性全体	1,525	33.0	26.6	13.8	13.2	8.1	7.8	8.8	2.8	2.8	1.4	2.2	1.0	1.5	1.0	1.1	0.5	0.7	0.5	1.6	34.0	8.8
18~29歳	148	41.9	46.6	14.2	13.5	7.4	7.4	17.6	0.7	5.4	0.7	0.7	0.7	5.4	2.0	0.7	0.7	-	0.7	-	25.7	-
30~39歳	194	38.1	38.7	10.8	8.8	5.7	7.2	27.3	1.0	3.1	2.1	1.0	0.5	1.0	0.5	1.0	-	-	0.5	3.1	29.4	2.6
40~49歳	279	35.5	34.8	15.8	12.5	7.9	7.9	11.8	1.1	1.8	1.8	2.2	2.9	0.4	0.7	-	1.8	1.1	1.8	33.0	2.5	
50~59歳	261	44.4	29.9	19.2	18.0	13.4	10.0	3.8	0.8	3.8	2.7	0.8	1.1	1.1	0.8	1.5	0.4	0.8	-	0.8	31.8	2.3
60~69歳	214	36.4	21.5	15.4	17.8	8.9	7.9	3.7	3.7	3.7	0.9	4.7	1.4	0.5	1.9	2.3	0.5	0.9	0.5	1.4	38.3	4.7
70歳以上	423	17.0	8.7	9.5	10.2	6.1	6.9	0.9	6.4	1.2	0.7	3.1	0.2	0.2	1.2	0.7	1.2	-	0.7	1.7	38.8	25.1
男性全体	1,230	32.2	22.6	14.7	11.5	9.7	6.5	4.9	4.0	2.9	3.1	2.0	2.9	1.7	1.7	1.1	1.3	0.7	0.7	1.7	37.1	6.5
18~29歳	123	31.7	40.7	14.6	8.9	8.1	4.1	6.5	1.6	5.7	4.9	-	4.9	0.8	4.9	0.8	0.8	-	0.8	3.3	30.1	-
30~39歳	144	35.4	32.6	11.1	7.6	13.9	8.3	17.4	1.4	2.8	5.6	-	2.8	2.1	2.1	0.7	-	0.7	0.7	0.7	32.6	5.6
40~49歳	222	38.7	28.4	14.4	12.6	9.9	10.8	6.8	0.5	2.7	5.4	0.9	5.4	4.1	1.8	1.4	0.9	0.5	0.5	3.2	29.7	2.7
50~59歳	224	40.2	24.1	17.4	12.9	11.6	4.9	3.6	0.9	5.4	2.7	2.2	3.1	3.6	-	1.8	0.9	0.4	1.3	2.2	37.1	2.7
60~69歳	165	36.4	12.7	14.5	17.0	7.9	5.5	1.2	4.8	2.4	1.2	4.2	2.4	-	1.8	0.6	0.6	1.8	0.6	1.2	44.8	4.8
70歳以上	352	19.9	12.2	14.8	9.7	8.0	5.4	0.6	9.7	0.9	1.1	3.1	0.9	-	1.4	0.9	2.8	0.6	0.3	0.6	42.3	14.8

(3) 公衆Wi-Fiの利用目的

◇「越谷市の各種手続きの情報収集」が最も多く、約2割

問36. 市が設置する公衆Wi-Fiが問35で回答した施設に設置された場合、どのような目的で利用したいですか。(〇は1つ)

図表 11-3-1 公衆Wi-Fiの利用目的



公衆Wi-Fiの利用目的について聞いたところ、「越谷市の各種手続きの情報収集」(19.3%)が最も多く、次いで「ニュース、天気予報等の情報収集」(9.3%)、「動画・音楽の視聴」(5.6%)、「災害関連情報の収集」(5.4%)、「SNSでの情報発信」(3.4%)の順となっている。一方、「特になし」(24.8%)は2割半ばとなっている。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「越谷市の各種手続きの情報収集」は男性18～29歳（12.2%）を除く年齢で最も多く、女性50歳代・60歳代（24.4%、26.6%）と男性30歳代・40歳代（22.2%、21.6%）で2割台となっている。「動画・音楽の視聴」は男性18～29歳（20.3%）で最も多くなっている。また、「SNSでの情報発信」は女性18～29歳・30歳代（8.8%、9.8%）と男性18～29歳（10.6%）で全体を5ポイント以上上回っている。一方、「特になし」は男性30歳代（17.4%）以外の年齢で2割を超え、男性70歳以上（30.7%）は約3割となっている。

図表11-3-2 性・年齢別 公衆Wi-Fiの利用目的

	調査数（人）	越谷市の各種手続きの情報収集	ニュース、天気予報等の情報収集	動画・音楽の視聴	災害関連情報の収集	SNSでの情報発信	電子メール	越谷市の市政情報の情報収集	インターネット電話	観光情報・地域情報の収集	その他	特になし	無回答
全体	2,888	19.3	9.3	5.6	5.4	3.4	3.2	2.4	2.2	2.0	2.1	24.8	20.3
女性全体	1,525	19.6	8.5	5.0	5.8	3.8	3.4	2.0	2.2	2.4	2.8	24.7	19.8
18～29歳	148	17.6	12.2	12.2	2.0	8.8	4.1	1.4	-	3.4	6.8	25.0	6.8
30～39歳	194	15.5	11.3	10.3	3.6	9.8	1.5	0.5	4.1	3.6	4.6	22.2	12.9
40～49歳	279	19.0	13.3	6.8	3.9	4.3	4.3	1.4	2.5	3.2	4.3	21.1	15.8
50～59歳	261	24.1	9.2	5.0	7.3	3.8	6.5	2.7	2.3	3.1	2.3	21.1	12.6
60～69歳	214	26.6	6.1	1.9	10.3	0.9	2.3	2.3	4.7	1.4	0.9	26.2	16.4
70歳以上	423	16.1	3.3	0.7	6.1	0.5	1.9	2.6	0.7	1.2	0.9	29.6	36.4
男性全体	1,230	18.9	10.6	6.5	4.8	3.2	3.3	2.8	2.1	1.5	1.5	25.4	19.5
18～29歳	123	12.2	9.8	20.3	2.4	10.6	3.3	-	0.8	1.6	4.1	27.6	7.3
30～39歳	144	22.2	12.5	11.8	2.8	2.8	3.5	0.7	6.3	1.4	2.1	17.4	16.7
40～49歳	222	21.6	17.6	10.4	3.6	3.6	3.6	0.5	1.4	0.9	2.3	23.4	11.3
50～59歳	224	18.3	16.5	4.0	4.5	4.5	2.7	3.1	3.6	2.2	1.8	23.2	15.6
60～69歳	165	19.4	7.3	2.4	7.3	1.8	4.2	4.2	0.6	3.0	-	25.5	24.2
70歳以上	352	18.2	3.4	0.6	6.3	0.3	2.8	5.4	1.1	0.6	0.3	30.7	30.4

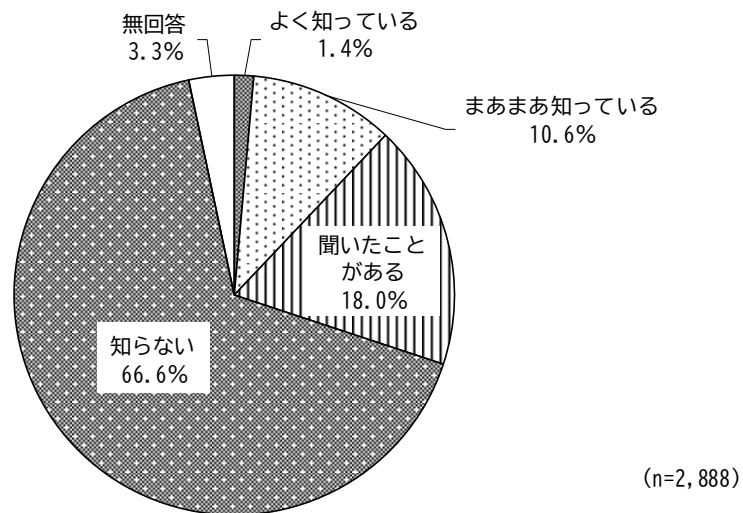
12. 参加と協働のまちづくりについて

(1) 「参加と協働のまちづくり」の認知度

◇『知っている』は1割強

問 37. 越谷市では、市民の市政への参加が可能となるような機会の充実や、地域コミュニティ組織との協働に取り組んでいます。あなたは、越谷市がこのような「参加と協働のまちづくり」をすすめていることを知っていますか。(〇は1つ)

図表 12-1-1 「参加と協働のまちづくり」の認知度



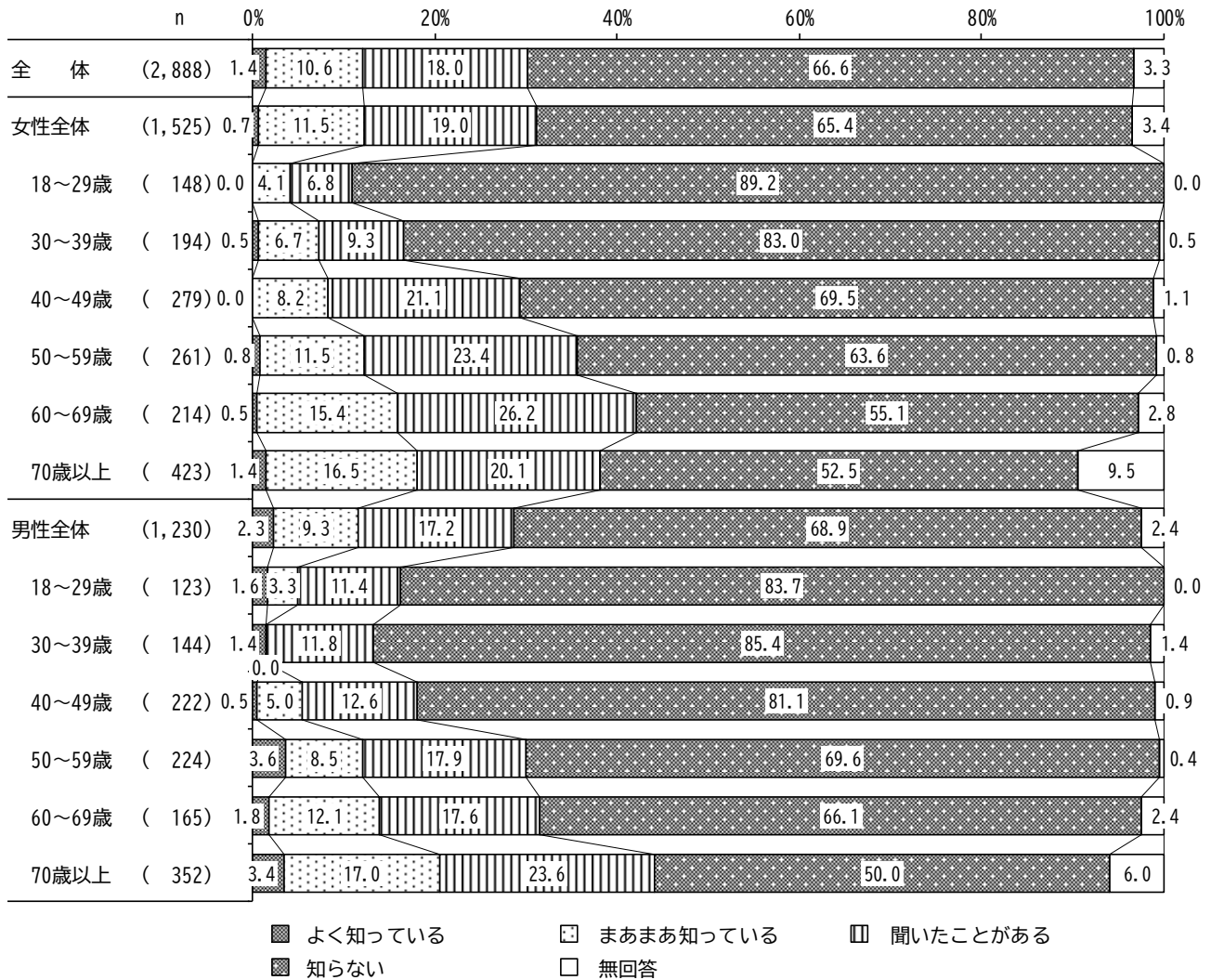
「参加と協働のまちづくり」の認知度については、「よく知っている」(1.4%)と「まあまあ知っている」(10.6%)を合わせた『知っている』(12.0%)が1割強、「聞いたことがある」(18.0%)が2割弱、「知らない」(66.6%)が6割半ばとなっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『知っている』は男性18～29歳(4.9%)を除き、年齢が上がるにつれ増加する傾向にあり、男性70歳以上(20.5%)で約2割を占めるが、それ以外の年齢は2割未満となっている。一方、「知らない」は男女ともすべての年齢で5割以上を占めており、女性18～29歳・30歳代(89.2%、83.0%)と男性40歳代以下(83.7%、85.4%、81.1%)は8割台となっている。

図表 12-1-2 性・年齢別 「参加と協働のまちづくり」の認知度

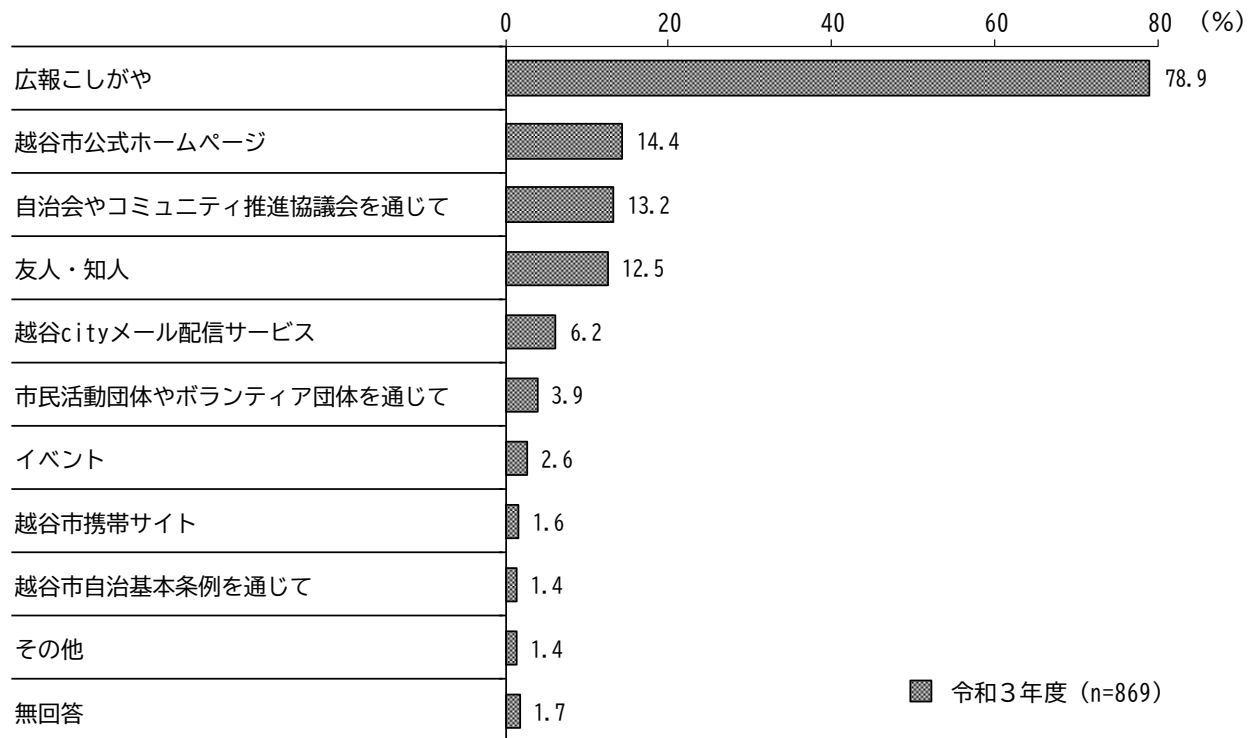


(2) 「参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけ

◇「広報こしがや」が最も多く、8割弱

問37-2. 問37で「1」から「3」と答えた方に伺います。越谷市が「参加と協働のまちづくり」をすすめていることをどのようにして知り（聞き）ましたか。(複数回答可)

図表 12-2-1 「参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけ



「参加と協働のまちづくり」を「知っている」または「聞いたことがある」と回答した869人に、知ったきっかけを聞いたところ、「広報こしがや」(78.9%)が最も多く、次いで「越谷市公式ホームページ」(14.4%)、「自治会やコミュニティ推進協議会を通じて」(13.2%)、「友人・知人」(12.5%)、「越谷cityメール配信サービス」(6.2%)の順となっている。

性別でみると、「越谷市公式ホームページ」は男性（18.4%）が女性（11.4%）を7.0ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、男女ともすべての年齢で「広報こしがや」が最も多くなっており、女性60歳代以上（85.6%、83.2%）、男性40歳代・70歳以上（82.5%、85.2%）は8割台となっている。また、「越谷市公式ホームページ」は男性50歳代（22.4%）、「自治会やコミュニティ推進協議会を通じて」は男性70歳以上（23.2%）、「越谷 city メール配信サービス」は女性30歳代（21.9%）で2割台となっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表 12-2-2 性・年齢別 「参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけ

	調査数（人）	広報こしがや	越谷市公式ホームページ	自治会やコミュニティ推進協議会を通じて	友人・知人	越谷 city メール配信サービス	市民活動団体やボランティア団体を通じて	イベント	越谷市携帯サイト	越谷市自治基本条例を通じて	その他	無回答
全体	869	78.9	14.4	13.2	12.5	6.2	3.9	2.6	1.6	1.4	1.4	1.7
女性全体	475	78.5	11.4	12.6	13.9	7.2	5.3	3.4	1.9	1.1	1.1	1.7
18～29歳	16	50.0	12.5	6.3	12.5	6.3	-	6.3	12.5	-	6.3	-
30～39歳	32	65.6	6.3	6.3	12.5	21.9	-	9.4	-	6.3	3.1	-
40～49歳	82	74.4	13.4	9.8	13.4	17.1	6.1	1.2	1.2	-	2.4	-
50～59歳	93	77.4	18.3	17.2	9.7	8.6	1.1	2.2	-	2.2	-	-
60～69歳	90	85.6	14.4	13.3	8.9	2.2	6.7	2.2	2.2	-	-	1.1
70歳以上	161	83.2	5.0	13.0	19.9	1.2	8.1	4.3	2.5	0.6	0.6	4.3
男性全体	353	78.5	18.4	15.3	11.0	5.4	2.0	2.0	1.4	1.7	2.0	1.7
18～29歳	20	35.0	30.0	10.0	20.0	5.0	-	10.0	5.0	-	15.0	-
30～39歳	19	57.9	31.6	5.3	21.1	5.3	-	5.3	-	-	5.3	-
40～49歳	40	82.5	15.0	5.0	10.0	7.5	-	2.5	-	-	-	2.5
50～59歳	67	79.1	22.4	7.5	7.5	11.9	-	-	1.5	1.5	1.5	1.5
60～69歳	52	78.8	17.3	15.4	7.7	1.9	5.8	1.9	-	1.9	-	-
70歳以上	155	85.2	14.8	23.2	11.6	3.2	2.6	1.3	1.9	2.6	1.3	2.6

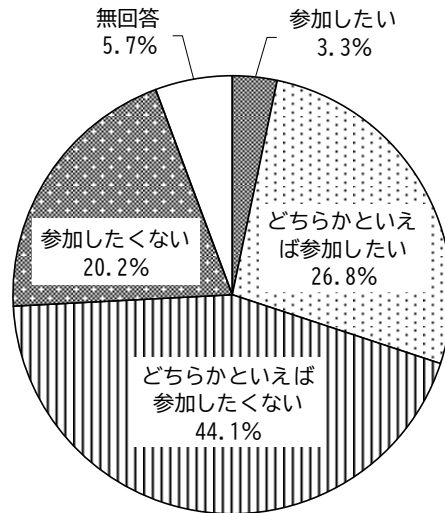
(3) 「参加と協働のまちづくり」への参加意向

◇『参加したい』は約3割

問 38. 皆さんに伺います。あなたはこのようなまちづくりに参加したいと思えますか。

(〇は1つ)

図表 12-3-1 「参加と協働のまちづくり」への参加意向



(n=2,888)

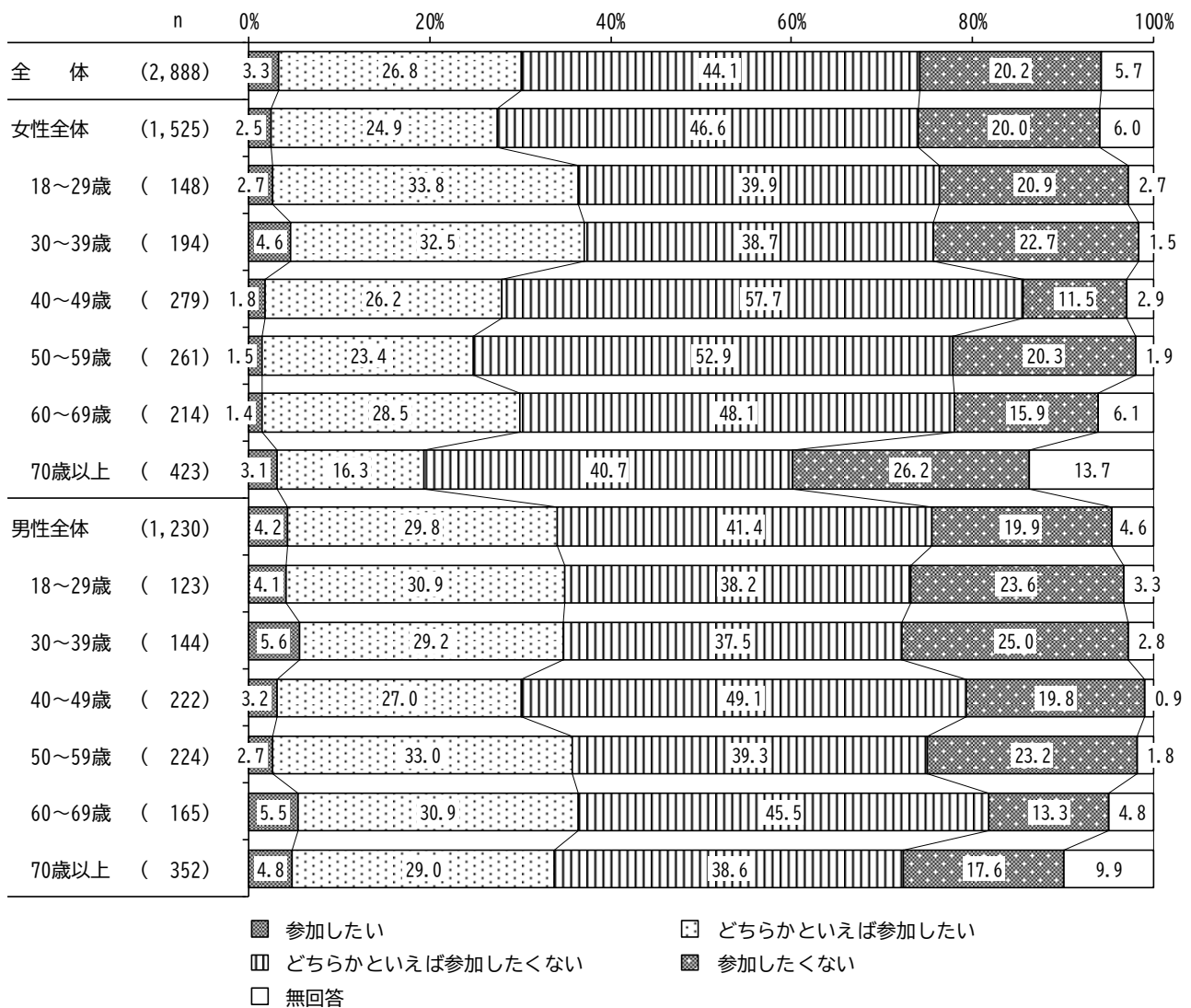
「参加と協働のまちづくり」への参加意向については、「参加したい」(3.3%)と「どちらかといえば参加したい」(26.8%)を合わせた『参加したい』(30.1%)は約3割となっている。一方、「どちらかといえば参加したくない」(44.1%)と「参加したくない」(20.2%)を合わせた『参加したくない』(64.2%)は6割半ばとなっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別で見ると、『参加したい』は男性（34.1%）が女性（27.4%）を6.7ポイント上回っている。一方、『参加したくない』は女性（66.6%）が男性（61.3%）を5.3ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、『参加したい』は女性18～29歳・30歳代（36.5%、37.1%）と全年齢の男性で3割台となっている。一方、女性70歳以上（19.4%）は全体より10.7ポイント少なくなっている。また、『参加したくない』は女性50歳代（73.2%）が最も多く、男女ともすべての年齢で過半数を占めている。

図表12-3-2 性・年齢別 「参加と協働のまちづくり」への参加意向

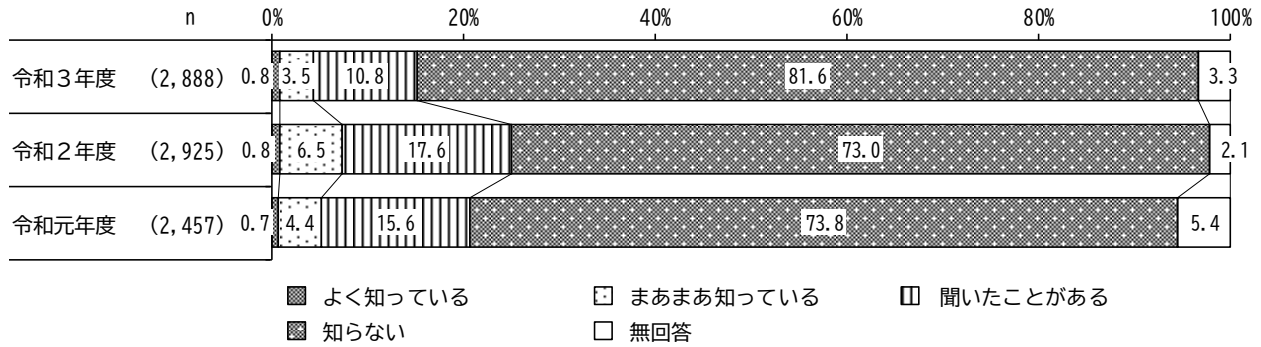


(4) 「越谷市自治基本条例」の認知度

◇『知っている』は1割未満

問 39. **皆さんに伺います。**あなたは参加と協働のまちづくりに必要なルールなどが書かれている、「越谷市自治基本条例」を知っていますか。(〇は1つ)

図表 12-4-1 「越谷市自治基本条例」の認知度



「越谷市自治基本条例」の認知度については、「よく知っている」(0.8%)と「まあまあ知っている」(3.5%)を合わせた『知っている』(4.3%)は1割未満となっている。一方、「聞いたことがある」(10.8%)は約1割、「知らない」(81.6%)は約8割となっている。

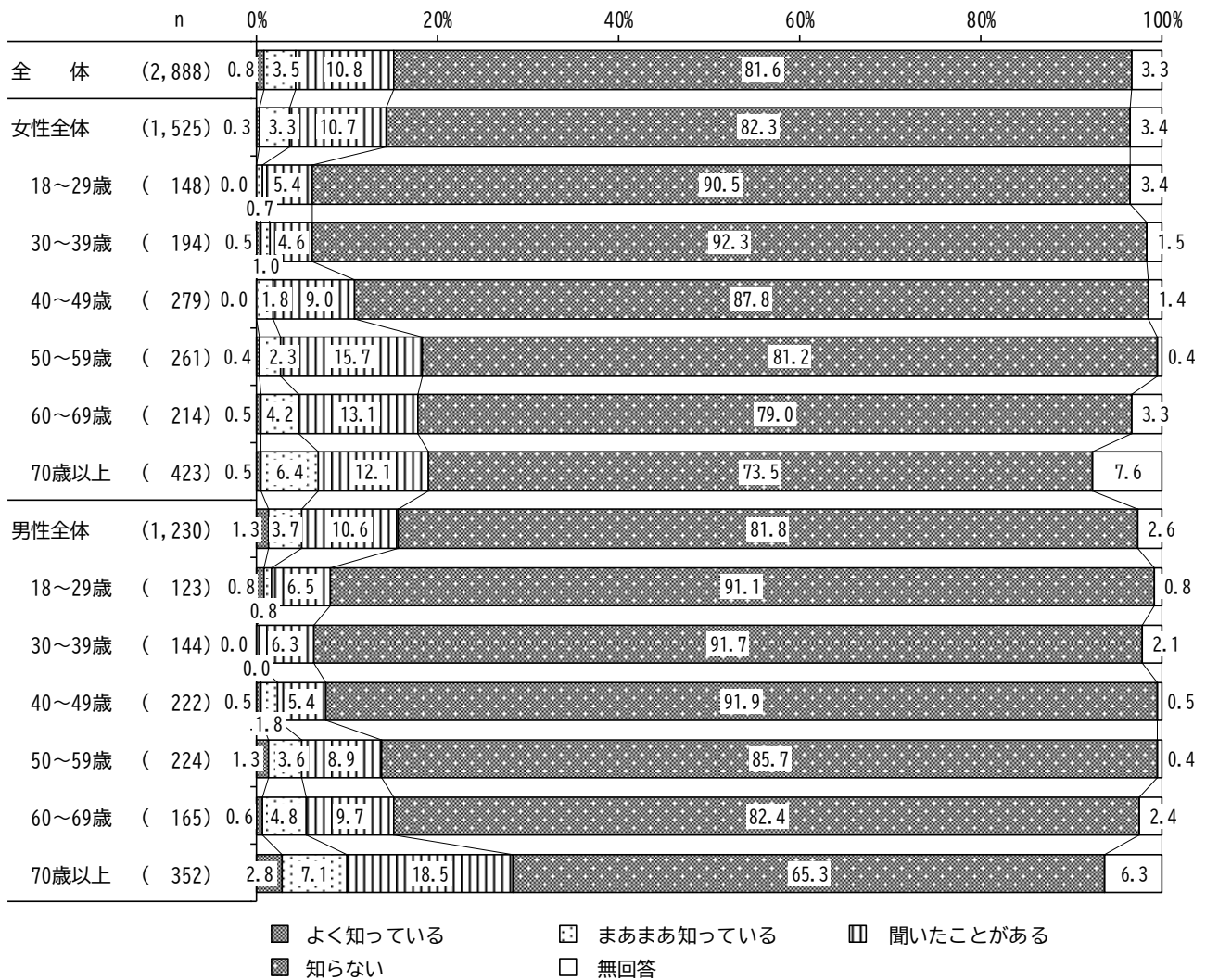
過去2回の調査と比較すると、「聞いたことがある」が令和2年度(17.6%)と比べ6.8ポイント減少する一方、「知らない」は令和2年度(73.0%)を8.6ポイント上回っている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『知っている』は男性70歳以上(9.9%)が最も多くなっているが、男女ともすべての年齢で1割未満となっている。一方、「知らない」は男女ともすべての年齢で6割を超え、女性18～29歳・30歳代(90.5%、92.3%)と男性40歳代以下(91.1%、91.7%、91.9%)で9割台となっている。

図表 12-4-2 性・年齢別 「越谷市自治基本条例」の認知度

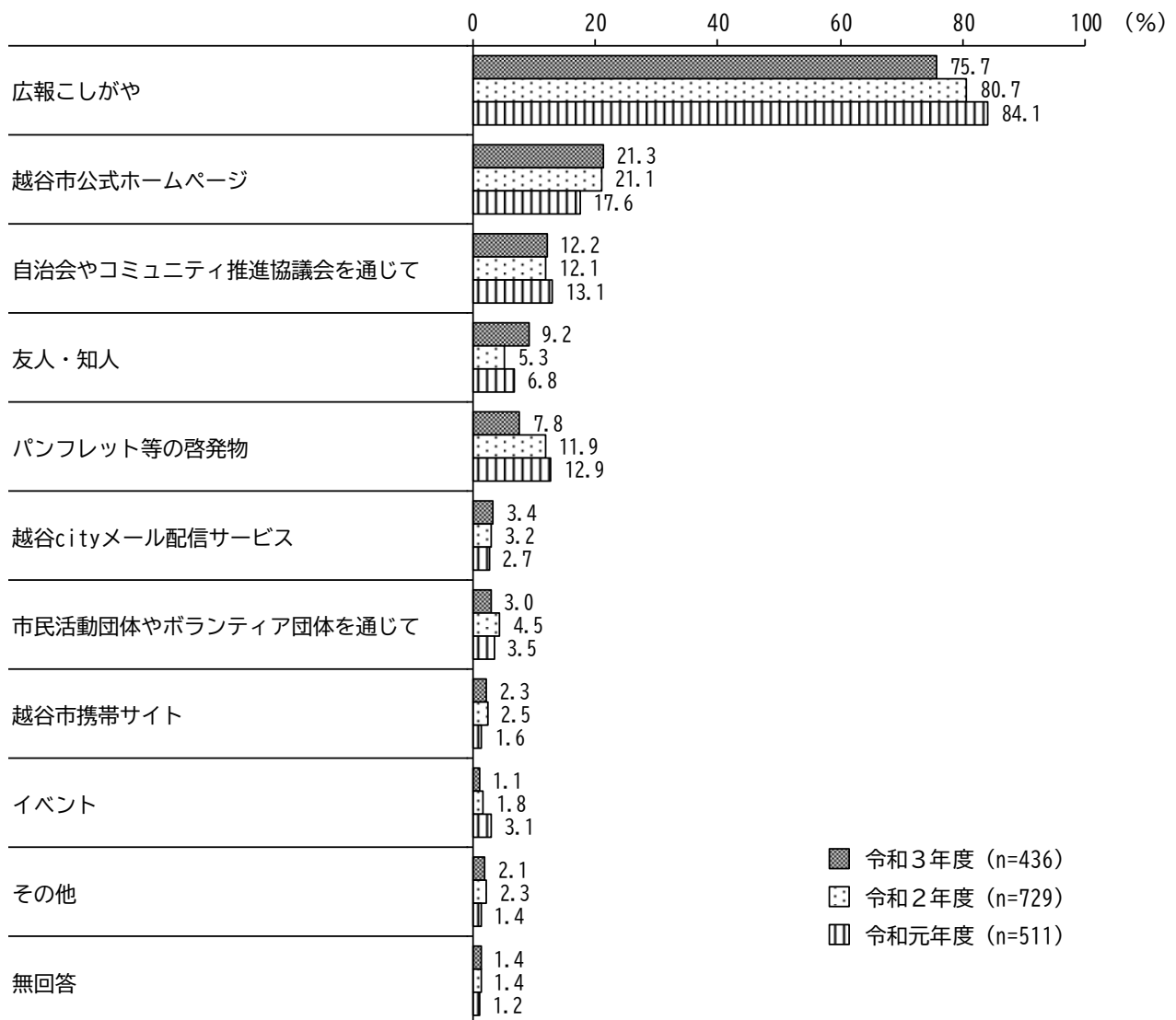


(5) 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ

◇「広報こしがや」が最も多く、7割半ば

問 39-2. 問 39で「1」から「3」(知っている・聞いたことがある)と答えた方に伺います。
「越谷市自治基本条例」のことをどのようにして知り(聞き)ましたか。(複数回答可)

図表 12-5-1 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ



「越谷市自治基本条例」を「知っている」または「聞いたことがある」と回答した 436 人に、知ったきっかけを聞いたところ、「広報こしがや」(75.7%)が最も多く、次いで「越谷市公式ホームページ」(21.3%)、「自治会やコミュニティ推進協議会を通じて」(12.2%)、「友人・知人」(9.2%)、「パンフレット等の啓発物」(7.8%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「広報こしがや」「パンフレット等の啓発物」は減少傾向にあり、前者は令和2年度(80.7%)と比べ5.0ポイント、後者は令和2年度(11.9%)と比べ4.1ポイント減少している。

性別でみると、「越谷市公式ホームページ」は男性（25.5%）が女性（17.4%）を8.1ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「広報こしがや」は女性40歳代以上、男性50歳代・70歳以上で最も多くなっており、女性70歳以上（86.3%）と男性70歳以上（87.0%）は8割台となっている。また、「越谷市公式ホームページ」は男性50歳代（45.2%）で4割半ば、「越谷 city メール配信サービス」は女性40歳代（20.0%）で2割と多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表 12-5-2 性・年齢別 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ

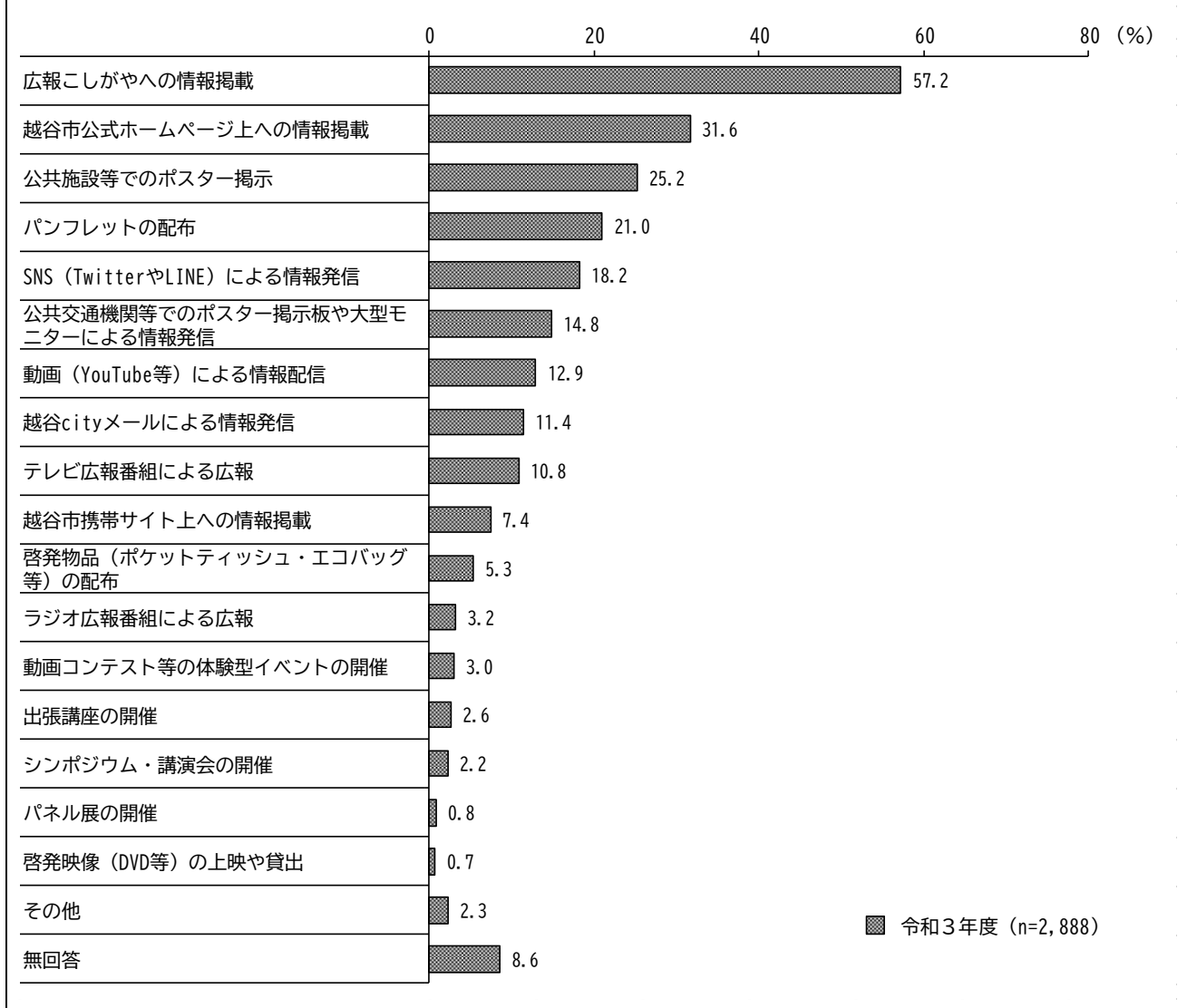
	調査数（人）	広報こしがや	越谷市公式ホームページ	自治会やコミュニティ推進協議会を通じて	友人・知人	パンフレット等の啓発物	越谷 city メール配信サービス	市民活動団体やボランティア団体を通じて	越谷市携帯サイト	イベント	その他	無回答
全体	436	75.7	21.3	12.2	9.2	7.8	3.4	3.0	2.3	1.1	2.1	1.4
女性全体	218	73.9	17.4	11.5	10.6	8.7	5.5	3.2	3.7	1.8	2.3	1.4
18～29歳	9	55.6	11.1	-	11.1	-	11.1	-	11.1	-	22.2	-
30～39歳	12	33.3	25.0	8.3	16.7	8.3	16.7	-	8.3	-	-	-
40～49歳	30	60.0	16.7	13.3	6.7	13.3	20.0	-	-	-	3.3	-
50～59歳	48	77.1	25.0	8.3	4.2	4.2	2.1	2.1	2.1	-	2.1	2.1
60～69歳	38	73.7	26.3	13.2	13.2	13.2	2.6	2.6	7.9	-	2.6	2.6
70歳以上	80	86.3	7.5	13.8	13.8	8.8	1.3	6.3	2.5	5.0	-	1.3
男性全体	192	77.1	25.5	14.1	7.3	7.3	1.6	2.6	1.0	0.5	2.1	0.5
18～29歳	10	30.0	50.0	10.0	30.0	-	-	10.0	-	-	-	-
30～39歳	9	66.7	33.3	-	11.1	-	11.1	-	-	-	-	-
40～49歳	17	58.8	23.5	11.8	5.9	11.8	-	-	-	-	5.9	-
50～59歳	31	71.0	45.2	6.5	6.5	6.5	6.5	-	3.2	-	6.5	-
60～69歳	25	80.0	24.0	8.0	-	12.0	-	4.0	-	-	-	-
70歳以上	100	87.0	17.0	20.0	7.0	7.0	-	3.0	1.0	1.0	1.0	1.0

(6) 「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法

◇「広報こしがやへの情報掲載」(57.2%)が最も多く、6割弱

問 40. **皆さんに伺います。**「参加と協働のまちづくり」を推進するために「越谷市自治基本条例」の普及・啓発を行っていますが、普及・啓発方法としてどのような方法が効果的であると思いますか。(複数回答可)

図表 12-6-1 「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法



「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法については、「広報こしがやへの情報掲載」(57.2%)が最も多く、次いで「越谷市公式ホームページ上への情報掲載」(31.6%)、「公共施設等でのポスター掲示」(25.2%)、「パンフレットの配布」(21.0%)、「SNS (Twitter や LINE) による情報発信」(18.2%)の順となっている。

性別で見ると、「越谷 city メールによる情報発信」は女性（14.7%）が男性（7.8%）を6.9ポイント上回っている。一方、「動画（YouTube等）による情報配信」は男性（16.3%）が女性（10.6%）を5.7ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「広報こしがやへの情報掲載」は女性30歳代以上、男性40歳代以上で最も多くなっており、女性60歳代（75.7%）と男性60歳代以上（77.0%、70.7%）で7割台、女性50歳代・70歳以上（60.9%、68.6%）で6割台を占めている。「SNS（TwitterやLINE）による情報発信」は女性18～29歳（59.5%）と男性18～29歳・30歳代（51.2%、38.2%）で最も多くなっており、女性30歳代（40.2%）も約4割を占めている。また、「越谷市公式ホームページ上への情報掲載」は女性40歳代・50歳代（41.2%、43.7%）と男性40歳代・50歳代（41.0%、44.2%）で4割台、「公共施設等でのポスター掲示」は女性30歳代（36.6%）と男性30歳代（30.6%）、「パンフレットの配布」は男性60歳代（30.3%）、「動画（YouTube等）による情報配信」は男性18～29歳・30歳代（34.1%、31.9%）、「越谷 city メールによる情報発信」は女性40歳代（36.9%）で3割台と多くなっている。

図表 12-6-2 性・年齢別 「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法

	調査数（人）	広報こしがやへの情報掲載	越谷市公式ホームページ上への情報掲載	公共施設等でのポスター掲示	パンフレットの配布	SNS（TwitterやLINE）による情報発信	公共交通機関等でのポスター掲示板や大型モニターによる情報発信	動画（YouTube等）による情報配信	越谷 city メールによる情報発信	テレビ広報番組による広報	越谷市携帯サイト上への情報掲載	啓発物品（ポケットティッシュ・エコバッグ等）の配布	ラジオ広報番組による広報	動画コンテンツ等の体験型イベントの開催	出張講座の開催	シンポジウム・講演会の開催	パネル展の開催	啓発映像（DVD等）の上映や貸出	その他	無回答
全体	2,888	57.2	31.6	25.2	21.0	18.2	14.8	12.9	11.4	10.8	7.4	5.3	3.2	3.0	2.6	2.2	0.8	0.7	2.3	8.6
女性全体	1,525	57.8	30.9	27.1	20.2	19.5	15.3	10.6	14.7	9.9	8.3	5.8	2.4	3.3	2.4	2.4	1.0	0.5	2.1	8.5
18～29歳	148	25.7	28.4	29.7	16.2	59.5	20.9	24.3	6.1	11.5	8.8	6.8	2.0	6.1	0.7	-	-	1.4	0.7	3.4
30～39歳	194	42.8	31.4	36.6	19.6	40.2	23.2	19.1	23.7	11.3	9.8	7.2	3.6	4.1	-	1.0	-	-	2.1	3.6
40～49歳	279	52.7	41.2	25.8	17.6	24.7	20.1	12.9	36.9	4.7	11.8	7.9	1.4	5.7	1.1	0.7	1.1	0.4	2.2	2.5
50～59歳	261	60.9	43.7	26.8	23.0	14.9	22.2	10.0	15.3	9.2	13.0	7.7	3.8	3.1	2.7	2.3	1.9	1.1	1.5	6.1
60～69歳	214	75.7	35.0	29.4	24.3	6.1	12.1	9.8	5.1	14.0	6.5	3.7	1.4	2.8	3.3	2.3	0.9	0.5	1.9	6.5
70歳以上	423	68.6	14.7	21.7	19.9	2.1	4.0	1.2	3.5	10.6	3.1	3.5	2.4	0.9	4.3	5.0	1.4	0.2	2.8	19.1
男性全体	1,230	56.6	33.6	23.7	22.3	17.9	14.8	16.3	7.8	11.6	6.3	4.9	4.2	2.6	3.1	2.2	0.6	1.0	2.3	7.6
18～29歳	123	31.7	21.1	21.1	14.6	51.2	23.6	34.1	7.3	13.0	5.7	4.9	8.9	4.9	4.1	1.6	1.6	0.8	2.4	3.3
30～39歳	144	34.7	34.7	30.6	14.6	38.2	25.7	31.9	11.8	8.3	8.3	11.1	4.2	3.5	2.1	2.1	0.7	0.7	4.9	3.5
40～49歳	222	47.7	41.0	24.3	22.1	27.9	17.6	23.9	13.5	10.4	7.7	7.2	5.0	5.4	0.9	2.7	0.5	-	1.8	5.4
50～59歳	224	55.8	44.2	26.3	21.4	11.6	19.6	15.6	10.7	13.8	8.9	5.8	5.4	2.7	1.8	2.2	-	1.3	2.2	2.2
60～69歳	165	77.0	35.8	25.5	30.3	3.6	7.9	10.3	3.6	17.6	5.5	3.6	1.2	0.6	6.1	-	-	0.6	0.6	7.9
70歳以上	352	70.7	25.0	19.0	25.0	2.3	5.7	2.0	2.8	9.1	3.4	0.9	2.8	0.6	4.0	3.1	0.9	1.7	2.3	15.6

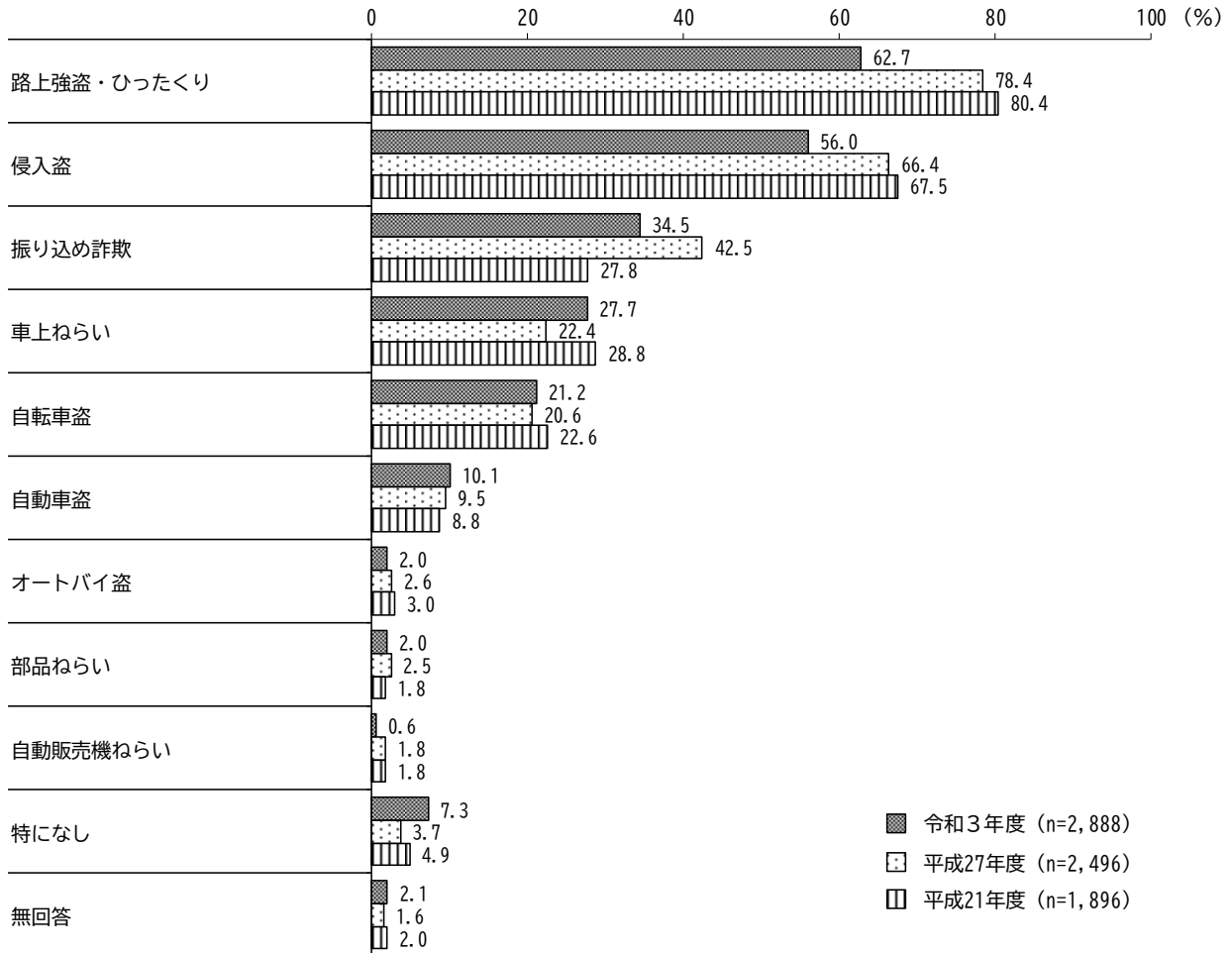
13. 防犯について

(1) 脅威や不安を感じる街頭犯罪等

◇「路上強盗・ひったくり」が最も多く、6割強

問 41. あなたが日頃、脅威や不安を感じる街頭犯罪等は何ですか。(〇は3つまで)

図表 13-1-1 脅威や不安を感じる街頭犯罪等



日頃、脅威や不安を感じる街頭犯罪等は、「路上強盗・ひったくり」(62.7%)が最も多く、次いで「侵入盗」(56.0%)、「振り込め詐欺」(34.5%)、「車上ねらい」(27.7%)、「自転車盗」(21.2%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「車上ねらい」は平成27年度(22.4%)と比べ5.3ポイント増加している。一方、上位3項目はいずれも平成27年度を下回り、「路上強盗・ひったくり」(平成27年度78.4%)は15.7ポイント、「侵入盗」(平成27年度66.4%)は10.4ポイント、「振り込め詐欺」(平成27年度42.5%)は8.0ポイント減少している。

性別でみると、「路上強盗・ひったくり」は女性（70.8%）が男性（53.8%）を17.0ポイント上回っている。一方、「車上ねらい」（男性32.4%、女性24.6%）は7.8ポイント、「自動車盗」（男性13.9%、女性7.1%）は6.8ポイント、男性が女性を上回っている。

性・年齢別でみると、「路上強盗・ひったくり」は男性18～29歳（38.2%）以外で過半数を占め、女性全年齢と男性60歳以上で最も多くなっている。特に女性30歳代～50歳代（71.1%、77.1%、75.1%）は7割台を占めている。「侵入盗」は女性70歳以上（48.5%）と男性18～29歳・70歳以上（42.3%、49.7%）で4割台、それ以外は5割を超えており、男性50歳代以下で最も多くなっている。「自転車盗」は男性18～29歳（42.3%）で「侵入盗」と並び最も多く、女性18～29歳（32.4%）も3割強を占めている。また、女性は年齢が上がるにつれ「振り込め詐欺」が増加する傾向にあり、60歳代（46.3%）で4割半ば、70歳以上（56.5%）は5割半ばとなっている。「振り込め詐欺」は男性70歳以上（45.2%）も高くなっている。一方、「車上ねらい」は30歳代～50歳代で女性（34.0%、38.7%、35.2%）、男性（39.6%、44.1%、45.1%）とも3割を超えている。

図表13-1-2 性・年齢別 脅威や不安を感じる街頭犯罪等

(%)

	調査数（人）	路上強盗・ひったくり	侵入盗	振り込め詐欺	車上ねらい	自転車盗	自動車盗	オートバイ盗	部品ねらい	自動販売機ねらい	特になし	無回答
全体	2,888	62.7	56.0	34.5	27.7	21.2	10.1	2.0	2.0	0.6	7.3	2.1
女性全体	1,525	70.8	58.3	36.7	24.6	20.9	7.1	1.2	2.0	0.3	6.4	2.0
18～29歳	148	67.6	55.4	20.9	22.3	32.4	4.7	0.7	2.7	-	10.8	-
30～39歳	194	71.1	64.4	21.6	34.0	27.8	9.3	-	3.1	0.5	4.1	0.5
40～49歳	279	77.1	64.5	22.9	38.7	20.1	12.9	1.1	2.2	0.4	2.9	1.4
50～59歳	261	75.1	64.0	31.8	35.2	22.6	9.6	3.1	1.1	-	3.8	0.4
60～69歳	214	69.2	58.9	46.3	18.2	18.7	6.1	0.5	1.9	-	7.9	1.4
70歳以上	423	65.5	48.5	56.5	8.3	14.2	1.9	1.4	1.7	0.5	9.0	5.2
男性全体	1,230	53.8	54.4	31.9	32.4	21.0	13.9	2.8	2.2	1.1	7.8	1.8
18～29歳	123	38.2	42.3	18.7	26.0	42.3	19.5	1.6	2.4	0.8	10.6	0.8
30～39歳	144	52.1	57.6	27.1	39.6	24.3	20.1	4.2	4.2	1.4	5.6	2.1
40～49歳	222	55.0	60.8	27.0	44.1	18.9	15.8	5.4	1.8	0.9	5.4	0.5
50～59歳	224	56.3	62.9	24.6	45.1	11.2	19.6	5.4	2.7	0.9	4.9	1.3
60～69歳	165	53.9	50.3	33.9	25.5	22.4	12.1	0.6	1.8	0.6	12.7	1.8
70歳以上	352	57.7	49.7	45.2	19.3	19.0	5.4	0.6	1.4	1.4	8.8	3.1

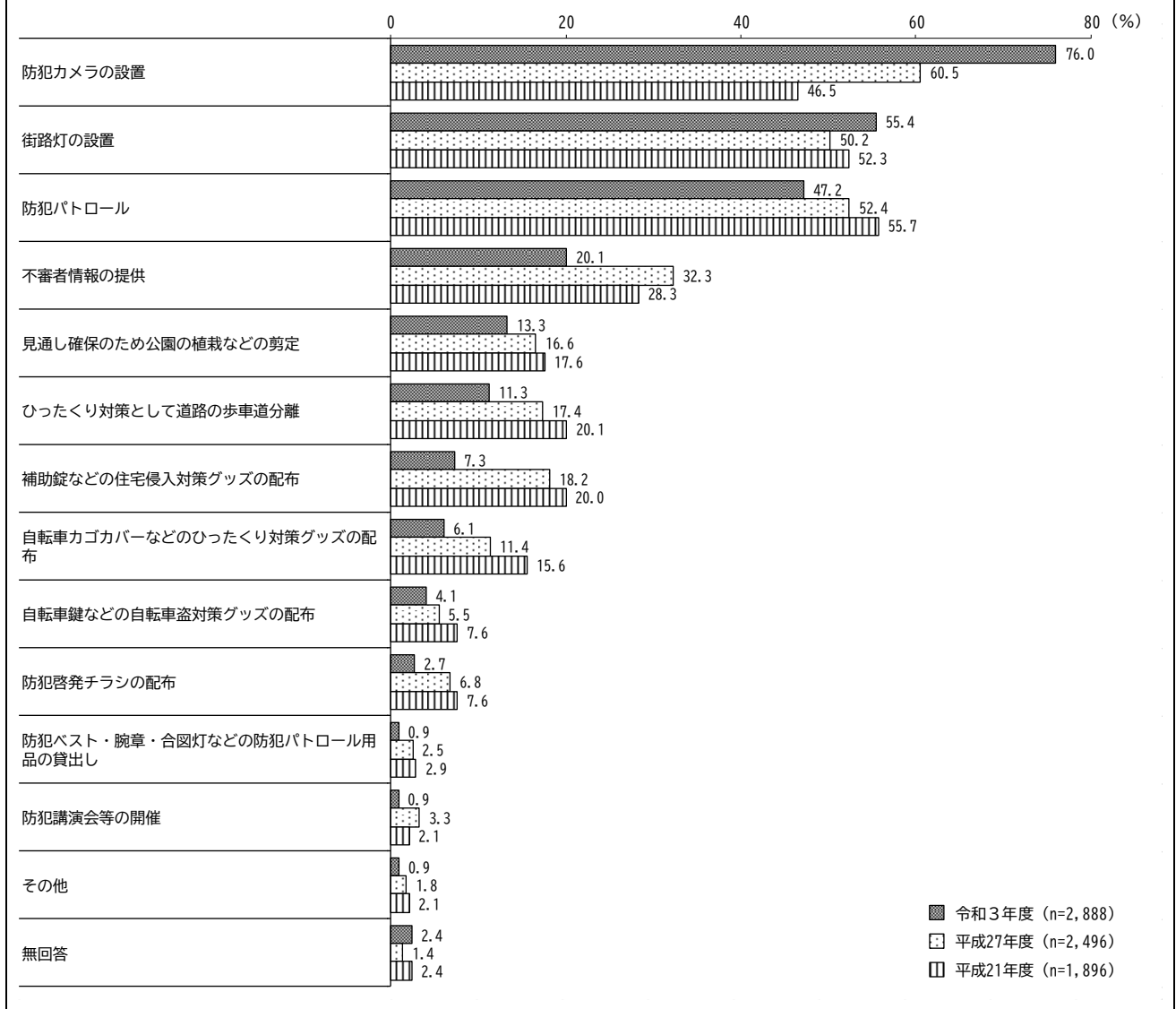
(2) 効果的な防犯対策

◇「防犯カメラの設置」が最も多く、7割半ば

問 42. あなたは、越谷市が防犯のためにどのようなことを行うと効果的だと思いますか。

(〇は3つまで)

図表 13-2-1 効果的な防犯対策



市が行う効果的な防犯対策については、「防犯カメラの設置」(76.0%)が最も多く、次いで「街路灯の設置」(55.4%)、「防犯パトロール」(47.2%)、「不審者情報の提供」(20.1%)、「見通し確保のため公園の植栽などの剪定」(13.3%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「防犯カメラの設置」は平成27年度(60.5%)と比べ15.5ポイント、「街路灯の設置」は平成27年度(50.2%)と比べ5.2ポイント増加している。一方、3位以下は減少傾向にある項目が多く、平成27年度と比べ「不審者情報の提供」(20.1%)は12.2ポイント、「補助錠などの住宅侵入対策グッズの配布」(7.3%)は10.9ポイント、「ひたくり対策として道路の歩車道分離」(11.3%)は6.1ポイント、「自転車カゴカバーなどのひたくり対策グッズの配布」(6.1%)は5.3ポイント、「防犯パトロール」(47.2%)は5.2ポイント減少している。

性別でみると、「見通し確保のため公園の植栽などの剪定」は女性（15.7%）が男性（10.7%）を5.0ポイント上回っている。

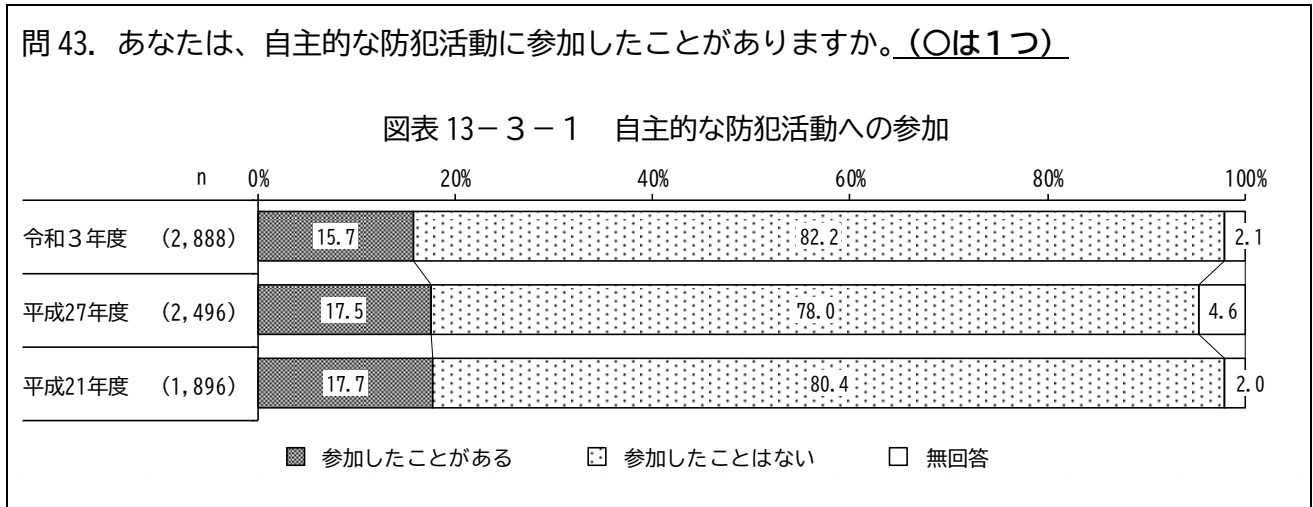
性・年齢別でみると、男女ともすべての年齢で「防犯カメラの設置」が過半数を占め、最も多くなっている。「街路灯の設置」は女性70歳以上（49.2%）と男性18～29歳（49.6%）以外の年齢で過半数を占めており、2番目に多くなっている。「防犯パトロール」は女性18～29歳・30歳代・60歳代（57.4%、55.7%、50.0%）と男性30歳代～50歳代（52.1%、55.9%、54.0%）で5割台と多くなっている。また、「見通し確保のため公園の植栽などの剪定」は女性40歳代・50歳代（19.4%、20.3%）で約2割を占めている。

図表 13-2-2 性・年齢別 効果的な防犯対策

	調査数（人）	防犯カメラの設置	街路灯の設置	防犯パトロール	不審者情報の提供	見通し確保のため公園の植栽などの剪定	ひたたくり対策として道路の歩車道分離	補助錠などの住宅侵入対策グッズの配布	自転車カゴカバーなどのひたたくり対策グッズの配布	自転車鍵などの自転車盗対策グッズの配布	防犯啓発チラシの配布	防犯バスタ・腕章・合図灯などの防犯パトロール用品の貸出し	防犯講演会等の開催	その他	無回答
全体	2,888	76.0	55.4	47.2	20.1	13.3	11.3	7.3	6.1	4.1	2.7	0.9	0.9	0.9	2.4
女性全体	1,525	75.2	57.3	48.1	22.0	15.7	12.8	7.7	6.7	3.7	1.9	0.6	0.7	0.8	2.0
18～29歳	148	78.4	62.8	57.4	20.9	7.4	10.8	8.1	2.7	4.1	2.0	-	-	-	0.7
30～39歳	194	78.4	60.8	55.7	24.2	12.9	13.9	7.7	5.2	5.7	1.0	1.0	-	1.0	-
40～49歳	279	77.4	60.2	48.7	21.1	19.4	14.3	9.0	6.8	4.7	-	0.4	-	0.7	1.4
50～59歳	261	77.4	62.1	49.0	20.7	20.3	13.4	5.4	5.7	3.1	1.5	1.1	1.9	0.4	0.8
60～69歳	214	75.7	56.5	50.0	24.8	12.1	10.3	9.3	7.5	1.9	2.8	0.5	0.5	1.9	0.9
70歳以上	423	69.5	49.2	39.5	21.3	16.5	13.0	7.3	9.0	3.3	3.3	0.5	1.2	0.7	5.0
男性全体	1,230	77.7	54.2	46.4	17.9	10.7	9.8	7.0	4.8	4.4	3.6	1.4	1.0	1.1	2.2
18～29歳	123	74.8	49.6	43.1	11.4	7.3	10.6	8.1	2.4	8.9	7.3	-	-	0.8	0.8
30～39歳	144	77.1	52.1	52.1	21.5	11.1	10.4	7.6	1.4	4.2	3.5	1.4	-	2.1	2.1
40～49歳	222	77.9	57.7	55.9	17.1	9.5	8.1	5.4	4.5	3.6	0.9	1.4	0.9	1.8	-
50～59歳	224	77.2	54.5	54.0	24.1	9.8	9.4	6.3	4.5	1.3	0.9	1.8	-	1.3	0.9
60～69歳	165	85.5	59.4	47.9	14.5	10.9	11.5	7.3	4.2	4.2	1.2	1.8	-	0.6	1.2
70歳以上	352	75.6	52.0	33.8	16.8	12.8	9.9	7.7	7.7	5.4	6.8	1.4	2.8	0.6	5.4

(3) 自主的な防犯活動への参加

◇「参加したことがある」が1割半ば



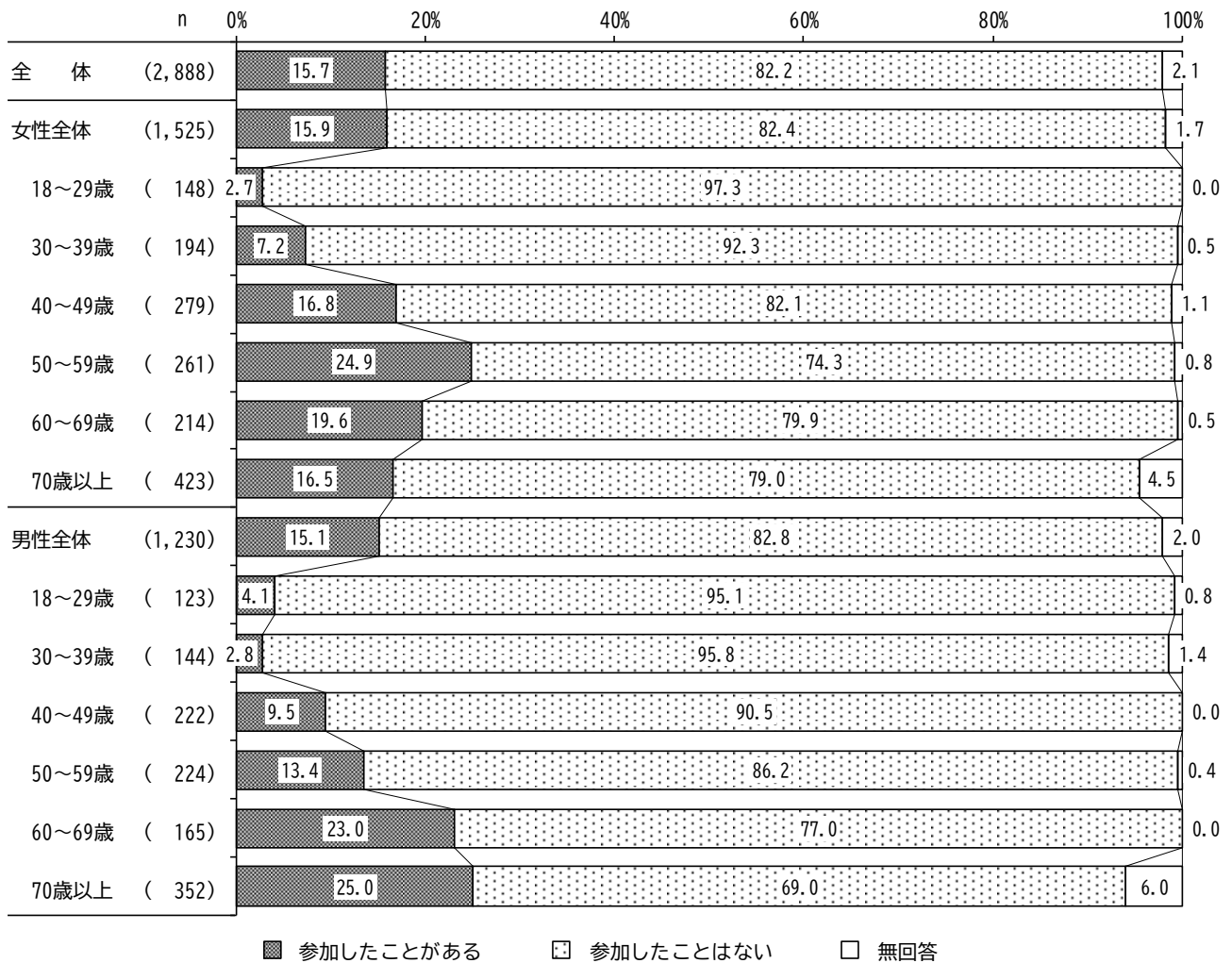
自主的な防犯活動への参加については、「参加したことがある」(15.7%)が1割半ばとなっている。一方、「参加したことはない」(82.2%)は8割強となっている。

過去2回の調査と比較すると、「参加したことがある」はやや減少傾向にあり、「参加したことはない」は平成27年度(78.0%)を4.2ポイント上回っている。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「参加したことがある」は男性 70 歳以上 (25.0%) が最も多く、女性 50 歳代 (24.9%) と男性 60 歳代 (23.0%) も 2 割台となっている。一方、女性 18~29 歳・30 歳代 (2.7%、7.2%) と男性 40 歳代以下 (4.1%、2.8%、9.5%) は「参加したことがある」が 1 割未満となっており、「参加したことはない」が 9 割を超えている。

図表 13-3-2 性・年齢別 自主的な防犯活動への参加

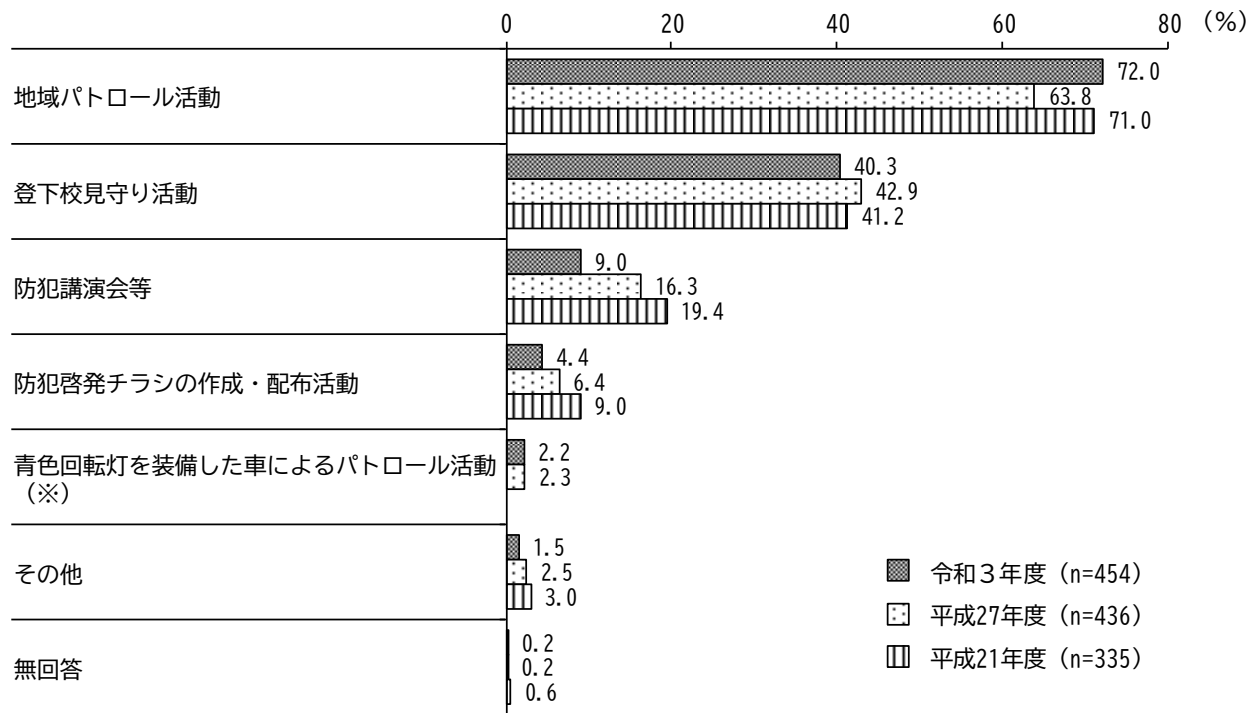


(4) 参加したことがある自主防犯活動

◇「地域パトロール活動」が最も多く、7割強

問 43-2. 問 43 で「1. 参加したことがある」と答えた方に伺います。
あなたが参加した自主防犯活動はどのような活動ですか。(複数回答可)

図表 13-4-1 参加したことがある自主防犯活動



(※) 平成 21 年度では選択肢なし

自主的な防犯活動に「参加したことがある」と回答した 454 人に、参加したことがある自主防犯活動を聞いたところ、「地域パトロール活動」(72.0%) が最も多く、次いで「登下校見守り活動」(40.3%)、「防犯講演会等」(9.0%)、「防犯啓発チラシの作成・配布活動」(4.4%)、「青色回転灯を装備した車によるパトロール活動」(2.2%) の順となっている。

過去 2 回の調査と比較すると、「地域パトロール活動」は平成 27 年度 (63.8%) と比べ 8.2 ポイント増加している。一方、「防犯講演会等」は平成 27 年度 (16.3%) と比べ 7.3 ポイント減少し、「防犯啓発チラシの作成・配布活動」も減少傾向にある。

性別でみると、「登下校見守り活動」は女性（53.1%）が男性（23.1%）を30.0ポイント上回っている。一方、「地域パトロール活動」は男性（85.5%）が女性（63.0%）を22.5ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「地域パトロール活動」は女性60歳代以上（83.3%、78.6%）、男性50歳代以上（80.0%、92.1%、87.5%）で7割を超え、最も多くなっている。「登下校見守り活動」は女性40歳代・50歳代（72.3%、66.2%）で6割を超え、最も多くなっている。一方、女性60歳代以上（23.8%、38.6%）と男性は4割未満となっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表 13-4-2 性・年齢別 参加したことがある自主防犯活動

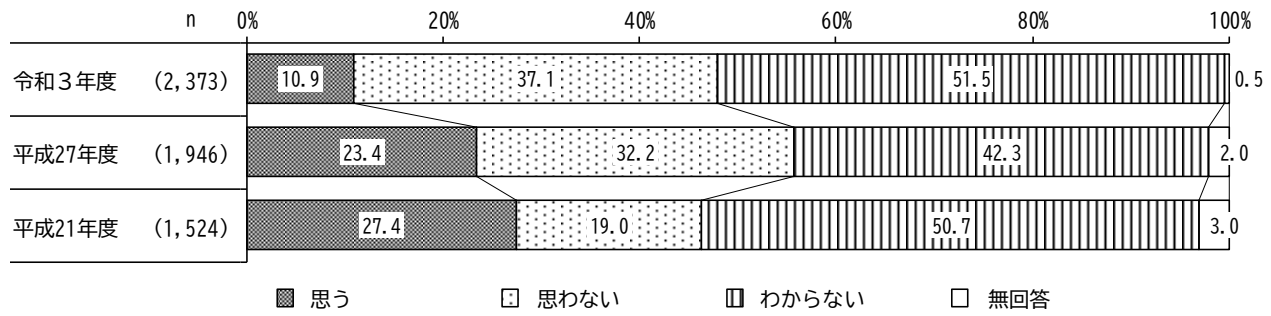
	調査数（人）	地域パトロール活動	登下校見守り活動	防犯講演会等	防犯啓発チラシの作成・配布活動	青色回転灯を装備した車によるパトロール活動	その他	無回答
全体	454	72.0	40.3	9.0	4.4	2.2	1.5	0.2
女性全体	243	63.0	53.1	8.6	2.5	0.4	0.8	-
18～29歳	4	25.0	50.0	25.0	-	-	-	-
30～39歳	14	28.6	92.9	-	-	-	-	-
40～49歳	47	51.1	72.3	2.1	2.1	-	-	-
50～59歳	65	50.8	66.2	10.8	3.1	1.5	-	-
60～69歳	42	83.3	23.8	9.5	2.4	-	2.4	-
70歳以上	70	78.6	38.6	11.4	2.9	-	1.4	-
男性全体	186	85.5	23.1	9.1	5.9	3.8	1.1	0.5
18～29歳	5	60.0	40.0	20.0	-	-	-	-
30～39歳	4	75.0	-	50.0	-	-	-	-
40～49歳	21	81.0	42.9	-	4.8	-	-	-
50～59歳	30	80.0	33.3	3.3	3.3	-	3.3	-
60～69歳	38	92.1	7.9	5.3	2.6	10.5	-	-
70歳以上	88	87.5	21.6	12.5	9.1	3.4	1.1	1.1

(5) 自主的な防犯活動への参加意向

◇参加したいと「思う」が約1割

問 43-3. 問43で「2. 参加したことはない」と答えた方に伺います。
あなたは、今後自主的な防犯活動に参加したいと思いますか。(〇は1つ)

図表 13-5-1 自主的な防犯活動への参加意向



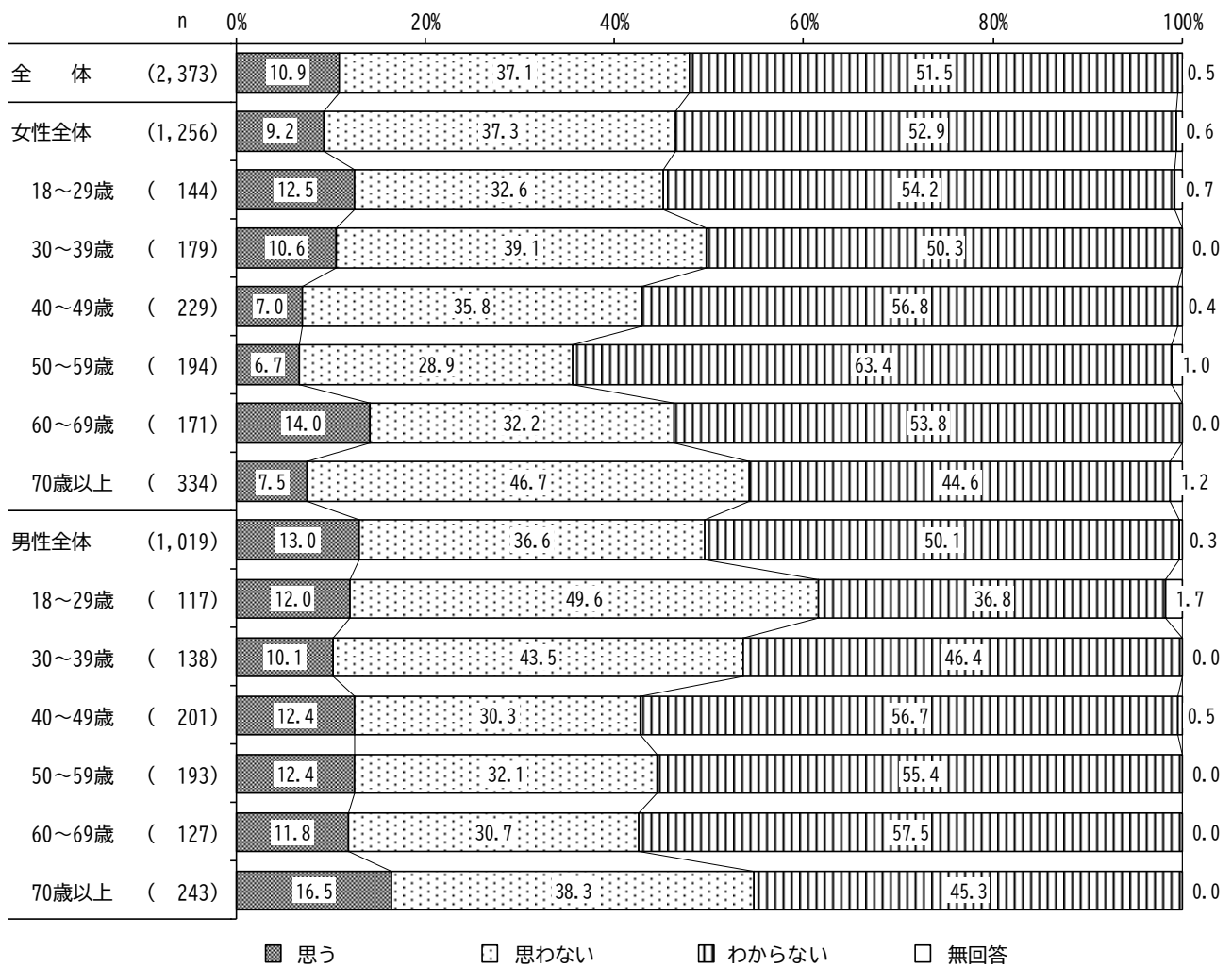
自主的な防犯活動に「参加したことはない」と回答した2,373人に、参加意向を聞いたところ、参加したいと「思う」(10.9%)が約1割、参加したいと「思わない」(37.1%)が4割弱となっている。

過去2回の調査と比較すると、「思う」が平成27年度(23.4%)と比べ12.5ポイント減少する一方、「思わない」は平成27年度(32.2%)を4.9ポイント上回っている。また、「わからない」が平成27年度(42.3%)と比べ9.2ポイント増加し、5割を超えている。

性別でみると、参加したいと「思う」は女性（9.2%）、男性（13.0%）とも約1割～1割強となっている。

性・年齢別でみると、参加したいと「思う」は男性70歳以上（16.5%）が最も多くなっているが、男女ともすべての年齢で2割未満となっている。一方、「思わない」は男性18～29歳（49.6%）が約5割で最も多く、女性70歳以上（46.7%）も4割半ばを占めている。

図表 13-5-2 性・年齢別 自主的な防犯活動への参加意向

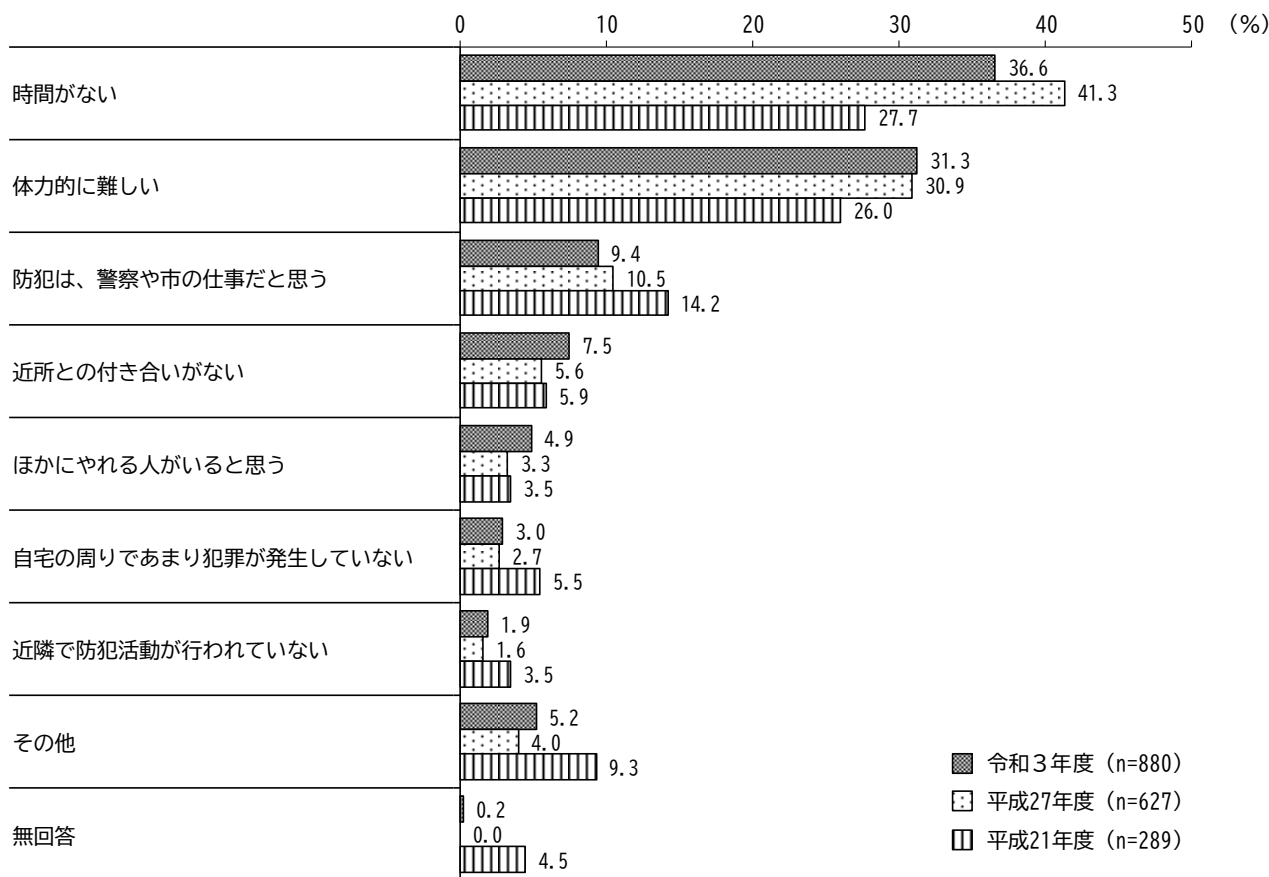


(6) 自主的な防犯活動に参加したいと思わない理由

◇「時間がない」が最も多く、3割半ば

問 43-4. 問 43-3 で「2. 思わない」と答えた方に伺います。
 あなたが自主的な防犯活動に参加したいと思わない理由は何ですか。(〇は1つ)

図表 13-6-1 自主的な防犯活動に参加したいと思わない理由



自主的な防犯活動に参加したいと「思わない」と回答した 880 人に、その理由を聞いたところ、「時間がない」(36.6%) が最も多く、次いで「体力的に難しい」(31.3%)、「防犯は、警察や市の仕事だと思う」(9.4%)、「近所との付き合いがない」(7.5%)、「ほかにやれる人がいると思う」(4.9%) の順となっている。

過去 2 回の調査と比較すると、「時間がない」は平成 27 年度 (41.3%) と比べ 4.7 ポイント減少し、「防犯は、警察や市の仕事だと思う」も減少傾向にある。

性別でみると、「体力的に難しい」は女性（36.1%）が男性（23.9%）を12.2ポイント上回っている。一方、「時間がない」は男性（42.1%）が女性（32.7%）を9.4ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「時間がない」は女性50歳代以下、男性60歳代以下で最も多くなっており、女性40歳代以下（57.4%、67.1%、53.7%）と男性50歳代以下（63.8%、60.0%、52.5%、54.8%）で5割を超えている。「体力的に難しい」は男女とも60歳代以上（男性60歳代は「時間がない」と同率）で最も多くなっており、女性70歳以上（80.8%）で約8割、男性70歳以上（73.1%）で7割強を占めている。また、「防犯は、警察や市の仕事だと思う」は男性40歳代（23.0%）で2割強となっている。

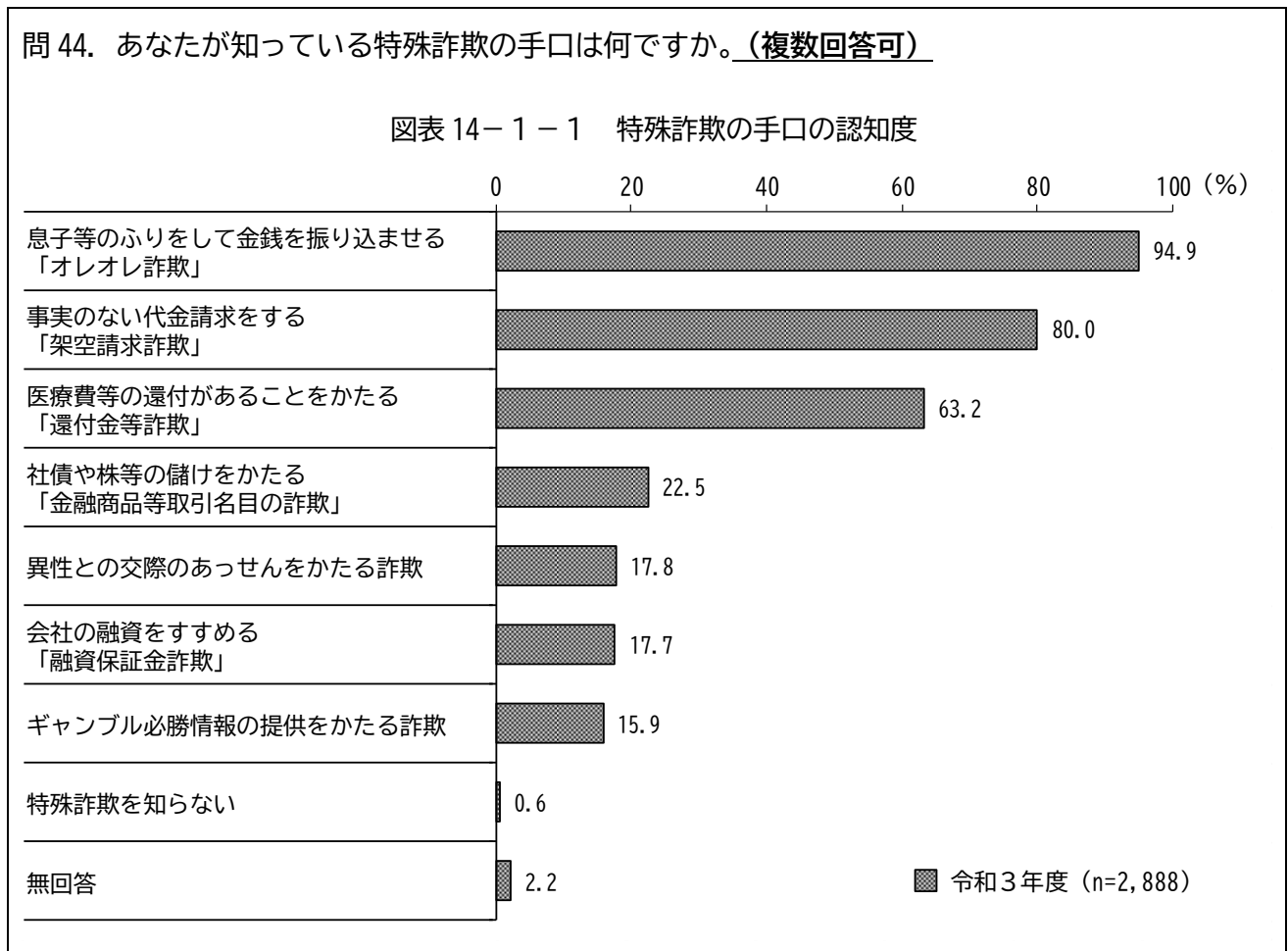
図表 13-6-2 性・年齢別 自主的な防犯活動に参加したいと思わない理由

	調査数（人）	時間がない	体力的に難しい	防犯は、警察や市の仕事だと思う	近所との付き合いがない	ほかにやれる人がいると思う	自宅の周りであまり犯罪が発生していない	近隣で防犯活動が行われていない	その他	無回答
全体	880	36.6	31.3	9.4	7.5	4.9	3.0	1.9	5.2	0.2
女性全体	468	32.7	36.1	7.7	8.3	4.9	2.1	2.4	5.3	0.4
18～29歳	47	57.4	4.3	10.6	10.6	6.4	2.1	4.3	4.3	-
30～39歳	70	67.1	-	5.7	11.4	2.9	1.4	5.7	5.7	-
40～49歳	82	53.7	3.7	15.9	9.8	7.3	1.2	1.2	7.3	-
50～59歳	56	41.1	14.3	10.7	16.1	10.7	-	1.8	3.6	1.8
60～69歳	55	16.4	52.7	12.7	3.6	-	5.5	3.6	5.5	-
70歳以上	156	1.3	80.8	0.6	4.5	3.8	2.6	0.6	5.1	0.6
男性全体	373	42.1	23.9	12.3	6.7	4.6	4.0	1.6	4.8	-
18～29歳	58	63.8	1.7	13.8	3.4	6.9	3.4	-	6.9	-
30～39歳	60	60.0	3.3	13.3	10.0	1.7	3.3	-	8.3	-
40～49歳	61	52.5	3.3	23.0	8.2	8.2	1.6	-	3.3	-
50～59歳	62	54.8	6.5	14.5	8.1	4.8	1.6	4.8	4.8	-
60～69歳	39	30.8	30.8	12.8	7.7	2.6	10.3	5.1	-	-
70歳以上	93	6.5	73.1	2.2	4.3	3.2	5.4	1.1	4.3	-

14. 特殊詐欺について

(1) 特殊詐欺の手口の認知度

◇「オレオレ詐欺」が最も多く、9割半ば



特殊詐欺の手口の認知度については、「オレオレ詐欺」(94.9%)が最も多く、次いで「架空請求詐欺」(80.0%)、「還付金等詐欺」(63.2%)、「金融商品等取引名目の詐欺」(22.5%)、「異性との交際のあっせんをかたる詐欺」(17.8%)の順となっている。

性別でみると、「還付金等詐欺」は女性（66.0%）が男性（60.2%）を5.8ポイント上回っている。一方、「ギャンブル必勝情報の提供をかたる詐欺」（男性22.1%、女性11.2%）は10.9ポイント、「金融商品等取引名目の詐欺」（男性26.8%、女性18.9%）は7.9ポイント、「異性との交際のあっせんをかたる詐欺」（男性21.3%、女性15.1%）は6.2ポイント、「融資保証金詐欺」（男性20.3%、女性15.3%）は5.0ポイント、男性が女性を上回っている。

性・年齢別でみると、男女ともすべての年齢で「オレオレ詐欺」が最も多く、次いで「架空請求詐欺」「還付金等詐欺」の順となっている。「オレオレ詐欺」は70歳以上（女性88.9%、男性87.5%）を除き9割台、「架空請求詐欺」は女性70歳以上（58.4%）と男性60歳代・70歳以上（78.8%、66.8%）を除き8割以上、「還付金等詐欺」は男性18～29歳（48.8%）を除き5割以上を占めている。また、「金融商品等取引名目の詐欺」は男性30歳代（44.4%）、「異性との交際のあっせんをかたる詐欺」は男性18～29歳・男性30歳代（41.5%、40.3%）、「ギャンブル必勝情報の提供をかたる詐欺」は男性18～29歳・男性30歳代（40.7%、41.0%）で4割を超え、多くなっている。

図表 14-1-2 性・年齢別 特殊詐欺の手口の認知度

(%)

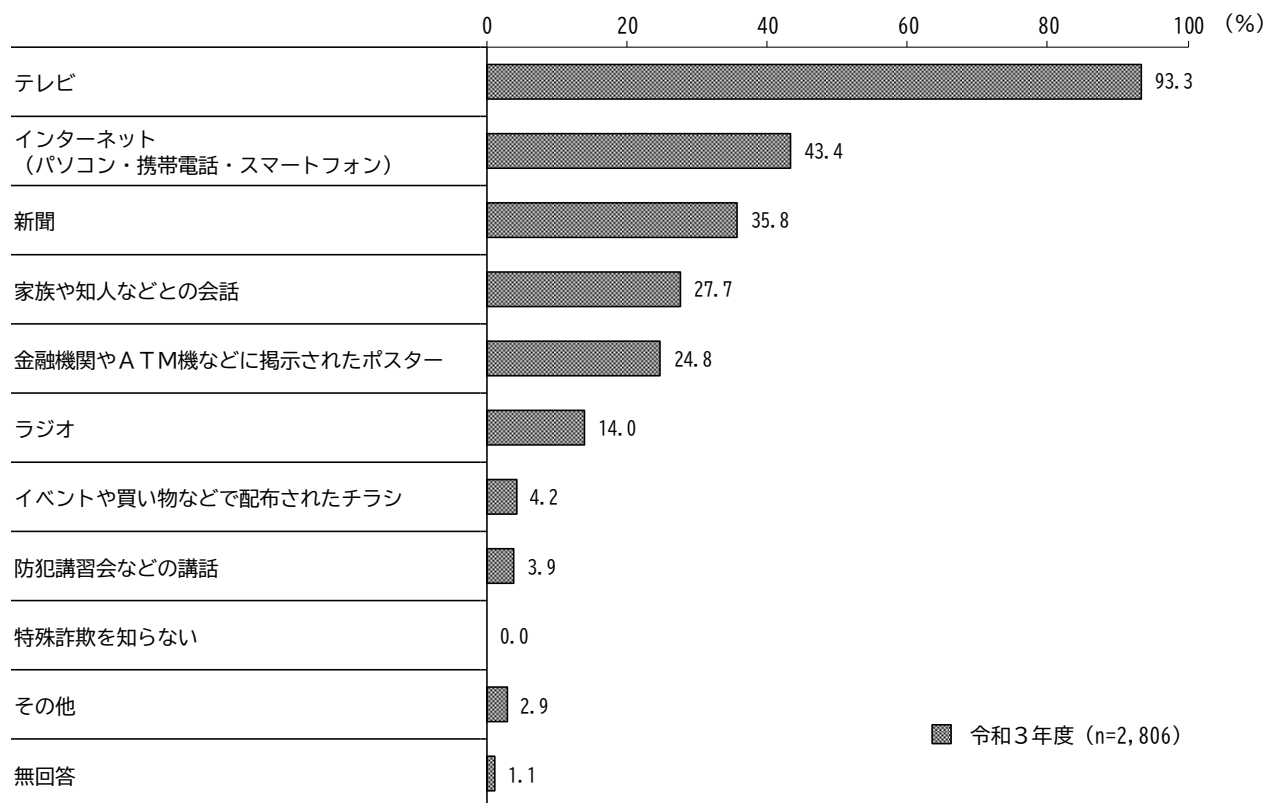
	調査数（人）	息子等の「オレオレをして金銭を振り込ませる詐欺」	事実のない代金請求をする「架空請求詐欺」	医療費等の還付があることをかたる「還付金等詐欺」	社債や株等の儲けをかたる「金融商品等取引名目の詐欺」	異性との交際のあっせんをかたる詐欺	会社の融資をすすめる「融資保証金詐欺」	ギャンブル必勝情報の提供をかたる詐欺	特殊詐欺を知らない	無回答
全体	2,888	94.9	80.0	63.2	22.5	17.8	17.7	15.9	0.6	2.2
女性全体	1,525	95.9	80.5	66.0	18.9	15.1	15.3	11.2	0.5	1.9
18～29歳	148	99.3	87.8	50.7	18.9	30.4	24.3	20.3	-	-
30～39歳	194	98.5	90.7	69.6	22.7	29.9	21.1	20.6	-	1.0
40～49歳	279	98.6	91.0	79.2	24.7	18.6	17.6	16.5	0.7	0.4
50～59歳	261	98.1	88.1	73.2	26.4	17.2	15.7	13.8	0.4	0.4
60～69歳	214	98.6	86.9	67.8	13.6	8.9	11.2	5.1	0.5	-
70歳以上	423	88.9	58.4	56.3	11.6	2.4	9.9	1.7	0.9	5.9
男性全体	1,230	94.6	81.2	60.2	26.8	21.3	20.3	22.1	0.7	1.8
18～29歳	123	96.7	83.7	48.8	33.3	41.5	29.3	40.7	0.8	0.8
30～39歳	144	95.8	88.9	69.4	44.4	40.3	36.1	41.0	0.7	1.4
40～49歳	222	98.6	91.9	66.2	32.0	26.1	23.4	27.5	-	-
50～59歳	224	98.7	88.8	69.2	32.1	26.3	26.8	28.1	0.4	-
60～69歳	165	95.8	78.8	50.9	23.0	9.7	10.3	10.3	0.6	1.2
70歳以上	352	87.5	66.8	55.1	12.5	5.7	9.4	6.3	1.1	4.8

(2) 特殊詐欺を知ったきっかけ

◇「テレビ」が最も多く、9割強

問 44-2. 問 44 で「1」から「7」(特殊詐欺を知っている)と答えた方に伺います。
あなたは、特殊詐欺を何から知りましたか。(複数回答可)

図表 14-2-1 特殊詐欺を知ったきっかけ



特殊詐欺を知っていると回答した2,806人に、知ったきっかけを聞いたところ、「テレビ」(93.3%)が最も多く、次いで「インターネット(パソコン・携帯電話・スマートフォン)」(43.4%)、「新聞」(35.8%)、「家族や知人などとの会話」(27.7%)、「金融機関やATM機などに掲示されたポスター」(24.8%)の順となっている。

性別で見ると、「家族や知人などとの会話」（女性 32.7%、男性 21.8%）は 10.9 ポイント、「金融機関やATM機などに掲示されたポスター」（女性 28.8%、男性 20.2%）は 8.6 ポイント、女性が男性を上回っている。一方、「インターネット（パソコン・携帯電話・スマートフォン）」（男性 48.7%、女性 40.4%）は 8.3 ポイント、「新聞」（男性 40.4%、女性 32.2%）は 8.2 ポイント、男性が女性を上回っている。

性・年齢別で見ると、男女ともすべての年齢で「テレビ」が最も多くなっており、女性 18～29 歳（89.9%）と男性 18～29 歳・30 歳代（85.1%、86.5%）を除き、9 割台となっている。「インターネット（パソコン・携帯電話・スマートフォン）」は男女とも 50 歳代以下で 2 番目に多く、女性 40 歳代以下（64.9%、62.5%、59.4%）と男性 50 歳代以下（69.4%、78.0%、66.7%、55.6%）で 5 割を超えている。一方、女性 70 歳以上（8.1%）は 1 割未満、男性 70 歳以上（16.0%）は 1 割半ばと低くなっている。「新聞」は女性 18～29 歳（10.1%）を除き年齢が上がるにつれ増加する傾向にあり、女性 70 歳以上（51.3%）と男性 60 歳代・70 歳以上（50.0%、61.3%）で 5 割以上となっている。また、「家族や知人などとの会話」は女性 60 歳代・70 歳以上（38.0%、43.9%）、「金融機関やATM機などに掲示されたポスター」は女性 30 歳代～60 歳代（33.9%、32.2%、33.6%、31.0%）と男性 30 歳代（31.2%）で 3 割を超えている。

図表 14-2-2 性・年齢別 特殊詐欺を知ったきっかけ

	調査数（人）	テレビ	インターネット（パソコン・携帯電話・スマートフォン）	新聞	家族や知人などとの会話	金融機関やATM機などに掲示されたポスター	ラジオ	イベントや買い物などで配布されたチラシ	防犯講習会などの講話	特殊詐欺を知らない	その他	無回答
全体	2,806	93.3	43.4	35.8	27.7	24.8	14.0	4.2	3.9	-	2.9	1.1
女性全体	1,488	94.8	40.4	32.2	32.7	28.8	10.6	4.4	3.9	-	2.8	1.4
18～29歳	148	89.9	64.9	10.1	26.4	29.1	5.4	3.4	10.1	-	6.1	1.4
30～39歳	192	93.2	62.5	9.4	26.0	33.9	5.7	4.7	1.0	-	1.6	1.6
40～49歳	276	96.4	59.4	19.6	23.9	32.2	8.3	4.7	2.2	-	3.6	0.4
50～59歳	259	96.1	49.4	36.3	29.0	33.6	8.5	3.9	3.5	-	2.3	0.8
60～69歳	213	96.7	27.2	44.1	38.0	31.0	11.7	2.8	3.8	-	2.3	1.9
70歳以上	394	94.2	8.1	51.3	43.9	19.5	17.5	5.8	4.6	-	2.0	2.3
男性全体	1,200	91.6	48.7	40.4	21.8	20.2	18.3	4.0	4.1	-	3.1	0.8
18～29歳	121	85.1	69.4	15.7	29.8	17.4	3.3	1.7	8.3	-	5.8	0.8
30～39歳	141	86.5	78.0	23.4	19.1	31.2	17.0	5.0	5.0	-	3.5	1.4
40～49歳	222	91.9	66.7	24.3	23.9	21.6	17.1	4.5	-	-	1.4	0.5
50～59歳	223	90.1	55.6	42.6	22.0	23.3	19.7	3.6	1.8	-	3.6	0.4
60～69歳	162	95.7	40.1	50.0	12.3	17.9	19.1	4.3	4.3	-	3.1	0.6
70歳以上	331	94.9	16.0	61.3	23.3	14.5	23.6	4.2	6.3	-	2.7	1.2

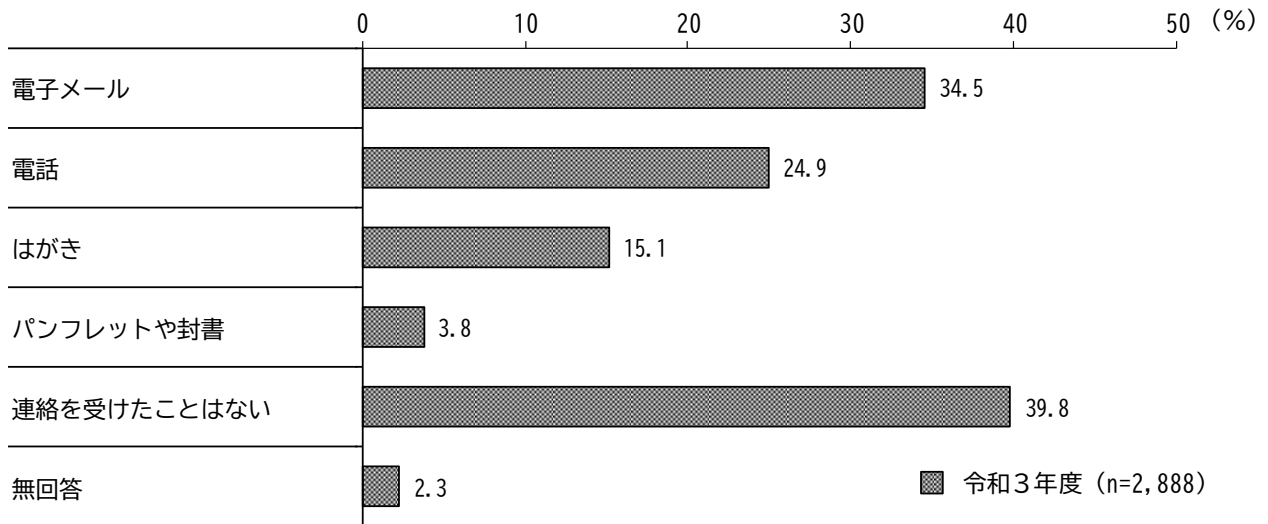
(3) 実際に受けたことがある特殊詐欺の連絡方法

◇「電子メール」が最も多く、3割半ば

問 45. あなたはこれまでに特殊詐欺に関してどのような連絡を受けたことがありますか。

(複数回答可)

図表 14-3-1 実際に受けたことがある特殊詐欺の連絡方法



実際に受けたことがある特殊詐欺の連絡方法は、「電子メール」(34.5%)が最も多く、次いで「電話」(24.9%)、「はがき」(15.1%)、「パンフレットや封書」(3.8%)の順となっている。一方、「連絡を受けたことはない」(39.8%)は約4割となっている。

性別で見ると、「電子メール」は男性（38.1%）が女性（32.7%）を5.4ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「電子メール」は女性50歳代以下と男性60歳代以下で最も多く、女性40歳代（55.9%）と男性40歳代・50歳代（51.8%、55.4%）は5割台となっている。「電話」は男女とも年齢が上がるにつれ増加する傾向にあり、70歳以上（男女同率41.8%）で最も多く、約4割を占めている。

「はがき」は女性60歳代（31.8%）で最も多く、約3割を占めている。一方「連絡を受けたことはない」は18～29歳で女性（61.5%）、男性（51.2%）ともに5割を超え、女性30歳代（49.0%）、男性30歳代・60歳代（45.1%、43.0%）は4割台、それ以外は3割台となっている。

図表14-3-2 性・年齢別 実際に受けたことがある特殊詐欺の連絡方法

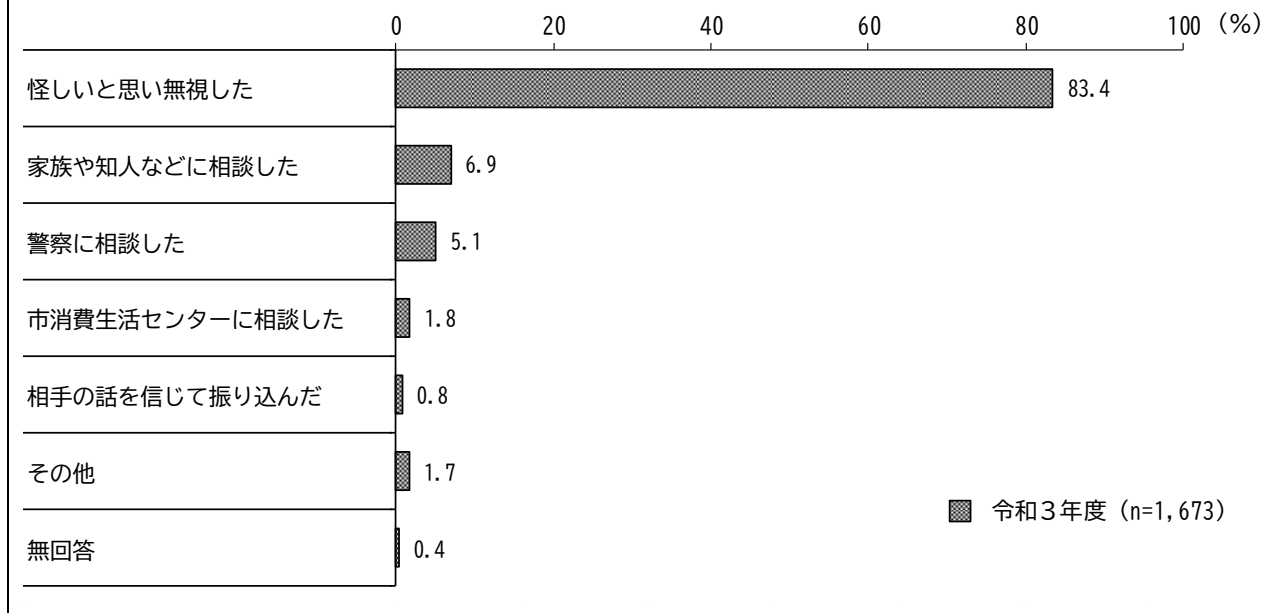
	調査数 (人)	電子メール	電話	はがき	パンフレット や封書	連絡を受けた ことはない	無回答
全体	2,888	34.5	24.9	15.1	3.8	39.8	2.3
女性全体	1,525	32.7	23.4	15.6	2.8	40.8	2.0
18～29歳	148	34.5	6.8	2.7	2.0	61.5	-
30～39歳	194	47.9	8.2	2.1	0.5	49.0	0.5
40～49歳	279	55.9	11.8	10.0	1.1	36.2	0.7
50～59歳	261	46.4	20.3	16.9	4.2	38.7	0.4
60～69歳	214	23.8	31.3	31.8	1.9	35.5	-
70歳以上	423	6.1	41.8	21.3	5.0	36.4	6.4
男性全体	1,230	38.1	26.0	14.2	4.9	38.9	2.0
18～29歳	123	42.3	9.8	0.8	1.6	51.2	0.8
30～39歳	144	48.6	13.2	8.3	3.5	45.1	1.4
40～49歳	222	51.8	21.2	12.2	5.4	37.4	-
50～59歳	224	55.4	24.1	18.3	5.8	30.4	0.4
60～69歳	165	35.2	24.8	18.2	2.4	43.0	1.2
70歳以上	352	14.2	41.8	18.2	6.8	36.4	5.1

(4) 特殊詐欺の連絡を受けた際の対応

◇「怪しいと思い無視した」が最も多く、8割強

問 45-2. 問 45 で「1」から「4」(特殊詐欺の連絡を実際に受けた) と答えた方に伺います。
あなたは連絡を受けた際どのように対応しましたか。(〇は1つ)

図表 14-4-1 特殊詐欺の連絡を受けた際の対応



特殊詐欺の連絡を実際に受けたと回答した1,673人に、連絡を受けた際の対応を聞いたところ、「怪しいと思い無視した」(83.4%)が最も多く、次いで「家族や知人などに相談した」(6.9%)、「警察に相談した」(5.1%)、「市消費生活センターに相談した」(1.8%)、「相手の話を信じて振り込んだ」(0.8%)の順となっている。

性別でみると、「家族や知人などに相談した」は女性（9.9%）が男性（3.0%）を6.9ポイント上回っている。一方、「怪しいと思い無視した」は男性（88.9%）が女性（79.6%）を9.3ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、男女ともすべての年齢で「怪しいと思い無視した」が過半数を占め、最も多くなっている。男性が70歳以上（81.1%）を除き9割台を占めるのに対し、女性は18～29歳・30歳代（91.2%、90.8%）で9割を超える一方、年齢が上がるにつれ減少する傾向にあり、60歳代・70歳以上（71.0%、67.8%）は全体を1割以上下回っている。また、「家族や知人などに相談した」は女性60歳代・70歳以上（13.0%、15.7%）、「警察に相談した」は女性60歳代（11.6%）で1割を超えている。

図表 14-4-2 性・年齢別 特殊詐欺の連絡を受けた際の対応

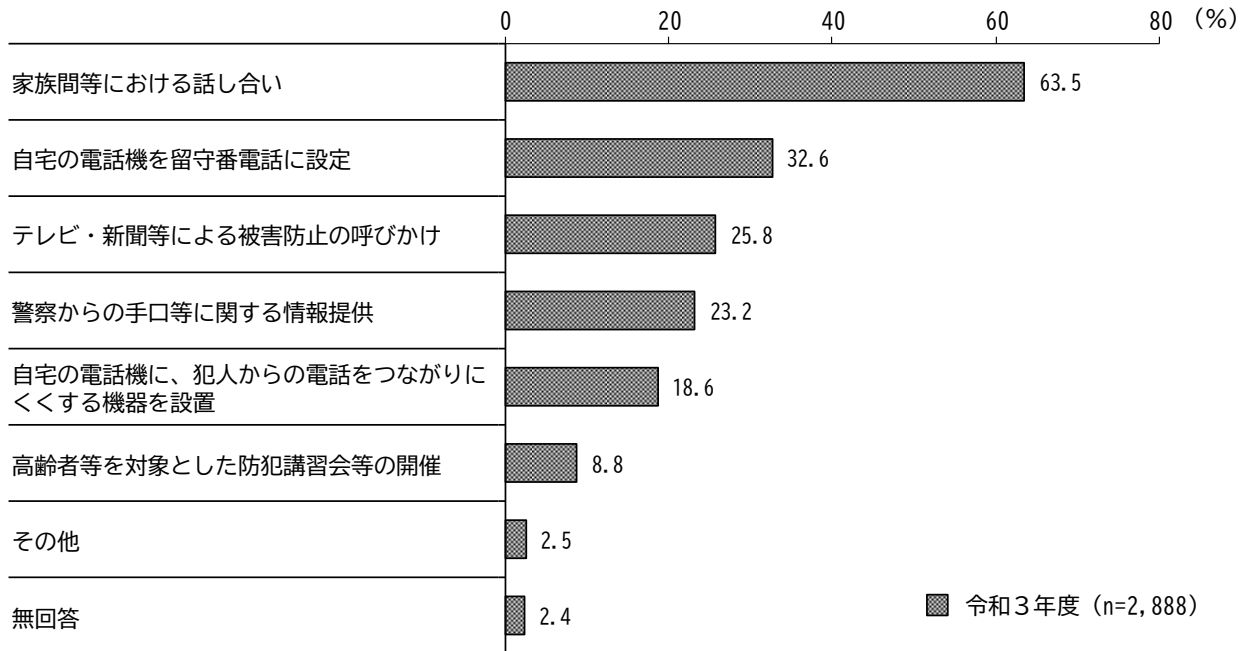
	調査数（人）	怪しいと思い無視した	家族や知人などに相談した	警察に相談した	市消費生活センターに相談した	相手の話を信じて振り込んだ	その他	無回答
全体	1,673	83.4	6.9	5.1	1.8	0.8	1.7	0.4
女性全体	872	79.6	9.9	6.0	1.7	0.9	1.7	0.2
18～29歳	57	91.2	7.0	-	1.8	-	-	-
30～39歳	98	90.8	7.1	1.0	1.0	-	-	-
40～49歳	176	87.5	5.1	1.7	1.7	0.6	2.8	0.6
50～59歳	159	84.9	6.3	5.0	1.9	0.6	1.3	-
60～69歳	138	71.0	13.0	11.6	2.2	1.4	0.7	-
70歳以上	242	67.8	15.7	9.9	1.7	1.7	2.9	0.4
男性全体	728	88.9	3.0	3.6	1.8	0.7	1.6	0.4
18～29歳	59	91.5	5.1	1.7	-	-	-	1.7
30～39歳	77	92.2	1.3	1.3	-	1.3	2.6	1.3
40～49歳	139	92.1	2.9	1.4	1.4	-	1.4	0.7
50～59歳	155	92.9	2.6	2.6	1.3	0.6	-	-
60～69歳	92	90.2	-	4.3	4.3	1.1	-	-
70歳以上	206	81.1	4.9	6.8	2.4	1.0	3.9	-

(5) 特殊詐欺被害の防止策

◇「家族間等における話し合い」が最も多く、6割強

問 46. あなたは、特殊詐欺の被害を防止するためには、どのようなことが特に必要であると思いますか。(〇は2つまで)

図表 14-5-1 特殊詐欺被害の防止策



特殊詐欺の被害を防止するために必要なことは、「家族間等における話し合い」(63.5%)が最も多く、次いで「自宅の電話機を留守番電話に設定」(32.6%)、「テレビ・新聞等による被害防止の呼びかけ」(25.8%)、「警察からの手口等に関する情報提供」(23.2%)、「自宅の電話機に、犯人からの電話をつながりなくする機器を設置」(18.6%)の順となっている。

性別でみると、「家族間等における話し合い」は女性（66.0%）が男性（61.1%）を4.9ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、男女ともすべての年齢で「家族間等における話し合い」が過半数を占め最も多く、女性30歳代・40歳代（75.3%、71.7%）は7割台となっている。「自宅の電話機を留守番電話に設定」は男女とも50歳代以上で2番目に多く、女性60歳代（54.7%）は5割半ば、女性70歳以上（44.7%）と男性60歳代・70歳以上（43.0%、43.5%）は4割台となっている。また、「テレビ・新聞等による被害防止の呼びかけ」は女性18～29歳・30歳代（31.8%、33.0%）と男性18～29歳（32.5%）、「警察からの手口等に関する情報提供」は女性40歳代以下（33.1%、32.0%、32.3%）と男性30歳代・50歳代（36.8%、31.3%）で3割台となっている。

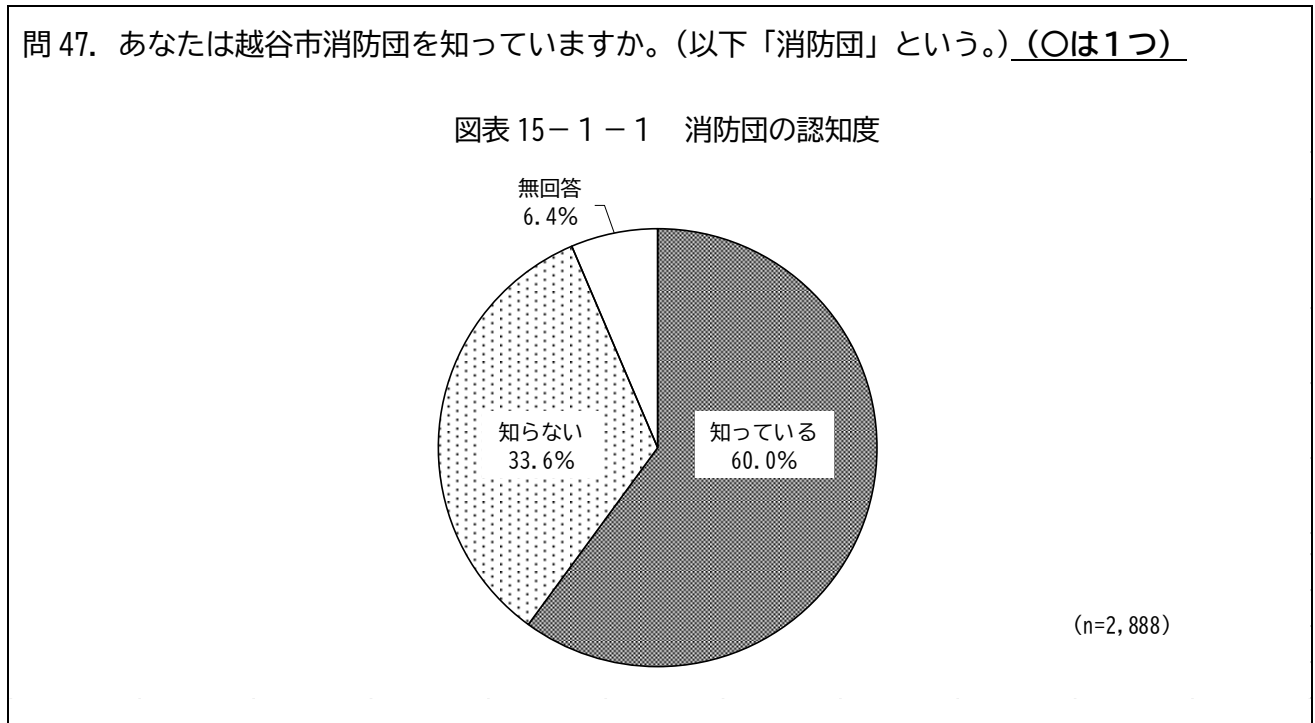
図表 14-5-2 性・年齢別 特殊詐欺被害の防止策

	調査数（人）	家族間等における話し合い	自宅の電話機を留守番電話に設定	テレビ・新聞等による被害防止の呼びかけ	警察からの手口等に関する情報提供	自宅の電話機に、犯人から電話をつながりに、機器を設置	高齢者等を対象とした防犯講習会等の開催	その他	無回答
全体	2,888	63.5	32.6	25.8	23.2	18.6	8.8	2.5	2.4
女性全体	1,525	66.0	34.5	25.2	22.8	19.7	8.2	1.4	2.1
18～29歳	148	64.2	14.9	31.8	33.1	14.9	18.9	2.0	1.4
30～39歳	194	75.3	17.5	33.0	32.0	16.0	8.8	2.1	0.5
40～49歳	279	71.7	25.1	23.3	32.3	18.6	7.9	1.4	1.1
50～59歳	261	66.3	35.6	27.6	22.6	22.6	8.4	1.1	1.5
60～69歳	214	68.7	54.7	19.6	17.8	17.8	3.7	-	0.5
70歳以上	423	57.0	44.7	22.2	11.8	22.5	5.9	1.9	5.0
男性全体	1,230	61.1	30.4	26.3	24.9	17.3	9.7	3.7	2.1
18～29歳	123	65.0	9.8	32.5	26.0	16.3	22.0	4.9	0.8
30～39歳	144	61.1	17.4	26.4	36.8	12.5	13.2	6.9	2.1
40～49歳	222	66.2	16.7	29.3	28.8	16.7	9.0	5.4	0.5
50～59歳	224	62.5	33.9	24.1	31.3	12.9	9.8	2.7	0.9
60～69歳	165	57.6	43.0	27.3	20.0	20.6	8.5	3.0	1.2
70歳以上	352	57.4	43.5	23.0	15.3	21.3	4.8	1.7	4.8

15. 消防団について

(1) 消防団の認知度

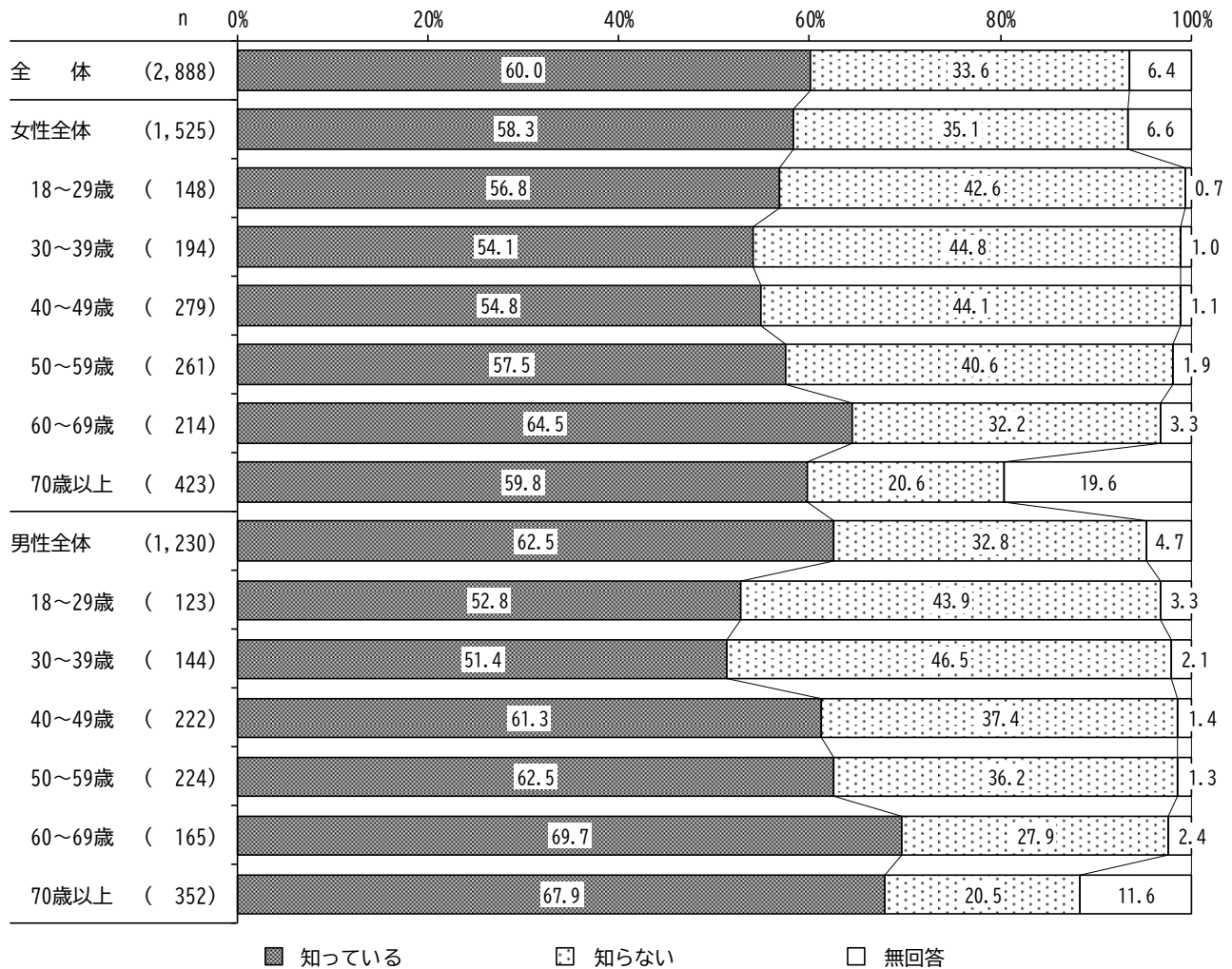
◇「知っている」が6割



消防団の認知度については、「知っている」(60.0%)が6割、「知らない」(33.6%)が3割強となっている。

性別でみると、「知っている」は男性（62.5%）が女性（58.3%）を4.2ポイント上回っている。
 性・年齢別でみると、「知っている」は60歳代が女性（64.5%）、男性（69.7%）ともに最も多く、すべての年齢で「知っている」が過半数を占めている。

図表 15-1-2 性・年齢別 消防団の認知度

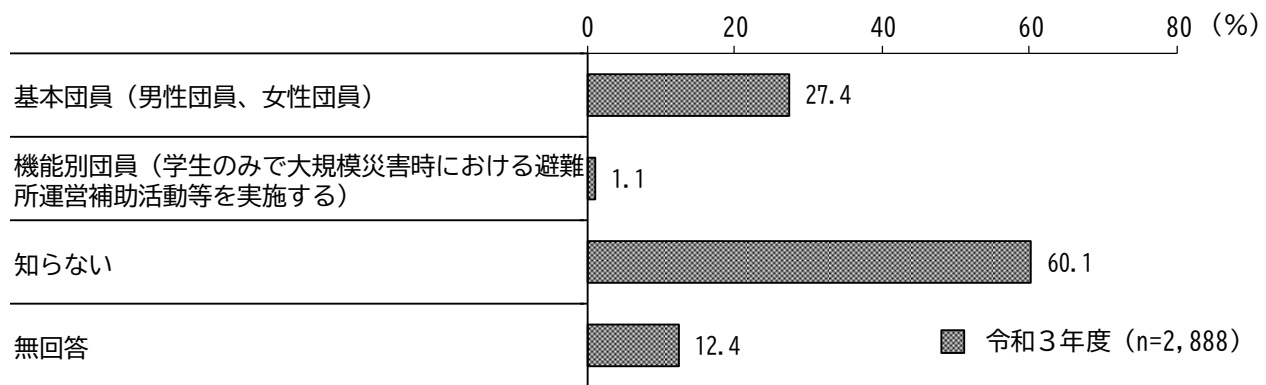


(2) 消防団員の種別について

◇「基本団員（男性団員、女性団員）」が最も多く、3割弱

問 48. 皆さんに伺います。消防団は非常勤特別職の公務員になりますが、あなたが消防団員の種別・活動・待遇について知っているものを選んでください。(複数回答可)

図表 15-2-1 消防団員の種別について



消防団員の種別について知っているものは、「基本団員（男性団員、女性団員）」(27.4%) が最も多く、次いで「機能別団員（学生のみで大規模災害時における避難所運営補助活動等を実施する）」(1.1%) の順となっている。一方、「知らない」(60.1%) は約6割となっている。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「基本団員（男性団員、女性団員）」は男性70歳以上（36.6%）が最も多く、女性60歳代（36.4%）と男性60歳代（30.9%）も3割台となっている。「機能別団員（学生のみで大規模災害時における避難所運営補助活動等を実施する）」は男女ともすべての年齢で1割未満となっている。一方、「知らない」は70歳以上（女性45.4%、男性45.2%）を除く年齢で過半数を占めており、女性18～29歳（73.6%）と男性18～29歳・30歳代（76.4%、75.0%）は7割台となっている。

図表 15-2-2 性・年齢別 消防団員の種別について

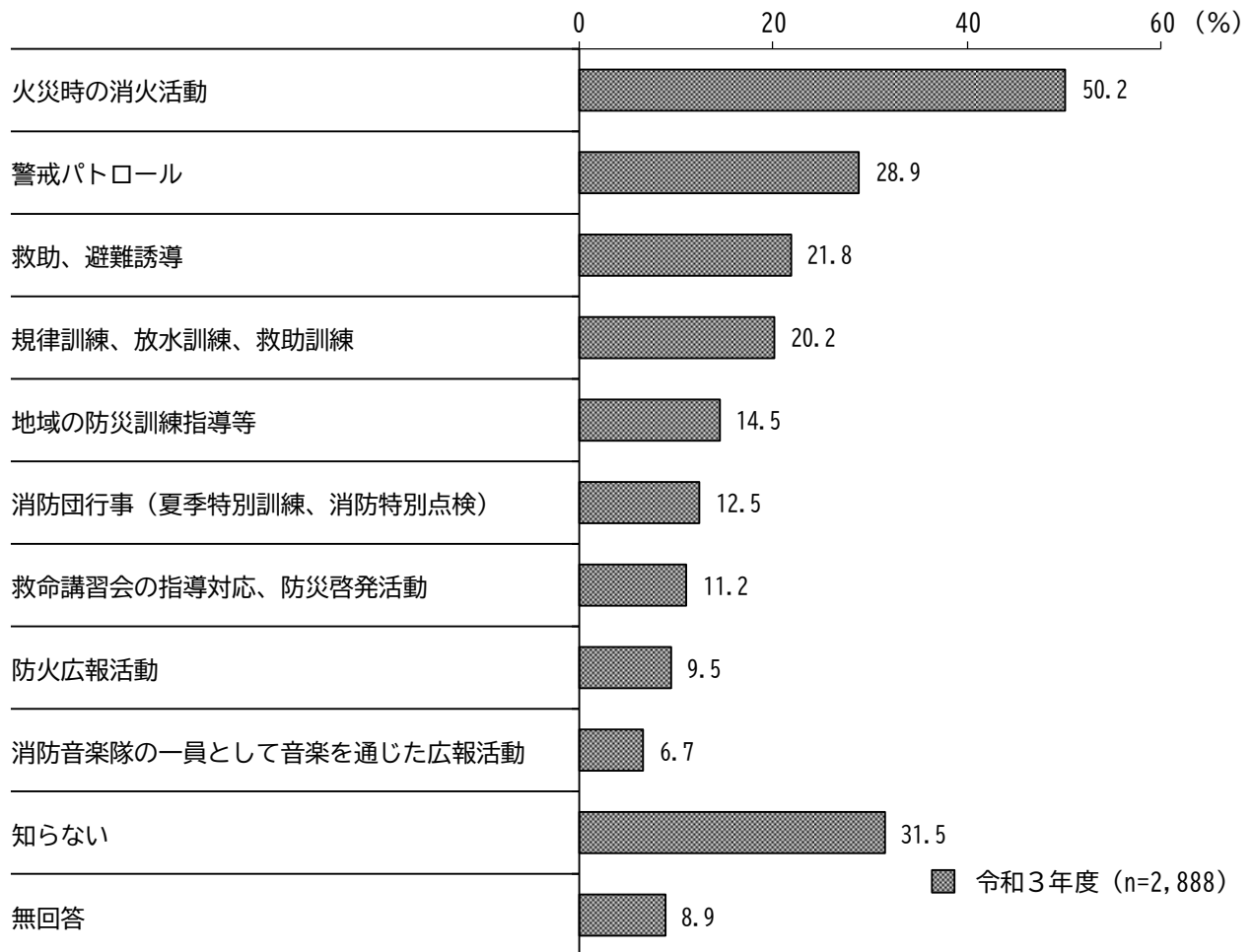
	調査数（人）	基本団員（女性団員、男性団員）	機能別団員（学生のみで大規模災害時における避難所運営補助活動等を実施する）	知らない	無回答
全体	2,888	27.4	1.1	60.1	12.4
女性全体	1,525	27.1	1.0	59.9	12.7
18～29歳	148	21.6	-	73.6	4.7
30～39歳	194	22.7	1.5	68.6	8.2
40～49歳	279	22.2	0.7	68.8	9.0
50～59歳	261	27.6	1.1	64.8	7.3
60～69歳	214	36.4	0.5	54.2	9.3
70歳以上	423	29.1	1.4	45.4	25.1
男性全体	1,230	26.9	1.3	62.2	10.7
18～29歳	123	17.1	2.4	76.4	5.7
30～39歳	144	16.0	2.8	75.0	9.0
40～49歳	222	24.3	0.5	68.9	6.8
50～59歳	224	23.7	1.8	69.6	6.7
60～69歳	165	30.9	0.6	57.6	11.5
70歳以上	352	36.6	0.9	45.2	17.9

(3) 消防団員の活動について

◇「火災時の消火活動」が最も多く、約5割

問 48. 皆さんに伺います。消防団は非常勤特別職の公務員になりますが、あなたが消防団員の種別・活動・待遇について知っているものを選んでください。(複数回答可)

図表 15-3-1 消防団員の活動について



消防団員の活動について知っているものは、「火災時の消火活動」(50.2%)が最も多く、次いで「警戒パトロール」(28.9%)、「救助、避難誘導」(21.8%)、「規律訓練、放水訓練、救助訓練」(20.2%)、「地域の防災訓練指導等」(14.5%)の順となっている。一方、「知らない」(31.5%)は約3割となっている。

性別でみると、「地域の防災訓練指導等」は女性（16.5%）が男性（12.0）を4.5ポイント上回っている。一方、「警戒パトロール」は男性（31.8%）が女性（26.6%）を5.2ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、男女ともすべての年齢で「火災時の消火活動」が最も多くなっており、女性70歳以上（58.4%）と男性60歳代・70歳以上（55.8%、63.6%）で5割を超えている。「警戒パトロール」は女性70歳以上を除く年齢で2番目に多く、男性30歳代～50歳代・70歳以上（33.3%、32.0%、34.4%、31.5%）で3割台となっている。一方、「知らない」は男性18～29歳（47.2%）が最も多く、女性40歳代以下（41.2%、40.2%、40.9%）と男性30歳代・40歳代（43.1%、41.0%）も4割台となっている。

図表 15-3-2 性・年齢別 消防団員の活動について

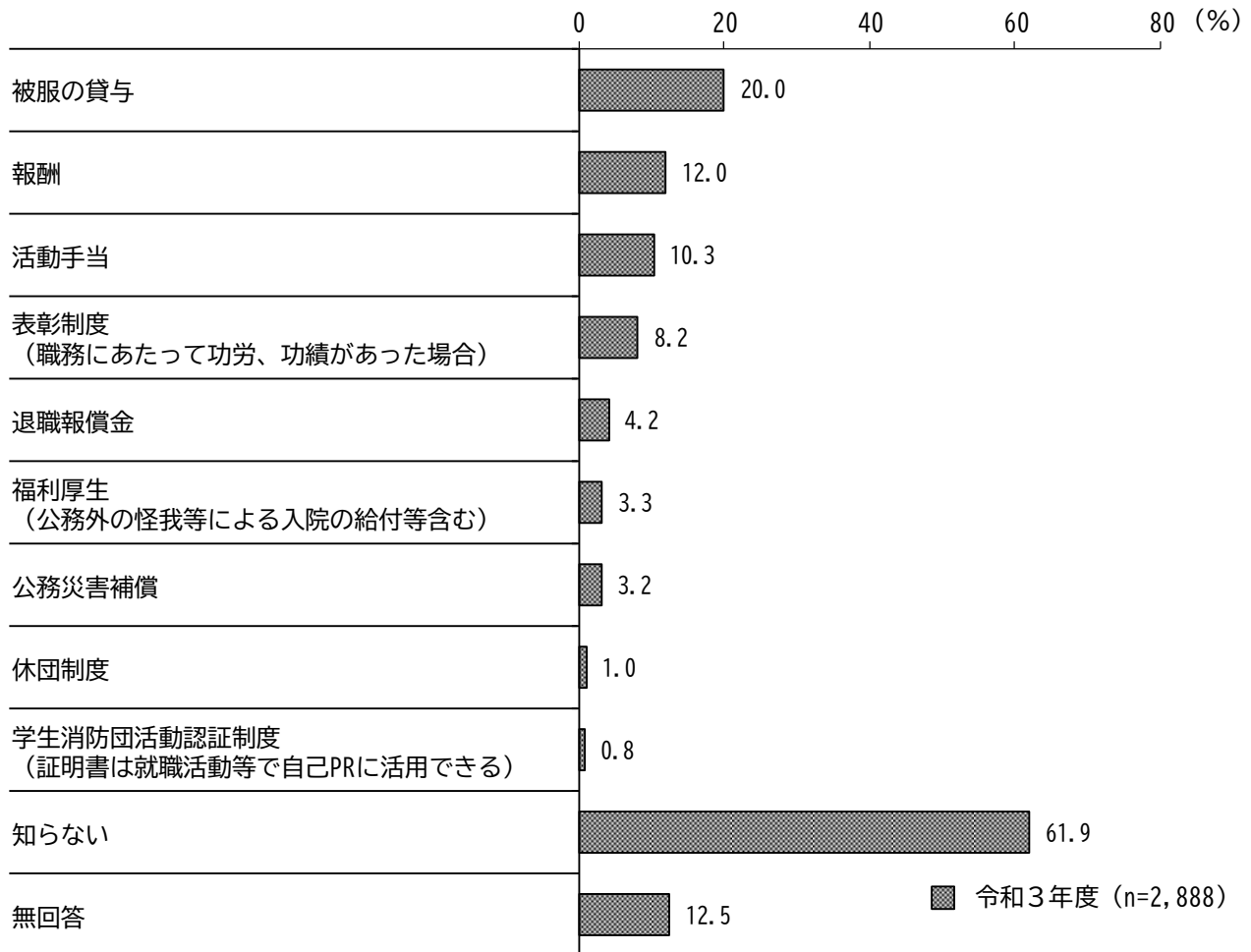
	調査数（人）	火災時の消火活動	警戒パトロール	救助、避難誘導	規律訓練、放水訓練、救助訓練	地域の防災訓練指導等	消防団行事（夏季特別訓練、消防特別点検）	救命講習会の指導対応、防災啓発活動	防火広報活動	消防音楽隊の一員として音楽を通じた広報活動	知らない	無回答
全体	2,888	50.2	28.9	21.8	20.2	14.5	12.5	11.2	9.5	6.7	31.5	8.9
女性全体	1,525	49.3	26.6	21.6	18.9	16.5	10.9	12.9	8.7	8.0	32.1	8.9
18～29歳	148	44.6	25.0	24.3	16.2	14.2	9.5	7.4	8.8	5.4	41.2	3.4
30～39歳	194	43.8	27.8	20.1	16.5	10.8	10.3	11.9	9.8	4.6	40.2	6.7
40～49歳	279	43.7	26.2	14.3	14.0	11.1	9.7	9.7	6.5	5.7	40.9	7.5
50～59歳	261	47.1	27.6	19.2	16.5	16.5	13.8	11.9	10.7	8.4	38.3	5.0
60～69歳	214	49.1	27.6	18.7	15.9	15.9	7.9	14.5	6.5	7.9	31.8	7.0
70歳以上	423	58.4	25.3	28.6	26.7	23.6	11.8	17.0	9.5	11.6	15.8	16.3
男性全体	1,230	51.4	31.8	22.4	22.1	12.0	14.4	9.3	10.7	4.7	31.7	7.6
18～29歳	123	39.8	28.5	22.8	15.4	10.6	8.1	8.9	8.9	4.1	47.2	4.1
30～39歳	144	41.0	33.3	18.8	18.8	9.0	15.3	9.7	11.8	4.9	43.1	7.6
40～49歳	222	44.1	32.0	18.0	17.1	8.1	16.2	7.2	8.6	5.0	41.0	4.5
50～59歳	224	49.1	34.4	20.1	23.7	7.6	12.9	6.3	11.2	2.7	36.2	4.5
60～69歳	165	55.8	29.7	21.2	18.8	10.9	13.9	5.5	6.7	2.4	26.7	8.5
70歳以上	352	63.6	31.5	28.7	29.5	19.3	16.2	14.5	13.9	7.1	15.3	12.2

(4) 消防団員の待遇について

◇「被服の貸与」が最も多く、2割

問 48. 皆さんに伺います。消防団は非常勤特別職の公務員になりますが、あなたが消防団員の種別・活動・待遇について知っているものを選んでください。(複数回答可)

図表 15-4-1 消防団員の待遇について



消防団員の待遇について知っているものは、「被服の貸与」(20.0%)が最も多く、次いで「報酬」(12.0%)、「活動手当」(10.3%)、「表彰制度(職務にあたって功労、功績があった場合)」(8.2%)、「退職報償金」(4.2%)の順となっている。一方、「知らない」(61.9%)は約6割となっている。

性別でみると、「報酬」は男性（14.9%）が女性（9.8%）を5.1ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、男女ともすべての年齢で「被服の貸与」が最も多くなっているが、男性70歳以上（32.7%）で3割強を占める一方、女性30歳代（8.2%）は1割未満となっている。また、「知らない」は男女とも70歳以上（女性46.6%、男性42.9%）を除く年齢で過半数を占めており、女性18～29歳・30歳代・50歳代（73.0%、77.8%、70.1%）と男性18～29歳・40歳代（77.2%、73.0%）で7割台となっている。

図表 15-4-2 性・年齢別 消防団員の待遇について

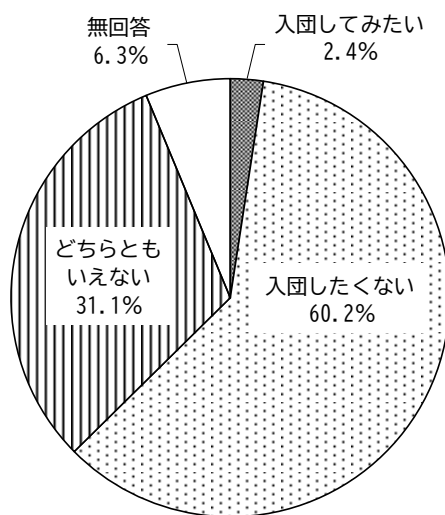
		(%)										
	調査数（人）	被服の貸与	報酬	活動手当	表彰制度（職務にあたって功労、功績があつた場合）	退職報償金	福利厚生（公務外の怪我等による入院の給付等含む）	公務災害補償	休団制度	学生消防団活動認定制度（証明書は就活動等で自己PRに活用できる）	知らない	無回答
全 体	2,888	20.0	12.0	10.3	8.2	4.2	3.3	3.2	1.0	0.8	61.9	12.5
女性全体	1,525	18.3	9.8	8.1	7.9	3.1	3.3	2.5	1.0	0.9	63.5	13.2
18～29歳	148	13.5	8.1	8.1	6.1	3.4	6.1	2.0	0.7	1.4	73.0	5.4
30～39歳	194	8.2	5.7	3.6	4.6	1.5	2.1	1.5	-	1.0	77.8	9.3
40～49歳	279	19.7	9.7	7.9	5.0	1.1	1.1	-	0.4	0.4	68.8	8.6
50～59歳	261	17.2	8.4	6.5	4.6	2.7	3.1	1.5	0.4	-	70.1	6.5
60～69歳	214	22.0	9.8	10.3	10.7	4.7	2.3	3.7	1.4	0.5	62.1	12.6
70歳以上	423	22.5	13.2	10.4	12.5	4.7	4.7	4.7	2.1	1.7	46.6	25.5
男性全体	1,230	22.2	14.9	12.8	8.7	5.7	3.2	4.1	1.1	0.7	61.0	10.4
18～29歳	123	10.6	8.1	8.1	9.8	4.1	3.3	2.4	0.8	0.8	77.2	5.7
30～39歳	144	16.7	13.9	13.9	5.6	6.9	6.3	3.5	2.1	0.7	69.4	9.7
40～49歳	222	14.9	13.5	7.7	7.7	3.6	2.7	1.8	0.9	0.5	73.0	5.0
50～59歳	224	19.6	14.3	14.3	5.8	4.0	2.2	2.7	1.3	1.8	65.2	6.7
60～69歳	165	26.7	14.5	15.2	6.1	4.8	0.6	1.2	0.6	-	58.2	7.3
70歳以上	352	32.7	19.0	15.1	13.4	8.5	4.0	8.5	1.1	0.6	42.9	19.6

(5) 消防団への入団意向

◇「入団してみたい」が1割未満

問 49. **皆さんに伺います。**地域防災力の中核的な存在として消防団はあります。問 48 の消防団に関する情報を得たことによって、あなたは、消防団に入団してみたいと思いますか。
(○は1つ)

図表 15-5-1 消防団への入団意向



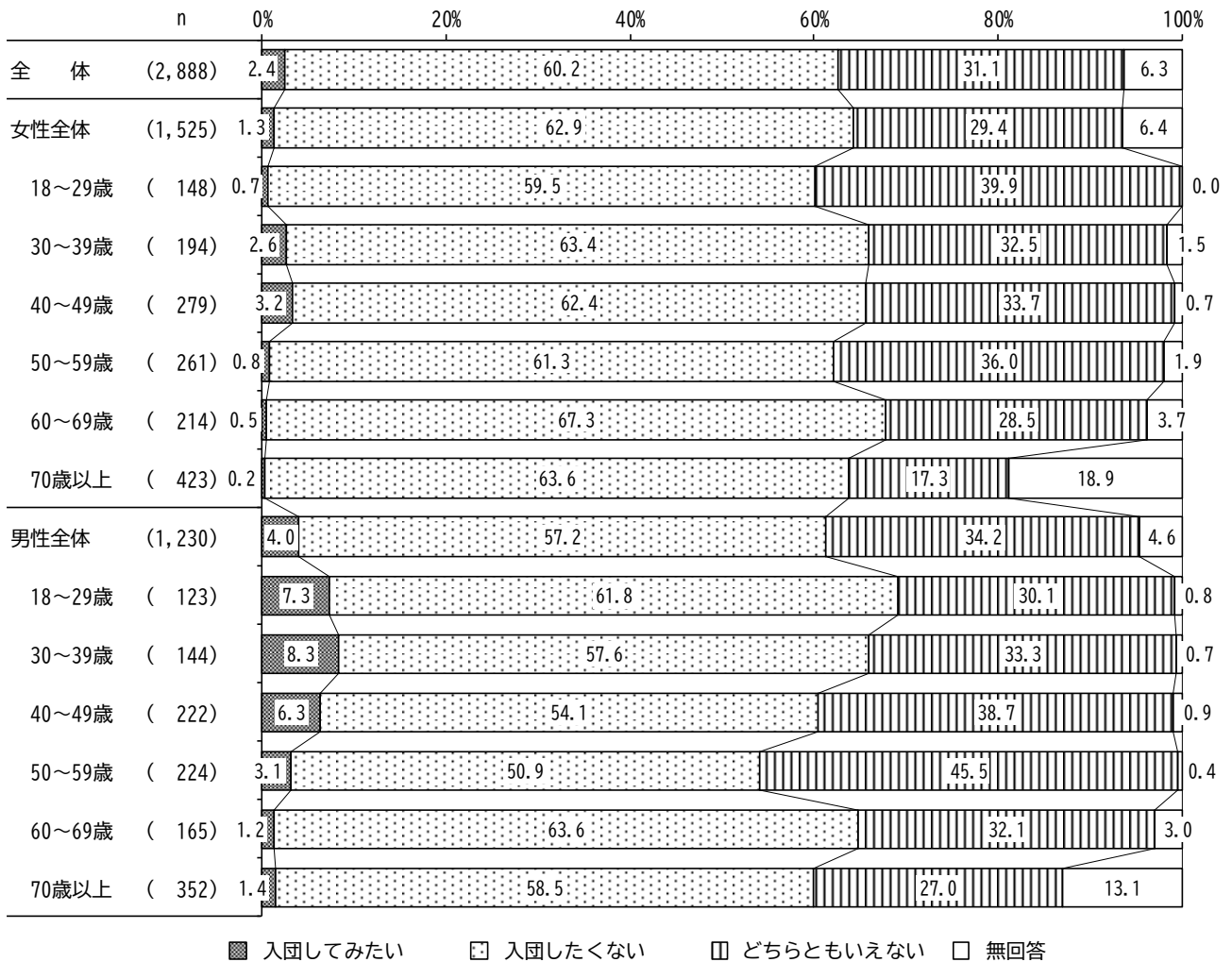
(n=2,888)

消防団への入団意向については、「入団してみたい」(2.4%)が1割未満となっている。また、「入団したくない」(60.2%)が約6割、「どちらともいえない」(31.1%)が約3割となっている。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「入団してみたい」は男性30歳代(8.3%)が最も多くなっているが、男女ともすべての年齢で1割未満となっている。一方、「入団したくない」は女性60歳代(67.3%)が最も多く、男女ともすべての年齢で過半数を占めている。

図表 15-5-2 性・年齢別 消防団への入団意向

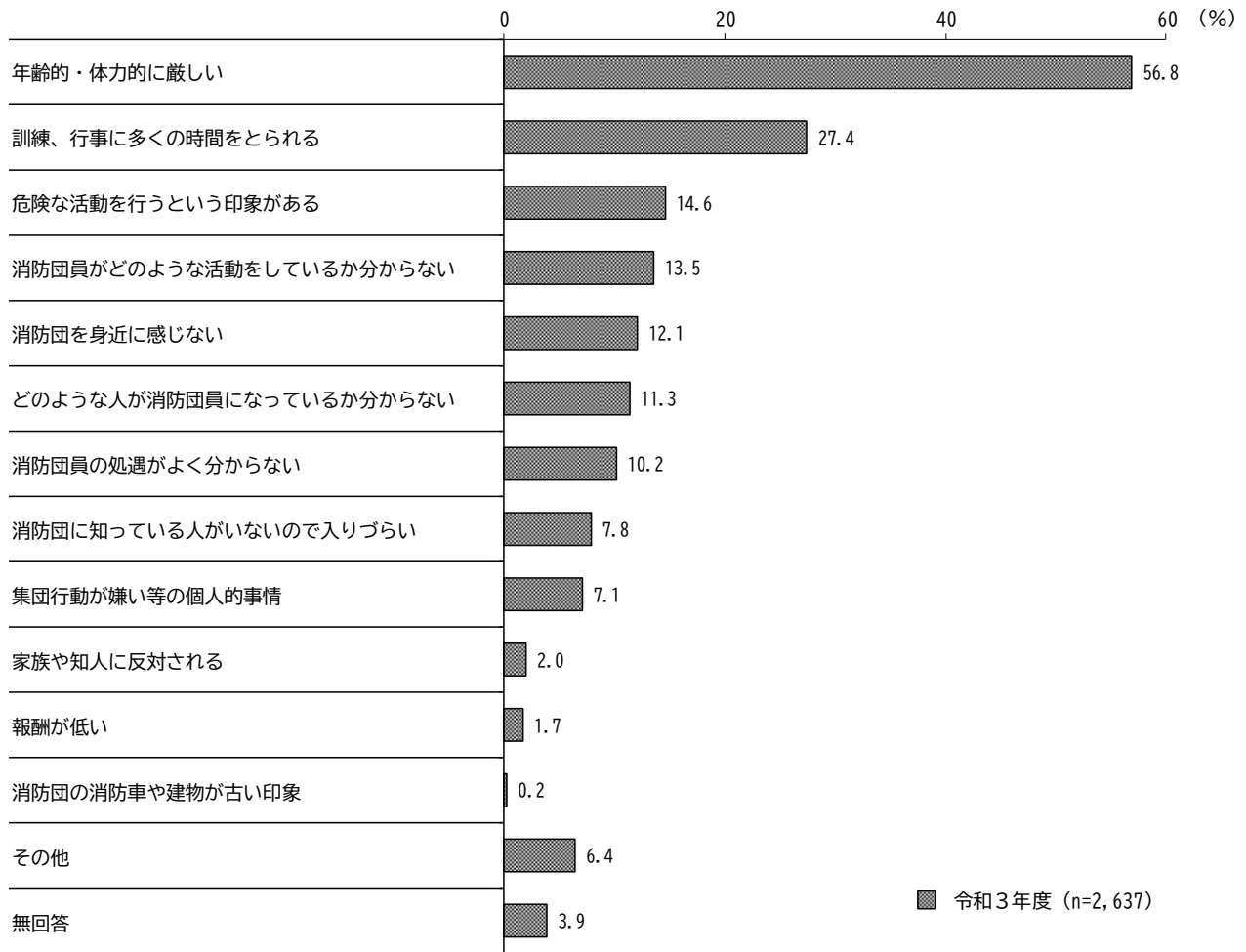


(6) 消防団入団に消極的な理由

◇「年齢的・体力的に厳しい」が最も多く、5割半ば

問 49-2. 問 49 で「2」または「3」と答えた方に質問します。
 消防団に入団したくない、又はどちらともいえない理由はなぜですか。(複数回答可)

図表 15-6-1 消防団入団に消極的な理由



消防団に「入団したくない」または「どちらともいえない」と回答した2,637人に、その理由を聞いたところ、「年齢的・体力的に厳しい」(56.8%)が最も多く、次いで「訓練、行事に多くの時間をとられる」(27.4%)、「危険な活動を行うという印象がある」(14.6%)、「消防団員がどのような活動をしているか分からない」(13.5%)、「消防団を身近に感じない」(12.1%)の順となっている。

性別でみると、「年齢的・体力的に厳しい」（女性 59.4%、男性 52.7%）は 6.7 ポイント、「危険な活動を行うという印象がある」（女性 17.6%、男性 11.4%）は 6.2 ポイント、女性が男性を上回っている。一方、「訓練、行事に多くの時間をとられる」は男性（31.6%）が女性（24.6%）を 7.0 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「年齢的・体力的に厳しい」は女性 40 歳代以上、男性 50 歳代以上で最も多くなっている。男女とも年齢が上がるにつれ増加する傾向にあり、女性 50 歳代以上（62.2%、79.5%、88.0%）と男性 60 歳代・70 歳以上（78.5%、91.7%）で過半数を占めている。「訓練、行事に多くの時間をとられる」は女性 18～29 歳・30 歳代、男性 40 歳代以下で最も多くなっており、女性 30 歳代（40.9%）と男性 50 歳代以下（40.7%、48.9%、47.1%、44.4%）で 4 割台となっている。また、「危険な活動を行うという印象がある」は女性 18～29 歳・30 歳代（29.9%、28.5%）、「消防団員がどのような活動をしているか分からない」は女性 30 歳代（24.7%）と男性 18～29 歳・30 歳代（27.4%、23.7%）、「消防団を身近に感じない」は女性 18～29 歳（27.2%）と男性 18～29 歳（29.2%）、「どのような人が消防団員になっているか分からない」は女性 30 歳代（21.5%）、「消防団員の処遇がよく分からない」は男性 40 歳代（20.9%）、「集団行動が嫌い等の個人的事情」は男性 18～29 歳・30 歳代（17.7%、17.6%）で全体を 1 割以上上回っている。

図表 15-6-2 性・年齢別 消防団入団に消極的な理由

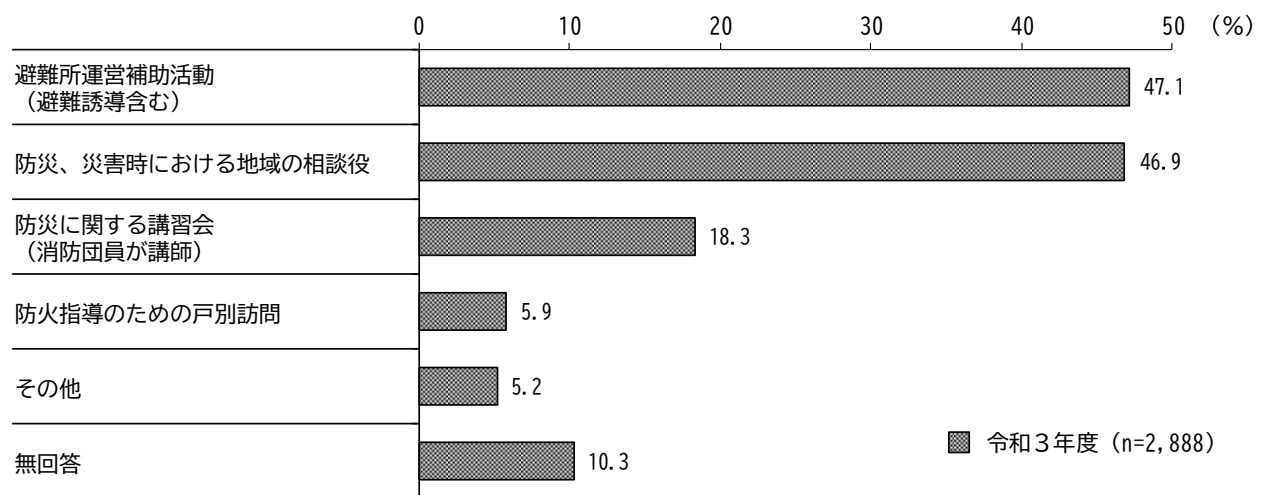
	調査数（人）	年齢的・体力的に厳しい	訓練、行事に多くの時間をとられる	危険な活動を行うという印象がある	消防団員がどのような活動をしているか分からない	消防団を身近に感じない	どのような人が消防団員になっているか分からない	消防団員の処遇がよく分からない	消防団に知っている人がいないので入りづらい	集団行動が嫌い等の個人的事情	家族や知人に反対される	報酬が低い	消防団の消防車や建物が古い印象	その他	無回答
全体	2,637	56.8	27.4	14.6	13.5	12.1	11.3	10.2	7.8	7.1	2.0	1.7	0.2	6.4	3.9
女性全体	1,407	59.4	24.6	17.6	13.4	12.3	12.2	9.0	7.8	5.6	1.9	1.1	0.2	5.5	4.1
18～29歳	147	24.5	36.7	29.9	21.8	27.2	20.4	11.6	11.6	12.2	2.0	3.4	0.7	5.4	3.4
30～39歳	186	27.4	40.9	28.5	24.7	19.9	21.5	16.7	16.1	11.8	1.1	1.1	-	8.1	4.3
40～49歳	268	46.6	36.9	23.5	16.4	13.8	17.9	13.4	10.8	5.2	1.9	2.2	-	6.7	3.7
50～59歳	254	62.2	31.5	18.9	17.3	11.0	14.2	8.7	8.3	5.5	3.5	-	0.4	4.7	5.5
60～69歳	205	79.5	12.7	10.7	5.9	9.8	4.9	3.9	4.4	4.4	1.0	-	0.5	5.9	2.0
70歳以上	342	88.0	2.6	5.0	3.2	3.2	2.3	3.5	1.2	0.6	1.8	0.6	-	3.5	4.4
男性全体	1,125	52.7	31.6	11.4	14.2	12.2	10.8	12.0	8.3	8.9	1.8	2.5	0.3	7.5	3.6
18～29歳	113	8.8	40.7	20.4	27.4	29.2	19.5	19.5	12.4	17.7	0.9	8.8	-	10.6	2.7
30～39歳	131	17.6	48.9	15.3	23.7	17.6	16.0	19.1	13.7	17.6	3.8	6.1	0.8	11.5	4.6
40～49歳	206	30.6	47.1	13.1	17.5	16.0	13.6	20.9	10.7	8.7	3.4	2.4	-	8.3	3.9
50～59歳	216	44.9	44.4	11.1	16.7	11.6	13.9	13.9	12.0	11.1	1.4	1.4	-	11.6	4.2
60～69歳	158	78.5	20.9	11.4	8.2	7.6	5.1	4.4	4.4	4.4	0.6	1.3	0.6	3.2	5.7
70歳以上	301	91.7	6.6	5.3	4.3	3.7	4.3	2.7	2.0	2.7	1.0	-	0.3	3.3	2.0

(7) 消防団に期待する活動

◇「避難所運営補助活動（避難誘導含む）」が最も多く、5割弱

問 50. 皆さんに伺います。消防団に対し、今までの活動のほかに、今後、どのような活動を期待しますか。(複数回答可)

図表 15-7-1 消防団に期待する活動



消防団に期待する活動については、「避難所運営補助活動（避難誘導含む）」(47.1%)が最も多く、次いで「防災、災害時における地域の相談役」(46.9%)、「防災に関する講習会(消防団員が講師)」(18.3%)、「防火指導のための戸別訪問」(5.9%)の順となっている。

性別でみると、「避難所運営補助活動（避難誘導含む）」は女性（50.7%）が男性（43.5%）を7.2ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「避難所運営補助活動（避難誘導含む）」は女性18～29歳・40歳代～60歳代と男性18～29歳で最も多くなっている。男性70歳以上（39.5%）を除く年齢で4割を超えており、女性18～29歳・40歳代・50歳代（54.7%、57.7%、55.6%）は5割台を占めている。「防災、災害時における地域の相談役」は女性30歳代・60歳代（「避難所運営補助活動（避難誘導含む）」と同率）・70歳以上と男性30歳代以上で最も多くなっている。男女ともすべての年齢で4割を超えており、女性30歳代（51.5%）と男性30歳代（50.0%）は5割台となっている。また、「防災に関する講習会（消防団員が講師）」は女性60歳代・70歳以上（20.1%、21.5%）と男性70歳以上（23.3%）で2割台となっている。

図表 15-7-2 性・年齢別 消防団に期待する活動

	調査数（人）	（避難所運営補助活動 （避難誘導含む））	防災、災害時における 地域の相談役	（防災に関する講習会 （消防団員が講師））	訪問 防火指導のための戸別	その他	無回答
全体	2,888	47.1	46.9	18.3	5.9	5.2	10.3
女性全体	1,525	50.7	47.4	17.8	5.2	4.9	9.1
18～29歳	148	54.7	40.5	15.5	4.1	4.7	4.7
30～39歳	194	49.5	51.5	18.0	4.1	4.1	6.2
40～49歳	279	57.7	45.5	13.3	4.7	5.7	5.4
50～59歳	261	55.6	49.0	15.3	2.3	5.0	5.7
60～69歳	214	49.5	49.5	20.1	5.1	3.7	5.6
70歳以上	423	42.8	47.0	21.5	8.3	5.2	18.4
男性全体	1,230	43.5	46.8	19.1	6.3	5.1	10.7
18～29歳	123	47.2	40.7	15.4	4.1	4.9	10.6
30～39歳	144	43.1	50.0	14.6	6.3	4.2	11.8
40～49歳	222	45.0	46.4	19.4	5.0	7.2	7.2
50～59歳	224	43.8	44.2	17.0	4.9	8.0	7.6
60～69歳	165	47.3	49.7	19.4	3.6	5.5	8.5
70歳以上	352	39.5	48.3	23.3	9.9	2.3	15.6

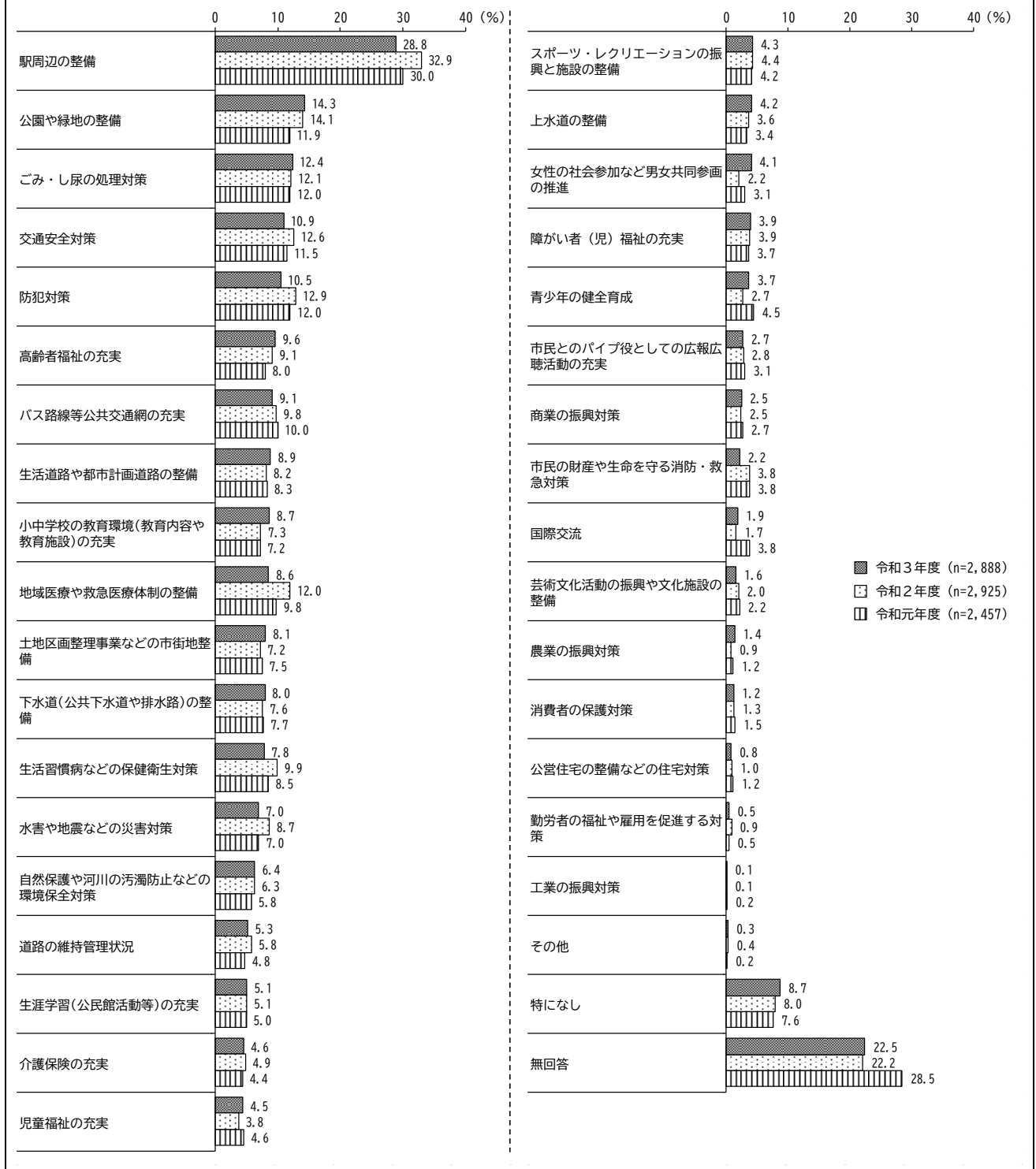
16. 越谷市の施策について

(1) よくなってきたと感じるもの

◇「駅周辺の整備」が最も多く、3割弱

問 51. 市では様々な施策を進めています。ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中からそれぞれ5つまで選び、下の口内に番号をご記入ください。

図表 16-1-1 よくなってきたと感じるもの



市の施策に対して、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」は、1位「駅周辺の整備」(28.8%)、2位「公園や緑地の整備」(14.3%)、3位「ごみ・し尿の処理対策」(12.4%)、4位「交通安全対策」(10.9%)、5位「防犯対策」(10.5%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「駅周辺の整備」は令和2年度(32.9%)と比べ4.1ポイント減少しているものの、依然「公園や緑地の整備」以下の倍以上多くなっている。

性別で見ると、男女とも1位が「駅周辺の整備」(女性29.4%、男性29.8%)、2位が「公園や緑地の整備」(女性15.1%、男性14.2%)となっている。3位以下は女性が「ごみ・し尿の処理対策」(12.0%)、「高齢者福祉の充実」(10.2%)、「小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実」(10.0%)、男性が「交通安全対策」(13.0%)、「ごみ・し尿の処理対策」(12.9%)、「防犯対策」(11.5%)となっている。

性・年齢別で見ると、1位は男女ともすべての年齢で「駅周辺の整備」が最も多くなっており、女性60歳代・70歳以上(29.0%、17.7%)、男性70歳以上(21.6%)を除き3割台となっている。また、女性70歳以上は「ごみ・し尿の処理対策」(17.7%)も同率1位となっている。2位は女性30歳代・50歳代・60歳代(18.0%、12.6%、19.2%)と男性30歳代・50歳代(15.3%、15.2%)が「公園や緑地の整備」、女性18~29歳(18.9%)と男性18~29歳・60歳代(15.4%、13.3%)が「交通安全対策」、男性70歳以上(20.5%)が「ごみ・し尿の処理対策」、女性40歳代(20.4%)と男性40歳代(16.7%)が「小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実」となっている。

図表16-1-2 性・年齢別 よくなってきたと感じるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,888)	駅周辺の整備 28.8	公園や緑地の整備 14.3	ごみ・し尿の処理対策 12.4	交通安全対策 10.9	防犯対策 10.5
女性全体 (1,525)	駅周辺の整備 29.4	公園や緑地の整備 15.1	ごみ・し尿の処理対策 12.0	高齢者福祉の充実 10.2	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 10.0
18~29歳 (148)	駅周辺の整備 32.4	交通安全対策 18.9	公園や緑地の整備 14.2	生活道路や都市計画道路の整備 12.2	バス路線等公共交通網の充実 11.5
30~39歳 (194)	駅周辺の整備 36.1	公園や緑地の整備 18.0	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 13.4	生活道路や都市計画道路の整備 10.8	土地区画整理事業などの市街地整備 8.8
40~49歳 (279)	駅周辺の整備 35.8	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 20.4	公園や緑地の整備 15.8	土地区画整理事業などの市街地整備 11.5	ごみ・し尿の処理対策 10.0
50~59歳 (261)	駅周辺の整備 34.9	公園や緑地の整備 12.6	高齢者福祉の充実 12.3	ごみ・し尿の処理対策 11.5	交通安全対策 10.7
60~69歳 (214)	駅周辺の整備 29.0	公園や緑地の整備 19.2	ごみ・し尿の処理対策 14.5	生活習慣病などの保健衛生対策 12.6	バス路線等公共交通網の充実 下水道(公共下水道や排水路)の整備 11.2
70歳以上 (423)	駅周辺の整備 ごみ・し尿の処理対策 17.7	高齢者福祉の充実 14.2	生活習慣病などの保健衛生対策 13.9	防犯対策 公園や緑地の整備 13.2	
男性全体 (1,230)	駅周辺の整備 29.8	公園や緑地の整備 14.2	交通安全対策 13.0	ごみ・し尿の処理対策 12.9	防犯対策 11.5
18~29歳 (123)	駅周辺の整備 30.9	交通安全対策 15.4	防犯対策 11.4	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 10.6	生活道路や都市計画道路の整備 公園や緑地の整備 9.8
30~39歳 (144)	駅周辺の整備 30.6	公園や緑地の整備 15.3	生活道路や都市計画道路の整備 12.5	防犯対策 交通安全対策 11.8	
40~49歳 (222)	駅周辺の整備 37.8	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 16.7	公園や緑地の整備 16.2	土地区画整理事業などの市街地整備 13.1	ごみ・し尿の処理対策 12.2
50~59歳 (224)	駅周辺の整備 31.7	公園や緑地の整備 15.2	防犯対策 11.6	生活道路や都市計画道路の整備 11.2	水害や地震などの災害対策 10.3
60~69歳 (165)	駅周辺の整備 32.1	交通安全対策 13.3	公園や緑地の整備 12.7	防犯対策 ごみ・し尿の処理対策 11.5	
70歳以上 (352)	駅周辺の整備 21.6	ごみ・し尿の処理対策 20.5	交通安全対策 16.5	下水道(公共下水道や排水路)の整備 15.3	バス路線等公共交通網の充実 15.1

第4章 調査結果の詳細

居住地区別でみると、1位はすべての地区で「駅周辺の整備」となっており、大沢地区(37.3%)、大袋地区(32.2%)、荻島地区(32.1%)、新方地区(31.8%)、出羽地区(30.5%)は3割台となっている。2位は増林地区(17.7%)以下7地区が「公園や緑地の整備」、北越谷地区(16.3%)以下4地区が「ごみ・し尿の処理対策」、荻島地区(16.0%：「公園や緑地の整備」と同率2位)が「交通安全対策」、川柳地区(19.1%)と新方地区(16.2%)が「高齢者福祉の充実」となっている。「公園や緑地の整備」は全13地区、「ごみ・し尿の処理対策」は8地区、「交通安全対策」は6地区、「防犯対策」は5地区、「高齢者福祉の充実」は5地区で5位以内となっている。また、「バス路線等公共交通網の充実」は川柳地区(15.7%)と出羽地区(14.8%)で全体を5ポイント以上上回っている。

図表 16-1-3 居住地区別 よくなってきたと感じるもの

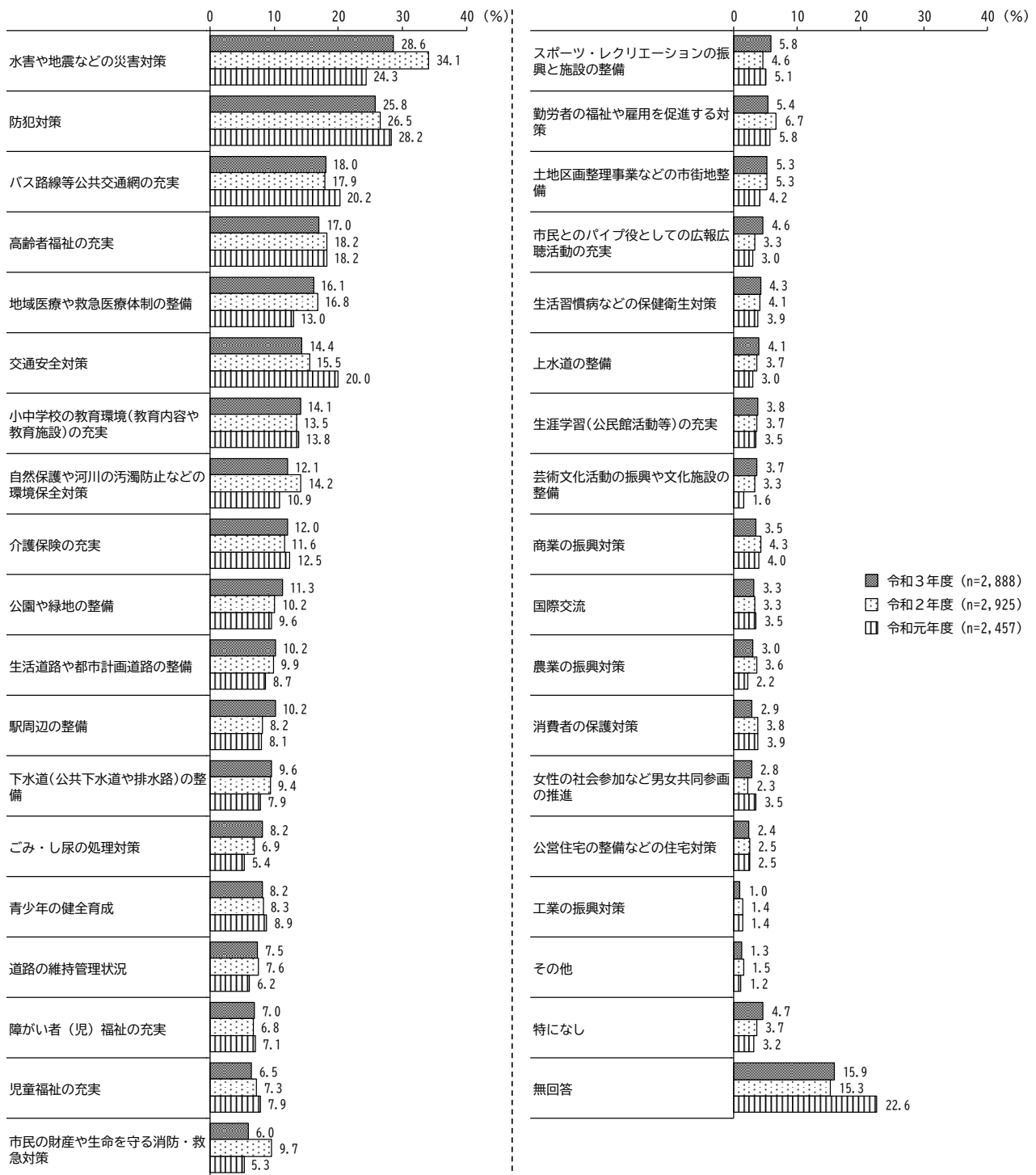
調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,888)	駅周辺の整備 28.8	公園や緑地の整備 14.3	ごみ・し尿の処理対策 12.4	交通安全対策 10.9	防犯対策 10.5
桜井地区 (279)	駅周辺の整備 25.4	ごみ・し尿の処理対策 14.7	公園や緑地の整備 13.3	地域医療や救急医療体制の整備 12.5	防犯対策 11.5
新方地区 (148)	駅周辺の整備 31.8	高齢者福祉の充実 16.2	防犯対策 公園や緑地の整備	14.9	ごみ・し尿の処理対策 12.2
増林地区 (220)	駅周辺の整備 26.4	公園や緑地の整備 17.7	バス路線等公共交通網の充実 13.2	高齢者福祉の充実 11.8	土地区画整理事業などの市街地整備 11.4
大袋地区 (435)	駅周辺の整備 32.2	公園や緑地の整備 15.9	ごみ・し尿の処理対策 14.9	下水道(公共下水道や排水路)の整備 12.2	土地区画整理事業などの市街地整備 12.0
荻島地区 (106)	駅周辺の整備 32.1	交通安全対策 公園や緑地の整備	16.0	高齢者福祉の充実 小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実	13.2
出羽地区 (223)	駅周辺の整備 30.5	公園や緑地の整備 15.2	バス路線等公共交通網の充実 14.8	交通安全対策 12.6	高齢者福祉の充実 11.2
蒲生地区 (325)	駅周辺の整備 25.8	ごみ・し尿の処理対策 13.8	交通安全対策 13.2	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 10.8	公園や緑地の整備 10.2
川柳地区 (89)	駅周辺の整備 23.6	高齢者福祉の充実 19.1	交通安全対策 16.9	バス路線等公共交通網の充実 公園や緑地の整備	15.7
大相模地区 (237)	駅周辺の整備 29.1	公園や緑地の整備	防犯対策 13.9	交通安全対策 11.8	生活道路や都市計画道路の整備 10.1
大沢地区 (166)	駅周辺の整備 37.3	ごみ・し尿の処理対策 14.5	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 12.7	公園や緑地の整備 12.0	土地区画整理事業などの市街地整備 11.4
北越谷地区 (104)	駅周辺の整備 27.9	ごみ・し尿の処理対策 16.3	防犯対策 11.5	公園や緑地の整備 10.6	地域医療や救急医療体制の整備 9.6
越ヶ谷地区 (288)	駅周辺の整備 29.9	公園や緑地の整備 13.2	交通安全対策 12.5	ごみ・し尿の処理対策 11.1	防犯対策 9.0
南越谷地区 (245)	駅周辺の整備 24.5	公園や緑地の整備 14.3	ごみ・し尿の処理対策 12.7	バス路線等公共交通網の充実 11.0	生活習慣病などの保健衛生対策 9.8

(2) 特に力を入れるべきだと思われるもの

◇「水害や地震などの災害対策」が最も多く、3割弱

問 51. 市では様々な施策を進めていますが、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中からそれぞれ5つまで選び、下の口内に番号をご記入ください。

図表 16-2-1 特に力を入れるべきだと思われるもの



第4章 調査結果の詳細

市の施策に対して、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」は、1位「水害や地震などの災害対策」(28.6%)、2位「防犯対策」(25.8%)、3位「バス路線等公共交通網の充実」(18.0%)、4位「高齢者福祉の充実」(17.0%)、5位「地域医療や救急医療体制の整備」(16.1%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「水害や地震などの災害対策」は令和2年度(34.1%)と比べ5.5ポイント減少している。

性別でみると、女性は1位が「水害や地震などの災害対策」(30.2%)、2位が「防犯対策」(24.1%)、男性は1位が「防犯対策」(28.5%)、2位が「水害や地震などの災害対策」(27.7%)となっている。3位以下は女性が「バス路線等公共交通網の充実」(20.0%)、「高齢者福祉の充実」(16.4%)、「地域医療や救急医療体制の整備」(16.3%)、男性が「高齢者福祉の充実」(18.3%)、「地域医療や救急医療体制の整備」(16.4%)、「交通安全対策」(15.8%)となっている。

性・年齢別でみると、1位は女性40歳代・60歳代・70歳以上(33.7%、38.3%、30.3%)と男性50歳代・60歳代(32.6%、29.7%)が「水害や地震などの災害対策」、女性18~29歳・30歳代・50歳代(27.0%、33.0%、29.9%)と男性40歳代以下・60歳代(27.6%、27.1%、37.4%、29.7%)が「水害や地震などの災害対策」と同率1位が「防犯対策」、男性70歳以上(29.3%)が「高齢者福祉の充実」となっている。「水害や地震などの災害対策」は女性18~29歳(19.6%)以外、「防犯対策」は女性70歳以上(17.0%)以外の年齢で2割を超え、男女ともすべての年齢で5位以内となっている。また、「小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実」は女性30歳代・40歳代(30.4%、25.4%)、「交通安全対策」は男性30歳代(25.0%)で2割を超え、全体を1割以上上回っている。

図表16-2-2 性・年齢別 特に力を入れるべきだと思われるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (2,888)	水害や地震などの災害対策 28.6	防犯対策 25.8	バス路線等公共交通網の充実 18.0	高齢者福祉の充実 17.0	地域医療や救急医療体制の整備 16.1
女性全体 (1,525)	水害や地震などの災害対策 30.2	防犯対策 24.1	バス路線等公共交通網の充実 20.0	高齢者福祉の充実 16.4	地域医療や救急医療体制の整備 16.3
18~29歳 (148)	防犯対策 27.0	水害や地震などの災害対策 19.6	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 18.2	バス路線等公共交通網の充実 17.6	駅周辺の整備 14.9
30~39歳 (194)	防犯対策 33.0	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 30.4	水害や地震などの災害対策 28.4	交通安全対策 18.6	バス路線等公共交通網の充実 公園や緑地の整備 17.0
40~49歳 (279)	水害や地震などの災害対策 33.7	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 25.4	バス路線等公共交通網の充実 22.2	防犯対策 21.9	交通安全対策 17.2
50~59歳 (261)	防犯対策 29.9	水害や地震などの災害対策 28.0	バス路線等公共交通網の充実 23.8	高齢者福祉の充実 19.2	地域医療や救急医療体制の整備 18.4
60~69歳 (214)	水害や地震などの災害対策 38.3	防犯対策 24.3	地域医療や救急医療体制の整備 21.0	高齢者福祉の充実 17.3	バス路線等公共交通網の充実 17.3
70歳以上 (423)	水害や地震などの災害対策 30.3	高齢者福祉の充実 21.3	バス路線等公共交通網の充実 19.9	介護保険の充実 18.9	防犯対策 17.0
男性全体 (1,230)	防犯対策 28.5	水害や地震などの災害対策 27.7	高齢者福祉の充実 18.3	地域医療や救急医療体制の整備 16.4	交通安全対策 15.8
18~29歳 (123)	防犯対策 27.6	水害や地震などの災害対策 20.3	駅周辺の整備 17.9	公園や緑地の整備 16.3	自然保護や河川の汚濁防止などの環境保全対策 小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 14.6
30~39歳 (144)	防犯対策 27.1	交通安全対策 25.0	水害や地震などの災害対策 23.6	バス路線等公共交通網の充実 17.4	生活道路や都市計画道路の整備 公園や緑地の整備 16.7
40~49歳 (222)	防犯対策 37.4	水害や地震などの災害対策 28.4	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 22.1	交通安全対策 19.4	地域医療や救急医療体制の整備 16.2
50~59歳 (224)	水害や地震などの災害対策 32.6	防犯対策 29.9	地域医療や救急医療体制の整備 19.2	バス路線等公共交通網の充実 19.2	高齢者福祉の充実 17.0
60~69歳 (165)	防犯対策 水害や地震などの災害対策 29.7	高齢者福祉の充実 29.1	地域医療や救急医療体制の整備 20.0	介護保険の充実 17.6	バス路線等公共交通網の充実 16.2
70歳以上 (352)	高齢者福祉の充実 29.3	水害や地震などの災害対策 27.6	防犯対策 22.4	地域医療や救急医療体制の整備 18.8	バス路線等公共交通網の充実 16.2

居住地区別でみると、1位は新方地区（41.2%）以下8地区が「水害や地震などの災害対策」、北越谷地区（33.7%）以下7地区が「防犯対策」（荻島地区と出羽地区は「水害や地震などの災害対策」と同率1位）となっており、前者は新方地区（41.2%）、増林地区（32.3%）、大袋地区（31.7%）、桜井地区（31.5%）で3割を超えている。2位は北越谷地区（27.9%）以下4地区が「水害や地震などの災害対策」、増林地区（27.3%）以下5地区が「防犯対策」、新方地区（35.8%）以下3地区が「バス路線等公共交通の充実」（川柳地区は「生活道路や都市計画道路の整備」と同率2位）となっており、新方地区、川柳地区を除く11地区で、「水害や地震などの災害対策」「防犯対策」が1・2位を占めている。また、「生活道路や都市計画道路の整備」は川柳地区（21.3%）、「小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実」は大相模地区（24.9%）で全体を1割以上上回り、「交通安全対策」は川柳地区（20.2%）、「地域医療や救急医療体制の整備」は大沢地区（20.5%）、「高齢者福祉の充実」は桜井地区（20.8%）、増林地区（20.0%）、大袋地区（20.0%）で2割台を占めている。

図表 16-2-3 居住地区別 特に力を入れるべきと思われるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,888)	水害や地震などの災害対策 28.6	防犯対策 25.8	バス路線等公共交通網の充実 18.0	高齢者福祉の充実 17.0	地域医療や救急医療体制の整備 16.1
桜井地区 (279)	水害や地震などの災害対策 31.5	防犯対策 25.8	バス路線等公共交通網の充実 22.6	高齢者福祉の充実 20.8	地域医療や救急医療体制の整備 15.1
新方地区 (148)	水害や地震などの災害対策 41.2	バス路線等公共交通網の充実 35.8	高齢者福祉の充実 17.6	防犯対策 16.9	地域医療や救急医療体制の整備 下水道(公共下水道や排水路)の整備 15.5
増林地区 (220)	水害や地震などの災害対策 32.3	防犯対策 27.3	高齢者福祉の充実 20.0	地域医療や救急医療体制の整備 小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 17.3	
大袋地区 (435)	水害や地震などの災害対策 31.7	防犯対策 24.6	高齢者福祉の充実 20.0	地域医療や救急医療体制の整備 19.1	バス路線等公共交通網の充実 18.4
荻島地区 (106)	防犯対策 水害や地震などの災害対策 28.3		バス路線等公共交通網の充実 20.8	地域医療や救急医療体制の整備 18.9	高齢者福祉の充実 道路の維持管理状況 公園や緑地の整備 16.0
出羽地区 (223)	防犯対策 水害や地震などの災害対策 28.7		バス路線等公共交通網の充実 20.2	高齢者福祉の充実 16.6	自然保護や河川の汚濁防止などの 環境保全対策 16.1
蒲生地区 (325)	防犯対策 27.4	水害や地震などの災害対策 24.3	地域医療や救急医療体制の整備 18.2	高齢者福祉の充実 17.2	交通安全対策 バス路線等公共交通網の充実 13.5
川柳地区 (89)	防犯対策 24.7	生活道路や都市計画道路の整備 バス路線等公共交通網の充実 21.3		交通安全対策 20.2	水害や地震などの災害対策 19.1
大相模地区 (237)	防犯対策 26.6	水害や地震などの災害対策 25.3	小中学校の教育環境(教育内容や 教育施設)の充実 24.9	バス路線等公共交通網の充実 20.7	地域医療や救急医療体制の整備 19.4
大沢地区 (166)	水害や地震などの災害対策 27.1	防犯対策 バス路線等公共交通網の充実 22.3		地域医療や救急医療体制の整備 20.5	交通安全対策 16.9
北越谷地区 (104)	防犯対策 33.7	水害や地震などの災害対策 27.9	高齢者福祉の充実 14.4	公園や緑地の整備 13.5	交通安全対策 地域医療や救急医療体制の整備 介護保険の充実 自然保護や河川の汚濁防止などの 環境保全対策 ごみ・し尿の処理対策 12.5
越ヶ谷地区 (288)	水害や地震などの災害対策 27.4	防犯対策 24.0	小中学校の教育環境(教育内容や 教育施設)の充実 14.2	高齢者福祉の充実 13.9	交通安全対策 13.5
南越谷地区 (245)	防犯対策 26.9	水害や地震などの災害対策 25.3	交通安全対策 18.4	高齢者福祉の充実 17.6	駅周辺の整備 16.7

(3) 自由回答

問 52. 問 51 で選ばれた「特に力を入れるべきだと思われるもの」について、どのような対応（対策）を望まれますか。また、市政に関するご意見やご要望など、自由にご記入ください。

市政に関する意見や要望の回答件数は 1,256 件（意見等合計 1,965 件）であった。
これを下記のとおり「第 5 次越谷市総合振興計画前期基本計画」の項目ごとに整理した。

		件数
大綱 1. 多様な人が交流し、参加と協働により発展するまちづくり	市民参加と協働による市政を推進する	59
	互いに認め合い人権を尊重する社会づくりを推進する	29
	健全でスマートな都市経営を推進する	109
大綱 2. みんなが健康で共生して住み続けられるまちづくり	ともに支え合いながら暮らせる地域をつくる	1
	予防と助け合いのもとで、充実した地域医療・保健衛生体制をつくる	130
	子どもたちが夢と希望を持って育ち、安心して子育てできるまちをつくる	56
	障がい者（児）が安心して暮らせる環境をつくる	27
	高齢者が安心していきいきと暮らせるまちをつくる	86
	市民生活を支える支援制度や体制の充実を図る	15
大綱 3. 都市と自然が調和した集約と連携によるまちづくり	生活の質が高く選ばれ続ける都市をつくる	26
	地域を支える道路・公共交通をつくる	388
	水と緑でつながるやすらぎのある空間をつくる	92
	安全で良好な水環境をつくる	151
	安心して住むことができる住宅環境をつくる	20
大綱 4. 持続可能で災害に強い安全・安心なまちづくり	環境にやさしい持続可能な地域・社会をつくる	84
	安全・安心に暮らせるまちをつくる	276
	生命・身体・財産を守る消防体制を整える	5
大綱 5. 魅力ある資源を活かし、都市の活力を創造するまちづくり	地域社会を支える産業の活性化を図る	36
	魅力と活力でライフスタイルを豊かにする	13
	持続的に農業が行われる環境をつくる	13
	だれもがいきいきと働ける地域社会をつくる	12
大綱 6. みんなが主体的に学び、生きがいを持って活躍できるまちづくり	生きる力を育む学校教育を推進する	100
	生涯にわたる学びを充実し、地域文化を振興する	25
	生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる	25
その他		187

総計 1,965

大綱	区分	内 容	件数
1	市民参加と協働による市政を推進する	市政への市民参加を進める	11
		市民との協働のまちづくりを進める	16
		情報を提供し、市民との共有を図る	32
		計	59
	互いに認め合い人権を尊重する社会づくりを推進する	相手を思いやる人権意識を高める	6
		人権教育を進める	1
		男女共同参画社会を進める	7
		多文化共生社会の形成と国際交流を進める	15
		平和を愛する心を継承する	0
	計	29	
	健全でスマートな都市経営を推進する	効率的かつ効果的な行政運営を進める	62
		行財政運営の健全化を進める	47
		計	109

大綱	区分	内 容	件数
2	ともに支え合いながら暮らせる地域をつくる	地域福祉体制の充実を図る	1
		計	1
	予防と助け合いのもとで、充実した地域医療・保健衛生体制をつくる	市民の健康づくりを進める	11
		地域医療体制の充実を図る	74
		保健衛生体制の充実を図る	45
		計	130
	子どもたちが夢と希望を持って育ち、安心して子育てできるまちをつくる	地域のなかで子育てを支える	7
		地域のなかで子どもが自ら育つ環境をつくる	11
		次世代を担う子どもたちを健やかに育てられる子育てしやすい環境を整える	32
		貧困の状況にある子どもと家庭を支える	6
		計	56
	障がい者(児)が安心して暮らせる環境をつくる	障がいの早期発見と療育環境を整える	5
		生活の質の向上を支援し、社会的自立を促進する	4
		地域での生活を支え、日常生活の充実を図る	13
		安心して外出するための円滑な移動を支援し、社会参加を促進する	5
		計	27
	高齢者が安心していきいきと暮らせるまちをつくる	生きがいづくりを支援する	19
		住民主体の介護予防を進める	4
		認知症の人にやさしい地域をつくる	0
		高齢者を支える環境をつくる	20
		介護保険制度の充実を図る	43
		計	86
	市民生活を支える支援制度や体制の充実を図る	生活に困窮している方々へのサポート体制の充実に努める	6
医療保険制度の維持・充実を図る		4	
安定した生活を送るため年金制度を支援する		5	
計		15	

第4章 調査結果の詳細

大綱	区分	内 容	件数
3	生活の質が高く選ばれ続ける都市をつくる	メリハリのある土地利用を進める	0
		活気ある市街地を整備する	23
		身近で親しみのある景観をつくる	3
		計	26
	地域を支える道路・公共交通をつくる	道路の整備を図る	143
		道路・水路の管理を図る	77
		公共交通網の維持・充実を図る	168
		計	388
	水と緑でつながるやすらぎのある空間をつくる	身近な緑を守り育てる	22
		だれもが利用しやすく安全な公園をつくる	55
		水辺を活かした快適な空間をつくる	15
		計	92
	安全で良好な水環境をつくる	水害に強いまちづくりを進める	82
		水質の保全と安全な水の確保により快適な生活環境を整える	69
		計	151
安心して住むことができる住宅環境をつくる	安心して暮らせる住まいづくりを支援する	13	
	住宅ストックの有効活用と快適な住宅環境の実現を図る	7	
	計	20	

大綱	区分	内 容	件数
4	環境にやさしい持続可能な地域・社会をつくる	脱炭素社会をつくる	2
		地域の効率的な資源循環を進める	49
		生き物・人が共生する社会をつくる	10
		安全・安心な環境づくりを進める	23
		計	84
	安全・安心に暮らせるまちをつくる	危機管理対策の充実を図る	33
		災害対策を進める	61
		地域の防犯力を高める	131
		交通安全の充実を図る	49
		消費者の自立を支援し、消費者意識の高揚を図る	2
		計	276
	生命・身体・財産を守る消防体制を整える	火災を予防する活動の充実を図る	1
		消防力の充実・強化を図る	1
		消防署所の充実・強化を図る	0
		救急体制の充実・強化を図る	3
		消防団の充実・強化を図る	0
		計	5

大綱	区分	内 容	件数
5	地域社会を支える産業の活性化を図る	既存産業の活性化を図る	1
		新たな産業を育成する	0
		魅力ある商業の振興を図る	31
		魅力ある工業の振興を図る	4
		計	36
	魅力と活力でライフスタイルを豊かにする	地域の魅力の発信と都市のブランドの構築でまちの総合力を高める	12
		にぎわいを創出し地域経済の循環を促進する	1
		計	13
	持続的に農業が行われる環境をつくる	越谷農業の強みを活かした農業経営を追求する	9
		立地特性に応じて農地を保全・活用する	2
		持続的に農業経営を担う人材を育成する	2
		消費者が農業を支える仕組みをつくる	0
		計	13
だれもがいきいきと働ける地域社会をつくる	就業支援の充実と労働環境の向上を図る	12	
計	12		

大綱	区分	内 容	件数
6	生きる力を育む学校教育を推進する	9年間を見通した越谷教育を推進する	4
		確かな学力を育む	6
		豊かな心を育む	4
		健やかな体を育む	2
		自立する力を育む	7
		質の高い教育環境を整備する	77
		計	100
	生涯にわたる学びを充実し、地域文化を振興する	生涯にわたる学びを進める	12
		文化活動を充実し、郷土の歴史を継承する	13
		計	25
	生涯にわたるスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる	健康ライフスタイルづくりを支援する	1
		スポーツ・レクリエーション活動を支援する環境の充実を図る	24
		計	25

大綱	区分	内 容	件数
その他		市政への感謝・激励など	25
		アンケートについての意見・要望	42
		その他市政への意見・要望	75
		越谷市への感想など	36
		都市ガスの整備	5
		その他	4
		計	187

第5章 調査票

市 政 世 論 調 査
調 査 票

令和3年6月

●ご記入にあたってのお願い

1. あて名のご本人がお答えください。(住所、氏名を記入する必要はありません。)
ご本人によるご記入が困難な場合には、身近な方による代筆をお願いします。
2. ご記入は鉛筆、ボールペン、万年筆などで、黒または青色でお書きください。
3. 最初から1問ずつ、該当する全ての質問にお答えください。
4. お答えは、あなたのお考えに最も近いと思われる回答を設問文中に示された数の範囲で選び、その番号に○をつけるか番号を□の中にご記入ください。
5. 「その他 []」に○をつけたときは、[]内に具体的な内容をご記入ください。

ご記入いただきましたこの調査票は、同封の返信用封筒に入れて **7月2日(金)**までに、郵便ポストにご投函ください。(切手は不要です。)

この調査に関してのお問い合わせは、下記までお願いします。

越谷市 市民協働部 くらし安心課

電話 048-963-9336 (直通)

FAX 048-965-7809

あなたご自身のことがらについておたずねします。

問1. あなたの性別を教えてください。(〇は1つ)

1. 女性	2. 男性	3. 回答したくない
-------	-------	------------

問2. あなたの年齢はどの区分にあてはまりますか。(〇は1つ)

1. 18～19歳	6. 40～44歳	11. 65～69歳
2. 20～24歳	7. 45～49歳	12. 70～74歳
3. 25～29歳	8. 50～54歳	13. 75歳以上
4. 30～34歳	9. 55～59歳	
5. 35～39歳	10. 60～64歳	

問3. あなたのご職業は次のうちどれにあたりますか。(〇は1つ)

1. 農業	6. 製造関係自営業	11. 学生
2. 市内会社員	7. サービス関係自営業	12. 家事従業
3. 市外会社員	8. 自由業	13. パートタイマー (アルバイト含む)
4. 小売店自営業	9. 公務員	14. その他 []
5. 建築関係自営業	10. 団体職員	15. 無職 (年金生活を含む)

問4. あなたの世帯は次のうちどれにあたりますか。(〇は1つ)

1. 単身世帯 (ひとり暮らし)	4. 三世帯世帯 (親と子と孫など)
2. 一世代世帯 (夫婦のみ、兄弟姉妹のみ)	5. その他 []
3. 二世帯世帯 (親子など)	

問5. あなたは、越谷市に住んでどれくらいになりますか。(〇は1つ)

1. 1年未満	4. 5～10年未満	7. 20～30年未満
2. 1～3年未満	5. 10～15年未満	8. 30～40年未満
3. 3～5年未満	6. 15～20年未満	9. 40年以上

問6. あなたのお住まいは次のどれにあたりますか。(〇は1つ)

1. 持ち家一戸建て	6. 公団公社等賃貸マンション
2. 民間借家一戸建て	7. 社宅・官舎
3. 民間分譲マンション	8. 間借り・下宿・寮・寄宿舍
4. 民間賃貸マンション・アパート	9. 店舗・事務所併用住宅
5. 公団公社等分譲マンション	10. その他 []

問7. あなたは、どの地区に住んでいますか。(〇は1つ)

※別添の「居住地区該当町表」(「市政世論調査ご協力のお願い」の裏面)をご参照ください

1. 桜井地区	6. 出羽地区	11. 北越谷地区
2. 新方地区	7. 蒲生地区	12. 越ヶ谷地区
3. 増林地区	8. 川柳地区	13. 南越谷地区
4. 大袋地区	9. 大相模地区	
5. 荻島地区	10. 大沢地区	

あなたの暮らしや居住意向についておたずねします。

問8. あなたは現在の暮らし向きについて、どのように思っていますか。(〇は1つ)

- | | |
|-----------------------|------------|
| 1. 十分満足している | 4. まだまだ不満だ |
| 2. 十分とはいえないが、一応満足している | 5. 極めて不満だ |
| 3. ふつう | 6. わからない |

問9. あなたは今後も、現在のところに住み続けたいと思えますか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1. ずっと住み続けたい | 4. 引っ越したい |
| 2. どちらかといえば住み続けたい | 5. わからない |
| 3. どちらかといえば引っ越したい | |

問9-2. 問9で「3」または「4」と答えた方（引っ越したいと答えた方）に伺います。
引っ越したいと思われる主な理由は何ですか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------------------|--------------------------------|
| 1. 商業や事業に不利なので | 8. 買い物が不便なので |
| 2. 交通の便が悪いので | 9. 医療機関が近くがないので |
| 3. 現在、住んでいる住宅が狭いので | 10. このまちに愛着がないから |
| 4. 付近の生活環境が悪いので | 11. 地域になじめないから |
| 5. 仕事の関係で | 12. 家族の介護の関係で |
| 6. 賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため | 13. その他 [] |
| 7. こどもの教育のため | 14. 特に理由はない |

問10. 皆さんに伺います。あなたは越谷市に住み暮らすことを知人等にどのくらい勧めたいですか。
(〇は1つ)

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 大いに勧めたい | 4. どちらかという勧めたくない |
| 2. 勧めたい | 5. 勧めたくない |
| 3. どちらかという勧めたい | 6. 分からない |

越谷市への愛着度と魅力発信についておたずねします。

問 11. あなたは、越谷市に対して、どのくらい愛着がありますか。(〇は1つ)

1. とても愛着がある	4. 愛着がない
2. 愛着がある	5. どちらともいえない
3. やや愛着がある	

問 11-2. 問 11 で「1」から「3」(愛着がある)と答えた方に伺います。その理由は何ですか。(複数回答可)

1. 交通の利便性がよく、都内等に近い	6. 歴史的建造物や誇れる街並みがある
2. 仕事、子育て、余暇等で暮らしやすい	7. おいしい食事がある
3. 自然(水辺空間、農地等)が多く残されている	8. 地域の特産品(土産品)がある
4. ショッピング施設や商店街が豊富	9. 誇れる著名人がいる
5. イベント、祭り、伝統芸能が豊富	10. その他 []

問 12. 皆さんに伺います。越谷市の誇れるもの、知人に自慢したいものは何ですか。(複数回答可)

1. イオンレイクタウン	8. 越谷ねぎ、くわい、山東菜等の農産物
2. 田んぼアート	9. 日本庭園「花田苑」・日本文化伝承の館 「こしがや能楽堂」
3. 越谷花火大会	10. 日光街道宿場町としての蔵のある街並み
4. 南越谷阿波踊り	11. だるまやせんべい等の伝統的手工芸品
5. 5本の1級河川等による水辺空間	12. 宮内庁埼玉鴨場
6. こしがや鴨ねぎ鍋等のグルメ	13. その他 []
7. イチゴ狩り	

地場農産物や地産地消についておたずねします。

問 13. 越谷を代表する農産物について、あなたが知っているものを選んでください。(複数回答可)

1. 太郎兵衛もち	3. ねぎ	5. いちご	7. 小松菜
2. くわい	4. 山東菜	6. チューリップ	8. その他 []

問 14. あなたは、越谷を代表する農産物を購入したことがありますか。ある場合は、どこで購入しましたか。

(ア～ク それぞれ横に複数回答可)

	購入したことがある				購入したことがない
	市民まつりなど イベント	農産物直売所	市内スーパー マーケット	その他	
ア 太郎兵衛もち	1	2	3	4	5
イ くわい	1	2	3	4	5
ウ ねぎ	1	2	3	4	5
エ 山東菜	1	2	3	4	5
オ いちご	1	2	3	4	5
カ チューリップ	1	2	3	4	5
キ 小松菜	1	2	3	4	5
ク その他 []	1	2	3	4	5

地域医療体制についておたずねします。

問 19. あなたは、「越谷市夜間急患診療所・休日当番医制度^{※1}・埼玉県救急電話相談^{※2}（#7119）・埼玉県A I救急相談^{※3}」を知っていますか。

(ア～エ それぞれ横に○は1つずつ)	利用したことがある	利用したことはないが知っている	知らない
ア 越谷市夜間急患診療所	1	2	3
イ 休日当番医制度	1	2	3
ウ 埼玉県救急電話相談（#7119）	1	2	3
エ 埼玉県A I救急相談	1	2	3

※1 休日当番医制度：祝日や年末年始に、病院・診療所・歯科診療所が交代で診療を行っている制度

※2 埼玉県救急電話相談：埼玉県が行っている、急病時の家庭での対処方法や受診の必要性についての電話相談ができる制度

※3 埼玉県A I救急相談：埼玉県が行っている、急病時の家庭での対処方法や受診の必要性について、チャット形式で相談した内容をもとに、A I（人工知能）がアドバイスする制度

問 20. あなたは、夜間や休日に利用できる医療機関の情報が必要な場合、どこから情報を入手しますか。次の中から選んでください。(複数回答可)

1. 広報こしがや	6. インターネットで調べる (越谷市・埼玉県公式ホームページを除く)
2. 市民ガイドブック	7. 埼玉県救急電話相談（#7119）
3. 越谷市公式ホームページ	8. 埼玉県A I救急相談
4. 越谷市発行のチラシ (「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等)	9. 消防署に問い合わせ
5. 埼玉県公式ホームページ (医療機能情報提供システムを含む)	10. 医療機関に問い合わせ
	11. 知人・友人等に聞く
	12. その他 []

問 21. 地域医療に関する事業のうち、あなたが特に力を入れる必要があると思うことは何ですか。
(○は3つまで)

1. 夜間急患診療所	6. かかりつけ医療機関の普及啓発 (チラシ、地図冊子等の配布)
2. 休日当番医制度	7. 救急車の適正利用の啓発
3. 電話等による相談事業	8. 在宅医療体制の整備促進
4. 医療機関の整備促進	9. 災害や感染症への備え
5. 医療従事者（看護師等）の確保	

人権全般に関する意識についておたずねします。

問 22. あなたは、今の日本社会において、どのくらい基本的人権が尊重されていると思いますか。
(○は1つ)

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. 十分尊重されている | 3. あまり尊重されていない |
| 2. やや尊重されている | 4. 尊重されていない |

問 23. 一人ひとりの人権意識は、10年前に比べて高くなっていると思いますか。(○は1つ)

- | | | |
|---------------|--------------|------------|
| 1. 非常に高くなっている | 3. 変わっていない | 5. 低くなっている |
| 2. やや高くなっている | 4. やや低くなっている | |

問 24. 今の日本の社会に様々な人権問題がありますが、あなたが関心のあるものはどれですか。
(複数回答可)

- | | |
|--|---------------------------|
| 1. 女性の人権問題 | 9. 刑を終えて出所した人々の人権問題 |
| 2. 子どもの人権問題 | 10. 犯罪被害者やその家族の人権問題 |
| 3. 高齢者の人権問題 | 11. インターネット上における人権問題 |
| 4. 障がい者の人権問題 | 12. 北朝鮮当局による拉致問題 |
| 5. 同和問題（部落差別） | 13. ホームレスの人々の人権問題 |
| 6. アイヌ民族の人権問題 | 14. L G B Tなど性的少数者の人権問題 |
| 7. 外国人の人権問題 | 15. 大規模災害時の避難生活などにおける人権問題 |
| 8. エイズやハンセン病、新型コロナウイルス等
感染症患者やその家族の人権問題 | 16. その他 [] |

問 25. あなたは、日常生活の中であなた自身またはあなたの周りの人の人権が侵害されたと感じたことはありますか。(○は1つ)

- | | | |
|-------|-------|----------|
| 1. ある | 2. ない | 3. わからない |
|-------|-------|----------|

問 25-2. 問 25 で「1. ある」と答えた方に伺います。

人権が侵害されたと感じたことは、どのような内容ですか。(複数回答可)

- | |
|--|
| 1. あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた |
| 2. 人種・信条・性別などにより、不平等または不利益な取扱いをされた |
| 3. 職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた |
| 4. プライバシーを侵害された |
| 5. 性的嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた |
| 6. 特定の人に執拗につきまとわれた（ストーカー行為） |
| 7. 配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた |
| 8. その他 [] |

男女共同参画についておたずねします。

問 26. あなたは、子どもに対する「教育・しつけ」で大切だと思うことは何ですか。
 (男子と女子それぞれ〇は3つまで)

男子	女子
1. やさしきや思いやりをもたせる	1. やさしきや思いやりをもたせる
2. 責任をもたせる	2. 責任をもたせる
3. 礼儀作法を身につける	3. 礼儀作法を身につける
4. 独立心をもたせる	4. 独立心をもたせる
5. 身の回りのことができるようにする	5. 身の回りのことができるようにする
6. 忍耐力を養う	6. 忍耐力を養う
7. たくましさをもたせる	7. たくましさをもたせる
8. 男の子らしく育てる	8. 女の子らしく育てる

問 27. あなたはこれまでに、あなたの配偶者・パートナー・恋人から、次のような行為をされたことがありますか。(それぞれ〇は1つずつ)

ア 殴る・蹴る・物を投げつける・突き飛ばす等の、身体に対する暴力を受けた

1. 何度もあった	2. 1～2度あった	3. まったくない
-----------	------------	-----------

イ 人格を否定するような暴言・交友関係や行先やメールの監視・長期間の無視等の精神的な嫌がらせ、あるいは、あなた、もしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた

1. 何度もあった	2. 1～2度あった	3. まったくない
-----------	------------	-----------

ウ 嫌がっているのに、性的な行為を強要された

1. 何度もあった	2. 1～2度あった	3. まったくない
-----------	------------	-----------

エ 生活費を渡されない・貯金を勝手に使われる・外で働くことを妨害されるなど、経済的な圧迫を受けた

1. 何度もあった	2. 1～2度あった	3. まったくない
-----------	------------	-----------

問 28. 問 27 のア～エのうち、1つでも「1」または「2」(そのような行為があったと答えた方)に伺います。あなたは、その行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
 (〇は1つ)

1. 相談した	2. 相談できなかった	3. 相談しようとは思わなかった
---------	-------------	------------------

→ 問 28-3 へ

問 28-2. 問 28 で「1. 相談した」と答えた方に伺います。あなたが相談した人(場所)について、次の中から当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

1. 家族・親せき	7. 越谷市男女共同参画支援センター
2. 友人・知人	「ほっと越谷」の相談窓口
3. 警察署	8. その他の公的機関〔 〕
4. 弁護士	9. 医療機関・医療従事者
5. 市区町村の窓口	10. 民間の相談機関(NPO含む)
6. 越谷市女性・DV相談支援センター (配偶者暴力相談センター)の相談窓口	11. 人権擁護委員
	12. その他〔 〕

問 28-3. 問 28 で「2」または「3」と答えた方に伺います。あなたが誰（どこ）にも相談しなかった理由は、次のうちどれですか。当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

- | | |
|---------------------------------------|---|
| 1. 相談するほどのことではないと思ったから | 8. 誰（どこ）に相談してよいかわからなかったから |
| 2. 相談しても無駄だと思ったから | 9. 思い出したくないから |
| 3. 自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから | 10. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから |
| 4. 自分に悪いところがあると思ったから | 11. 相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをすと思ったから |
| 5. 他人を巻き込みたくないから | 12. その他 [] |
| 6. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから | 13. 特になし |
| 7. 世間体が悪いから | |

スポーツ・レクリエーションの実施状況についておたずねします。

問 29. この1年間でどのくらいスポーツ・レクリエーション活動を行いましたか（ウォーキング・徒歩や軽い体操も含みます）。(○は1つ)

- | | |
|-------------|---------------|
| 1. 週に3回以上 | 4. 3か月に1～2回程度 |
| 2. 週に1～2回程度 | 5. 年に1～3回程度 |
| 3. 月に1～3回程度 | 6. 行っていない |
- ▶ 問 29-4 へ

問 29-2. 問 29 で「1」から「5」のいずれかと答えた方に伺います。あなたがスポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 1. 気分転換・気晴らし | 7. 試合や大会に参加したいから |
| 2. 運動不足解消 | 8. 学校のサークル活動等で行っているから |
| 3. 美容、肥満解消 | 9. スポーツ教室や講座に参加しているから |
| 4. 家族のふれあい | 10. その他 [] |
| 5. 友人との交流 | 11. 特に理由はない |
| 6. 健康、体力維持・増進 | |

問 29-3. 問 29 で「1」または「2」と答えた方に伺います。スポーツ・レクリエーション活動をしたことで、どのような効果がありましたか。(複数回答可)

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. 疲れにくくなった | 7. 血圧が下がった |
| 2. 冷え症が改善した | 8. 食欲が出た |
| 3. よく眠れるようになった | 9. 便秘が解消した |
| 4. 運動不足が解消した | 10. 健康への効果は感じられなかった |
| 5. 通院回数が減った | 11. その他 [] |
| 6. 適正体重に（近く）なった | |

問 29-4. 問 29 で「6. 行っていない」と答えた方に伺います。あなたが、スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| 1. 仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから | 6. 年をとったから |
| 2. 費用がかかるから | 7. スポーツ・レクリエーションが好きでない（興味がない）から |
| 3. 身近に適当な場所や施設がないから | 8. その他 [] |
| 4. 健康上の理由から | 9. 特に理由はない |
| 5. 一緒に行く相手、指導者等がないから | |

問 30. **皆さんに伺います。**今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。**(複数回答可)**

比較的軽いスポーツ	野外活動	競技的スポーツ
1. 軽い体操	1. スキー・スノーボード	1. 陸上競技
2. 軽い球技 (キャッチボール等)	2. 海水浴	2. 水泳競技
3. ウォーキング	3. スケート	3. 野球・ソフトボール
4. ジョギング	4. 登山	4. サッカー
5. ゲートボール・ グラウンドゴルフ	5. キャンプ (オートキャンプを含む)	5. バレーボール
6. ボウリング	6. ハイキング	6. バスケットボール
7. プールを利用した運動	7. サイクリング	7. バドミントン
8. ダンス	8. ゴルフ	8. テニス
9. 室内運動器具を使って行う 運動	9. 釣り	9. 卓球
10. その他〔 〕	10. その他〔 〕	10. 柔道、剣道、空手、相撲
11. 特になし	11. 特になし	11. ボクシング、レスリング
		12. 弓道、アーチェリー
		13. その他〔 〕
		14. 特になし

広報についておたずねします。

問 31. あなたは、市政情報を主に何から得ていますか。**(〇は1つ)**

1. 広報こしがや	8. 地区センターだより
2. ラジオ広報番組	9. 公共施設にあるポスターやチラシ
3. 越谷市公式ホームページ	10. 直接、市役所に電話をする
4. 越谷市携帯サイト	11. 友人・知人
5. 越谷 city メール配信サービス	12. 新聞
6. 越谷市公式ツイッター	13. その他〔 〕
7. 越谷市公式 LINE (ライン)	14. 特に情報は得ていない

問 32. 市政情報を得るために活用したことがあるものを、次の中から選んでください。**(複数回答可)**

1. 広報こしがや	5. 越谷市携帯サイト
2. テレビ広報番組	6. 越谷 city メール配信サービス
3. ラジオ広報番組	7. 越谷市公式ツイッター
4. 越谷市公式ホームページ	8. 越谷市公式 LINE (ライン)

問 33. **広報こしがやについて伺います。**「広報こしがや」の感想を選んでください。**(〇は1つ)**

1. わかりやすい	4. わかりにくいところがある
2. おおむねわかりやすい	5. わかりにくい
3. どちらともいえない	

問 33-2. **問 33 で「4」または「5」と答えた方**に伺います。どのような点についてそう感じましたか。**(複数回答可)**

1. 記事の配置	5. 情報が多すぎる
2. 文字の大きさ	6. 情報が不足している
3. 文字が多すぎる、図が少ない	7. 情報が古い
4. 言葉遣いが難解、主旨が伝わらない	8. その他〔 〕

行政のデジタル化についておたずねします。

問 34. あなたがオンライン化してほしい行政手続きを、次の中から選んでください。(〇は5つまで)

- | | |
|--------------------------|---|
| 1. 市民税・県民税申告に関する手続 | 17. 介護保険における住宅改修、福祉用具購入に係る申請の手続 |
| 2. 軽自動車の登録、廃車に関する手続 | 18. 入学準備金、就学援助費、看護師等修学資金申請等に関する手続 |
| 3. 固定資産税、償却資産の申告に関する手続 | 19. 中学校選択制申請等学務に関する手続 |
| 4. 転入・転出・転居に関する届出 | 20. 飼い主のいない猫の補助金申請、育成ボランティア登録等犬や猫に関する手続 |
| 5. 市税等の口座振替の手続 | 21. 資源回収団体登録・奨励補助金交付等に関する手続 |
| 6. 公文書の公開等に関する手続 | 22. 市営住宅入居等に関する手続 |
| 7. 市との契約手続 | 23. 景観資源の応募、公園等の維持管理に関する手続 |
| 8. 罹災証明書交付申請等の手続 | 24. 消防法に関する届出 |
| 9. 戸籍（出生・結婚等）に関する届出・手続 | 25. 会計年度任用職員、指導員、調査員等の申込 |
| 10. 重度心身障害者手当に関する手続 | 26. その他〔 〕 |
| 11. 児童（扶養）手当の支給に関する手続 | 27. 特になし |
| 12. 保育所・学童保育室の利用に係る手続 | |
| 13. 病児保育に関する手続 | |
| 14. 妊娠の届出・妊婦検診等に関する申請 | |
| 15. 子どもの検診・予防接種等に関する申請 | |
| 16. 国民健康保険加入・脱退・助成に関する手続 | |

※ 電子申請やコンビニ交付サービス等でオンライン化済みの手続きは記載していません。

問 35. あなたが公衆 Wi-Fi を設置してほしい公共施設を、次の中から選んでください。

(〇は3つまで)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 市役所（第2庁舎、第3庁舎） | 11. 産業雇用支援センター |
| 2. 男女共同参画支援センター | 12. 科学技術体験センター |
| 3. 市民活動支援センター | 13. キャンベルタウン・野鳥の森 |
| 4. 市民会館・交流館 | 14. いきいき館 |
| 5. 越谷コミュニティセンター | 15. 能楽堂 |
| 6. パスポートセンター | 16. 市民球場 |
| 7. 出張所 | 17. 図書館 |
| 8. リサイクルプラザ | 18. 老人福祉センター |
| 9. 児童館 | 19. その他〔 〕 |
| 10. 保健所・保健センター | 20. 特になし |

※ 本庁舎1階ロビー、各地区センター、総合体育館は、現在 Wi-Fi の利用が可能です。

問 36. 市が設置する公衆 Wi-Fi が問 35 で回答した施設に設置された場合、どのような目的で利用したいですか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1. 越谷市の各種手続きの情報収集 | 7. 電子メール |
| 2. 越谷市の市政情報の情報収集 | 8. インターネット電話 |
| 3. 災害関連情報の収集 | 9. 動画・音楽の視聴 |
| 4. 観光情報・地域情報の収集 | 10. その他〔 〕 |
| 5. SNS での情報発信 | 11. 特になし |
| 6. ニュース、天気予報等の情報収集 | |

参加と協働のまちづくりについておたずねします。

問 37. 越谷市では、市民の市政への参加が可能となるような機会の充実や、地域コミュニティ組織との協働に取り組んでいます。あなたは、越谷市がこのような「参加と協働のまちづくり」をすすめていることを知っていますか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. よく知っている | 3. 聞いたことがある |
| 2. まあまあ知っている | 4. 知らない |

問 37-2. 問 37 で「1」から「3」と答えた方に伺います。越谷市が「参加と協働のまちづくり」をすすめていることをどのようにして知り（聞き）ましたか。(複数回答可)

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1. 広報こしがや | 6. 友人・知人 |
| 2. 越谷市公式ホームページ | 7. 自治会やコミュニティ推進協議会を通じて |
| 3. 越谷市携帯サイト | 8. 市民活動団体やボランティア団体を通じて |
| 4. 越谷 city メール配信サービス | 9. イベント |
| 5. 越谷市自治基本条例を通じて | 10. その他〔 〕 |

問 38. 皆さんに伺います。あなたはこのようなまちづくりに参加したいと思いませんか。(〇は1つ)

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 参加したい | 3. どちらかといえば参加したくない |
| 2. どちらかといえば参加したい | 4. 参加したくない |

問 39. 皆さんに伺います。あなたは参加と協働のまちづくりに必要なルールなどが書かれている、「越谷市自治基本条例」を知っていますか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. よく知っている | 3. 聞いたことがある |
| 2. まあまあ知っている | 4. 知らない |

問 39-2. 問 39 で「1」から「3」と答えた方に伺います。「越谷市自治基本条例」のことをどのようにして知り（聞き）ましたか。(複数回答可)

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1. 広報こしがや | 6. 友人・知人 |
| 2. 越谷市公式ホームページ | 7. 自治会やコミュニティ推進協議会を通じて |
| 3. 越谷市携帯サイト | 8. 市民活動団体やボランティア団体を通じて |
| 4. 越谷 city メール配信サービス | 9. イベント |
| 5. パンフレット等の啓発物 | 10. その他〔 〕 |

問 40. 皆さんに伺います。「参加と協働のまちづくり」を推進するために「越谷市自治基本条例」の普及・啓発を行っていますが、普及・啓発方法としてどのような方法が効果的であると思いませんか。(複数回答可)

- | | |
|-------------------------------|------------------------------------|
| 1. 広報こしがやへの情報掲載 | 10. 公共施設等でのポスター掲示 |
| 2. テレビ広報番組による広報 | 11. 公共交通機関等でのポスター掲示板や大型モニターによる情報発信 |
| 3. ラジオ広報番組による広報 | 12. パンフレットの配布 |
| 4. 越谷市公式ホームページ上への情報掲載 | 13. 啓発物品（ポケットティッシュ・エコバッグ等）の配布 |
| 5. 越谷市携帯サイト上への情報掲載 | 14. シンポジウム・講演会の開催 |
| 6. 越谷 city メールによる情報発信 | 15. パネル展の開催 |
| 7. SNS（Twitter や LINE）による情報発信 | 16. 動画コンテスト等の体験型イベントの開催 |
| 8. 動画（YouTube 等）による情報配信 | 17. 出張講座の開催 |
| 9. 啓発映像（DVD 等）の上映や貸出 | 18. その他〔 〕 |

防犯についておたずねします。

問 41. あなたが日頃、脅威や不安を感じる街頭犯罪等は何ですか。(〇は3つまで)

1. 路上強盗・ひったくり	5. 自転車盗	9. 自動販売機ねらい
2. 侵入盗	6. 自動車盗	10. 特になし
3. 振り込め詐欺	7. オートバイ盗	
4. 車上ねらい	8. 部品ねらい	

問 42. あなたは、越谷市が防犯のためにどのようなことを行うと効果的だと思いますか。

(〇は3つまで)

1. 防犯カメラの設置	9. 防犯啓発チラシの配布
2. 防犯パトロール	10. 自転車鍵などの自転車盗対策グッズの配布
3. 街路灯の設置	11. 防犯講演会等の開催
4. 不審者情報の提供	12. 防犯ベスト・腕章・合図灯などの防犯パトロール用品の貸出し
5. 補助錠などの住宅侵入対策グッズの配布	13. その他 []
6. ひったくり対策として道路の歩車道分離	
7. 見通し確保のため公園の植栽などの剪定	
8. 自転車カゴカバーなどのひったくり対策グッズの配布	

問 43. あなたは、自主的な防犯活動に参加したことがありますか。

1. 参加したことがある	2. 参加したことはない	▶ 問 43-3 へ
--------------	--------------	------------

問 43-2. 問 43 で「1. 参加したことがある」と答えた方に伺います。

あなたが参加した自主防犯活動はどのような活動ですか。(複数回答可)

1. 地域パトロール活動	4. 防犯啓発チラシの作成・配布活動
2. 登下校見守り活動	5. 青色回転灯を装備した車によるパトロール活動
3. 防犯講演会等	6. その他 []

問 43-3. 問 43 で「2. 参加したことはない」と答えた方に伺います。

あなたは、今後自主的な防犯活動に参加したいと思いますか。(〇は1つ)

1. 思う	3. わからない
2. 思わない	

問 43-4. 問 43-3 で「2. 思わない」と答えた方に伺います。

あなたが自主的な防犯活動に参加したいと思わない理由は何ですか。(〇は1つ)

1. 時間がない	6. 自宅の周りであまり犯罪が発生していない
2. 体力的に難しい	7. 近隣で防犯活動が行われていない
3. 防犯は、警察や市の仕事だと思う	8. その他 []
4. 近所との付き合いがない	
5. ほかにやれる人がいると思う	

特殊詐欺についておたずねします。

問 44. あなたが知っている特殊詐欺の手口は何ですか。(複数回答可)

1. 息子等のふりをして金銭を振り込ませる「オレオレ詐欺」 2. 事実のない代金請求をする「架空請求詐欺」 3. 医療費等の還付があることをかたる「還付金等詐欺」 4. 会社の融資をすすめる「融資保証金詐欺」 5. 社債や株等の儲けをかたる「金融商品等取引名目の詐欺」 6. 異性との交際のあっせんをかたる詐欺 7. ギャンブル必勝情報の提供をかたる詐欺 8. 特殊詐欺を知らない

問 44-2. 問 44 で「1」から「7」と答えた方に伺います。
 あなたは、特殊詐欺を何から知りましたか。(複数回答可)

1. テレビ	6. 家族や知人などとの会話
2. ラジオ	7. 金融機関やATM機などに掲示されたポスター
3. 新聞	8. イベントや買い物などで配布されたチラシ
4. インターネット (パソコン・携帯電話・スマートフォン)	9. 特殊詐欺を知らない
5. 防犯講習会などの講話	10. その他 []

問 45. あなたはこれまでに特殊詐欺に関してどのような連絡を受けたことがありますか。(複数回答可)

1. 電話	4. 電子メール
2. はがき	5. 連絡を受けたことはない
3. パンフレットや封書	

問 45-2. 問 45 で「1」から「4」と答えた方に伺います。
 あなたは連絡を受けた際どのように対応しましたか。(〇は1つ)

1. 怪しいと思い無視した	5. 相手の話を信じて振り込んだ
2. 家族や知人などに相談した	6. その他 []
3. 警察に相談した	
4. 市消費生活センターに相談した	

問 46. あなたは、特殊詐欺の被害を防止するためには、どのようなことが特に必要であると思いますか。(〇は2つまで)

1. 家族間等における話し合い	6. 自宅の電話機に、犯人からの電話をつながりにくくする機器を設置
2. 警察からの手口等に関する情報提供	7. その他 []
3. 高齢者等を対象とした防犯講習会等の開催	
4. テレビ・新聞等による被害防止の呼びかけ	
5. 自宅の電話機を留守番電話に設定	

消防団についておたずねします

問 47. あなたは越谷市消防団を知っていますか。(以下「消防団」という。)(〇は1つ)

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問 48. 皆さんに伺います。消防団は非常勤特別職の公務員になりますが、あなたが消防団員の種別・活動・待遇について知っているものを選んでください。(複数回答可)

消防団員の種別	消防団の活動	消防団員の待遇
1. 基本団員 (男性団員、女性団員)	1. 火災時の消火活動	1. 被服の貸与
2. 機能別団員 (学生のみで大規模災害 時における避難所運営 補助活動等を実施する)	2. 警戒パトロール	2. 報酬
3. 知らない	3. 救助、避難誘導	3. 活動手当
	4. 規律訓練、放水訓練、 救助訓練	4. 退職報償金
	5. 防火広報活動	5. 休団制度
	6. 消防団行事 (夏季特別訓練、消防特別点検)	6. 公務災害補償
	7. 救命講習会の指導対応、 防災啓発活動	7. 福利厚生(公務外の怪我等 による入院の給付等含む)
	8. 消防音楽隊の一員として 音楽を通じた広報活動	8. 表彰制度(職務にあたって 功労、功績があった場合)
	9. 地域の防災訓練指導等	9. 学生消防団活動認証制度 (証明書は就職活動等で 自己PRに活用できる)
	10. 知らない	10. 知らない

問 49. 皆さんに伺います。地域防災力の中核的な存在として消防団はあります。問 48 の消防団に関する情報を得たことによって、あなたは、消防団に入団してみたいと思いますか。

(〇は1つ)

1. 入団してみたい	2. 入団したくない	3. どちらともいえない
------------	------------	--------------

問 49-2. 問 49 で「2」または「3」と答えた方に質問します。

消防団に入団したくない、又はどちらとも言えない理由はなぜですか。(複数回答可)

1. 危険な活動を行うという印象がある	7. 消防団に知っている人がいないので入りづらい
2. 訓練、行事に多くの時間をとられる	8. 消防団員がどのような活動をしているか分からない
3. 集団行動が嫌い等の個人的事情	9. どのような人が消防団員になっているか分からない
4. 家族や知人に反対される	10. 消防団員の処遇がよく分からない
5. 年齢的・体力的に厳しい	11. 報酬が低い
6. 消防団を身近に感じない	12. 消防団の消防車や建物が古い印象
	13. その他 []

問 50. 皆さんに伺います。消防団に対し、今までの活動のほかに、今後、どのような活動を期待しますか。(複数回答可)

1. 防災、災害時における地域の相談役	4. 防火指導のための戸別訪問
2. 防災に関する講習会(消防団員が講師)	5. その他 []
3. 避難所運営補助活動(避難誘導含む)	

越谷市の施策についておたずねします。

問 51. 市では様々な施策を進めていますが、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中からそれぞれ5つまで選び、下の□内に番号をご記入ください。

よくなってきたと感じるもの					
特に力を入れるべきだと思われるもの					



1. 青少年の健全育成	21. ごみ・し尿の処理対策
2. 防犯対策	22. 公営住宅の整備などの住宅対策
3. 交通安全対策	23. 水害や地震などの災害対策
4. 消費者の保護対策	24. 市民の財産や生命を守る消防・救急対策
5. 女性の社会参加など男女共同参画の推進	25. 工業の振興対策
6. 国際交流	26. 商業の振興対策
7. 生活習慣病などの保健衛生対策	27. 農業の振興対策
8. 地域医療や救急医療体制の整備	28. 勤労者の福祉や雇用を促進する対策
9. 児童福祉の充実	29. 小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実
10. 障がい者(児)福祉の充実	30. 生涯学習(公民館活動等)の充実
11. 高齢者福祉の充実	31. 芸術文化活動の振興や文化施設の整備
12. 介護保険の充実	32. スポーツ・レクリエーションの振興と施設の整備
13. 駅周辺の整備	33. 市民とのパイプ役としての広報広聴活動の充実
14. 土地区画整理事業などの市街地整備	34. 上水道の整備
15. 生活道路や都市計画道路の整備	35. その他〔 〕
16. 道路の維持管理状況	36. 特になし
17. バス路線等公共交通網の充実	
18. 公園や緑地の整備	
19. 下水道(公共下水道や排水路)の整備	
20. 自然保護や河川の汚濁防止などの環境保全対策	

問 52. 問 51 で選ばれた「特に力を入れるべきだと思われるもの」について、どのような対応(対策)を望まれますか。また、市政に関するご意見やご要望など、自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒に入れて **7月2日(金)**までにご投函ください。

令和3年度 市政世論調査結果報告書

発行年月： 令和3年11月

発行： 越谷市 市民協働部 暮らし安心課
〒343-8501 埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号
電話 048(963)9336(直通)

調査実施： 株式会社 物流科学研究所
〒330-0052 さいたま市浦和区本太2-2-36
SUNCREST 302
電話 048(887)3790

